

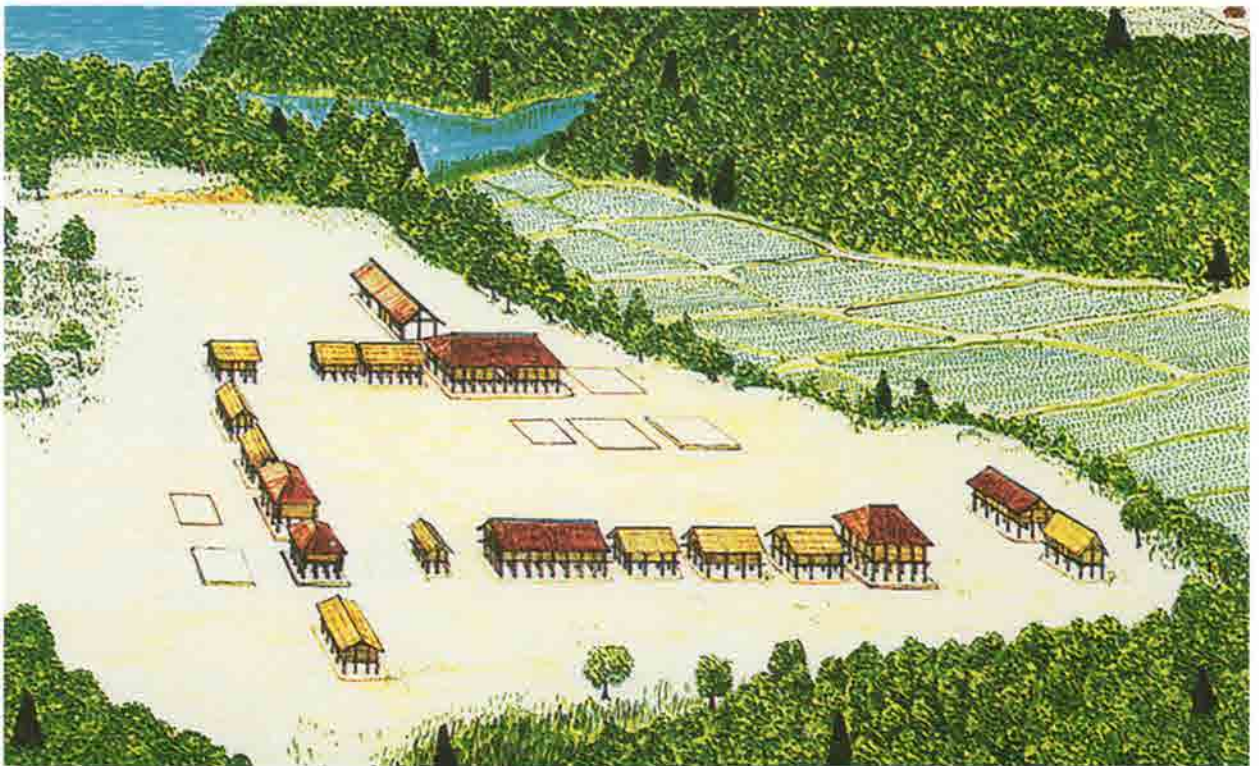
研究紀要 25

平成 18 年 3 月

財団法人 千葉県教育振興財団



日秀西遺跡正倉全景



相馬郡衙正倉復元図

笹生衛画



向台遺跡出土円面硯・風字硯・唐三彩陶枕，大畑Ⅰ遺跡出土墨書土器「厨」



向台遺跡出土畿内産土師器

発刊の辞

財団法人千葉県教育振興財団（財団法人千葉県文化財センターから平成17年9月1日付で名称変更）は、昭和49年11月の創設以来、埋蔵文化財に関する数多くの調査、研究、普及活動を実施してまいりました。その成果は、発掘調査報告書をはじめとする多数の刊行物等に見られるとおりです。

研究活動につきましては、昭和50年度に第1号を刊行しました研究紀要は、以来第11期から第5期に分けて共通のテーマを設定し、これまでに24冊を著しました。この間、昭和60年度には『創立10周年記念論集』、平成6年度には『創立20周年記念論集』、平成16年度には『創立30周年記念論集』を刊行するなど、房総文化の解明に努めてまいりました。

当財団では、数多くの遺跡を調査し、調査報告書や研究紀要を通して各時代・各分野の様々なデータを多量に蓄積してきました。しかしながら、昨今の発掘調査により、新事実が解明される一方においては新たな課題や問題点も生まれ、これらの蓄積資料を改めて整理し分析することが課せられてもいます。

このため、第5期ではこれまでの研究紀要ではとりあげられていなかった各時代の遺跡、遺物、文献等の資料集成を主とし、「各時代における諸問題」と題して新たに展開することにし、平成13年度に本シリーズの成果報告の第1冊目として研究紀要22『尖頭器石器群の研究』、第2冊目として研究紀要23『房総における原始古代の農耕』を刊行しました。

このたび、第3冊目として、研究紀要25『房総における郡衙遺跡の諸問題－下総国を中心に－』を刊行することになりました。

本書が考古学研究はもとより、埋蔵文化財調査の技術向上のための一助として広く活用されることを期待してやみません。

平成18年3月

財団法人 千葉県教育振興財団

理事長 佐藤 健太郎

目 次

房総における郡衙遺跡の諸問題

－下総国を中心として－

巻頭図版

はじめに

I 序章	3
1 房総の郡衙研究略史	3
2 文献目録	4
3 郡郷変遷	9
II 調査された郡衙遺跡の概要	42
1 相馬郡	42
2 埴生郡	53
3 武射郡	59
III 下総地域の官衙関連遺物について	68
1 はじめに	68
2 官衙関連遺物の種類別様相	70
3 墨書土器等の文字資料の様相	79
4 官衙関連遺物出土遺跡の複合分布状況の有する意義	82
IV 郡衙成立の歴史的背景と意義	104
－調査された郡衙を中心に－	
遺跡一覧表	109

卷頭図版

- 図版 1 日秀西遺跡正倉全景
相馬郡衙正倉復元図
- 図版 2 向台遺跡出土円面硯・風字硯・唐三彩陶枕、大畑 I 遺跡出土墨書土器「厨」
向台遺跡出土畿内産土師器

挿図目次

第 1 図	日秀西遺跡と周辺の遺跡	42
第 2 図	手賀沼周辺主要古墳分布図	43
第 3 図	日秀西遺跡建物跡分布図	44
第 4 図	日秀西遺跡建物群変遷図	45
第 5 図	建物規模別棟数	45
第 6 図	日秀西遺跡出土遺物	47
第 7 図	日秀西遺跡と溝	48
第 8 図	野守遺跡遺構全体図	49
第 9 図	西原遺跡第 2 次調査	50
第 10 図	各遺跡出土遺物	51
第 11 図	大畑 I 遺跡と周辺の遺跡	53
第 12 図	大畑 I 遺跡建物群変遷図	55
第 13 図	大畑 I 遺跡出土遺物	57
第 14 図	向台遺跡出土遺物	58
第 15 図	嶋戸東遺跡と周辺の遺跡	59
第 16 図	嶋戸東遺跡周辺の地形と古墳群	60
第 17 図	嶋戸東遺跡全体図	61
第 18 図	嶋戸東遺跡前期郡庁域	63
第 19 図	嶋戸東遺跡 SB12・SB34	63
第 20 図	嶋戸東遺跡 SB1	63
第 21 図	前期郡庁想定図	64
第 22 図	嶋戸東遺跡主要域掘立柱建物跡・柵列跡配置図	65
第 23 図	下総地域官衙関連遺物出土遺跡分布図	69
第 24 図	円面硯 (1)	71
第 25 図	円面硯 (2)	72
第 26 図	風字硯	72
第 27 図	大北遺跡出土官衙関連遺物	74
第 28 図	小野遺跡出土鈔帯金具	75

第29図	国府台遺跡出土高盤	77
第30図	小貝川川底遺跡出土双耳杯	78
第31図	耳皿	79
第32図	「厨」の墨書土器	81
第33図	駅路の推定	82
第34図	日秀西遺跡（相馬郡衙跡）及び周辺出土の官衙関連遺物	83
第35図	官衙関連遺物出土遺跡集中範囲	85
第36図	流域別主要古墳変遷図	105
第37図	丹過遺跡建物全体図	106
第38図	各遺跡建物主軸方位分布図	107

表 目 次

第1表	郡郷名一覧表	14
第2表	地名関連文字資料一覧表	26
第3表	日秀西遺跡掘立柱建物跡・基壇建物跡一覧表	46
第4表	大畑 I 遺跡掘立柱建物跡一覧表	56
第5表	嶋戸東遺跡掘立柱建物跡・基壇跡一覧表	62
第6表	下総地域官衙関連遺物出土遺跡一覧表	89
第7表	遺跡一覧表	109

はじめに

資料部長 小 宮 孟

財団法人千葉県教育振興財団（財団法人千葉県文化財センターから平成17年9月1日付で名称変更）は、昭和49年に創設以来、埋蔵文化財の発掘調査及びこれに関する研究事業・普及事業を主要な業務としている。

この間、緊急調査と学術調査によって数多くの遺跡を発掘調査し、刊行した調査報告書も500冊以上に達している。さらに、調査を通じて集積された膨大な資料の整理・検討から各時代・各分野の問題点の解明について積極的に取り組んできたところである。

当財団ではそれらの成果を『研究紀要』としてまとめ、昭和51年に第1号を刊行して以来号を重ね、本書で25号を数えるに至っている。

『研究紀要』は、各時代・各分野における文化・遺跡・遺構・遺物等の問題点を抽出し、これらの解明に向けた文献、遺跡・遺物などの資料の収集・整理、そして論考を加えるための共同研究を通して、当センター職員の日頃の研究成果を社会に提示、還元するものである。平成10年度からは第5期として「各時代における諸問題」という新しい主題による研究が開始され、22号・23号でその成果を刊行している。本号では、「房総における郡衙遺跡の諸問題」と題して、主に下総地域を中心に調査された郡衙遺跡をめぐる諸問題についてスポットをあて、郡郷の変遷や古墳時代からの視点も交えて検討を加えることとした。

千葉県内における郡衙遺跡の調査は、1977年に湖北高等学校建設に伴う我孫子市日秀西遺跡が始まりである。この遺跡は、相馬郡衙に伴う正倉跡として広く認識され、その後我孫子市教育委員会による周辺遺跡の調査により徐々に全容が解明されつつある。一方、1980年から3年間にわたって行われた道路建設に先立つ向台遺跡、大畑Ⅰ・Ⅰ-2遺跡の調査により当該遺跡及び周辺が埴生郡衙となる可能性が指摘された。1985年からは官衙の規模などを解明するための確認調査が行われ、その後財団法人印旛郡市文化財センターによる近隣遺跡の調査などが進み、様相が次第に明らかになってきている。また、嶋戸東遺跡は、1991年に宅地造成に伴う財団法人山武郡市文化財センターの調査により、大型の掘立柱建物跡が検出され、注目を浴びた。そこで、官衙関連遺跡確認調査の一環として、千葉県教育委員会から委託を受けた財団法人千葉県文化財センターが、平成9年度から平成16年度まで確認調査を実施し、前期郡庁や後期正倉域などの構造や規模が明らかとなっている。他にも、海上郡衙と推定されている西野遺跡群の調査などが行われているが、いまだ不明な部分が多い。

本書は、平成12年度から平成17年度までの6か年を費やして実施してきた研究成果をまとめたものであるが、遺跡の性格がほぼ想定できる郡衙遺跡を中心に論考を加えたため、国府や郡衙以下の末端官衙遺跡についてはほとんど触れず、官衙関連遺物の論考や一覧表の中で集成している。官衙に関連する広汎な論究はしていないが、今後の郡衙や官衙研究に寄与することがあれば幸いである。本書の執筆分担は以下のとおりであり、編集に当たっては資料部副部長瀬戸久夫が行った。

最後に、共同研究から本編をまとめるまでの間において、関係各位からは多大なるご指導、御協力を頂いた。ここにご芳名を録し、深く感謝の意を表すものである。

〈協力機関〉

市川市教育委員会，市川市立考古博物館，我孫子市教育委員会，市原市教育委員会，(財)市原市文化財センター，(財)千葉県教育振興財団埋蔵文化財センター，人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館，独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所，宇都宮市教育委員会，上三川町教育委員会，(財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター

〈協力者〉

秋元陽光，阿部義平，瓦吹 堅，倉田義広，黒沢彰哉，小牧美枝子，高橋康男，田所 真，田中広明，辻 史郎，津野 仁，白田正子，松本太郎，梁木 誠，山路直充，山中敏史，渡辺晃宏

〈担当者〉

平成12年度 香取正彦，金丸 誠，山口典子
平成13年度 香取正彦，金丸 誠，半澤幹雄
平成14年度 金丸 誠，栗田則久，今泉 潔，大野康男
平成15年度 栗田則久，今泉 潔，小林信一，半澤幹雄
平成16年度 栗田則久，今泉 潔，小林信一，半澤幹雄
平成17年度 栗田則久，今泉 潔，小林信一

〈執筆分担〉

栗田則久 I - 2，II - 1・2，IV
今泉 潔 I - 3
小林信一 II - 3，III
半澤幹雄 I - 1

I 序章

1 房総の郡衙研究略史

『延喜式』や『和名類聚抄』には、安房国に平群、安房、朝夷、長狭の4郡、上総国に市原、海上、畔蒜、望陀、周淮、天羽、夷瀧、埴生、長柄、山辺、武射の11郡、下総に葛飾、千葉、印旛、匝瑳、海上、香取、埴生、相馬、猿島、結城、岡田(豊田)の11郡が見られるが、猿島、結城、岡田の3郡は現在の茨城県に位置するため、本県には、23の郡が所在している¹⁾。

本県の郡衙研究は、全国的な官衙遺跡の研究史と同様、歴史地理学的な所在地の比定に始まる。昭和7(1932)年には小熊吉蔵により西上総地域の周淮、畔蒜、望陀、海上、市原、天羽の6郡の郡衙所在地を地名などから比定している²⁾。

本県において郡衙遺跡の発掘調査が実施されたのは、昭和52(1977)年、53(1978)年に調査が実施された我孫子市日秀西遺跡に始まる。日秀西遺跡は現在、相馬郡衙正倉跡に比定されているが、その調査は千葉県立湖北高等学校建設工事に伴い実施され、整然と立ち並ぶ建物群を検出し、県内初の官衙遺跡として校舎位置の変更等により保存が計られ、郡衙正倉のひとつの典型例として郡衙研究に欠かせない資料となっており、平成7年には県指定史跡に指定された。その後、確認調査や周辺遺跡での発掘調査が実施されているが、他の施設や郡衙全体の構造は不明である。また、検出された建物及び建物群については大野康男により詳細な検討が為されている。続いて、昭和55(1980)年から昭和58(1983)年まで、栄町大畑I遺跡の発掘調査が主要地方道成田安食線道路改良工事の施行に伴い実施され、84棟の掘立柱建物跡や西北西約300mに位置する向台遺跡の出土遺物から埴生郡衙の有力な推定地とされた。昭和60(1985)年、昭和61(1986)年に千葉県教育委員会の委託により財団法人千葉県文化財センターが実施した確認調査成果と併せて、館としての機能を想定している。

平成3(1991)年に宅地造成に伴い実施された成東町嶋戸東遺跡では、大規模な掘立柱建物跡と回廊状の掘立柱建物跡を検出し、周辺の古代寺院である真行寺廃寺や古墳群との関連から郡衙関連遺構の可能性が指摘され、平成9(1997)年から平成16(2004)年まで千葉県教育委員会の委託により財団法人千葉県文化財センターが確認調査を実施し、郡庁や正倉域が徐々に明らかとされ武射郡衙の可能性が極めて高いものとなっている。

上総海上郡衙推定地である市原市西野遺跡群では、開発事業に伴う発掘調査及び千葉県教育委員会による確認調査が数次行われ、平成15(2003)年には伊藤智樹によりその成果が総括され正倉や館、厨家の可能性が指摘されている³⁾。

以上、本県の郡衙の研究状況について概観してきたが、昭和50年代以後、郡衙遺跡の発掘調査が実施されてきたが、明確に郡衙と判断されるものはわずかであり、郡庁、正倉、館、厨といった各施設が揃い郡衙全体が捉えられるものは皆無である。

註

- 1 宮原武夫編 1996 『千葉県の歴史』資料編 古代 県史13
- 2 小熊吉蔵 1932 「西上総に於ける古街道と國府郡家所在地との關係」『史跡名勝天然記念物調査』第7輯第4号
- 3 伊藤智樹 2003 「海上郡衙を考える」『市原地方史研究』第20号 市原市教育委員会

2 文献目録

- 古宮 隆信 1972 昭和47年 「中馬場遺跡 妻子原遺跡」 日本国有鉄道常磐線複々線工事関係遺跡調査団
- 栗本 佳弘他 1973 昭和48年 「印内遺跡 小金線」 (助千葉県都市公社)
- 古宮 隆信 1976 昭和51年 「中馬場遺跡第三次発掘調査報告書」 柏市教育委員会 中馬場遺跡第三次発掘調査団
- 西嶋 定生 1976 昭和51年 「我孫子古代・中世史の研究課題」 『我孫子市史研究1』 我孫子市教育委員会
- 青沼 道文 1976 昭和51年 「千葉市芳賀輪遺跡第1次発掘調査概報 千葉市文化財報告第1」 千葉市教育委員会
- 1977 昭和52年 「千葉市芳賀輪遺跡第3次発掘調査概報 千葉市文化財報告第2集」 千葉市教育委員会
- 山岸 良二 1979 昭和54年 「千葉県柏市根戸 高野台遺跡発掘調査報告書」 柏市教育委員会
- 岡崎 文喜他 1979 昭和54年 「本郷台 奈良・平安時代を中心とした集落址および墓址の調査」 本郷台遺跡調査団
- 1979 昭和54年 「東中山遺跡」 『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 昭和53年度』 千葉県教育庁文化課
- 1980 昭和55年 「千葉市芳賀輪遺跡-第7次発掘調査略報-」 千葉市教育委員会
- 上野 純司 1980 昭和55年 「千葉県我孫子市日秀西遺跡発掘調査報告書」 千葉県教育委員会 (助千葉県文化財センター)
- 堀部 昭夫 1980 昭和55年 「千葉県我孫子市 日秀遺跡遺構確認調査概報」 千葉県教育委員会 (助千葉県文化財センター)
- 石井 穂他 1980 昭和55年 「印内台 古墳, 奈良平安時代の集落址, 墓址の発掘調査概報」 印内台遺跡調査団
- 青沼 道文他 1980 昭和55年 「千葉市芳賀輪遺跡第7次発掘調査略報 千葉市文化財抄報」 千葉市教育委員会
- 佐々木虔一 1980 昭和55年 「古代の結城地方」 『結城市史第四巻古代中世通史編』 結城市
- 1981 昭和56年 「千葉市土気・田向遺跡発掘調査報告書」 千葉市遺跡調査会・田向遺跡発掘調査会
- 古内 茂 1981 昭和56年 「千葉県我孫子市 日秀遺跡遺構確認調査概報」 千葉県教育委員会 (助千葉県文化財センター)
- 桑原 護他 1981 昭和56年 「市営総合運動場内遺跡 昭和55年度埋蔵文化財発掘調査報告」 市川市教育委員
- 上野 純司 1982 昭和57年 「千葉県我孫子市日秀西遺跡発掘調査報告書」 (助千葉県文化財センター)
- 1982 昭和57年 「日秀西遺跡遺構確認調査概報」 (助千葉県文化財センター)
- 1982 昭和57年 「我孫子市埋蔵文化財調査報告第2集」 我孫子市教育委員会
- 岡村 眞文 1982 昭和57年 「我孫子市埋蔵文化財報告第2集 日秀遺跡遺構確認調査 別当地遺跡発掘調査」 我孫子市教育委員会
- 堀部 昭夫 1982 昭和57年 「千葉県我孫子市 日秀遺跡遺構確認調査概報」 千葉県教育委員会 (助千葉県文化財センター)
- 岡村 眞文 1983 昭和58年 「我孫子市埋蔵文化財報告第3集」 我孫子市教育委員会
- 古宮 隆信 1983 昭和58年 「高野台遺跡第一次 柏市埋蔵文化財調査報告書」 柏市教育委員会
- 岡崎文喜他 1983 昭和58年 「本郷台Ⅱ 奈良・平安時代を中心とした集落址および墓址の調査」 船橋市遺跡調査会 本郷台遺跡第二次調査団
- 岡崎 文喜 1983 昭和58年 「下総地方における奈良・平安時代の集落址の一形態 本郷台遺跡を中心として」 遺跡研究会
- 青沼 道文 1983 昭和58年 「千葉市内出土の奈良三彩小壺二例」 『千葉史学第2号』 千葉歴史学会
- 岡村 眞文 1984 昭和59年 「我孫子市埋蔵文化財報告第4集」 我孫子市教育委員会
- 佐々木和博 1984 昭和59年 「『博士館』 墨書土器私考」 『史館第17号』 史館同人
- 青沼 道文他 1984 昭和59年 「千葉市芳賀輪遺跡第2次・7次発掘調査概報 千葉市文化財報告第9集」 千葉市教育委員会
- 村田六郎太 1984 昭和59年 「谷津遺跡 千葉市文化財調査報告書第10集」 千葉市教育委員会
- 岡村 眞文 1985 昭和60年 「別当地・南久保作・北久保作遺跡 我孫子市埋蔵文化財報告第8集」

- 1986 昭和61年 『大北遺跡・谷津遺跡・瓜作遺跡・池田古墳群』 (助千葉県文化財センター)
- 萩原 恭一 1986 昭和61年 『千葉市大北遺跡の検討』 (助千葉県文化財センター)
- 1986 昭和61年 『古代国府関係資料集(その一) 国立歴史民俗博物館研究報告第10集共同研究「古代の国府の研究」』
国立歴史民俗博物館
- 岡村 眞文 1986 昭和61年 『西原遺跡 根戸城跡 我孫子市埋蔵文化財報告第8集』
- 山路 直充 1986 昭和61年 『律令の社会』 『市立市川考古博物館展示解説』 市立市川考古博物館
- 池田 大介他 1986 昭和61年 『大北遺跡・谷津遺跡・瓜作遺跡・池田古墳群 千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』 (助千葉県文化財センター)
- 1987 昭和62年 『中鹿子第2遺跡』 (遺跡見学会資料) (助千葉市文化財調査協会)
- 渋谷 興平他 1987 昭和62年 『千葉県佐倉市寺崎遺跡群発掘調査報告書 向原遺跡 上城堀遺跡 一本松遺跡』 佐倉市寺崎遺跡群調査会
- 1988 昭和63年 『中鹿子第2遺跡』 『昭和62年度千葉県遺跡調査研究会発表要旨』 千葉県文化財法人連絡協議会
- 木下 良他 1989 平成元年 『国府研究の現状(その二) 国立歴史民俗博物館研究報告第20集共同研究「古代の国府の研究」(続)』
国立歴史民俗博物館
- 1989 平成元年 『千葉市文化財調査協会年報1』 (助千葉市文化財調査協会)
- 横田 正美 1989 平成元年 『千葉県中鹿子第2遺跡』 『日本考古学年報40(1987年度版)』 日本考古学協会
- 石田 守一 1989 平成元年 『チアミ遺跡 我孫子市埋蔵文化財報告第12集』 我孫子市教育委員会
- 斎藤 忠昭 1989 平成元年 『須和田遺跡第4地点 昭和63年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告』 市川市教育委員
- 1989 平成元年 『須和田遺跡第9地点 昭和63年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告』 市川市教育委員
- 大野 康男 1990 平成2年 『下総国相馬郡正倉跡』 『シンポジウム 関東官衙遺跡の検討』 茨城県考古学協会
- 山口 典子 1990 平成2年 『千葉県文化財センター調査報告第173集 市川市新山遺跡』 (助千葉県文化財センター)
- 道上 文他 1990 平成2年 『印内台遺跡 第7次・8次調査報告書』 船橋市遺跡調査会
- 山路 直充 1991 平成3年 『下総国井上駅について(上)』 『市立市川考古博物館年報第20号』 市立市川考古博物館
- 石坂 雅樹他 1991 平成3年 『印内台遺跡 第4次調査報告書』 船橋市遺跡調査会
- 村田六郎太 1991 平成3年 『新田遺跡 埋蔵文化財調査(市内遺跡) 報告書 平成2年度』 千葉市教育委員会
- 松田 礼子 1992 平成4年 『須和田遺跡第6地点 平成3年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告』 市川市教育委員会
- 中村 宜弘 1992 平成4年 『印内台遺跡第11次調査 平成3年度船橋市内遺跡発掘調査報告書』 船橋市遺跡調査会
- 1992 平成4年 『東中山台遺跡(第1・2・3次調査) 平成3年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』 船橋市教育委員会
- 菊池 健一 1992 平成4年 『千葉市芳賀輪遺跡平成2年度調査報告書』 (助千葉市文化財調査協会)
- 横田 正美他 1992 平成7年 『千葉中央ゴルフ場遺跡群発掘調査報告書 中鹿子第2遺跡(第2分冊)』 (助千葉市文化財調査協会)
- 天野 努他 1992 平成4年 『出土文字資料と地名』 『千葉県史研究第2号』 千葉県
- 阿部 義平 1992 平成4年 『国府と郡衙-下野国府とその周辺-』 『第6回企画展示解説』 栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
- 田中 英治 1993 平成5年 『須和田遺跡第21地点 平成3年度市川市内遺跡発掘調査報告』 市川市教育委員
- 大森 隆志 1993 平成5年 『小野遺跡 平成4年度松戸市内遺跡発掘調査概報』 松戸市教育委員会
- 栗原 薫子他 1993 平成5年 『東中山台遺跡(第4次) 平成4年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』 船橋市教育委員会
- 飛田 正美 1993 平成5年 『千葉市新田遺跡』 (助千葉市文化財調査協会)

進藤 泰浩	1993	平成5年	『千葉県印旛郡印西町駒形北遺跡発掘調査報告書 印西町立小林小学校運動場拡張に伴う埋蔵文化財調査』(財印旛郡市文化財センター)
菊池 健一	1993	平成5年	『千葉市芳賀輪遺跡平成3年度調査報告書』(財千葉市文化財調査協会)
栗原 薫子	1993	平成5年	『印内台遺跡第15次(確認・本調査)平成4年度船橋市市内遺跡発掘調査報告』船橋市教育委員会
大野 康男	1994	平成6年	『古代官衙の終末をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会
川根 正教	1994	平成6年	『加地区遺跡群Ⅲ 町畑遺跡A地点』流山市教育委員会
大森 隆志	1994	平成6年	『小野遺跡第1地点出土遺物について』『松戸市立博物館紀要第1号』松戸市立博物館
松尾 昌彦	1994	平成6年	『下総国のはじまり』『松戸市立博物館常設展示図録』松戸市立博物館
	1994	平成6年	『「厨」銘墨書土器考 松戸市坂花遺跡出土例めぐって』松戸市立博物館
石坂 雅樹	1994	平成6年	『やさしい郷土の考古学 印内台遺跡について』船橋市史編さん委員会
武田 宗久	1994	昭和49年	『第4節 王朝時代』『千葉市史 第一巻』千葉市
小澤 清男	1994	平成6年	『千葉市芳賀輪遺跡平成4年度調査報告書』(財千葉市文化財調査協会)
山路 直充	1994	平成6年	『下総国分寺後の発掘と下総国府』『東京低地の古代 考古学からみた旧葛飾郡とその周辺』崙書房
栗田 則久	1995	平成7年	『千葉県の古代官衙とその周辺』『シンポジウム3 地方官衙とその周辺』日本考古学協会茨城大会実行委員会 ひたちなか市
白井 太郎	1995	平成7年	『東中山台遺跡群第5次 平成6年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』船橋市教育委員会
道上 文	1995	平成7年	『東中山台遺跡群第6次 平成6年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』船橋市教育委員会
白井 太郎	1995	平成7年	『東中山台遺跡群第7次 平成6年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』船橋市教育委員会
	1995	平成7年	『9. 向境遺跡第1次本調査 平成6年度八千代市埋蔵文化財調査年報』八千代市教育委員会
	1995	平成7年	『10. 境堀遺跡第1次確認本調査 平成6年度八千代市埋蔵文化財調査年報』八千代市教育委員会
山路 直充	1995	平成7年	『「井上」の墨書土器』『下総国分寺』市立市川考古博物館
	1996	平成8年	『下総国シンポジウム2 国府-畿内・七道の様相-』日本考古学協会三重県実行委員会
宮内 勝巳	1996	平成8年	『井戸状遺構について(上)』『史館第28号』史館同人
石坂 雅樹	1996	平成8年	『東中山台遺跡群(8) 平成7年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』船橋市教育委員会
小林 正之	1996	平成8年	『本郷台遺跡 第6次発掘調査報告書』船橋市遺跡調査会
	1996	平成8年	『16. 向境遺跡第2次確認調査, 第2次本調査 八千代市埋蔵文化財調査年報-平成6年度版-』八千代市教育委員会
	1996	平成8年	『17. 境堀遺跡第2次確認調査, 第2次本調査 八千代市埋蔵文化財調査年報-平成6年度版-』八千代市教育委員会
鶴岡 英一	1996	平成8年	『千葉市芳賀輪遺跡平成6年度調査報告書』(財千葉市文化財調査協会)
大森 隆志	1996	平成11年	『小野遺跡 小野遺跡第1地点発掘調査報告書』松戸市遺跡調査会
藤岡 孝司	1996	平成8年	『古代東国村落の構造-中核集落と衛星集落-』『古代第101号』早稲田大学考古学会
山路 直充	1997	平成9年	『国府台旧所在の六所神社について -古代から近代までの展望-』市立市川考古博物館
	1997	平成9年	『下総国府における主要道路』『平成9年度企画展図録「古代の道と旅」』千葉県立房総風土記の丘
道上 文	1997	平成9年	『印内台遺跡群19 平成8年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』船橋市教育委員会
石坂 雅樹	1997	平成9年	『印内台遺跡群20 平成8年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』船橋市教育委員会
	1997	平成9年	『印内台遺跡群21 平成8年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』船橋市教育委員会

- 石坂 雅樹他 1997 平成9年 『東中山台遺跡群（8・9）埋蔵文化財センター調査報告書第3集』（船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター）
- 寺村 光晴 1997 平成9年 「下総国府研究小史と若干の考察」『国府台7』和洋女子大学文化資料館
- 駒見 和夫 1997 平成9年 「下総国府の現状と一検討 近年における国府台遺跡の調査から」和洋女子大学文化資料館
- 見留 武士 1997 平成9年 「東国国府における鹿犠牲」『国府台7』和洋女子大学文化資料館
- 朝比奈竹男 1997 平成9年 「村上郷の文化人たち」『墨書土器は語る』八千代市歴史民俗資料館
- 1997 平成9年 『発掘を体験！遺跡見学会 上谷遺跡発掘調査』八千代市教育委員会
- 武藤 健一 1997 平成9年 『遺物紹介墨書土器 埋（まい）やちよNo.1』八千代市教育委員会
- 1997 平成9年 「10. 境堀遺跡本調査事業（第2次）八千代市埋蔵文化財調査年報－平成7年度版－」八千代市教育委員会
- 1997 平成9年 「11. 向境遺跡本調査事業（第2次）八千代市埋蔵文化財調査年報－平成7年度版－」八千代市教育委員会
- 1997 平成9年 「13. 上谷遺跡確認調査事業（第2・3次）八千代市埋蔵文化財調査年報－平成7年度版－」八千代市教育委員会
- 1997 平成9年 「13. 境堀遺跡確認調査事業（第3次）八千代市埋蔵文化財調査年報－平成7年度版－」八千代市教育委員会
- 1997 平成9年 「16. 境堀遺跡本調査事業（第3次）八千代市埋蔵文化財調査年報－平成7年度版－」八千代市教育委員会
- 1997 平成9年 「18. 向境遺跡本調査事業（第3次）八千代市埋蔵文化財調査年報－平成7年度版－」八千代市教育委員会
- 糸原 清 1997 平成9年 「房総の古代寺院と交通路 人間・遺跡・遺物3」発掘者談話会
- 道上 文 1997 平成9年 「印内台遺跡群（19）埋蔵文化財センター調査報告第4集」（船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター）
- 鶴見 貞雄 1997 平成7年 「4律令国家と結城廃寺 結城の歴史Ⅰ原始古代」結城の歴史編纂委員会
- 辻 史郎他 1998 平成10年 「チアミ遺跡第1次・第3次・第6次発掘調査報告書」我孫子市教育委員会
- 山路 直充 1998 平成10年 「下総国府における主要道路（補遺）」『市立市川考古博物館研究紀要第2号』市立市川考古博物館
- 1998 平成10年 「下総国府関連遺跡」『千葉県歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』千葉県
- 辻 史郎 1998 平成10年 「新山遺跡」『千葉県歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』千葉県
- 松本 太郎 1998 平成10年 「須和田遺跡」『千葉県歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』千葉県
- 道上 文他 1998 平成10年 「印内台遺跡」『千葉県歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』千葉県
- 石坂 雅樹 1998 平成10年 「東中山台遺跡群（10-2）平成9年度船橋市内遺跡発掘調査報告書」船橋市教育委員会
- 1998 平成10年 「東中山台遺跡群（11）平成9年度船橋市内遺跡発掘調査報告書」船橋市教育委員会
- 1998 平成10年 「東中山台遺跡群（12）平成9年度船橋市内遺跡発掘調査報告書」船橋市教育委員会
- 栗原 薫子他 1998 平成10年 「本郷台遺跡」『千葉県歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』千葉県
- 武藤 健一他 1998 平成10年 「古代のベルトの飾りの話 埋（まい）やちよNo.2」八千代市教育委員会
- 武藤 健一 1998 平成10年 「遺物紹介温石 埋（まい）やちよNo.3」八千代市教育委員会
- 倉田 義広 1998 平成10年 「千葉県芳賀輪遺跡平成8年度調査報告書」（船橋市文化財調査協会）

青沼 道文	1998	平成10年	「芳賀輪遺跡」『千葉県の歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』 千葉県
小林 清隆	1998	平成10年	「谷津遺跡」『千葉県の歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』 千葉県
佐々木 慶一	1998	平成10年	「古代の国境としての山河と交通路－房総地方を中心として－」『千葉県史研究第6号』 千葉県
小林 理恵	1998	平成10年	『印内台遺跡群（22）埋蔵文化財センター調査報告第11集』（船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター）
阿部 義平	1998	平成10年	「高岡遺跡群」『千葉県の歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』 千葉県
井上 文男	1999	平成11年	「中馬場遺跡（第4次）柏市埋蔵文化財調査報告書38」 柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
	1999	平成11年	『千葉県文化財センター年報No24－平成10年度－』（助千葉県文化財センター）
石坂 雅樹他	1999	平成11年	『印内台遺跡群25 平成10年度船橋市内遺跡発掘調査報告書』 船橋市教育委員会
石坂 雅樹	1999	平成11年	『東中山台遺跡群（12）平成10年度船橋市内遺跡発掘調査報告書』 船橋市教育委員会
	1999	平成11年	『東中山台遺跡群（10）千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 平成9年度』 千葉県教育庁生涯学習部文化課
	1999	平成11年	『東中山台遺跡群（13）千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 平成9年度』 千葉県教育庁生涯学習部文化課
見留 武士	1999	平成11年	『「シンポジウム東国の国府in WAYO－考古学からみた東国国府の成立と変遷－」に参加して』 国府台9 和洋女子大学文化資料館
蕨 茂美	1999	平成11年	『「上谷遺跡」見学会レポート 埋（まい）やちよNo.4』 八千代市教育委員会
武藤 健一	1999	平成11年	『上谷遺跡の井戸状遺構について 井戸のようで井戸じゃない』 八千代市教育委員会
常松 成人	1999	平成11年	『八千代は墨書のまち。だから…墨書紹介 埋（まい）やちよNo.4』 八千代市教育委員会
	1999	平成11年	『都合のいい土器 八千代は墨書のまち。だから…』 八千代市教育委員会
駒見 和夫	1999	平成11年	『国衙の変遷から国庁を探る 下総の国』【文】の国府を探る 東国の歩みから』 雄山閣
倉田 義広	1999	平成11年	『千葉市猪鼻城跡』（助千葉市文化財調査協会）
石坂 雅樹他	1999	平成11年	『印内台遺跡群（24）埋蔵文化財センター調査報告第8集』（船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター）
川根 正教	2000	平成12年	『加地区遺跡群Ⅳ 町畑遺跡F、G、H地点』 流山市教育委員会
荒井 英樹他	2000	平成12年	『本郷台遺跡 第7次発掘調査報告書』 船橋市遺跡調査会
駒見 和夫	2000	平成12年	『墨書土器による国府の素描』
築瀬 裕一	2000	平成12年	『中世の千葉 千葉市堀内の景観について』 千葉市教育委員会
小林 理恵	2000	平成12年	『東中山台遺跡群（11）埋蔵文化財センター調査報告書第13集』（船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター）
白井 太郎	2000	平成12年	『東中山台遺跡群（12）埋蔵文化財センター調査報告書第14集』（船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター）
石川 功他	2000	平成12年	『古代霞ヶ浦事情－常陸国府とその周辺－』『上高津貝塚ふるさと歴史の広場開館5周年記念展示解説』 上高津貝塚ふるさと歴史の広場

3 郡郷変遷

1. はじめに

ここでいう官衙とは、基本的には考古学的に把握することが可能な郡あるいはそれと同等程度の施設等を想定した、いわゆる官衙関連遺跡をさしている。かつて佐原真が分布論を主題に論じたなかで、国分寺と官衙の遺跡数を問題にしたことがある¹⁾。つまり古代の国・郡の数はわかっているなかで、それまでわかっている両者の遺跡数とでは明らかな差があると指摘する。その理由を、国分寺の遺跡は目に付きやすい遺構・遺物をとどめるのにたいして、官衙遺跡では必ずしもそういう状況にはないからだと説明する。確かに県内でも下総国相馬郡正倉に比定されている日秀西遺跡、埴生郡衙に推定されている大畑遺跡は、調査以前にはこれほどの遺跡内容とは知るよしもなかった。しかしいっぽうで郡衙遺跡を推定する上でひとつの有力な根拠となってきた「こおり(郡・氷・小折等)」等の地名について、たとえば君津市郡遺跡は、周准郡衙の有力な候補地で、その周辺も含めて発掘調査が実施されてきたが、まだ明確な遺構まではみつけるまでにはいたっていない。推定する根拠の難しさをあらためて実感させる。そこで、作業段階の手始めとして、まず図上に郡域を想定することを前提として、ここでは郡域を時空的に検討できるように文字資(史)料を中心に集成し、次の作業へ進む基礎的な資(史)料を提供しておくことにした。当然、郡の構成単位の基本になるのは郷(里)であり、それら各々の領域から図上に示されるようになっていくのが理想ではあるが、その領域は必ずしも長期にわたって踏襲されるものではないことも周知のとおりである。したがって時間的な経過も考慮に入れる必要がある。なお千葉県を総称して房総というように、千葉県は上総国・下総国・安房国からなっているが、一時期安房国は上総国に併合され、また独立するという経緯をたどる。これについては、とくに断らない限り安房国が独立していた時期の領域を想定している。

古代の地名史料としてもっとも価値の高い史料としては、周知のように10世紀前半に成立した『和名類聚抄』がある。記事内容を他の古文書類と比較して成立時期よりは古い段階の内容をもつものとされている。それでも律令制度の整備時期より遅れるのは明らかで、8世紀代の実態を必ずしも反映しているとはいえない。そうした一端は8世紀代の史・資料との比較から、郡域の再編という形で看取できる場合がある。下総国に関連する養老5年(712)の戸籍が正倉院文書に3通知られており、そのなかの「下総国葛飾郡大嶋郷」「下総国釘托(香取)郡少幡郷」の2郷は『和名類聚抄』には記載されていない郷名になる。また平城京左京三条二坊八坪出土木簡に「上総国武昌郡高舎里荏油四升八合和銅六年十月」という内容の荏油の付札がある。武昌郡とは武射郡をさし、「高舎里」の「高舎」は「高文」に音韻変化とも考えられており、「高文」は『和名類聚抄』段階では山邊郡高文郷として掲載されている郷名になる。また郡名を冠した郷ということでは、『和名類聚抄』段階では武射郷は山邊郡に帰属するが、武射は前代には国造名としてあるわけだから、その版図からいって、武射郡武射郷と考えるのが自然であり、おそらく小河川を境界とする郡域の再編が行われたことを示唆している。同様の例は、葛飾郡には隣郡である豊島郡の郡名をもつ「豊島郷」が掲載されている例がある。直接的な郡名郷ではないが、上総国望陀郡には「安波留」の読みをのせる「畔治郷」があり、音の近似性から隣郡の畔蒜郡の郡名郷だった可能性がある。このように『和名類聚抄』段階の表記とそれ以前とでは、郡の再編も含めて異同があった可能性も考慮に入れる必要がある。

2. 地名の変遷

わが国の地名政策が遅れているといわれてから久しいが、欧米ではすでに歴史性を尊重した地名政策が実施されてきたからに他ならない。たとえばイタリアでは早くも第二次大戦前のムッソリーニの時代(1927年)に地名保護の条項が発令され、その根幹は現代にも継承されているという²⁾。また中国では非漢系少数民族をかかえるという特殊事情もあって、地名自体が今日的な政治課題の一つともなっており地名委員会の審議を必要としている。そしてわが国でも一部の自治体で地名に関する法的な保全策が講じられるようになってきた。京都府与謝郡加悦町では昭和54年9月29日に条例第19号として「地名、地形及び区域の記録保存に関する条例」が施行され、大字及び小字について記録保存の措置を講ずるようになったし、愛知県豊明市では昭和52年12月21日に条例第38号として行政区域・町名・地名審議会が設立されることになった。しかし国というレベルでの保全策にはほど遠い状況にあるのは否めない。

ところで古代の地名が現代までどの程度残っているのかということについて、かつて岸俊男が郷里制を検証するなかで、備中国・出雲国を例にあげて、郷名の多くが現代の地名として伝わっているにもかかわらず、里名は現代の地名にはほとんど残されていないと指摘したことがある³⁾。これにたいして館野和己は若狭国・伊豆国の例から、郷名ばかりではなく里名もかなりの頻度で現在の地名のなかに見いだせると指摘した⁴⁾。そこには地域的な問題が厳然として存在しているし、それよりも現代の地名との比較がどれだけ有効かという懸念もあり、にわかには両者の当否まで判断することは差し控えなければならない。ここでは後者の視点から、「地名が残る」ということについて、少し触れておきたい。

現在、毎月数百件にもものぼる地名変更が行われているといわれるが、実はその地名の改変は今に始まったことではなく、すでに古代から中世にかけて国・郡の再編という形で地名の改変が行われてきた経緯はある。しかしそれが明治維新以降になるとその頻度は格段と高くなる。古代と近世末の郷数だけを比較すると『和名類聚抄』では590郡、近世の「天保郷帳」では630郡だったのが、明治20年(1888)には807郡(ほかに市部の区39区、うち北海道79郡2区、沖縄県5郡2区)にまで膨れあがっている。これは必ずしも単一な郡域に基づく変遷ではないから一概に数の比較だけではその本質を見失う可能性もあるが、それでも古代から近世までという時間の長さを考慮に入れば、その変遷は比較的緩やかだったことが窺える。それが「天保郷帳」の数十年後には郡の数が一挙に200近くも増えているわけだから、その変容の大きさは知ることができる。そしてその後も様々な形で地名の改変と、土地と地名の切り離しが行われてきた。その経緯をかいつまんでみておきたい。

現在、「平成の市町村大合併」の最終局面を迎えているが、これまでの地名変遷においても市町村合併が大きな契機となってきた。明治維新後の町村の形態はそれまでの地縁の共同体を基礎としていたが、近代国家の成立を急ぐ新政府は明治4年(1871)に廃藩置県を実施し、その4ヵ月後には戸籍法実施の過程で全国の県を統廃合、3府72県体制とした。郡と町村は当時の府県ごとに数字で区分された大区・小区に再編成され、旧来の郡・町村の区画は完全に無視されてしまった。ところが地租改正・徴兵制の不評に加え自由民権運動や不平士族の反乱が相つぐと、政府はそれまでの大区小区制による中央集権化を一旦中断し、明治11年(1879)に郡区町村編成法、府県会規則、地方税法の地方三新法を施行し、郡区町村編成法により郡・町村を復活し、地方自治制度の基礎がつくられた。そして明治19年(1887)に小学校令・中学校令が公布され、明治21年(1889)4月市制町村制が公布され、その施行に前後して大規模な町村大合併が行われ、近代の市町村合併の第一歩を踏み出すことになった。また従来の合併は主に経費節減が目的であった

のに対して、各町村の自立を促すものであった。つまり100戸以下の弱小町村が7割弱を占め、行政機能の強化を図るために町村規模を拡大していった。これによって、全国の町村数は71,314から一挙に55,494減少して15,820と5分の1に減少した。この合併標準のなかに地名に関して1項設けられており、「例へハ大町村ニ小町村ヲ合併スルトキハ其大町村ノ名・称ヲ以テ新町村ノ名称ト為シ、或ハ殆ト優劣ナキ数多ノ小町村ヲ合併スルトキハ各町村ノ旧名称ヲ参互折衷スル等勉メテ民情ニ背馳セサルコトヲ要ス」とある。前半部分は「大町村名継承原則」で、後半は「参互折衷式」といわれる町村合併を実現するためには二つの地名を犠牲にして新しい名称を認めるというものである。日本における歴史的伝統的地名の受難がこれによって始まるといわれる所以である⁵⁾。なおこの合併より前の町村名は現代の大字・小字に移行しているといわれるが、この大合併の際に、地名と本来の土地との関係が絶たれてしまった例が目立った。榎岡良弼の『日本地理志料』と吉田東伍の『大日本地名辞書』の2書は、そうした時期に編纂されたものである。当時進められていた町村の合併によって生じた地名の盗用を正すのと同時に、本来の地名研究のあり方を示すかのように、それぞれ緻密な考証を経て著し、とくに吉田の仕事は文字通り寝食を忘れ、自らの命を削ってまでも、「日本にはまだ統一した地誌がない」という一念のもとに編纂されたもので、個人が13年間という短期間で成し遂げた仕事量としても驚嘆すべきものであった。また地名研究には一面で懐古的な趣向を持ち合わせるのも否めない事実である。とくに江戸時代以降のおもに文化人の手によって懐古趣味で地名の探索が行われてきた経緯がある。その懐古趣味に警鐘を鳴らしたのも、この2書である。ただ現代の視点からみると、個別な内容では見直すべき事項も決して少なくはない。しかしそれすら体系的な見直しながされてきたいとはいいたいというのが現状であろう。

県内における地名を誤用した実例をあげておくと、古代安房郡健田郷として存在した「健田」という地名を古代に肖ったのであろうが、本来の推定地とはかなりかけ離れた地点に健田村が存在した。また後に望陀と表記される「馬來田」も近代に馬來田村が成立するが、本来の地とは離れた地点を村域として成立している。また誤比定ではないが、2村の村名を「参互折衷方式」で合わせたために、本来の土地との関係が薄れてしまった例もある。たとえば平城京木簡で明らかとなった安房郡片岡郷の故地は現代の館山市水岡であるが、これは清水村と片岡村から一字ずつとって「水岡」村を創生したのに始まる。まさにその典型例である。そして昭和にはいると柳田国男が『地名の研究』で地名改変がどれほどの文化破壊をもたらすかを指摘したものの、「国郡郷などの行政区画名は地名研究の本来のテーマではない」とする否定的評価によって地名研究の遅滞を余儀なくさせる遠因ともなった。

第2次大戦後の昭和21年(1946)9月に市制・町村制・府県制・東京都制、その他関連法の大改正が行われた。昭和28年(1953)10月に町村合併促進法が制定され、新制中学校1校を効率的設置管理するのに必要と考えられた人口規模を念頭に、全国一律に人口8,000人を最小単位として町村合併が進められた。さらに昭和31年(1956)4月には新市町村建設促進法が制定され、市町村数は9,868(市286、町1,966、村7,616)から3,975(市498、町1,903、村1,574)とほぼ3分の1に減少し、ほぼ平成の大合併直前の市町村数の原型をなすにいたった。これ以降数度にわたって市町村合併に関する法律が制定されて、平成の大合併を迎えることになる。こうした経緯のなかで、判例はいくつかあるものの地名を保全するという国策が講じられることはなかった。このように歴史的な地名の多くは歴史のはざまに埋没しかかっているかもしれない。このように政策面では遅れをとったものの、地名の保全に関して有利な点が少なくとも3点はある⁶⁾。1点目は地名に人の名をつける習慣がなかったこと。2点目はアイヌ語を除けば単一言語であるということ。

しかしこれは表記の点において、ほとんどの場合漢字が介在するために、単一言語とはいっても。そして3点目は長い歴史のなかで他国の直接的な支配を受けることがなかったということである。とくに3点目はわが国では経験がないためにその弊害を実感しにくいだが、近年インドでは植民地統治期の英語呼称から、公用語の地名に変わりつつあるという1例をあげておけばわかりやすいかもしれない。しかしこれらは消極的な優位性しかない。しかしわれわれの眼前には、それらを救いあげる厳然とした資(史)料として存在し、そうした作業を進める中で古代の行政区画というものにも意を注いでいきたい。

そうしたことを踏まえれば、透けてしかみえない地名にも光を当てることは可能なはずである。それにはまずは立ち返るのが、まず第1の手段であろう。地名の原義は自然地形に基づくとされている⁷⁾という原点に山口恵一郎も地名の4類型の筆頭に地形語としてあげている⁸⁾。それはかつて吉田秀三が、金田一春彦がよく「アイヌ地名にはうそはありませんね」と云われたことを紹介して⁹⁾、その真意を「地名の正確な原形さえ分っていれば、その場所に行けば、その言葉通りの土地の姿が見られるという意味なのであった。」と解説した内容に言い尽くされているといえよう。

なお古代律令制における国郡郷制は、近代の行政区画とは異なり、それぞれの境界線までを細かく定めたものではなかったと考えている。しかしそこには地理的合理性はあったはずである。当時の生活に根ざした空間領域を検証するのはむずかしいが、一つの参考例として、平野功が指摘した例をあげておきたい。平野は正倉院文書の「下総国鉦托(香取)郡少幡郷 養老5年戸籍」の郷名が、実は小見川町古屋敷遺跡出土の9世紀中頃から後半にかけての墨書土器群に郷名と考えられる「山幡」の墨書があることから、それまで刊本で釈読されてきた「少幡郷」という釈読に疑問を投げかけたことがある¹⁰⁾。そのなかで墨書土器の「山幡」が具体的な土地に根づく資料であることから、合わせて郡境についても論究している。それは8世紀前半代の香取郡山幡郷の推定地と隣郡の海上郡城上郷推定地を地図上で押さえると、直線距離で約1.5kmあり、その間に郡境と想定した。ただし両地点のあいだには台地の基部を浸食した小支谷はあるものの、両地点は同一の台地上に存在するので、明らかな地形等の変換線で線引きできるような環境ではない。『和名類聚抄』には山幡郷という郷名は存在せず、その時期にはその一帯が海上郡に編入されたとも考えられることから、郡境とはいっても厳然とした地形等の変化がなければ、郡や郷の再編が進むなかで、その境界すら動く可能性があることを示唆しているといえるかもしれない。また遺構から郷の境界を認定した例としては、岡山県岡山市の津島遺跡の例がある。そこでは条里制の郷境と考えられる、地割り図に一致する溝がみつまっている。開削時期は不明だが、9世紀代には存在し、中世前半には溝としての役割は終えるようである¹¹⁾。

註

- 1 佐原 真 1985「分布論」『岩波講座日本考古学1 研究の方法』岩波書店
- 2 楠原佑介 2003『こんな市名はもういらない・！ - 歴史的・伝統的地名保存マニュアル』東京堂出版
- 3 岸 俊男 1973「古代村落と郷里制」『日本古代籍帳の研究』塙書房
- 4 館野和己 1995「郷里制の復元的研究 - 二条大路木簡を主たる素材として」『文化財論叢Ⅱ』同朋舎出版
- 5 註1) 前掲書
- 6 田中克彦 1996「名前学からみた固有名詞」『名前と人間』岩波書店
- 7 武光 誠 1999『地名から歴史を読む方法』河出書房新社

- 8 山口恵一郎 1967『地名の成立』徳間ブックス16 徳間書店
柳田国男 1998『地名の話』『柳田国男全集』第7巻 筑摩書房
- 9 吉田秀三 1993「アイヌ語の地名を大切にしたい抄」『日本の名随筆』別巻27 地名 作品社
- 10 平野 功 1994「古代の地名を考える－小見川町古屋敷遺跡出土の墨書土器を中心として－」『香取民衆史』7
- 11 井上弘ほか 2003『津島遺跡4－岡山県陸上競技場改修に伴う発掘調査』岡山県教育委員会

第1表 郡郷名一覽表

番号	国名	郡名	郷名	〔和名類聚抄〕活字本(元和3年)	〔和名類聚抄〕名博本(永禄9年)	〔和名類聚抄〕東急本(室町中期)	〔和名類聚抄〕高山寺本(平安末)	吉田東伍 1972『増補大日本地名辞書』第6巻 板東 富山房	堀岡良弼 1960『安房・上総・下総』〔日本地理志料〕改訂房総叢書刊行会
1	安房国	平群郡	砥河郷	砥河郷	砥河郷	砥河郷	砥河郷	国府村・滝田村	戸川村、戸川・上掘・下掘・府中・本織・明石・谷向・川田・三坂・千代
2		平群郡	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷		滝田村(砥河郷の余戸)	合戸村、合戸・竹内・宮谷
3		平群郡	達良郷	達良郷	達良郷	達良郷	達良郷	多々良村	多多良村、多多良・金尾谷・白坂・深名・青木・宮本・大津・手取・居倉・丹生
4		平群郡	石井郷	石井郷	石井郷	石井郷	石井郷	岩井村・岩井袋	岩井袋村、勝山・龍島・大六・岩井袋・久枝・検儀谷原・市部・二部・不入斗・小浦
5		平群郡	狹隈郷	狹隈郷	狹隈郷	狹隈郷	狹隈郷	佐久間村・勝山村	佐久間村、佐久間・佐久間中・佐久間下・奥山・大崩
6		平群郡	長門郷	長門郷	長門郷	長門郷	長門郷	那古町・船形村	平久里村東長藤・西水藤、平久里中・平久里下・山田・荒川
7		平群郡	大里郷	大里郷	大里郷	大里郷	大里郷	平群村	大作村、国分・高井・上野原・北条・八幡・湊・新宿
8		平群郡	川上郷	川上郷	川上郷	川上郷	川上郷	平群村(大里郷内)	川上村、川上・吉井・米澤・犬掛
9		平群郡	穂田郷	穂田郷	穂田郷	穂田郷	穂田郷	保田村	保田村、保田本郷・小保田・元名・吉濱・江月・大帷子・市井原・横根
10		平群郡	駅家郷	駅家郷	駅家郷	駅家郷	駅家郷	穂田郷周辺	
11		平群郡	白浜郷	白浜郷	白浜郷	白浜郷	白浜郷	吉浜	(白濱郷)、正木・亀原・那古・川名・船方・小原
12	安房郡	太田郷	太田郷	太田郷	太田郷	太田郷	未詳 豊房村?	大戸村、大戸・長田・山萩・飯沼・鷹口・南條・大網・眞倉・長須賀・安布里・山本	
13	安房郡	塩海郷	塩海郷	塩海郷	塩海郷	塩海郷	塩見村	鹽海村、鹽海・香村・大賀・笠名・宮城・沼・柏崎・北下臺・岡上須賀・濱上須賀・楠見浦・館山・新井浦	
14	安房郡	麻原郷	麻原郷	麻原郷	麻原郷	麻原郷	未詳 神戸村・西岬村	布沼村・坂井村小原、小沼・坂見・伊戸・坂井・布沼・茂名・洲宮・藤原・岡田・出野尾	
15	安房郡	大井郷	大井郷	大井郷	大井郷	大井郷	九重村大字大井	大井村、大井・水玉蘭・二子・安東・清水・片岡・寶貝・稲村・腰越・廣瀬・江田・竹原	
16	安房郡	河曲郷	河曲郷	河曲郷	河曲郷	河曲郷	館野村(高橋氏文)	川名村、川名・洲崎・阪田・波佐間・加賀名・早物・見物・濱	
17	安房郡	(廣湍郷)							
18	安房郡	白浜郷	白浜郷	白浜郷	白浜郷	白浜郷	白浜郷	長尾村・白浜村	白濱村、白濱・乙濱・白間津・大川・千田・平磯・川口
19	安房郡	神戸郷	神戸郷	神戸郷	神戸郷	神戸郷	神戸村・富崎村	大神宮村(旧名神戸)、中里・犬石・相濱・佐野・布良・根本	
20	安房郡	神余郷	神余郷	神余郷	神余郷	神余郷	神余村	神餘村、神餘・南龍・北龍・松岡・畑・瀧口・横須賀・川下	
21	安房郡	(公余郷)							
22	安房郡	(片岡郷)							
23	安房郡	(利鹿郷)							
24	安房郡	(□□郷)							
25	朝夷郡	御原郷	御原郷	御原郷	御原郷	御原郷	御原郷	三原村・北三原村・和田村	三原村、上三原・中三原・下三原・珠師谷・小戸・岩絲・西原・石神・白渚・和田
26	朝夷郡	新田郷	新田郷	新田郷	新田郷	新田郷	新田郷	健田村	宇田村、瀬戸・宇田・久保・白子・川合・牧田・川戸・大貫
27	朝夷郡	大瀨郷	大瀨郷	大瀨郷	大瀨郷	大瀨郷	大瀨郷	千歳村・豊田村	沼・松田・海發・安馬谷・峯・加茂・杵見
28	朝夷郡	満祿郷	満祿郷	満祿郷	満祿郷	満祿郷	満祿郷	満祿村	丸本郷村、石堂・石堂原・川合・黒岩・宮下・御子神・山名
29	朝夷郡	健田郷	健田郷	健田郷	健田郷	健田郷	健田郷	未詳 莫越山神社周辺?	瀧田村、上瀧田・下瀧田・増間
30	朝夷郡	大津郷	大津郷	大津郷	大津郷	大津郷	大津郷		
31	長狭郡	壬生郷	壬生郷	壬生郷	壬生郷	壬生郷	壬生郷	未詳	星畑村美字、星畑・西野尻・東野尻、上野・中居・二子村比岐、二子・西山・宮下・柴尾・代野・天面・濱波太・岡波太・波太島・太夫崎・吉浦・江見・青木・眞門
32	長狭郡	日置郷	日置郷	日置郷	日置郷	日置郷	日置郷	曾呂村	
33	長狭郡	田原郷	田原郷	田原郷	田原郷	田原郷	田原郷	田原村・由基村	押切、北小町・南小町・上小原・下小原、南小原
34	長狭郡	酒井郷	酒井郷	酒井郷	酒井郷	酒井郷	酒井郷	未詳 吉尾村・大山村	北風原酒酔井、北風原・横尾、大川面・成川・仲村・寺門・細野・松尾寺・宮山
35	長狭郡	伴部郷	伴部郷	伴部郷	伴部郷	伴部郷	伴部郷	西条村	和泉村富部臺、和泉・栗斗・八色・廣場・西村・東村
36	長狭郡	(大伴郷)							
37	長狭郡	賀茂郷	賀茂郷	賀茂郷	賀茂郷	賀茂郷	賀茂郷	鴨川町(加茂川湊)	賀茂川、貝渚・磯・前原・滑谷・來秀・横濱・荒島・辨天島・雀島・海鵜島
38	長狭郡	丈部郷	丈部郷	丈部郷	丈部郷	丈部郷	丈部郷	未詳 天津小湊	大幡村作壁(作掛)、大幡・佐野・吉畑・金束・平塚・奈良林・釜沼
39	長狭郡	置津郷	置津郷	置津郷	置津郷	置津郷	置津郷	夷隅郡興津村	興津村、内浦・小湊・大澤・濱行川・興津・守谷・鶴原・薬宿・名木・大森・中里・赤羽根・植野

1959「群郷分治」『房総通史』改訂房総叢書刊行会	『千葉県の地名』日本歴史地名大系第12巻 1996		
国府村・滝田村 未詳 富浦町多々良・八束村 岩井町付近 佐久間村一帯 平郡平久里付近 未詳 保田町付近 平群村川上付近 川上郷の内 未詳	三芳村戸川 未詳 富浦町多田良 富浦町岩井・巖南町岩井袋 巖南町佐久間 富山町平久里中 三芳村巖之内・御庄・山名 富山町川上 巖南町保田 未詳 館山市中沢・稲原	国府村・瀧田村 岩井村(合戸・竹内・宮谷) 富浦村・八束村 勝山町岩井村 佐久間村 平群村 北条町・国府村 平群村川上・吉澤・犬掛 保田・本郡・小保田・元名・吉濱 穂田郷の一部を割く	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
豊房村大戸付近か 西岬村塩見付近 神戸村布沼付近か 九重村大井付近 西岬村川名付近か 白浜町付近 神戸村大字神宮付近 豊房村大字神余付近	館山市大戸・長田・山萩 館山市塩見・見物・沼・鏡ヶ浦 館山市小原・洲崎・藤原 館山市大井・田辺・齒 館山市広瀬・腰越・萱野・高井 河曲郷 = 廣瀨郷 千倉町白間津・川口 館山市大神宮 館山市神余 公余郷 = 神余郷 館山市水岡 未詳	大戸村 山下郡塩見村(里見分限帳) 小沼・坂足・伊井・坂井・布沼・茂名 九重村・館野村 西岬村 白濱・乙濱・白間津・大川・千田 豊房村・長尾村	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
南三原村・北三原村 健田村付近か 豊田村・千歳村・南三原村か 丸村付近 健田村、又は滝田村付近か	和田町一帯 千倉町字田・牧田が有力 丸山町安馬谷 丸山町丸本郷・石堂・珠師ヶ谷 千倉町南朝夷・北朝夷・白間津 瀬戸川下流域	上三原村・中三原村・北三原村・珠師ヶ谷・小戸 健田村・千歳村 沼・松田・海發・安馬谷・峰・加茂・杵見 丸村(石堂原・川合・黒岩・宮下・御子神 瀧田村	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
曾呂村大字星畑美字付近か 曾呂村大字二子字比岐付近か 田原村付近 未詳 東条村和泉字富部台付近か 鴨川町付近か 吉尾村大幡字作壁付近か 清海村興津付近は、安房郡	未詳 曾呂川流域は遺跡なし。 鴨川市二子・太海・江見 鴨川市北小町・太田学・上小原 鴨川市北風原・細野・横尾? 鴨川市和泉・広場 大伴郷 = 伴部郷 鴨川市前原・横渚・貝渚 鴨川市大幡・佐野・奈良林? 天津小湊町・鴨川市興津・鶴原	曾呂村(星が畑・西野尻・上野) 太海村・和田村・江見村 押切・北小町・南小町・上小原・下小原 北風原・横尾・大川面・成川・仲 西條村・東條村(和泉村富臺) 鴨川町・西條村・田原村 大山村・吉尾村(大幡・佐野・古畑・金東) 湊村・清海村・上野村	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991

番号	国名	郡名	郷名	[和名類聚抄]活字本(元和3年)	[和名類聚抄]名博本(永禄9年)	[和名類聚抄]東急本(室町中期)	[和名類聚抄]高山寺本(平安末)	吉田東伍 1972「増補大日本地名辞書」第6巻 板東 富山房	柳岡良弼 1960「安房・上総・下総」日本地理志料 改訂房総書局刊行会
40		長狭郡	賀茂郷	賀茂郷	賀茂郷	賀茂郷	賀茂郷	鴨川町(加茂川湊)	賀茂川、貝渚・磯・前原・滑谷・來秀・横渚・荒島・辨天島・雀島・海瀧島
41	上総国	市原郡	海部郷	海部郷	海部郷	海部郷	海部郷	市西村・五井町	海土村、海士・有木・福増・山倉・西廣・山田橋・小田邊
42		市原郡	市原郷	市原郷	市原郷	市原郷	市原郷	市原村大字市原・能満・門前・郡本	市原村、市原・門前・能満・山木・郡本・藤井・加茂・岩見・惣社・根田・塔塚・西谷
43		市原郡	江田郷	江田郷	江田郷	江田郷	江田郷	未詳 八幡町?	吉澤・新井・山小川・田尾・水澤・鶴舞・久保・池和田・矢田・江古田・米澤・安久谷・牛久・奉免
44		市原郡	湿津郷	湿津郷	湿津郷	湿津郷	湿津郷	湿津村・市東村	潤井戸村、久久津・神埼・萩作・下野・番場・押沼・瀬又・高田・中野・高倉・國吉・金剛地・奈良・古都邊・永吉
45		市原郡	山田郷	山田郷	山田郷	山田郷	山田郷	養老村大字山田	山田村、山田・二日市・土宇・糠狭・川在・新巻
46		市原郡	葉麻郷	葉麻郷	葉麻郷	葉麻郷	葉麻郷	菊麻村	菊間村、菊間・大腕・草刈・古市場・八幡・御所・金杉・君塚・村田・富岡・刈田子・落井・茂呂
47	海上郡	佐三郷	佐三郷	佐三郷	佐三郷	佐三郷	佐三郷	明治村佐是	佐瀬村、佐是・西國吉・栢橋・寺谷・岩崎・上原
48		稲庭郷	稲庭郷	稲庭郷	稲庭郷	稲庭郷	稲庭郷	未詳 内田・池和田・平茂辺	入沼村、入沼・野毛・青柳・出津・玉前・岩崎・五井・平田・村上・根田
49		大野郷	大野郷	大野郷	大野郷	大野郷	大野郷	高滝村大字駒込(大野牧)	折津・大久保・國本・田淵・月出・月崎・柳川・菅野・徳氏・柿木
50		山田郷	山田郷	山田郷	山田郷	山田郷	山田郷	未詳 田代辺	山田久保村、皆吉・大蔵・金澤・岩村・藪・外部田・駒込・山口
51		倉橋郷	倉橋郷	倉橋郷	倉橋郷	倉橋郷	倉橋郷	未詳 戸田村辺?	未詳、本郷・賀茂・宮原・平野・大戸・萬田野・小佐貫・飯給・小谷田・不入
52		福良郷	福良郷	福良郷	福良郷	福良郷	福良郷	未詳 今富・小折周辺?	未詳(深城村)、豊成・立野・風戸・高根・馬立・宇田・安須・高坂
53		鳥穴郷	鳥穴郷	鳥穴郷	鳥穴郷	鳥穴郷	鳥穴郷	(鳥穴郷) 東海村大字鳥野	鳥穴神社(鳥野村鳥穴)、鳥野・野毛・白塚・二十五里・栢原・畑木・今津朝山
54		馬野郷	馬野郷	馬野郷	馬野郷	馬野郷	馬野郷	姉崎町	未詳、椎津・姉崎・畑木・不入斗・片又木・迎田
55	畔蒜郡	美々郷	美々郷	美郷	美々郷	美郷	美郷	未詳	三田村、西原・山本・茅野・沙田・戸國・眞里・眞里谷・大久保・稲荷塚・百目木・三箇・竹内橋
56		小河郷	小河郷	小河郷	小河郷	小河郷	小河郷	大谷村小川?	大谷村・長谷川村小川、大谷・川谷・小市部・箕輪・吉野・長谷川
57		甘木郷	甘木郷	甘木郷	甘木郷	甘木郷	甘木郷	未詳	林・河原井・永吉・野里・高谷
58		新田郷	新田郷	新田郷	新田郷	新田郷	新田郷	小櫃村大字上新田	新田村、上新田・末吉・俵田・寺澤・青柳・富田
59		椅原郷	椅原郷	椅原郷	椅原郷	椅原郷	椅原郷	眞里谷周辺	蔵玉・釜生・黄和田畑・折木澤・草河原・坂畑・藤林・川俣・笹・高水・柳城・加名盛・大戸見・廣岡
60		三衆郷	三衆郷	三衆郷	三衆郷	三衆郷	三衆郷	未詳 下郡?	未詳 小櫃谷の三黒村?
61	望陀郡	畔治郷	畔治郷	畔治郷	畔治郷	畔治郷	畔治郷	未詳	久留里・市場・浦田・大和田・向郷・富田・栗坪・平山
62		表可郷	表可郷	表可郷	表可郷	表可郷	表可郷	(袁可郷) 奈良輪・蔵波	坂戸市場、奈良輪・神納・中野・牛込・中島・瓜倉
63		会戸郷	会戸郷	倉部郷	会戸郷	倉部郷	倉部郷	黒戸浜、川尻・中島	黒戸濱、畔戸・久津間・萬石・高柳・江川・中里・長須賀・木更津・貝淵・櫻井・請西・大田・相里
64		飯富郷	飯富郷	飯富郷	飯富郷	飯富郷	飯富郷	(飯富郷) 根形村大字飯富	飯富村、飯富・神納・曾根・有吉・井尻・大寺・十日市場・牛袋・牛袋野
65		磐田郷	磐田郷	磐田郷	磐田郷	磐田郷	磐田郷	横田・高谷?	岩出村、岩出・戸崎・青柳・愛宕・大坂・西野・四宮・小瀬・宿戸・大野・宮臺・大山田
66		河曲郷	河曲郷	河曲郷	河曲郷	河曲郷	河曲郷	未詳 岩根村	貝淵・宗政・川久保・大川原
67		鹿津郷	鹿津郷	鹿津郷	鹿津郷	鹿津郷	鹿津郷	未詳	(麓津)、大鳥居・笹子・犬成・中尾・椿・菅生・祇園・長井作
68	周准郡	山家郷	山家郷	山家郷	山家郷	山家郷	山家郷	三島村・秋元村	奥米・旅名・正木・奥畑・原宿・大岩・辻森・日笠・平田・粟倉・猪原
69		山名郷	山名郷	山石郷	山名郷	山名郷	山名郷	周南村・貞元村・郡村	山野村、大山野・小山野・濱古・常代・宮下・泉・六手・皿引・尾車・馬登・草牛・作木・鹿野
70		額田郷	額田郷	額田郷	額田郷	額田郷	額田郷	中村・小糸村	糠田村、糠田・中島・大井・大谷・行馬・根本・塚原・福岡・白駒・萩作・絲川・鎌瀬・市宿・日渡根・大野臺・法木作・長石
71		(額部郷)							
72		(額部郷)							
73		三直郷	三直郷	三直郷	三直郷	三直郷	三直郷	八重原村大字三直	三直村、三直・上村・練木・大鷲・外箕輪・内箕輪・法木
74		丸田郷	丸田郷	丸田郷	丸田郷	丸田郷	丸田郷	周西村	大和田村(上總和田城)、大和田・人見・大堀・坂田・畑澤・小濱・上島田・中島田・下島田
75		湯坐郷	湯坐郷	湯坐郷	湯坐郷	湯坐郷	湯坐郷	貞元村湯江・飯野村	(油江郷)、上湯江・下湯江・中富・前久保・臺・中野・久保
76		藤部郷	藤部郷	藤部郷	藤部郷	藤部郷	藤部郷	(篠部郷) 篠部村	貞元・新御堂・杉谷・小香・八幡・笠師・法木・南子安・北子安
77		勝部郷	勝部郷	勝部郷	勝部郷	勝部郷	勝部郷	(勝川郷) 未詳	藤部郷の重複
78	勝川郷	勝川郷	勝川郷	勝川郷	勝川郷	勝川郷	勝川郷	未詳	

1959「群郷分治」『房総通史』改訂房総叢書刊行会	『千葉県の地名』日本歴史地名大系第12巻 1996		
	鴨川市太尾・板東・京田？		
市西村大字海士有木付近か	市原市海士有木		
市原村市原付近	市原市能満・門前・郡本		
山村大字吉沢付近	未詳		
湿津村潤井戸付近	市原市潤井戸		
養老村大字山田付近か	市原市山田		
菊間村付近	市原市菊間		
明治村佐是か	市原市佐是		
東海村飯沼か 不明	未詳		
未詳	未詳		
未詳	市原市山田久保		
未詳	未詳		
未詳	未詳		
鳥穴神社付近	市原市鳥野		
姉崎町椎津付近か	中世馬野郡の一部 市原市西北部		
未詳	君津市三田？	君津市三田	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
小櫃村大字俵田の旧名小川か	君津市大谷？	君津市大谷村、御腹川	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
未詳	未詳	—	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
小櫃村大字上新田付近か	君津市新田	—	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
未詳	未詳	—	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
未詳	木更津市下郡？	—	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
未詳	木更津市笹子・椿	木更津市笹子・椿、君津市久留里	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
未詳	袖ヶ浦市奈良輪？	袖ヶ浦市奈良輪	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
倉戸か 金田村大字畔戸か	木更津市畔戸	木更津市畔戸	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
根形村大字飯富	袖ヶ浦市飯富	袖ヶ浦市飯富	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
小櫃村大字岩出 根形村岩井か	袖ヶ浦市岩井？君津市岩出	君津市岩出	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
平岡村川原井又は小櫃村川久保か	木更津市万石？袖ヶ浦市川原井	袖ヶ浦市川原井	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
根形村大字勝か	袖ヶ浦市勝	袖ヶ浦市勝	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
三島村	君津市市宿・日渡根？		
周南村大字大山野・小山野付近か	君津市大山野・郡？		
中村大字糠田付近	君津市糠田		
八重原村大字三直付近	君津市三直		
未詳	君津市大和田？		
貞元村大字上湯江付近	君津市上湯江・下湯江		
未詳	未詳		
未詳			
未詳	未詳		

番号	国名	郡名	郷名	[和名類聚抄]活字本(元和3年)	[和名類聚抄]名博本(永禄9年)	[和名類聚抄]東急本(室町中期)	[和名類聚抄]高山寺本(平安末)	吉田東伍 1972 「増補大日本地名辞書」第6巻 板東 富山房	郵岡良弼 1960 「安房・上総・下総」 「日本地理志料」改訂房総叢書刊行会
79		周淮郡	(種泚郷)						
80		埴生郡	埴生郷	埴生郷	埴生郷	埴生郷	埴生郷	東浪見村、一宮町	一宮・宮原・東浪見・岩井・小瀧・阿須谷・上市場・川島・金田・信友・岩沼・七井戸・水口・宮成・一松・砂島
81		埴生郡	埴石郷	埴石郷	埴石郷	埴石郷	埴石郷	未詳 一宮金田・岩沢	(高石) 高師村・茂原・鷲巣・箕輪・榎木・岩川・須田・石神・八幡原・大芝・木崎・町保・千町・谷本
82		埴生郡	小田郷	小田郷	小田郷	小田郷	小田郷	(山田郷)	(山田郷) 北山田・寺崎・下之郷・上之郷・森・長樂寺・大谷木・芝原・三谷・永吉・台田・野牛
83		埴生郡	坂本郷	坂本郷	坂本郷	坂本郷	坂本郷	疋南町大字坂本	坂本村・坂本・中善寺・網島・關原・米満・千田・今泉・本臺
84		埴生郡	横栗郷	横栗郷	横栗郷	横栗郷	横栗郷	未詳	(餘戸里) 竹林・岩撫・茗荷澤・小澤・佐坪・市之野・水沼・山内
85		埴生郡	河家郷	河家郷	河家郷	河家郷	河家郷	未詳	未詳 給田・地引・中原・報恩寺・上小野田・下小野田・小生田・葛田・大井・西湖・久原・永井
86		埴生郡	(山田郷)					土賤村大字山田	
87		長柄郡	刑部郷	刑部郷	刑部郷	刑部郷	刑部郷	水上村(刑部)・日吉村	刑部村・刑部・金谷・田代・高山・大庭・笹森・大津倉・立島・櫻谷・長富・徳増・小榎木
88		長柄郡	管見郷	管見郷	管見郷	管見郷	管見郷	未詳 長柄村・二宮村	中郷・高根本郷・中里・吉所・八斗・五井・鷲・日當・關・福島・小豊
89		長柄郡	車持郷	車持郷	東崎郷	車持郷	車持郷	疋南町・豊栄村	葦持村・葦持・深澤・長南・千手堂・又富・棚毛・錫谷
90		長柄郡	兼陀郷	兼陀郷	兼陀郷	兼陀郷	兼陀郷	(邑陀郷) 新治村・豊田村	(二宮庄邑郷) 上大田・下大田・桂・吉井・柴名・大登・上野・味庄・船木・眞名・庄吉・国府關
91		長柄郡	柏原郷	柏原郷	柏原郷	柏原郷	柏原郷	(柏原郷) 帆丘町・豊岡村	(柏原) 萱場・本納・法目・高田・澗谷・腰當・北塚・弓渡・吉田・栗生野・御蔵・芝
92		長柄郡	谷部郷	谷部郷	長谷部郷	谷部郷	谷部郷	茂原町大字長谷	長谷村・内長谷村・上林・小林・押日・山崎・蘆網・方丸・千代丸
93		山邊郡	天生郷	天生郷	天生郷	天生郷	天生郷	福岡村・増穂村	粟生村・粟生・片貝・小關・御門・荒生・大沼・西野・貝塚・眞龜・沼田・今泉・四天木
94		山邊郡	岡山郷	岡山郷	岡山郷	岡山郷	岡山郷	丘山村・東金町	東金町(旧名岡山村) 東金・田間・臺方・大豆谷・油井・菱沼・二又・前内・中野・殿庭・北幸谷・掘上・川場
95		山邊郡	菅屋郷	菅屋郷	菅屋郷	菅屋郷	菅屋郷	(菅谷郷) 松之郷菅谷	松郷村菅谷・本郷・松郷・道庭・家ノ子・三箇尻・酒蔵・濃澤・植草・布田・極楽寺・武勝
96		山邊郡	山口郷	山口郷	山口郷	山口郷	山口郷	大和村大字山口	山口村・田中・小野・丹尾・山田・養安寺・小西・福俵・押堀
97		山邊郡	高文郷	高文郷	高父郷	高文郷	高文郷	山辺村大字金谷字高文	金谷村高文(高海寺) 金谷・長谷・小沼・名村・眞行・餅木・土氣・高津戸・大和田・大木戸・越智
98		山邊郡	草野郷	草野郷	草野郷	草野郷	草野郷	瑞穂村大字萱野	茅野村・茅野・砂田・神房・小田・大椎・小食土・南玉・池田・小中村
99		山邊郡	武射郷	武射郷	武射郷	武射郷	武射郷	豊成村大字武射田	武射田村・上武射田・下武射田・求名・白幡・作田・松谷・井内・本須賀・五木田
100		武射郡	巨備郷	巨備郷	巨備郷	巨備郷	巨備郷	折戸村折戸大神宮(巨備神社)	折戸村大宮(古称巨備神社) 折戸・借毛本郷・木戸・平野・下野・廣根・高富・上横地・下横地・草深・小松
101		武射郡	加毛郷	加毛郷	加毛郷	加毛郷	加毛郷	千代田村	加毛郷 西加茂・東加茂・住母家・稲葉・白升・坂志岡・菱田・岩山・朝倉・飯櫃
102		武射郡	理倉郷	理倉郷	理倉郷	理倉郷	理倉郷	(浅倉郷) 未詳	曾根合村・於幾・坂田・寺方・取立
103		武射郡	狎隈郷	狎隈郷	狎隈郷	狎隈郷	狎隈郷	(押熊郷) 大総村(牛熊村)	牛熊村・牛熊・木戸臺・小堤・谷臺・殿部田・高谷・宮崎
104		武射郡	長倉郷	長倉郷	長倉郷	長倉郷	長倉郷	大総村(長倉村)	長倉村・長倉・姥山・遠山・中臺・柴山・山中
105		武射郡	畔代郷	畔代郷	畔代郷	畔代郷	畔代郷	未詳	未詳 成東・富田・新泉・津邊・市場・親田・川崎・和田・矢部・湯坂・島・殿臺
106		武射郡	片野郷	片野郷	行野郷	片野郷	片野郷	松尾村八田・猿尾	(山邊莊片野郷) 猿尾・八田・大堤・蕪木・松尾・田越・五反田・祝田・高富・水深
107		武射郡	大蔵郷	大蔵郷	大蔵郷	大蔵郷	大蔵郷	豊岡村大蔵	上大蔵村・下大蔵村・芝原・早船・寺崎・眞行寺・島戸・野堀・麻生・小川・戸田
108		武射郡	新居郷	新居郷	新居郷(夷濃郡に表記)	新居郷	新居郷	二川村大字新井田	新井田村・新井田・小池・高田・大臺・山田・牧野
109		武射郡	新屋郷	新屋郷	新屋郷	新屋郷	新屋郷(夷濃郡と重複)	(新泉郷) 成東町	未詳・重複
110		武射郡	埴屋郷	埴屋郷	埴屋郷	埴屋郷	埴屋郷(夷濃郡と重複)	睦岡村・日向村	埴谷村・埴谷・横田・沖渡・實門・小原・諸木・中臺・寺臺・大木・木原・板中
111		武射郡	(高舎郷)						
112		天羽郡	三宅郷	三宅郷	三宅郷	三宅郷	三宅郷	環村	小倉村・中倉・御代原・小畑・宇藤木・松節・神徳・大和田・大川崎・高溝・宇藤原・田倉

1959「群郷分治」『房総通史』改訂房総叢書刊行会	『千葉県の地名』日本歴史地名大系第12巻 1996		
長生郡西南を今なお殖生という	一宮町域？		
未詳	未詳		
東村小生田、上小野田か	長南町小野田		
疋南町大字坂本付近か	長南町坂本		
未詳	長南町竹林・市野々？		
土睦村河須ヶ谷付近か	長南町小野田・小生田？		
水上村刑部付近か	近世刑部村（長柄町）		
土睦村大字寺崎は勝見という	未詳		
疋南町大字蔵持か	近世蔵持村（長南町）		
八積村金田か	未詳 中世長柄郡金田郷		
本納町大字萱場か	（栢原郷）茂原市萱場		
茂原町大字長谷付近か	未詳		
豊海村栗生	近世栗生村（九十九里町）		
東金町（もと岡山村）	近世東金村付近岡山村		
公平村松之郷菅谷	未詳		
大和村大字山口付近	近世山口村（東金市）		
山辺村大字金谷字高海（寺）	大網白里町金谷郷高海？		
瑞穂村大字萱野か	近世萱野村（大網白里町）		
豊成村大字上武射田・下武射田	近世上・下武射田村（東金市）		
大平村大字折戸（大宮神社）	未詳		
千代田村大里（東加茂・西加茂）	近世賀茂村（芝山町）		
未詳（千代田村大字朝倉か）	未詳		
大総村大字牛熊か	未詳		
大総村大字長倉	近世長倉村（横芝町）		
未詳	未詳		
松尾町付近（もと片野郷）	未詳		
豊岡村大字上大蔵・下大蔵	近世上大蔵村・下大蔵村（松尾町）		
二川村大字新井田	近世新井田村（芝山町）		
未詳	未詳 誤記？		
睦岡村大字埴谷	山武町埴谷		
豊岡村小倉、中小倉か	富津市小倉？	旧環村・湊川上流域	『富津市史』通史 1982

番号	国名	郡名	郷名	〔和名類聚抄〕活字本(元和3年)	〔和名類聚抄〕名博本(永禄9年)	〔和名類聚抄〕東急本(室町中期)	〔和名類聚抄〕高山寺本(平安末)	吉田東伍 1972 「増補大日本地名辞書」第6巻 板東 富山房	邸岡良弼 1960 「安房・上総・下総」『日本地理志料』改訂房総叢書刊行会
113		天羽郡	讃岐郷	讃岐郷		讃岐郷		佐貫町	佐貫町、佐貫、亀田、八幡、鶴岡、花香谷、寶龍寺、亀澤、谷田沼、小久保、岩瀬、絹、大和田
114		天羽郡	長津郷	長津郷		長津郷		湊町	(長濱村)、湊、数馬、笹毛、岩坂、望井、木村、臺原、加藤
115		天羽郡	雨宮郷	雨宮郷		雨宮郷		壳津 金谷村、竹岡村、天神山村	寶津村、寶津、相川、横山、不入斗、花輪、海良、長崎、百首、萩生、金谷
116		天羽郡	(宇部郷)						
117		夷漣郡	雨宮郷	雨宮郷		雨宮郷		未詳 夷隅川下流域	—
118		夷漣郡	蘆道郷	蘆道郷		蘆道郷		中魚落村、御宿村、東海村	伊保田村、伊保田、小澤又、栗又、面白、筒森、大田代、小田代、葛藤、板谷、市川、中野、紙敷、小苗、湯倉、松尾、小内、彌喜用、莊司、掘切、三條、田代、弓木
119		夷漣郡	荒田郷	荒田郷		荒田郷		大多喜町、国吉町	新田野村、新田野、高谷、佐室、新田、深堀、大原、小濱、若山、日在、三門、東小高、下原、細尾、萬木、嘉谷
120		夷漣郡	長狭郷	長狭郷		長狭郷		東村大字長志	長志村、長志、澤部、山田、国府臺、釈迦谷、上布施、下布施、魚落、雜式、貝須賀、小澤、岩船、小瀧、高山田、久保、岩和田
121		夷漣郡	白羽郷	白羽郷		白羽郷		未詳 西畑、松野周辺?	白木村、白井久保村、川畑、佐野、杉戸、市野郷、市野川、平澤、宇筒原、三叉、黒原、押原、笹倉、百鈴、久我原、大戸、部田
122		夷漣郡	余戸郷	余戸郷		余戸郷		未詳	未詳(新戸村)、宿戸、白木、白井久保、芳野、蟹田、大桶、松野、小松野、小羽戸、貝掛、法花、荒川
123	下総国	葛飾郡	度毛郷	度毛郷	度毛郷	度毛郷	度毛郷	未詳 戸崎、八木郷?	關宿、高野、新田戸、中戸、桐作、古布内、親井、次木、寶珠花、木間瀬、岡田、金野井、中里、船形、尾崎、五木、吉春、柳澤、中根、野田、花輪、山崎、清水
124		葛飾郡	八島郷	八島郷	八島郷	八島郷	八島郷	(大島郷) 大島村	(大島)・上大島村、高野、下高野、下野、茨島、吉野、天神島、幸手、国府間、権現堂、高須賀、平須賀、松石、吉羽、木立、上戸、安戸
125		葛飾郡	新居郷	新居郷	新居郷	新居郷	新居郷	新居郷	新井村、新井、栗橋、間鎌、廣島、中里、島川、河原代、高柳、佐間、松長、伊坂、下新井
126		葛飾郡	桑原郷	桑原郷	桑原郷	桑原郷	桑原郷	未詳 八木郷?	堤根(桑崎、桑塚)、本郷、堤根、杉戸、清地、倉松、蓮沼、大塚、小湖、八丁目、樋籠、牛島、上柳、下柳、金崎
127		葛飾郡	栗原郷	栗原郷	栗原郷	栗原郷	栗原郷	葛飾村大字小栗原、本郷	本郷村、小栗原村、本郷、二子、中山、小栗原、鬼越、高石神、北方、上山、吉作、若宮、寺内、原木、田尻、稲荷木、行徳、關方島
128		葛飾郡	豊島郷	豊島郷	豊島郷	豊島郷	豊島郷		武蔵国葛飾郡田島村、松伏、大川戸、赤沼、金杉、赤岩、内川、八子、廣島、鍋小路、川藤、中井、吉川、平沼
129		葛飾郡	余戸郷	余戸郷	余部郷	余戸郷			新宿、金町、柴又、小合、猿俣、鎌倉、長沼、戸崎、酒井、境木、谷中、花和田、彦江、彦澤
130		葛飾郡	駅家郷	駅家郷	駅家郷	駅家郷		(馬津郷) 松戸	松戸、小山、岩瀬、和名谷、花島、上木郷、竹鼻、古崎、馬橋、栗澤、小金、平賀、酒井根、大谷口、主水
131		葛飾郡	(大島郷)						
132		千葉郡	千葉郷	千葉郷	千葉郷	千葉郷	千葉郷	千葉寺、生実、浜野	千葉町、千葉寺、仁戸名、川戸、和佐、川井、富岡、大森、小花輪、遍田、平山、野呂
133		千葉郡	山家郷	山家郷	山家郷	山家郷	山家郷	未詳 二宮村、大和田村?	三山、田木井、大久保、瀧臺、薬園臺、飯山間、前原、藤崎、谷津、久久田、霧沼
134		千葉郡	池田郷	池田郷	池田郷	池田郷	池田郷	千葉町	池田町、千葉、寒川、登戸、矢作、五反保、今井、曾我野、生實、濱野
135		千葉郡	三枝郷	三枝郷	三枝郷	三枝郷	三枝郷	都賀村大字作草部	作草部村、作草部、高品、貝塚、邊田、殿臺、萩臺、寺山、川邊、黒砂、稲毛、齒生、小中臺
136		千葉郡	糟荻郷	糟荻郷	糟荻郷	糟荻郷	糟荻郷	都村大字加曾利	加曾利村、星久喜、長峰、坂尾、坂月、大草、小倉、金親、上泉、下泉、北谷津、多部田
137		千葉郡	山梨郷	山梨郷	山梨郷	山梨郷	山梨郷	旭村大字山梨	山梨村、山梨、中野、中臺、成山、馬渡、坂戸、吉岡、波佐間、和田、小名木、鹿渡、和良比
138		千葉郡	物部郷	物部郷	物部郷	物部郷	物部郷	千代田村大字物井	物井村、物井、篠塚、長岡、内黒田、野田
139		印旛郡	八代郷	八代郷	八代郷	八代郷	八代郷	公津村大字八代	八代村、公津、船形、北須賀、臺方、下方、江弁須、大袋、飯田、飯仲、伊篠、岩橋、柏木
140		印旛郡	印幡郷	印幡郷	印幡郷	印幡郷	印幡郷	未詳 酒々井町?	佐倉、本佐倉、大佐倉、酒酒井、下臺、中川、飯田、萩山、土浮、飯野、岩名、山崎
141		印旛郡	言美郷	言美郷	言美郷	言美郷	言美郷	(登美郷) 本郷村、木下町	(登美)、平岡村鳥見明神、小林、木下風、竹袋、大森、別所、宗甫、瀧、物木、砂田、笠神、行徳、萩原、中田切、松木
142		印旛郡	三宅郷	三宅郷	三宅郷	三宅郷	三宅郷	未詳 小倉村?	小倉村、小倉、浦部、白幡、和泉、平塚、清戸、谷田、神神廻、長殿
143		印旛郡	長隈郷	長隈郷	長隈郷	長隈郷	長隈郷	和田村大字長熊	長熊村、上代、八木、城、寒風、馬橋、墨、飯積、新橋、中澤、雁丸、榎戸
144		印旛郡	鳴矢郷	鳴矢郷	鳴矢郷	鳴矢郷	鳴矢郷	(カブラギ) 佐倉町鍋木	高岡、六崎、石川、寺崎、高崎、龜崎、大田

1959「群郷分治」『房総通史』改訂房総書刊行会	『千葉県の地名』日本歴史地名大系第12巻 1996		
佐貫町付近	富津市佐貫	旧佐貫町地区	『富津市史』通史 1982
湊町付近	富津市湊？	旧湊町	『富津市史』通史 1982
天神山村壳津付近か	富津市壳津？	旧天神山村地域 金谷地区	『富津市史』通史 1982 『富津市史』通史 1982
未詳	天羽郡に同名郷あり		
大原町中魚落村、又は西畑村伊保田か	大原町中魚落？、大多喜町伊保田？		
東村大字新田野	大原町新田野？、大多喜町域？		
東村大字長志	大原町・御宿町布施地区		
未詳	未詳		
総野村大字新戸（古く新戸郷）			
関宿町、又は明村大字上本郷	野田市？		
東京市葛飾区柴又・小岩	（大島郷）江戸川区・葛飾区		
武蔵国北葛飾郡旧新井村・埼玉郡新井下新井	東京都域？		
武蔵幸手領旧提根村桑崎・桑塚	流山市・松戸市？		
東葛飾郡葛飾村大字本郷小栗原	近世小栗原村・二子村（船橋市）		
武蔵国松伏領田島村	未詳		
未詳 武蔵国二合半領田金町新宿付近	未詳		
東葛飾郡松戸町大字松戸駅	市川市市川周辺？		
千葉市付近	中央区蘇我町・大森町・浜野町		
未詳	千葉市西北部・習志野市		
千葉市亥鼻台池田坂	中央区星久喜町・仁戸名町		
都賀村大字作草部	近世作草部村（千葉市稲毛区）		
千葉市加曾利町	近世加曾利村（千葉市若葉区）		
印旛郡旭村大字山梨付近	近世山梨村（四街道市）		
印旛郡千代田村物井付近か	近世物井村（四街道市）		
公津村大字船形	成田市八代		
未詳 佐倉町酒々井付近か	酒々井町本佐倉？		
木下町平岡の鳥見付近か	未詳		
永治村大字小倉・浦辺付近か	印西市小倉？		
和田村大字長熊か	佐倉市長熊		
未詳	未詳		

番号	国名	郡名	郷名	〔和名類聚抄〕活字本(元和3年)	〔和名類聚抄〕名簿本(永禄9年)	〔和名類聚抄〕東急本(室町中期)	〔和名類聚抄〕高山寺本(平安末)	吉田東伍 1972 『増補大日本地名辞書』第6巻 板東 富山房	福岡良弼 1960 『安房・上総・下総』〔日本地理志料〕改訂房総叢書刊行会
145		印幡郡	吉高郷	吉高郷	吉高郷	吉高郷	吉高郷	六合村大字吉高	吉高村、平賀、山田、瀬戸、松森、荒野、龍腹寺、角田、鎌刈、大廻
146		印幡郡	船穂郷	船穂郷	船穂郷	船穂郷	船穂郷	船穂村、宗像村	船尾村、多多羅田、戸神、武西、安養寺、松崎、結縁寺、造谷、吉田、岩戸、師戸
147		印幡郡	日理郷	日理郷	日理郷	日理郷	日理郷	白井町	白井驛津渡、白井、白井田町、白井臺町、上座、小竹、青菅、江原、角來
148		印幡郡	村神郷	村神郷	村神郷	村神郷	村神郷	阿蘇村大字村上	村上村、村上、米本、上高野、下高野、神野、保品、先崎
149		印幡郡	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷	和田村大字天辺	天邊村、天邊、直彌、宮本、神門、岩宮、根古谷、岡田、用草、稲葉、西御門、大谷流、小谷流
150		逆巻郡	野田郷	野田郷	野田郷	野田郷	野田郷	野手	野手村、野手、今泉、長谷、川邊、新掘
151		逆巻郡	長尾郷	長尾郷	長尾郷	長尾郷	長尾郷	(長居郷) 未詳	生尾村、老尾神社、生尾、宮本、山松、松山、中臺、富岡、田久保
152		逆巻郡	辛川郷	辛川郷	辛川郷	辛川郷	辛川郷	未詳 海上郡神宮寺 浦辺?	足川村、椎名内、中谷里、及川、東足洗、西足洗、網戸、野中、三川
153		逆巻郡	千俣郷	千俣郷	千俣郷	千俣郷	千俣郷	未詳	千又川、飯高、内山、飯塚、小高、安久山、金原、大掘、片子
154		逆巻郡	山上郷	山上郷	山上郷	山上郷	山上郷	(川上郷) 未詳	八邊村、八邊、南山崎、入山崎、吉田、長岡、大浦、木積、久方
155		逆巻郡	幡間郷	幡間郷	幡間郷	幡間郷	幡間郷	未詳	尾垂總領村濱、木戸、柏田、掘川、原方、上原、目篠
156		逆巻郡	石室郷	石室郷	石室郷	石室郷	石室郷	豊栄村、南条村	小川臺村岩室山新善光寺、小川臺、傍尻戸、小田部、貝塚、母子、富下、蟲生、芝崎、賣米、二又、市原、新井、篠本
157		逆巻郡	逆巻郷	逆巻郷	逆巻郷	逆巻郷	逆巻郷	匝瑳村福岡町	東小篠、西小篠、椿、龍部田、谷中、東小篠、西小篠、平木、吉崎、神宮寺、大塚原、東谷、川口
158		逆巻郡	逆加郷	逆加郷	須加郷	須加郷	須加郷	須賀村	横須賀村、横須賀、八日市場、富谷、米倉、飯倉、時曾根、笹曾根、高野、高、蕪里
159		逆巻郡	大田郷	大田郷	大田郷	大田郷	大田郷	旭町大字大田	大田村、大田、井戸野、泉川、川向、駒込、萩野、成田、十日市場、仁玉、江崎
160		逆巻郡	日部郷	日部郷	日部郷	日部郷	日部郷	山倉村(南志高草壁)	長部村、志高村草壁、長部、古内、志高、諸徳寺、溝原、神田、和田、櫻井
161		逆巻郡	玉作郷	玉作郷	玉作郷	玉作郷	玉作郷	常磐村大字玉造	玉造村、玉作、方田、川島、松崎、山倉、大角、坂、柏熊
162		逆巻郡	田部郷	田部郷	田部郷	田部郷	田部郷	栗源村大字田部	田部村、田部、三倉、小三倉、谷三倉、刈毛、岩部、荒北、助澤、澤、伊地山、高萩
163		逆巻郡	珠浦郷	珠浦郷	珠浦郷	珠浦郷	珠浦郷	未詳	鑄山光明寺、鑄木村、鑄木、大寺、小川、新里、鳩山、桐谷、松澤、堀内
164		逆巻郡	原郷	原郷	原郷	原郷	原郷	(金原郷) 飯高村金原?	(幡羅)、寺作、御所臺、井戸山、多古、染井、高津原、大門、檜木、出沼、次浦、古内
165		逆巻郡	栗原郷	栗原郷	栗原郷	栗原郷	栗原郷	久賀村?	栗山村、栗山、横芝、古川、兩國、宮川
166		逆巻郡	茨城郷	茨城郷	茨城郷	茨城郷	茨城郷	東条村、多古村	小原子村、飯篠、間倉、井野、大原、東臺、東佐野、中佐野、五反田、小原子
167		逆巻郡	中村郷	中村郷	中村郷	中村郷	中村郷	中村	南中村、北中村、和田、借當、並木、北場、久保、谷、宮、本郷、宿、横宿、芝、西谷、東谷、郷部、唐竹林、鴻巣、野新田、大廻
168		相馬郡	大井郷	大井郷	大井郷	大井郷	大井郷	未詳	大井村、大島田、塚崎、藤心、増尾、高柳、戸張、箕輪、岩井、鷲谷、五條谷、金山、染井、泉、片山、手賀
169		相馬郡	相馬郷	相馬郷	相馬郷	相馬郷	相馬郷	木野崎、野田	大鹿、取手、臺宿、井野、青柳、吉田、小泉、澁沼、小文間、飯沼
170		相馬郡	布佐郷	布佐郷	布佐郷	布佐郷	布佐郷	布佐町、湖北村	布佐村布佐臺、布佐、大作、新木、布川、福本、立崎、中田切、立木、横須賀、曾根、大平、奥山、大房、早尾、羽黒
171		相馬郡	古溝郷	古溝郷	古溝郷	古溝郷	古溝郷	未詳 手賀村	(布西村) 布施村、久寺家、我孫子、柴崎、青山、高野山、下戸、岡發戸、都部、中峠、中里、古戸、日秀
172		相馬郡	意部郷	意部郷	意部郷	意部郷	意部郷	我孫子、富勢	(配松村、戸頭村)、高野、乙子、戸頭、米野井、野々井、市代、高井、岡、和田、山王、配松、桑原、寺田、稲村
173		相馬郡	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷	未詳	未詳、守谷、野木崎、大柏、立澤、大木、大山、内守谷、板戸井、萱生、筒戸、新宿、平沼、御出子
174		相馬郡	(邑保郷)						
175		猿島郡	塔陀郷	塔陀郷	塔陀郷	塔陀郷	塔陀郷	七重村大字富田	
176		猿島郡	八俣郷	八俣郷	八俣郷	八俣郷	八俣郷	八俣村、逆井山村、幸島村	
177		猿島郡	高根郷	高根郷	高根郷	高根郷	高根郷	?	
178		猿島郡	石井郷	石井郷	石井郷	石井郷	石井郷	岩井村	
179		猿島郡	葦津郷	葦津郷	葦津郷	葦津郷	葦津郷	境町、長田村、猿島村	

1959「群郷分治」「房総通史」改訂房総叢書刊行会	「千葉県地名」日本歴史地名大系第12巻 1996		
六合村大字吉高	印旛村吉高		
船穂村大字船穂	印西市船尾		
未詳	佐倉市白井？		
阿蘇村大字村上	八千代市村上		
和田村大字天辺	未詳		
野田村大字野手	野栄町野出？		
共興村大字長谷（ナカイ）	未詳		
海上郡矢指村大字足川	旭市足川？		
迎境村大字大浦字千俣	八日市場市飯塚		
吉田村大字八辺付近	八日市場市八辺？		
白浜村付近	未詳		
南条村大字小川台付近	光町小川台		
迎境村付近	未詳		
須賀村付近	八日市場市横須賀？		
海上郡旭村大字太田	旭市太田		
香取郡府馬村志高付近	未詳		
香取郡常盤村大字玉造付近	多古町南玉造		
香取郡栗源村大字西田部	栗源町西田部		
香取郡古城村鑄木（株の誤記）	未詳		
香取郡久賀村付近	多古町多古・染井		
香取郡吉田村吉田	八日市場市吉田		
香取郡多古町大字喜多等、大原郷	多古町大原・芝山町小原子？		
香取郡中村	多古町南中村・北中村		
風早村大字大井	沼南町大井？		
北相馬郡	未詳		
東葛飾郡布佐町大字布佐付近	我孫子市布佐・利根町布川		
東葛飾郡手賀村大字布瀬小字小溝	沼南町布瀬（小溝）		
北相馬郡	我孫子市中心部から柏市にかけて？		
未詳	未詳		

番号	国名	郡名	郷名	〔和名類聚抄〕活字本(元和3年)	〔和名類聚抄〕名博士本(永禄9年)	〔和名類聚抄〕東急本(室町中期)	〔和名類聚抄〕高山寺本(平安末)	吉田東伍 1972 『増補大日本地名辞書』第6巻 板東 富山房	榎岡良弼 1960 『安房・上総・下総』 『日本地理志料』改訂房総叢書刊行会
180		猿島郡	色益郷	色益郷	色益郷	色益郷	色益郷	未詳 釈迦沼付近(郡山)	
181		猿島郡	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷	未詳	
182		結城郡	茂治郷	茂治郷	茂治郷	茂治郷	茂治郷	(茂侶郷) 茂呂村	
183		結城郡	高橋郷	高橋郷	高橋郷	高橋郷	高橋郷	細村大字高橋	
184		結城郡	結城郷	結城郷	結城郷	結城郷	結城郷	上山川村・山川村	
185		結城郡	小埴郷	小埴郷	小埴郷	小埴郷	小埴郷	細川村	
186		結城郡	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷	未詳 下結城村・名崎村?	
187		結城郡	(小塩郷)					中結城村	
188		豊田郡	岡田郷	岡田郷	岡田郷	岡田郷	岡田郷	岡田村・豊田村	
189		豊田郡	飯猪郷	飯猪郷	飯猪郷	飯猪郷	飯猪郷	飯沼村・菅原村・豊岡村	
190		豊田郡	手向郷	手向郷	手向郷	手向郷	手向郷	総上村・豊加美村	
191		豊田郡	大方郷	大方郷	大方郷	大方郷	大方郷	西豊田村・安藤村	
192		海上郡	大倉郷	大倉郷	大倉郷	大倉郷	大倉郷	大倉村・豊浦村	大倉村、大倉・多田・吉原・丁子・一分目・三分目
193		海上郡	城上郷	城上郷	城上郷	城上郷	城上郷	神里村大字木内	木内村、本郷・八島・山川・上小掘・桑畑・新福寺・増田・
194		海上郡	(城内郷)						
195		海上郡	麻統郷	麻統郷	麻統郷	麻統郷	麻統郷	小見川町・八都村	小見村、小見・小見川・川上・高野・北原地・羽根川・下小川・八日市場・分郷・富田
196		海上郡	布方郷	布方郷	布方郷	布方郷	布方郷	府馬村	府馬村、府馬・田部・長岡・竹内・米野井・八本・神生・仁良
197		海上郡	軽部郷	軽部郷	軽部郷	軽部郷	軽部郷	未詳	鹿戸村、鹿戸・羽計・新宿・谷津・須賀山
198		海上郡	神代郷	神代郷	神代郷	神代郷	神代郷	神代村	大久保・溝原・關戸・舟戸・萬歳・櫻井・和田・神田
199		海上郡	編玉郷	編玉郷	編玉郷	編玉郷	編玉郷	森山村大字阿玉川	阿玉村、阿玉・阿玉臺・貝塚・久保・和泉・五郷内・布野・川頭
200		海上郡	小野郷	小野郷	小野郷	小野郷	小野郷	須賀山村	岡野臺村、岡野臺・中島・正明寺・三門・余山・蘆崎
201		海上郡	石田郷	石田郷	石田郷	石田郷	石田郷	橋村大字石出	石出村、今泉・宮原・諸持・下櫻井・東篠本・下森戸・富川
202		海上郡	石井郷	石井郷	石井郷	石井郷	石井郷	滝郷村大字大井	岩井村、岩井・松谷・清瀧・幾世・見廣・大間手・猿田・倉橋・蛇園
203		海上郡	須賀郷	須賀郷	須賀郷	須賀郷	須賀郷	未詳	未詳、小南・粟野・小座・八重徳・夏目
204		海上郡	橋川郷	橋川郷	橋川郷	橋川郷	橋川郷	(椅川郷) 足川村	田部西雲寺(橋寺)、岡飯田・平山・窪谷・小貝野
205		海上郡	横根郷	横根郷	横根郷	横根郷	横根郷	飯岡町大字横根	横根村、横根・岩崎・菜園・平松・行内・飯岡・上永井・下水井・小濱・親田・常世田・八木・堀
206		海上郡	三前郷	三前郷	三前郷	三前郷	三前郷	豊浦村大字三崎	三崎村、三崎・本城・松本・今宮・荒野・新生・飯沼・高神・小川戸・邊田
207		海上郡	三宅郷	三宅郷	三宅郷	三宅郷	三宅郷	海上村大字三宅	三宅村、三宅・柴崎・高野・松岸・長塚・垣根・四日市場・
208		海上郡	船木郷	船木郷	船木郷	船木郷	船木郷	船木村・椎柴村	舟木臺村、小船木村、高田・野尻・塚本・忍
209		香取郡	大槻郷	大槻郷	大槻郷	大槻郷	大槻郷	香取村返田・小野・油田	小野村・織幡村、返田・油田・白井・瀧谷・内野
210		香取郡	香取郷	香取郷	香取郷	香取郷	香取郷	香取町・津宮村	香取神社・香取村、香取・新部・新市場・釜塚・牧野・佐原・篠原・津宮
211		香取郡	小川郷	小川郷	小川郷	小川郷	小川郷	大戸村大字小川	上小川村、大戸・大戸川・森戸・新寺・岩崎・玉作・山野邊・片野・關・鶴崎・谷中
212		香取郡	健田郷	健田郷	健田郷	健田郷	健田郷	米沢村大字武田	武田村、武田・立野・大貫・郡・掘ノ内・高谷・西部田・西坂・寺内・西和田・毛成・原宿・古山
213		香取郡	磯々郷	磯々郷	磯郷	磯々郷	磯郷	(磯部郷) 長沼の流江	殖生郡磯部村、水掛・高倉・幡谷・土屋・大室・成井・成毛
214		香取郡	訳草郷	訳草郷	訳草郷	訳草郷	訳草郷	(真敷郷) 未詳	(驛家・荒海驛)、飯岡・大生・蘆田・東和泉・西和泉・小泉
215		香取郡	(山幡郷)						
216		殖生郡	玉作郷	玉作郷	玉作郷	玉作郷	玉作郷	八生村	松崎村二宮明神、上福田・下福田・大竹・寶田
217		殖生郡	山方郷	山方郷	山方郷	山方郷	山方郷	成田町・遠山村	(遠山形御所『神風抄』)、金山・久米・畑田・東和田・川栗・馬場・大山・山作・小菅・吉倉・駒井野・取香
218		殖生郡	麻在郷	麻在郷	麻在郷	麻在郷	麻在郷	(麻生郷) 安食町麻生	麻生村、須賀・興津・安食・佐野・北邊田・矢口・龍角寺・酒直
219		殖生郡	酢取郷	酢取郷	酢取郷	酢取郷	酢取郷	(羽鳥郷) 豊住村羽鳥	南羽鳥村・北羽鳥村、長沼・龍臺・田川・安西

1959「群郷分治」『房総通史』改訂房総書書刊行会	『千葉県の地名』日本歴史地名大系第12巻 1996		
香取郡大倉村	佐原市大倉		
香取郡神里村木ノ内	小見川町木内 小見川町木内		
香取郡八都村米野井	山田町小見・小見川町小見川		
香取郡府馬村	山田町府馬		
香取郡府馬村黒部か	東庄町鹿戸		
香取郡神代村（旧上代）	東庄町大久保・船戸、干潟町桜井		
香取郡良文村及び森山村	小見川町阿玉台		
香取郡東条村小南小栗野か	未詳		
香取郡橋村大字石出	東庄町石出？		
滝里村大字岩井	海上町岩井 未詳		
香取郡橋村付近	未詳		
飯岡町大字横根付近	飯岡町横根		
豊浦村大字三崎付近	鏡子市三崎町		
海上村大字三宅付近か	鏡子市三宅町？		
船木村大字船木・推柴村大字小船木	鏡子市船木台・小船木		
香取町及び神里村付近	佐原市小野・多田・小見川町織幡		
香取町付近	佐原市香取		
東大戸村小字上小川付近か	佐原市上小川		
米沢村大字武田付近	神崎町武田		
久住村大字磯部	成田市磯部		
未詳	未詳 小見川町織幡・旗鉾		
未詳	成田市松崎・福田		
印旛郡遠山村付近	成田市東和田・畑ヶ田		
印旛郡安食町大字麻生	栄町麻生・酒直・安食		
印旛郡豊住村南羽島・北羽島	成田市羽島		

第2表 地名関連文字資料一覧表

	旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
2	安房国			安房国	木簡		平城京二条大路東西大溝（北）	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』29-32下(370)	
3		平群郡		□(群カ)郡	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構（南）	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』32-23下(401)	(大和国平群郡)
4		平群郡	砥河郷						
5		平群郡	余戸郷						
6		平群郡	達良郷						
7		平群郡	石井郷	安房国平群郡□井郷腹腊□籠□納四斤	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構（南）	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-27上(383)	
8		平群郡	石井郷	石井前分贄阿治	木簡		藤原京右京五条四坊	木簡学会『木簡研究』15	(摂津国武庫郡)石井郷カ・(山城国紀伊郡・河内国讃良郡・安房国平群郡・下総国猿島郡・下総国海上郡・上野国碓氷郡・因幡国巨濃郡・伊与国周敷郡・伊与国)
9		平群郡	狭隈郷	上総国平群郡狭隈郷□丁若麻績マ麻呂養銭六百文	木簡		平城宮	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』19-21下(189)	
10		平群郡	狭隈郷	狭隈郷前□	木簡		宮町遺跡	信楽町教育委員会『宮町遺跡出土木簡概報1』1・木簡学会『木簡研究』1	
11		平群郡	長門郷					2006.3.27 21:53	
12		平群郡	大里郷	平群郡大里郷戸主丸子部三國戸服織部(屋カ・尼カ)万呂	布墨書			『正倉院調庸綾布墨書銘文』	
13		平群郡	大里郷	大里	墨書土器		坊作遺跡	宮本敬一「上総国分寺の成立一尼寺の造営過程を中心に」『東海道の国分寺一その成立と変遷一』栃木県教育委員会	市原市惣社
14		平群郡	穂田郷						
15		平群郡	川上郷	川上郷赤米	木簡		平城宮	奈文研『平城宮木簡』2	(近江国高島郡・飛騨国益田郡・越中国礪波郡・丹後国熊野郡・肥前国基肄郡・肥前国小城郡・大隅国肝属郡・薩摩国河辺郡)川上郷
16		平群郡	川上郷	川上郷米〔	木簡		長岡京	向日市教委・(助)向日市埋文センター『長岡京木簡』2-909	(近江国高島郡川上郷・飛騨国益田郡川上郷(飛騨国大野郡川上郷)・越中国礪波郡川上郷・丹後国熊野郡川上郷・肥前国基肄郡川上郷・肥前国小城郡川上郷・大隅国肝属郡川上郷・薩摩国河辺郡川上郷)
17		平群郡	駅家郷						
18		平群郡	白浜郷	平群郡□□(白濱カ)郷清□(岑)里大弓マ徳細布沓端長四丈二丈天平九年〔	布墨書	737		『正倉院調庸綾布墨書銘文』	
19	安房郡			上総国阿幡郡鯁□(調カ)耳放二編三列〔	木簡		平城宮	奈文研『平城宮木簡』2	
20	安房郡			上総国□□(阿幡カ)郡□	木簡	8C前	平城京左京三条二坊一・二・七・八坪長屋王邸	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』27-18下(248)	
21	安房郡			安房国安房郡□	木簡		平城宮式部省東方・東面大垣東一坊大路西側溝	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』34-15上(92)・木簡学会『木簡研究』2	
22	安房郡	太田郷		安房国安房郡太田郷大屋里戸主大伴部黒秦戸口日下部金麻呂輪鯁〔	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構（北）	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』24-26上(251)・城29	
23	安房郡	塩海郷		安房国安房郡塩海郷賀宝里／戸矢田部法万呂 輪鯁調陸斤／參拾參條／〕十月	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構（南）	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-30下(303)	
24	安房郡	塩海郷		安房国安房郡塩海郷賀宝里戸矢田部些万呂輪鯁調陸斤／伍拾條 〕天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構（南）	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31上(313)	

	旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
25		安房郡	塩海郷	安房国安房郡塩海郷□屋里戸主日下部小床輪調陸斤／伍拾伍條／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-32上(314)・同33	
26		安房郡	塩海郷	安房国安房郡塩海郷播羅里若田部宮□(足カ)／〔〕陸斤陸拾條／天平七年十月Ⅱ	木簡	735	平城京左京二条二坊二条大路濠状遺構(北)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』24-26上(250)	
27		安房郡	塩海郷	安房国安房郡塩海郷□□里戸主大伴部□□□大伴〔〕麻呂□	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-27上(384)	
28		安房郡	塩海郷	鹿屋里日下部小□支輪調陸斤肆拾壹条／天平七年十月Ⅱ	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-27下(385)・木簡学会『木簡研究』	
29		安房郡	塩海郷	□神屋里戸白髮部百足輪調陸斤／參拾壹条上／天平七年十月Ⅱ	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-27下(386)・木簡学会『木簡研究』	
30		安房郡	麻原郷						
31		安房郡	大井郷	安房国安房郡大井郷大嶋里矢作部□乎戸矢作〔〕調陸斤／〔〕／年十月Ⅱ	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-30上(299)	
32		安房郡	大井郷	安房国安房郡大井郷小野里戸主城部忍麻呂戸城部稲麻呂輪調六斤／六十條／天平七年十月Ⅱ	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31上(311)	
33		安房郡	大井郷	安房国安房郡大井郷小野里戸主矢作部真刀良輪調陸斤／伍拾貳條／天平七年十月Ⅱ	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31上(312)	
34		安房郡	河曲郷						
35		安房郡	(廣湍郷)	安房国安房郡廣湍郷沙田里神麻部□□	木簡		平城京左京二条二坊五坪	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』26-20下	
36		安房郡	(廣湍郷)	安房国安房郡廣湍郷沙田里戸丈部大床調陸六斤／伍拾条／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-30下(301)・木簡学会『木簡研究』	
37		安房郡	(廣湍郷)	安房国安房郡廣湍郷沙田里大田部□	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-27下(388)	
38		安房郡	(廣湍郷)	安房国安房郡廣湍郷川曲里大伴部宮麻呂調陸斤	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-30下(302)・木簡学会『木簡研究』	
39		安房郡	(廣湍郷)	安房国安房郡廣湍郷河曲里丈部牛麻呂輪調陸斤／陸拾條／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31上(308)・木簡学会『木簡研究』	
40		安房郡	(廣湍郷)	安房国安房郡廣湍郷川曲里戸丈部牛麻呂調陸斤／陸拾條／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31上(309)・木簡学会『木簡研究』	
41		安房郡	(廣湍郷)	安房国安房郡廣湍郷河曲里生田部大麻呂輪調陸六斤／伍拾壹／天平十一年十月Ⅱ	木簡	739	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31上(310)・木簡学会『木簡研究』	
42			(廣湍郷)	安房國群房東西庄」事,(中略)惣領事,割廣瀬郷充年」貢之分	中世文書	1280		「安房國守護遵行状」『三芳村史編纂資料』II 1981	
43			(廣湍郷)	宮領同國郡(群)房庄廣瀬」郷北方事,	中世文書	1390		「安房國守護遵行状」『三芳村史編纂資料』II 1981	
44		安房郡	白浜郷]安房郡白濱郷□(尾カ)屋里戸主□□□〔〕〕 (神) 亀四年閏九月	木簡	727	平城宮	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』19-21下	註(2)
45		安房郡	白浜郷	上総国安房郡白濱郷戸主日下部床万呂戸白髮部嶋輪調陸斤○／參拾条／天平十七年十月Ⅱ	木簡	745	平城宮	奈文研『平城宮木簡』1-337・木簡学会『木簡研究』21	
46		安房郡	白浜郷	安房国安房郡白□□	木簡		平城宮	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』19-21下	
47		安房郡	白浜郷	安房国安房郡白浜郷長□	木簡		平城京左京七条一坊十六坪	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-9上(37)	
48		安房郡	神戸郷						
49		安房郡	神余郷						
50		安房郡	(公余郷)	安房国安房郡公余郷賀茂里矢田部宮麻呂輪調六斤／肆拾肆條／天平八年十月	木簡	736	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-32上(316)	
51		安房郡	(公余郷)	安房国安房郡公余郷賀茂里戸主大伴部辛子戸大伴部廣足輪調陸斤／伍拾條／天平七年十月Ⅱ	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-32上(319)	
52		安房郡	(公余郷)	安房国安房郡公余郷長尾里／戸主大伴部忍麻呂／大伴部黒秦Ⅱ 調陸斤／陸拾貳條天平七年十月Ⅱ	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-32上(317)	

	旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
53		安房郡	(公余郷)	安房国安房郡公余郷長尾里戸主許世部兼調陸斤〔〕／天平七年十月Ⅱ	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-32上(318)	
54		安房郡	(公余郷)	安房国安房郡公余〔〕	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-27下(387)	
55		安房郡	(松樹郷)	己亥年十月上扶国阿波評松里〔〕	木簡	699	藤原宮	木簡学会『木簡研究』5-84頁・(51)(奈良)	
56		安房郡	(松樹郷)	安房国安房郡松樹郷小坂里戸大伴部高根輪調陸斤條伍拾伍條／天平七年十月Ⅱ	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31下(306)	
57		安房郡	(松樹郷)	安房国安房郡松樹郷御井里戸白髮部富□輪調陸□／〔〕／七年十月Ⅱ	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31下(307)	
58		安房郡	(松樹郷)	安房国安房郡松□	木簡		平城京二条大路東西大溝(北)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』29-32下(371)	
59		安房郡	(片岡郷)	安房国安房郡片岡郷長野里矢田部荒城輪調陸斤／伍拾□(似カ)條／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-30下(300)	
60		安房郡	(片岡郷)	安房国安房郡片岡郷長野里戸刑部廣国戸口丸子部麻々呂輪調陸斤／陸／拾條／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-32上(315)	
61		安房郡	(片岡郷)	安房国安房郡片岡郷瀧邊里戸卜部黒麻呂輪調陸斤／伍拾伍條／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』24-26上(248)・木簡学会『木簡研究』	
62		安房郡	(片岡郷)	・上総国阿波郡片岡里服織部小□戸服織部麻呂調老東・○上総国阿波郡	木簡		平城宮	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』12	
63		安房郡	(利鹿郷)	安房国安房郡利鹿郷岡名里私部金調陸斤／伍拾伍條／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31上(304)	
64		安房郡	(利鹿郷)	安房国安房郡利鹿郷□□里日下□調陸斤／伍拾條／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31上(305)	
65		安房郡	(□□郷)	安房国安房郡□□郷三富里矢田部□□□(輪カ)調陸六斤〔〕	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-32上(320)	
66		朝夷郡		安房国朝夷郡□	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-27下(389)	
67				上総朝〔〕輪調陸〔〕〔〕	木簡		宮町遺跡	信楽町教育委員会『宮町遺跡出土木簡概報1』1・木簡学会『木簡研究』1	
68				(天平勝寶七歳乙未二月相替遺筑紫諸國防人等歌)右一首朝夷郡上丁丸子連大歳(／二月九日上総國防人部領使少目從七位下次田連沙弥麻呂進歌數十九首但拙劣歌者不取載之)	歌謡	755		『万葉集』20/4353	
69				吾瀬子乎 莫越山能 喚子鳥 君喚變瀬 夜之不深刀尔	歌謡			『万葉集』10/1822	
70		朝夷郡	御原郷						
71		朝夷郡	新田郷						
72		朝夷郡	大瀨郷						
73		朝夷郡	満祿郷	(尾端)朝夷郡満祿郷戸主□部廣□(庭)調細布志端長四丈二尺 天平勝宝八歳十一月	布墨書	756		『正倉院調庸綾布墨書銘文』	
74		朝夷郡	健田郷	安房国朝夷郡健田郷仲村里戸私部眞鳥調陸六斤三列長四尺五寸東一束養老六年十月	木簡	722	平城宮	奈文研『平城宮木簡』2	
75		朝夷郡	健田郷	□(朝カ)夷郡健田郷中村里戸主□(額カ)	木簡		平城京左	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』30-32下(1049)	
76		朝夷郡	健田郷	「安房国朝夷郡健田郷」柏原里卜部神調陸六斤為壺籠五烈／長三尺／天平五年十月	木簡	733	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-32上(321)・木簡学会『木簡研究』	
77		朝夷郡	健田郷	上総朝夷郡健田郷戸主額田部小君戸口矢作部林調陸六斤／□□□(條カ)／天平十七年十月Ⅱ	木簡	745	平城宮	奈文研『平城宮木簡』1-338	

旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
78	朝夷郡	健田郷	朝夷郡健田郷戸主額田部小君戸口矢作部林調鯨六斤 ／卅四條／〇〇天平十七年十月	木簡	745	平城宮	奈文研『平城宮木簡』1-339	
79	朝夷郡	健田郷	矢作マ林	木簡	745	平城宮	奈文研『平城宮木簡』1	
80	朝夷郡	(朝夷郷)						『千葉県地名変遷総覧』では、「按ズルニ、朝夷郡家ノ在リシ所。」
81	朝夷郡	(大津郷)						
82	長狭郡		安房国長狭	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-27下(390)	
83			右一首長狭郡上丁丈部与呂麻呂(／二月九日上総 国防人部領使少目從七位下茨田連沙弥麻呂進歌數 十九首 但拙劣歌者不取載之)	歌謡	755		『万葉集』20/4354(天平勝實七歳乙未二月相替遺筑 紫諸国防人等歌)	
84	長狭郡	壬生郷						壬生部
85	長狭郡	日置郷	□日置日□(置カ)	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』33-255上	
86	長狭郡	置津郷	安房国長狭郡置津郷戸主丈部黒秦戸口丈部第輪凡鯨 陸斤〇專當／国司目正八位下箭口朝臣大足／郡司少 領外正八位上丈部□(臣カ)□數 天平□□	木簡		平城宮	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』19-21上 (184)・木簡学会『木簡研究』	
87	長狭郡	田原郷						
88	長狭郡	酒井郷	上総国長狭郡酒井郷戸主丈部床足・丈部黒狗戸主生 部□、生部子五百等輪調細布老端長四丈二尺天平勝 宝八歳十月	正倉院文書	756		『正倉院文書』智識優婆塞等貢進文	
89	長狭郡	伴部郷						日本紀略 弘仁14年4月28日条「淳 和天皇の諱名を避けて大伴宿禰を伴 の宿禰に改める」
90	長狭郡	(大伴郷)	白髪部千嶋 年十七「了」上総国長狭郡大伴郷戸主白 髪部千足戸口 師主薬師寺僧行圓(天平十七年九月廿 一日)	正倉院文書	745		『正倉院文書』智識優婆塞等貢進文	
91	長狭郡	賀茂郷	賀茂郷赤米五[木簡		平城宮	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』19-26上	(山城国・参河国・伊豆国・安房 国・越前国・佐渡国・丹波国・伯耆 国・出雲国・隠岐国・美作国・備前 国・安芸国・紀伊国・淡路国・阿波 国・伊予国) 賀茂郷
92	長狭郡	丈部郷						
93	長狭郡	(川合郷)	安房国長狭郡川合郷津城里葛[木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-33上(322)	
94	上総国		□(上カ)総国	木簡		平城宮	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』14-11上	
95			・〇□／上総国鯨十連三列〇伊頭駿河堅魚遺十節・ 〇[]〇□	木簡	8C前	平城京左京三条二坊一・二・七・八 坪 長屋王邸	奈文研『平城宮木簡』2-2171(城21-3)	
96			・黒緑糸一斤[]□・□〇□□(上総カ)国[]七月四 日	木簡	8C前	平城京左京三条二坊一・二・七・八 坪 長屋王邸	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』27-16上(195)	
97			天平八年十二月六日用上総□(布カ)	木簡	736	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-16下(115)	
98			上総国精蘇	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』30-7上(35)	
99			・駿河相模／上野／上総調庸庸尊□□ 模相模模 模相相模尊□	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』30-40上 (1346)	
100] (上)総国輪鮑調陸斤	木簡		長岡宮跡(東方官衙・春宮坊跡)	木簡学会『木簡研究』21	
101			上総国□	木簡		平城宮	奈文研『平城宮木簡』5	
102			上総□[]秋人歳神奉進	墨書土器	9C前	庄作遺跡	『小原子遺跡群』小原子遺跡群調査会ほか1990	芝山町小原子字庄作

	旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
103				上総家	墨書土器	8C後	高田権現遺跡	『成田用水』高田権現・大台西・上吹入・林遺跡調査会 1979	芝山町大台西高田東部
				上総	墨書土器		長原遺跡	『長原・瓜破遺跡発掘調査報告VII』(助大阪市文化財協会 1987	大阪府大阪市
				上総□(綱カ)	墨書土器		志波城跡	『東北縦貫道関係埋蔵文化財調査報告書XIII—太田方八丁遺跡(志波城跡)』1982	岩手県盛岡市
106		市原郡		(天平勝寶七歳乙未二月相替遺筑紫諸國防人等歌)右一首市原郡上丁刑部直千國(ノ二月九日上総國防人部領使少目從七位下茨田連沙弥麻呂進歌數十九首但拙劣歌者不取載之)	歌謡	755		『万葉集』20/4357	
107				日奉部足人年卅上総国市原郡大倉駅家戸主日奉部安麻呂嬭(天平十七年九月廿一日)	正倉院文書	745		『正倉院文書』智識優婆塞等貢進文	
108				市原〔	墨書土器	—	上総国分尼寺	宮本敬一「上総国分寺の成立—尼寺の造営過程を中心—to」『東海道の国分寺—その成立と変遷—』栃木県教育委員会	市原市惣社
109		市原郡	海部郷	〕海部里軍布Ⅱ	木簡		藤原宮	奈文研『飛鳥藤原宮発掘調査出土木簡概報』6	
110		市原郡	海部郷	海里長	墨書土器	8C前	門脇遺跡	『門脇遺跡』(助千葉県文化財センター 1985	市原市磯ヶ谷
111		市原郡	海部郷	海郷海万呂一斗五升	木簡		平城宮	木簡学会『木簡研究』7-120頁・(21) (平3	
112		市原郡	海部郷	海□(マカ)郷物部首魚万呂	木簡		平城宮	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』19-26下	
113		市原郡	海部郷	・海部郷京上赤春米五斗・矢田部首万呂 稻春	木簡		平城宮造酒司推定地	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』29-9下(15)・木簡学会『木簡研究』21	
114		市原郡	海部郷	上総国市原郡海マ郷戸主刑マ小黒人庸老段長二丈八尺広二尺四寸国司少目外少初位敷七等茨田連繼足郡司大領外從七位位上敷七等丈部直国主天長五年十一月	布墨書	828		『正倉院調庸綾純布墨書銘文』	
115		市原郡	市原郷	郡市原里	木簡		藤原宮	奈文研『飛鳥藤原宮発掘調査出土木簡概報』6	
116		市原郡	市原郷	市原〔	墨書土器		坊作遺跡	宮本敬一「上総国分寺の成立—尼寺の造営過程を中心—to」『東海道の国分寺—その成立と変遷—』栃木県教育委員会	市原市惣社
117		市原郡	江田郷	貢上 経師一人 刑部稲麻呂年卅八上総国市原郡江田郷戸主刑部荒人戸口 宝龜四年六月八日 僧興弁「勘知 寺主玄愷」	正倉院文書	773		『正倉院文書』智識優婆塞等貢進文	
118		市原郡	湿津郷	湿津寺田	墨書土器		上総国分僧寺	宮本敬一「上総国分寺の成立—尼寺の造営過程を中心—to」『東海道の国分寺—その成立と変遷—』栃木県教育委員会	市原市惣社
119		市原郡	山田郷	山田 側	墨書土器		板倉町遺跡	『市原市瀬又北・瀬又南, 千葉県大木戸・板倉町遺跡』(助千葉県文化財センター 1984	千葉市緑区板倉町
120		市原郡	菊麻郷						
121				草苺於寺坏	墨書土器	8C前	草刈遺跡	天野努ほか「出土文字資料と地名」『千葉県史研究』第2号 千葉県史研究財団 1993	市原市草刈字天神台
122		海上郡		海上□(蝶カ)〔 〕	木簡		平城京左京三条二坊六坪 宮跡庭	奈文研『平城京木簡』1-11 (城11-17	
123				宜海上采女	木簡		平城京左京三条二坊八坪	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』23-18下(179)	
124				・忍海伊多須ノ※※※※※ノ※※※※※Ⅱ五日 ※※※海上采女ノ※※※※※※※※※※※※Ⅱ・※※国菓延女※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※ノ夕時Ⅱ 伊福部櫻	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-18下(207)	
125				海上厨	墨書土器	8C後	坊作遺跡	宮本敬一「上総国分寺の成立—尼寺の造営過程を中心—to」『東海道の国分寺—その成立と変遷—』栃木県教育委員会	市原市惣社
126				海上	墨書土器	9C初	雷塚遺跡	當眞紀子『雷塚遺跡』(助君津郡市文化財センター	
127		海上郡	佐是郷						

	旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
128		海上郡	稲庭郷						
129		海上郡	大野郷	・大野郷小田村里・○舎人部石足	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』24-31上(326)	
130		海上郡	山田郷						
131		海上郡	倉橋郷	倉橋郷長谷部稲 [鏡書き平瓦		上総国分尼寺	宮本敬一「上総国分寺の成立—尼寺の造営過程を中心に—」『東海道の国分寺—その成立と変遷—』栃木県教育委員会	市原市惣社
132		海上郡	福良郷						
133		海上郡	嶋穴郷						
134		海上郡	馬野郷						
135		畔蒜郡		畔蒜	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』33-21下(34)	
136				(安)蒜	墨書土器	—	上総国分僧寺	宮本敬一「上総国分寺の成立—尼寺の造営過程を中心に—」『東海道の国分寺—その成立と変遷—』栃木県教育委員会	市原市惣社
137				畔	平瓦	9C	祇園原瓦窯跡	宮本敬一「22 上総国分尼寺跡」『千葉県の歴史資料編 考古3 (奈良・平安時代)』千葉県	市原市惣社
138		畔蒜郡	美々郷						
139		畔蒜郡	小河郷						
140		畔蒜郡	甘木郷	・藤郡甘木郷・物物物□ []	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』30-32下(1050)	
141		畔蒜郡	甘木郷	甘木	墨書土器		上総国分僧寺	宮本敬一「上総国分寺の成立—尼寺の造営過程を中心に—」『東海道の国分寺—その成立と変遷—』栃木県教育委員会	市原市惣社
142		畔蒜郡	新田郷	日下部子真人 上総国安比留郡新田郷戸主日下部智万呂「了」(天平十七年九月廿一日)	正倉院文書	745		『正倉院文書』智識優婆塞等貢進文	
143		畔蒜郡	新田郷	新田	墨書土器		上総国分僧寺	宮本敬一「上総国分寺の成立—尼寺の造営過程を中心に—」『東海道の国分寺—その成立と変遷—』栃木県教育委員会	市原市惣社
144		畔蒜郡	椅原郷						
145		畔蒜郡	三衆郷	三衆郷熟麻 []	木簡		平城京左京七条一坊十六坪	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-9上(38)	
146		望陀郡	(馬來田)	・奈尔皮ツ尔佐久矢己乃皮奈泊由己母利伊真皮々留部止、佐久□ [矢カ] ◇ ○□ [皮カ] ○□ [奈カ] □○職職○ ◇ ○□○□与・◇ 皮皮職職馬來田評	木簡		藤原京左京七条一坊西南坪	『木簡研究25』26頁-(56)	
147		望陀郡		上総国□□(望陀カ) [木簡		平城宮	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』19-9下(11)	
148		望陀郡		／天平四年望多布古／天平五年上総布新 〓	木簡	732	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-16下(114)	
149		望陀郡		望太布□端	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-27下(393)	
150		望陀郡	畔治郷						
151		望陀郡	表可郷						
152		望陀郡	倉戸郷	會部	墨書土器		上総国分僧寺	宮本敬一「上総国分寺の成立—尼寺の造営過程を中心に—」『東海道の国分寺—その成立と変遷—』栃木県教育委員会	市原市惣社
153		望陀郡	飢富郷] 富郷	木簡		平城宮	奈文研『平城宮木簡』1	
154		望陀郡	磐田郷						
155		望陀郡	河曲郷						

	旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
156		望陀郡	(鹿津郷)						
157		周准郡		・周／周周周／周周／周周／准准Ⅱ・□□ □	木簡		平城宮	奈文研『平城宮木簡』2-2546	
158		周准郡		上総国周准郡〔	布墨書			〔正倉院調庸綾縮布墨書銘文〕	
159		周准郡	山名郷						
160		周准郡	山家郷						
161		周准郡	額田郷	各田部里人五	木簡		平城宮	木簡学会『木簡研究』7-120頁- (19)・奈文研『平城宮木簡』3	
162		周准郡	額田郷	額田郷米五斗	木簡		長岡京	向日市教委・(財)向日市埋文センター『長岡京木簡』2-574・木簡学会『木簡研究』4-29	
163		周准郡	(額部郷)	金光明寺封上上総国周准郡額部郷戸主額田部千五百細布調壺端長四丈二尺広二尺四寸国司大目正六位上勲八等養奏惠師麻呂郡司大領外従七位上日下部使主山主宝龜八年十月	布墨書	777		〔正倉院調庸綾縮布墨書銘文〕	
164		周准郡	(額田部郷)	若田部黒麻呂 年卅三 上総国周准郡額田部郷戸主若田部荒馬戸口「了」(天平十七年九月廿一日)	正倉院文書	745		〔正倉院文書〕 智識優婆塞等貢進文	
165		周准郡	(額田部郷)	占部真麻呂 年卅四「了」上総国須惠郡額田部郷戸主占部国忍戸口(天平十七年九月廿一日)	正倉院文書	745		〔正倉院文書〕 智識優婆塞等貢進文	
166		周准郡	三直郷						
167		周准郡	凡田郷						
168		周准郡	湯坐郷						
169		周准郡	藤部郷	上総国周准郡藤部郷葛原部□□貫布調壺端長四丈二尺国司大掾正六位上石川朝臣虫麻呂郡司擬少領外従八位上勲六等日下部□□虫麻呂天〔	布墨書			〔正倉院調庸綾縮布墨書銘文〕	
170		周准郡	(勝部郷)						
171		周准郡	勝川郷						
172		周准郡	(種泚郷)	上総末 珠名娘	歌謡			〔万葉集〕20	
173		埴生郡							
174		埴生郡	埴生郷						
175		埴生郡	埴石郷						
176		埴生郡	小田郷						
177		埴生郡	坂本郷	坂本	墨書土器	—	滝東台遺跡	〔滝東台遺跡・油井小塚原遺跡〕(財)山武郡南部地区文化財センター 1986	東金市油井字丑子台
178		埴生郡	坂本郷	□(坂カ)本	墨書土器	—	滝東台遺跡	〔滝東台遺跡・油井小塚原遺跡〕(財)山武郡南部地区文化財センター 1986	東金市油井字丑子台
179		埴生郡	横栗郷						
180		埴生郡	河家郷						
181		埴生郡	(山田郷)	(前略)上総国埴生郡山田郷伍拾畑	文献史料	10C後		〔四天王寺縁起〕天曆九年正月	
182		長柄郡							
183		長柄郡	刑部郷	長柄刑田	墨書土器		上総国分僧寺	宮本敬一「上総国分寺の成立—尼寺の造営過程を中心に—」「東海道の国分寺—その成立と変遷—」栃木県教育委員会	市原市惣社
184		長柄郡	管見郷						
185		長柄郡	車持郷	車持郷三□・〔	木簡		平城宮	奈文研『平城宮木簡』2-2213	
186		長柄郡	車持郷	〕郡車持郷車持里戸主□部□□戸口海部安倍御須□膳一斗五升 三年八月十八(日)	木簡		平城宮	奈文研『平城宮木簡』2	

	旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
187		長柄郡	兼陀郷						
188		長柄郡	(邑陀郷)	敬白 上総国二宮莊 邑郷 大森山満光寺鐘 応永十六年己丑三月三日	鐘銘		大森私蔵太田満光寺鐘銘	『増補大日本地名辞書』第6巻 板東	大森私蔵太田満光寺鐘銘
189		長柄郡	柏原郷	柏原郷《白米五斗	木簡		長岡京	向日市教育委員会・(助)向日市埋蔵文化財センター「長岡京木簡」1-102	(大和国葛上郡柏原郷)・(駿河国駿河郡柏原郷)・(上総国長柄郡柏原郷)・(近江国伊香郡柏原郷)・(播磨国佐用郡柏原郷)・(豊後国直入郡柏原郷)・(肥後国菊池郡柏原郷)
190		長柄郡	柏原郷	・宮守果小田伎〔・柏原果小「田井女粉一石」	木簡		長岡京	向日市教育委員会・(助)向日市埋蔵文化財センター「長岡京木簡」1-238・木簡学会「木簡研究」3-27	(大和国葛上郡柏原郷)・(駿河国駿河郡柏原郷)・(上総国長柄郡柏原郷)・(近江国伊香郡柏原郷)・(播磨国佐用郡柏原郷)・(豊後国直入郡柏原郷)・(肥後国菊池郡柏原郷)
191		長柄郡	柏原郷	・□人□・□(柏カ)原里人	木簡		平城宮	奈文研「平城宮発掘調査出土木簡概報」13-8下	(大和国葛上郡柏原郷)・(駿河国駿河郡柏原郷)・(上総国長柄郡柏原郷)・(近江国伊香郡柏原郷)・(播磨国佐用郡柏原郷)・(豊後国直入郡柏原郷)・(肥後国菊池郡柏原郷)
192		長柄郡	柏原郷	部内郡柏原里	木簡	8C前	平城京左京三条二坊一・二・七・八 坪 長屋王邸	奈文研「平城京木簡」2-2168	
193		長柄郡	栢原郷	長柄郡栢原郷橋神社	文献史料			『残篇風土記』	
194		長柄郡	谷部郷	□(長カ)谷マ郷西里	墨書土器		荒久遺跡		市原市惣社
195		山邊郡	山邊		木簡		平城宮	奈文研「平城宮木簡」2	
196		山邊郡	山辺口(郡カ)		木簡		平城宮南面東門(壬生門)内式部	奈文研「平城宮発掘調査出土木簡概報」26-11上	
197		山邊郡		□□□□□无位物部橋□□(四カ) / 上総国山□(邊カ)Ⅱ	木簡		平城宮	奈文研「平城宮木簡」5・城4-10下(13)	
198		山邊郡		□(國カ)山邊郡人	木簡		平城宮	奈文研「平城宮木簡」5	
199		山邊郡		□□□(邊郡カ)	木簡		平城宮	奈文研「平城宮木簡」5	
200		山邊郡	山邊		墨書土器	9C中	砂田中台遺跡	『砂田中台遺跡』(助)山武郡市文化財センター 1994	大網白里町砂田字中台
201		山邊郡	山邊□(之)		墨書土器	9C前	砂田中台遺跡	『砂田中台遺跡』(助)山武郡市文化財センター 1994	大網白里町砂田字中台
202		山邊郡	山邊家/□		墨書土器	9C前	砂田中台遺跡	『砂田中台遺跡』(助)山武郡市文化財センター 1994	大網白里町砂田字中台
203		山邊郡	□邊□(家カ)		墨書土器	9C前	砂田中台遺跡	『砂田中台遺跡』(助)山武郡市文化財センター 1994	大網白里町砂田字中台
		山邊郡	山邊		墨書土器	9C後	山田水呑遺跡	『山田水呑遺跡』山田水呑遺跡調査会 1987	東金市山田字水呑新田
205		山邊郡	山邊		墨書土器		油井小塚原遺跡	『油井小塚原遺跡群』	東金市油井字丑子台
206		山邊郡	山邊		墨書土器	8C後	猪ヶ崎遺跡	『大網山田台遺跡群III』(助)山武郡市文化財センター 1996	大網白里町小西
207		山邊郡	山邊大		墨書土器		山田水呑遺跡	『山田水呑遺跡』山田水呑遺跡調査会 1987	東金市山田字水呑新田
208		山邊郡	山邊万所		墨書土器	9C	小西平台遺跡	『大網山田台遺跡群III』(助)山武郡市文化財センター 1997	大網白里町小西
209		山邊郡	山邊田本		墨書土器	9C	小西平台遺跡	『大網山田台遺跡群IV』(助)山武郡市文化財センター 1997	大網白里町小西
210		山邊郡	山邊御立		墨書土器	9C	小西平台遺跡	『大網山田台遺跡群III』(助)山武郡市文化財センター 1997	大網白里町小西
		山邊郡	山邊郡印		印章		滝台遺跡	丸子巨「新発見の『山邊郡印』をめぐって」『古代文化』第21巻第4号古代学協会	八街市滝台松入
212		山邊郡	山邊		墨書土器	—	黒ハギ遺跡	梁瀬裕一「黒ハギ遺跡」『(助)千葉市文化財調査協会年報平成10年度』12 2000	千葉市緑区土気町
213		山邊郡	山邊□		墨書土器	9C前	道庭遺跡	『東金市道庭遺跡』(助)千葉県文化財センター 1998	東金市家の字東大宮台

	旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
214		山邊郡	天生郷						
215		山邊郡	岡山郷	丈部臣曾禰万呂年冊九 勞二年 上総国山邊郡岡山郷 戸主丈部臣古万呂戸口	正倉院文書			『正倉院文書』智識優婆塞等貢進文	
216		山邊郡	岡山郷	岡山	墨書土器	—	上総国分僧寺	宮本敬一「上総国分寺の成立—尼寺の造営過程を中心—to」『東海道の国分寺—その成立と変遷—』栃木県教育委員会	市原市惣社
217		山邊郡	管屋郷						
218		山邊郡	山口郷]郡山口郷□[木簡		平城宮	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』19-26上	
219		山邊郡	山口郷	山口館	墨書土器	9C前	山田水呑遺跡	『山田水呑遺跡』山田水呑遺跡調査会 1987	東金市山田字水呑新田
220		山邊郡	山口郷	山口子万	墨書土器	9C	小西平台遺跡	『大綱山田台遺跡群III』(助山武郡市文化財センター 1997)	大綱白里町小西
221		山邊郡	山口郷	山口万	墨書土器	9C後	新林遺跡	『大綱山田台遺跡群III』(助山武郡市文化財センター 1996)	東金市新林
222		山邊郡	山口郷	山口家	墨書土器	9C後	作畑遺跡	『作畑遺跡』山武考古学研究所 1987	東金市油井字作畑
223		山邊郡	山口郷	山口万	墨書土器	—	作畑遺跡	『作畑遺跡』山武考古学研究所 1987	東金市油井字作畑
224		山邊郡	山口郷	山口万	墨書土器		新林遺跡	『大綱山田台遺跡群III』(助山武郡市文化財センター 1996)	東金市新林
		山邊郡	山口郷	山万□(可)	墨書土器	8C後	井戸ヶ谷遺跡	『東金市井土ヶ谷遺跡』(助千葉県文化財センター 1992)	東金市油井字長者屋敷
		山邊郡	山口郷	山佐	墨書土器	9C前	山田水呑遺跡	『山田水呑遺跡』山田水呑遺跡調査会 1987	東金市山田字水呑新田
		山邊郡	山口郷	山口本□	墨書土器	8C後	庚塚遺跡	『庚塚遺跡』山武町教育委員会 1991	山武町椎崎字庚塚
		山邊郡	山口郷	山口	刻書土器	9C前	中原窯跡	『千葉市中原窯跡』千葉県教育委員会 1991	千葉市若葉区金親町字中原
229		山邊郡	山口郷	山口	墨書土器	9C前	小西平台遺跡	『大綱山田台遺跡群III』(助山武郡市文化財センター 1997)	大綱白里町小西
230		山邊郡	山口郷	山万所	墨書土器	9C前	一本松遺跡	『大綱山田台遺跡群II』(助山武郡市文化財センター 1995)	大綱白里町小西
231		山邊郡	山口郷	佐倉	墨書土器	9C前	山田水呑遺跡	『山田水呑遺跡』山田水呑遺跡調査会 1987	東金市山田字水呑新田
232		山邊郡	高文郷	上総国武昌郡高舎里荏油四升八合和銅六年十月	木簡	713	平城京左京三条二坊一・二・七・八 坪 長屋王邸	奈文研『平城京木簡』2-2170	
233		山邊郡	草野郷	草□(野カ)	墨書土器	8C	中林遺跡	『千葉県大綱白里町中林遺跡』(助山武郡市文化財センター 1991)	大綱白里町砂田字南中林
234		山邊郡	草野郷	草	墨書土器	8C中	南麦台遺跡	『千葉県大綱白里町 南麦台遺跡』(助山武郡市文化財センター 1994)	大綱白里町萱野南麦台
235		山邊郡	草野郷	草□(野カ)	墨書土器	8C前	南麦台遺跡	『千葉県大綱白里町 南麦台遺跡』(助山武郡市文化財センター 1994)	大綱白里町萱野南麦台
236		山邊郡	草野郷	草野	墨書土器	10C前	南麦台遺跡	『千葉県大綱白里町 南麦台遺跡』(助山武郡市文化財センター 1994)	大綱白里町萱野南麦台
237		山邊郡	草野郷	草□	墨書土器	9C中	砂田中台遺跡	『砂田中台遺跡』(助山武郡市文化財センター 1994)	大綱白里町砂田字中台
238		山邊郡	草野郷	草新	墨書土器	9C前	南麦台遺跡	『千葉県大綱白里町 南麦台遺跡』(助山武郡市文化財センター 1994)	大綱白里町萱野南麦台
239		山邊郡	武射郷						
240		武射郡		武射寺	墨書土器	8C中	真行寺廃寺跡	『成東町真行寺廃寺跡発掘調査報告—鍛冶工房址の調査』成東町教育委員会 1985	成東町真行寺
241		武射郡	巨備郷						
242		武射郡	加毛郷						

	旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
243		武射郡	理倉郷						
244		武射郡	狎猥郷						
245		武射郡	長倉郷	長倉郷桜井舎人部豊前〔	布墨書			〔正倉院調庸綾布墨書銘文〕	
246		武射郡	畔代郷	貢上 経師 矢作廣嶋上総国武射郡畔代郷戸主矢作廣麻呂戸口 神護景雲四年六月十四日 「大僧都法進」	正倉院文書	770		〔正倉院文書〕 智識優婆塞等貢進文	
247		武射郡	片野郷						
248		武射郡	大蔵郷						
249		武射郡	新居郷	新居	墨書土器	9C後	高岡大山遺跡	〔千葉県佐倉市高岡遺跡群〕 (勸印旛郡市文化財センター 1993)	佐倉市上代字大山
250		武射郡	新屋郷						
251		武射郡	埴屋郷						
252		武射郡	(高舎郷)	上総国武昌郡高舎里荏油四升八合和銅六年十月	木簡	713	平城京左京三条二坊一・二・七・八坪 長屋王邸	奈文研『平城京木簡』2-2170 (城21-3)	
253		天羽郡							
254									
255		天羽郡	三宅郷	三宅郷茜廿斤	木簡		平城宮	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-40下 (448)	
256		天羽郡	三宅郷	上総国天羽郡三宅郷他田公足庸布一段長二尺八尺広二尺四寸国司少目少初位下敷七等茨田連繼足郡司擬少領外少初位下敷八等丈マ石万呂天長五年十月	布墨書	828		〔正倉院調庸綾布墨書銘文〕	
257		天羽郡	讃岐郷	石上部忍山年卅九上総国天羽郡讃岐郷磐井里少初位上戸主石上部大島戸之口 天平六年七月廿七日	正倉院文書	734		〔正倉院文書〕 智識優婆塞等貢進文	
258		天羽郡	長津郷						
259		天羽郡	雨霈郷						
260		天羽郡	(宇部郷)	上総国天羽郡宇マ郷子田マ家長庸布一段長二丈八尺広二尺四寸国司少目少初位下敷七等茨田連繼足郡司擬少領外少初位下敷八等丈マ石万呂天長五年十月	布墨書	828		〔正倉院調庸綾布墨書銘文〕	
261		天羽郡	(宇部郷)	宇マ郷十一月廿九日	木簡		長岡宮跡 (東方官衙・春宮坊跡)	木簡学会『木簡研究』20	
262		夷漣郡		〕麻呂上総国夷漣〔	木簡		平城宮	奈文研『平城宮木簡』4	
263		夷漣郡		上総国夷漣郡土□(茂カ)濱若海藻壺籠	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-33上 (323)	
264		夷漣郡		／夷漣漣／漣漣	木簡		平城宮	奈文研『平城宮木簡』5-7878	
265		夷漣郡		夷漣〔	墨書土器	—	中台遺跡	宮本敬一「上総国分寺の成立—一尼寺の造営過程を中心に—」『東海道の国分寺—その成立と変遷—』栃木県教育委員会	市原市惣社
266		夷漣郡	雨霈郷						
267		夷漣郡	蘆道郷	〕□(総カ)國道□□/□/□/□□	木簡		平城宮	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』15-23下	
268		夷漣郡	蘆道郷	上総国夷漣郡蘆道郷戸主若□□□□□□人部味酒凡鮑調陸斤／條卅一國司専外大□□□□□□正六位上□□□／當郡司擬少領外大初位上□□□□□／宝龜五年	木簡	774	平城宮	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』12-13上	
269		夷漣郡	蘆道郷	〕(上)総国夷漣郡蘆道郷大〔〕拾斤貝卅二延曆九年十月(穿孔9所)	木簡	790	長岡宮跡 (東方官衙・春宮坊跡)	木簡学会『木簡研究』21	
270		夷漣郡	蘆道郷	壺／蘆道	墨書土器		上総国分僧寺	宮本敬一「上総国分寺の成立—一尼寺の造営過程を中心に—」『東海道の国分寺—その成立と変遷—』栃木県教育委員会	市原市惣社
271		夷漣郡	荒田郷						

	旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
272		夷瀧郡	長狹郷						
273		夷瀧郡	白羽郷						
274		夷瀧郡	余戸郷						
275	下総国			下総□	木簡		平城京左京二条二坊二条大路濠	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』30-32下(1052)	
276				下総国	木簡		平城宮	奈文研『平城宮木簡』4	
277				下総国□□□税一万四千四百六十四束	木簡	8C前	平城京左京三条二坊一・二・七・八坪 長屋王邸	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』28-29上	
278				□□(麻カ)呂/下総國	木簡		平城宮	奈文研『平城宮木簡』5-6709	
279				下総国□	鏡書土器	9C	中台遺跡	『公津原II』千葉県教育委員会・(財)千葉県文化財センター 1981	
280				下総□□	紡錘車	—	入ノ台第2遺跡	『入ノ台第2遺跡発掘調査報告書』四街道市教育委員会 1990	
281		葛飾郡							
282		葛飾郡	度毛郷						
283		葛飾郡	八島郷						
284		葛飾郡	新居郷						
285		葛飾郡	桑原郷						
286		葛飾郡	栗原郷						
287		葛飾郡	豊島郷						
288		葛飾郡	余戸郷						
289		葛飾郡	駅家郷						
290		葛飾郡	(大島郷)	下総国葛飾郡大島郷(甲和里・仲村里・島俣里)	正倉院文書	721		『正倉院文書』養老5年戸籍	
291		千葉郡		下総国千葉郡	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』30-32下(1051)	
292		千葉郡	千葉郷	下総国千葉郡千葉郷	紡錘車		南麦台遺跡	『千葉県大網白里町 南麦台遺跡』(財)山武郡市文化財センター 1994	大網白里町萱野南麦台
293		千葉郡	千葉郷	千葉	墨書土器		種ヶ谷津遺跡		
294		千葉郡	山家郷	山家	朱書土器	9C前	鷲谷津遺跡	『千葉市鷲谷津遺跡』(財)千葉県文化財センター 2002	千葉市中央区千葉寺町
295		千葉郡	山家郷	山家	墨書土器		南囲護台遺跡(第2地点)	『南囲護台遺跡(第2地点)』(財)印旛郡市文化財センター 1998	成田市囲護台
296		千葉郡	山家郷	山家					
297		千葉郡	池田郷						
298		千葉郡	三枝郷						
299		千葉郡	糟荻郷						
300		千葉郡	山梨郷	山梨一	墨書土器	8C	馬込No-1遺跡	『平成13年度四街道市内遺跡発掘調査報告書』四街道市教育委員会 2002	四街道市中台字駒込
301		千葉郡	山梨郷	山梨郷/□□	墨書土器		南作遺跡	『(財)印旛郡市文化財センター年報』14(財)印旛郡市文化財センター 1993	四街道市成山字腰巻
302		千葉郡	物部郷						
303				子中村	墨書土器	8C	南河原坂第2遺跡		千葉市緑区小食土町
304		印旛郡	印波郡		木簡	8C前	平城京左京三条二坊一・二・七・八坪 長屋王邸	奈文研『平城京木簡』1-433・城25-20	

	旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
305				印波郡	墨書土器	8C中	大袋腰巻遺跡	「大袋腰巻遺跡」「公津東遺跡群Ⅲ」(助印旛郡市文化財センター 1998)	成田市大袋
306		印旛郡	八代郷	八代	墨書土器	8C後	台方下平Ⅱ遺跡	「広報誌 フィールドブック」No13 (助印旛郡市文化財センター)	成田市台方
307		印旛郡	印旛郷	廢下総国印旛郡鳥取駅、埴生郡山方駅、香取郡真敷・荒海駅、以不要也、	文献史料	805		「日本後紀」延暦二十四年十月	
308		印旛郡	言美郷						
309		印旛郡	三宅郷						
310		印旛郡	長隈郷	高岡寺	墨書土器	8C中	長熊廃寺跡	「長熊廃寺跡」千葉県教育委員会 1987	佐倉市長熊
311		印旛郡	鳴矢郷						
312		印旛郡	吉高郷						
313		印旛郡	松穂郷						
314		印旛郡	日理郷						
315		印旛郡	村神郷	村神郷丈部国依甘魚	墨書土器	9C前	権現後遺跡	「八千代市権現後遺跡。北海道遺跡・井戸向遺跡」(助千葉県文化財センター 1994)	八千代市萱田字権現後
316		印旛郡	村神郷	村上丈□	墨書土器	9C前	北海道遺跡	「八千代市北海道遺跡」(助千葉県文化財センター 1985)	八千代市萱田字北海道
317		印旛郡	村神郷	下総国印旛郡村神郷丈部廣刀自咩召代進上延暦十年十月廿二日	墨書土器	8C後	上谷遺跡	藤茂美「上谷遺跡出土の墨書土器について」『平成13年度関東プロ埋文職員共同研修協議会』報告資料 2001	八千代市保品字上谷
318		印旛郡	村神郷	播郡村	墨書土器	—	上谷遺跡	「村上郷の文化人たち—墨書土器」八千代市歴史民俗資料館 1997 「千葉県八千代市上谷遺跡Ⅱ」八千代市教育委員会 2005	八千代市保品字上谷
319		印旛郡	村神郷	草田	墨書土器	8C中	白幡前遺跡	「八千代市白幡前遺跡」(助千葉県文化財センター 1991)	八千代市萱田字白幡前
320		印旛郡	余戸郷						
321		印旛郡	(ツ牟郷)	ツ牟郷	紡錘車		大袋腰巻遺跡	「大袋腰巻遺跡」「公津東遺跡群Ⅲ」(助印旛郡市文化財センター 1998)	
322		逆瑤郡		總國迎□(瑤カ)	木簡		平城宮	奈文研「平城宮木簡」5・城4-11上 (15)	
323		逆瑤郡		逆瑤(郡カ)	墨書土器	—	駒形城跡	天野努ほか「出土文字資料と地名」『千葉県史研究』第2号 千葉県史研究財団 1993	光町虫生字駒形
		逆瑤郡		逆永私印	印章		殿谷遺跡		八日市場市木積字殿谷
325		逆瑤郡		匝	墨書土器		下総国分寺	山路直充ほか 1994「下総国分寺跡 平成元年~5年度発掘調査報告書」市立市川考古博物館	
326		逆瑤郡		逆厨	墨書土器	8C末	大塚遺跡群俣田遺跡No2地点	「大塚遺跡群俣田遺跡」(助香取郡市文化財センター 1993)	香取郡多古町喜多
327		逆瑤郡	野田郷						
328		逆瑤郡	長尾郷						
329		逆瑤郡	辛川郷						
330		逆瑤郡	千俣郷	千俣□(仏)	墨書土器	—	飯塚遺跡群柳台遺跡	「飯塚遺跡群発掘調査報告書」八日市場市教育委員会 1986	八日市場市飯塚字柳台
331		逆瑤郡	千俣郷	千俣 古□(加)	墨書土器	8C前	久我台遺跡	「東金市久我台遺跡」(助千葉県文化財センター 1988)	東金市松之郷字久我台
332		逆瑤郡	千俣郷	千俣	墨書土器	9C	天神台遺跡	「天神台遺跡発掘調査報告書」(助印旛郡市文化財センター 1987)	印西市大森字下宿

	旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
333		迦瑳郡	千俣郷	千俣	墨書土器	9C前	鳴神山遺跡	『千葉北部地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査報告書II—印西市鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡』(助千葉県文化財センター 1999)	印西市戸神字天王
334		迦瑳郡	千俣郷	千俣	墨書土器	9C後	古屋敷遺跡	『古屋敷遺跡』(助香取郡市文化財センター 1999)	小見川町上小堀字古屋敷
335		迦瑳郡	千俣郷	千俣	墨書土器		国分遺跡		市川市中国分
336		迦瑳郡	山上郷	山上	墨書土器	9C前	作畑遺跡	『作畑遺跡』山武考古学研究所 1987	東金市油井字作畑
337		迦瑳郡	山上郷	山上	墨書土器	8C後	尾亭遺跡	木川浩司「尾亭遺跡」『平成12年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨』千葉県文化財法人連絡協議会 2001	東金市小野字尾亭
338		迦瑳郡	幡間郷						
339		迦瑳郡	石室郷	下総国迦瑳郡磐室郷戸主大伴部麻呂戸口大伴マ足輪調庸并一端 天平十三年十月	布墨書	741		『正倉院調庸綾布墨書銘文』	光町小川台(岩室山新善光寺)
340		迦瑳郡	石室郷	□迦瑳郡磐室郷大伴部足輪調庸并一端	布墨書			『正倉院調庸綾布墨書銘文』	
341		迦瑳郡	迦瑳郷						
342		迦瑳郡	須加郷						
343		迦瑳郡	大田郷						
344		迦瑳郡	日部郷						
345		迦瑳郡	玉作郷	(下)総国 迦瑳郡(玉作)郷	墨書土器		信濃台遺跡	『事業報告IV』(助香取郡市文化財センター 1995)	多古町南玉造
346		迦瑳郡	田部郷						
347		迦瑳郡	珠浦郷						
348		迦瑳郡	原郷						
349		迦瑳郡	栗原郷	天平勝宝六年九月一四日下総国栗原郷	瓶子識	754	八日市場市吉田出土	『稿本千葉縣誌』上巻	八日市場市吉田
350		迦瑳郡	茨城郷						
351		迦瑳郡	中村郷	下総国匝瑳□(郡)□(中)村郷戸主[]壺端長[] []	布墨書			『正倉院調庸綾布墨書銘文』	
		相馬郡		□□□□(麻呂カ)下総国相馬郡□(人カ)Ⅱ	木簡		平城宮	奈文研『平城宮木簡』5-6708・城4-10下(13)	
353		相馬郡	相馬	相馬	墨書土器		緑1丁目遺跡	『我孫子市史 原始・古代・中世篇』我孫子市教育委員会 2005	我孫子市緑1丁目
354			相馬	相馬	墨書土器		下総総社跡	松本太郎ほか 1996「第3章 下総総社跡発掘調査報告」『市川市出土遺物の分析—古代の鉄・土器について』市川市教育委員会	市川市国府台
355		相馬郡	大井郷	矢作真足下総国相馬郡大井郷戸主矢作広万呂「見三百文 残三百文」給了 天平宝字六年三月廿日	正倉院文書	762		『正倉院文書』続々修十八帙三	
356		相馬郡	大井郷	下総国相馬郡大井郷戸主矢作部麻呂調并庸布壺端天□(平)十七年十月	布墨書	745		『正倉院調庸綾布墨書銘文』	
357		相馬郡	大井郷	下総国相馬郡大井郷戸主矢作部荒戸口矢作部広足調并庸布壺端	布墨書			『正倉院調庸綾布墨書銘文』	
358		相馬郡	大井郷	大井	墨書土器		西大作遺跡	辻史郎「『意布郷久須波良部』の墨書土器」『日本歴史』615	我孫子市布佐
359		相馬郡	相馬郷						
360		相馬郡	布佐郷						
361		相馬郡	古溝郷	古渠里大前□(分カ)□□	木簡	8C前	平城京左京三条二坊一・二・七・八坪 長屋王邸	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』27-18下(249)	
362		相馬郡	意部郷	下総国倉麻郡意布郷	正倉院文書	721		『正倉院文書』養老5年戸籍	

旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
363	相馬郡	意部郷	意布郷久須部千依女 久須波部千依女/負□/久須	墨書土器		西大作遺跡	辻史郎「[意布郷久須波良部]の墨書土器」『日本歴史』615	我孫子市布佐
364	相馬郡	意部郷	久須原部広島同国郡邑郷戸主久須原部音戸口「見給三百文銭三百文」給了 天平宝字六年三月廿日	正倉院文書	762		『正倉院文書』続々修十八帙三	
365	相馬郡	(邑保郷)	斯丁久須波良石部広島同国相馬郡邑郷戸主久須原部音戸口	正倉院文書			『正倉院文書』続々修十八帙三	
366	相馬郡	(邑保郷)	「斯丁」久須波良部広島同国郡邑保郷天平宝字六年十月三日	正倉院文書	762		『正倉院文書』続々修十八帙三	
367	相馬郡	(邑保郷)	久須波良部広島同国郡邑保郷天平宝字六年十二月廿四日	正倉院文書	762		『正倉院文書』続修二十裏、続々修十八帙三	
368	相馬郡	余戸郷						
369	猿島郡							
370	猿島郡	塔陀郷						
371	猿島郡	八俣郷						
372	猿島郡	高根郷						
373	猿島郡	石井郷						
374	猿島郡	葦津郷						
375	猿島郡	色益郷						
376	猿島郡	余戸郷	沙弥徳円 年廿六 下総国猿島郡余戸、倉樺郷戸主刑部福主、同姓稻麿、黒子鼻輪一、右、弘仁三年正月十四日宮中金光明会年分十四人例、得度、省寮僧綱共授度縁如件、師主大安寺修行満位僧円澄 弘仁三年八月十六日	文献史料	812		『円城寺文書』	
377	結城郡		有支	墨書土器		結城廃寺		茨城県結城市
378	結城郡	茂侶郷						
379	結城郡	高橋郷						
380	結城郡	結城郷						
381	結城郡	小堀郷						
382	結城郡	余戸郷						
383	豊田郡		延喜四年十二月十日、改岡田郡為豊田郡、	文献史料	904		『延喜式』卷二十二 民部上 東海道 下総国	
384			豊田郡浪人副物一斤両	木簡		平城京	木簡学会『木簡研究』4-16頁-3 (24)	
385	豊田郡	岡田郷						
386	豊田郡	飯猪郷						
387	豊田郡	手向郷						
388	豊田郡	太方郷						
389	海上郡		下総国海上郡酢水浦若海藻○御贄太伍斤中	木簡		平城宮	奈文研『平城宮木簡』1-400	
390			海上郡	木簡	8C前	平城京左京三条二坊一・二・七・八 坪 長屋王邸	奈文研『平城京木簡』2-3061 (城28-2)	
391			海上□	墨書土器		下総国分寺	山路直充ほか 1994『下総国分寺跡 平成元年～5年度発掘調査報告書』市立市川考古博物館	
392	海上郡	大倉郷						
393	海上郡	城上郷						
394	海上郡	(城内郷)	大弓削若麻呂 年廿九 癸二年 下総国海上郡城内郷戸主大弓削刀良戸口 天平廿年4月廿五日	正倉院文書	748		『正倉院文書』智識優婆塞等貢進文	

	旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
395		海上郡	麻統郷						
396		海上郡	布方郷						
397		海上郡	軽部郷	□(下カ)総国, □(郡カ)軽部	墨書土器	9C	桜井平遺跡	『干潟工業団地埋蔵文化財調査報告書—干潟町諏訪山遺跡・十二殿遺跡・茄子台遺跡・桜井平遺跡』(助千葉県文化財センター 1998)	干潟町桜井字郷主塚
398		海上郡	神代郷						
399		海上郡	編玉郷						
400		海上郡	小野郷						
401		海上郡	石田郷						
402		海上郡	石井郷	石井	墨書土器	9C中	岩井安町遺跡	『海上町岩井安町遺跡』(助東総文化財センター 1995)	海上町岩井字安町
403		海上郡	須賀郷						
404		海上郡	橘川郷						
405		海上郡	横根郷						
406		海上郡	三前郷						
407		海上郡	三宅郷						
408		海上郡	船木郷						
409		香取郡		麾下総国印播郡鳥取駅, 埴生郡山方駅, 香取郡真敷・荒海駅, 以不要也.	文献史料	805		『日本後紀』延暦二十四年十月	
410		香取郡	大槻郷]香取郡大坏郷中臣人成女之替承[墨書土器	9C中	吉原三王遺跡	『佐原市吉原山王遺跡—東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書V(佐原地区2)』(助千葉県文化財センター 1990)	佐原市丁子 字天ノ宮
411		香取郡	大槻郷	香取郡大坏郷中臣人成女之替承[]年四月十日	墨書土器	9C中	吉原三王遺跡	『佐原市吉原山王遺跡—東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書V(佐原地区2)』(助千葉県文化財センター 1990)	佐原市丁子 字天ノ宮
412		香取郡	大槻郷	婢稲主女年廿右頬黒子下総国香取郡神戸大槻郷戸主中臣部真敷之婢 天平勝宝二年十二月廿八日	文献史料	750		『東南院文書』第五櫃第五卷 治部省藤東大寺	
413		香取郡	大槻郷	下総国司解 申貢逃官賤事 婢稲主女年貳拾壹歳 部下下総国香取郡神戸大槻郷戸主中臣部真敷之婢 天平勝宝三年五月廿一日	正倉院文書	751		『正倉院文書』小杉本	
414		香取郡	大槻郷	大坏	墨書土器	9C前	囲護台遺跡	『成田市計画事業成田駅西口土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書』成田市囲護台遺跡発掘調査団・成田市教育委員会 1990	成田市囲護台
415		香取郡	大槻郷	大坏酒	墨書土器	8C後	囲護台遺跡	『成田市計画事業成田駅西口土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書』成田市囲護台遺跡発掘調査団・成田市教育委員会 1990	成田市囲護台
416		香取郡	大槻郷	大畠	墨書土器	9C前	吉原三王遺跡	『佐原市吉原山王遺跡—東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書V(佐原地区2)』(助千葉県文化財センター 1990)	佐原市丁子字天ノ宮
417		香取郡	大槻郷	吉原大畠	墨書土器	8C後	吉原三王遺跡	『佐原市吉原山王遺跡—東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書V(佐原地区2)』(助千葉県文化財センター 1990)	佐原市丁子字天ノ宮
418		香取郡	大槻郷	吉原仲家	墨書土器	9C後	吉原三王遺跡	『佐原市吉原山王遺跡—東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書V(佐原地区2)』(助千葉県文化財センター 1990)	佐原市丁子字天ノ宮
419		香取郡	大槻郷	濱	墨書土器	9C	吉原三王遺跡	『佐原市吉原山王遺跡—東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書V(佐原地区2)』(助千葉県文化財センター 1990)	佐原市丁子字天ノ宮

旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
420	香取郡	大槻郷	姦	墨書土器	8C後	長部山遺跡	『佐原市内遺跡群発掘調査概報III』佐原市教育委員会 1989	佐原市香取字長部山（香取文書）
421	香取郡	大槻郷	大畠	墨書土器	8C後	長部山遺跡	『長部山遺跡』(助)香取郡市文化財センター 1991	佐原市香取字長部山（香取文書）
422	香取郡	大槻郷	大畠	墨書土器	9C後	椎ノ木遺跡	『成田市産業廃棄物処理場予定地内埋蔵文化財調査報告書 椎ノ木遺跡』(助)印旛郡市文化財センター 1987	成田市芝
423	香取郡	大槻郷	乙丁子	墨書土器	9C前	長部山遺跡	『長部山遺跡』(助)香取郡市文化財センター 1991	佐原市香取字長部山
424	香取郡	大槻郷	多理草寺	墨書土器	9C	多田日向遺跡	原田享二「多田日向遺跡」『シンポジウム平安前期の村落とその仏教—発表資料』千葉県立房総風土記の丘 1990	佐原市多田日向
425	香取郡	香取郷	鹿郷長鹿成里成里人 子山谷	墨書土器	9C前	馬場遺跡	『東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書IV（佐原地区1）』(助)千葉県文化財センター 1988	佐原市福田字馬場
426	香取郡	小川郷						
427	香取郡	健田郷						
428	香取郡	磯部郷	磯部麻呂	墨書土器		幡谷宮谷第1遺跡	阿部寿彦「幡谷宮谷第1遺跡」『第3回遺跡発表会発表要旨』(助)印旛郡市文化財センター 1999	成田市
429	香取郡	訳草郷						
430	香取郡	(山幡郷)	下総国 托郡山幡郷養老二年戸籍	正倉院文書	718		『正倉院文書』養老5年戸籍	
431	香取郡	(山幡郷)	山幡	墨書土器	9C中	古屋敷遺跡	『古屋敷遺跡』(助)香取郡市文化財センター 1999	小見川町上小堀字古屋敷
432	香取郡	(山幡郷)	山幡	墨書土器	9C中	御座ノ内遺跡	『御座ノ内遺跡』(助)香取郡市文化財センター 1992	小見川町増田字御座ノ内
433	香取郡	(山幡郷)	山幡	墨書土器		名号戸遺跡	『名号戸遺跡』(助)香取郡市文化財センター 1996	小見川町増田
434	香取郡	(山幡郷)	山幡	墨書土器	9C前	奥房台遺跡	梁瀬裕一「奥房台遺跡」『千葉市遺跡発表会要旨』(助)千葉市文化財調査協会 2000	千葉市若葉区土気町
435	香取郡	(山幡郷)	山幡	墨書土器	8C後	一本松遺跡	『大綱山田台遺跡群II(助)山武郡市文化財センター 1995	大網白里町小西
436	香取郡	(真敷駅)	真敷 奉 奉	紡錘車	—	大久保遺跡	田形孝一「真敷」と線刻された紡錘車について『千葉県史研究』第10号 千葉県 2002	大栄町稲荷山
437	埴生郡		左兵衛下総国埴生郡大生直野上養布十段	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構（南）	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』24-26上(252)	
438	埴生郡		埴生	墨書土器	8C後	東野遺跡	『東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書IV（佐原地区1）』(助)千葉県文化財センター 1988	佐原市本矢作字東野
439	埴生郡		陸下総国印旛郡鳥取駅、埴生郡山方駅、香取郡真敷・荒海駅、以不要也。	文献史料	805		『日本後紀』延暦二十四年十月	
440			埴生	墨書土器	—	国府台遺跡	松本太郎ほか 1996「第3章 下総社跡発掘調査報告」『市川市出土遺物の分析—古代の鉄・土器について』市川市教育委員会	市川市国府台
441	埴生郡	玉作郷	玉作郷・□□□□(戸主玉作カ) [・[木簡		平城宮	奈文研『平城宮木簡』2-1956	
442	埴生郡	山方郷						
443	埴生郡	麻佐郷	占部小足同国埴生郡阿佐郷戸主占部国万呂戸□「見給三百文銭三百文」又百二 給了 天平宝字六年三月廿日	正倉院文書	762		『正倉院文書』続々修十八帙三	
444	埴生郡	酢取郷						

註 1. 表の作成にあたって木簡については、独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所の木簡データベースを使用して検索し、原典と照合したものである。また墨書土器については、『出土文字資料集成「千葉県の歴史 資料編 古代」別冊』千葉県 1996を参考とした。

2. 44の不簡資料中の「長屋里」については、奈良文化財研究所平城宮跡発掘調査部史料調査室にて、実物資料を確認した「屋」と読み切っている一字については、□〔尾カ〕とするのが妥当と判断されたので、釈文中にはその見解に従って改めた。なお「長屋里」を「長尾里」とした場合の古代の地理的環境については、別稿を準備したいと思っている。

II 調査された郡衙遺跡の概要

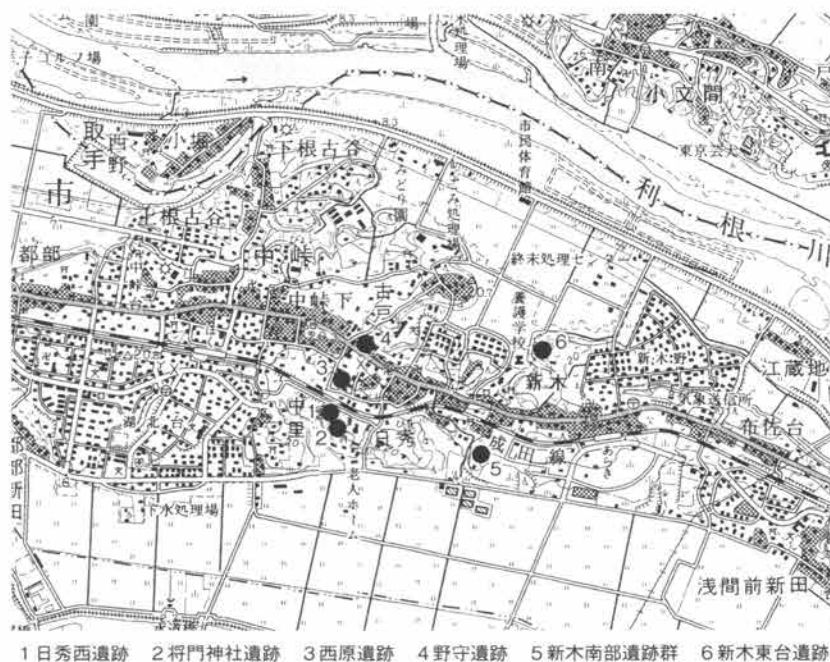
1 相馬郡

沿革

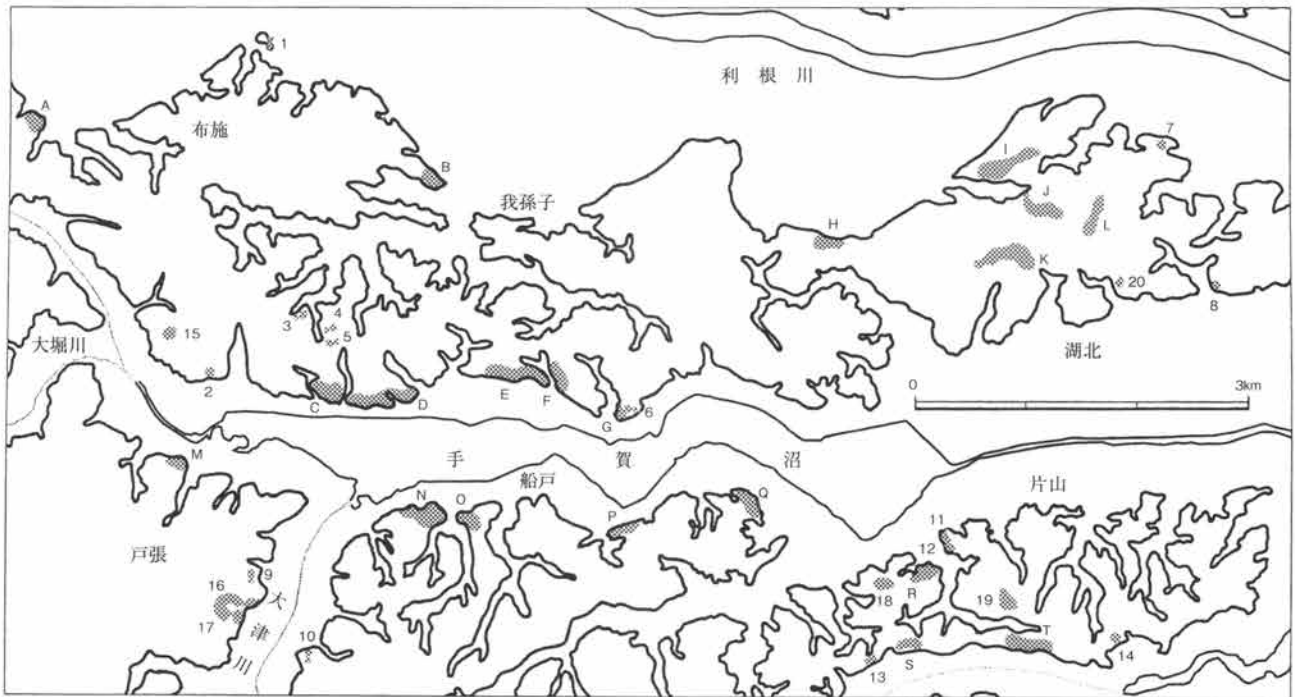
相馬郡は、我孫子市域が明治時代まで含まれていた行政区の名称で、明治以後東葛飾郡に編入された。まず、国造制下においては、印波国造の領域に含まれていたものと推定される当地域の古墳時代の様相を概観してみる。相馬郡衙が所在する手賀沼北岸の古墳はそれほど際だったものはみられないが、我孫子古墳群として調査されている。現在最も古く考えられているのが、推定長69mを測る我孫子市最大の前方後円墳、水神山古墳である。出土遺物は少ないが、後円部墳頂部に木棺直葬の長大な埋葬施設が設けられ、墳丘の形状等から4世紀末から5世紀初頭の年代が想定されている。おそらく、手賀沼周辺の盟主的な古墳であろう。次の時期に相当するのが、金塚古墳である。径20mほどの円墳で、木棺直葬と思われる埋葬施設から、短甲・鉾・銅鏡・石枕など多様な副葬品が出土した。墳頂部を巡る埴輪の様相などから、5世紀後半の年代が想定される。古墳時代中期の古墳は手賀沼北西側に集中する傾向にあり、さらに西側には古墳時代前期の柏市戸張一番割遺跡の前方後方墳が位置する。古墳時代後期以降になると、大型の古墳は見られなくなり、中小規模の群集墳が主体となる。時期的には6世紀中葉以降となり、金塚古墳までの様相とは異なるものであろう。この段階は、前期から中期までの地域的な偏在性はみられず、手賀沼周辺に散在し、地域を統合するような有力者の存在ではなく、地区ごとにいくつかの集団が存在していたのであろう。日秀西遺跡が位置する湖北地区には有力な古墳群はなく、小規模な中峠古墳群が群在している程度である。単独で立地する古墳としては、利根川側にある高根古墳と手賀沼側の羽黒前古墳がある。後者は全長32mの前方後円墳で、6世紀後半から末の築造である。

水神山古墳に代表されるように、古墳時代中期には手賀沼周辺を掌握した有力者の存在が認められるが、後期になるとそれぞれ分立した集団が存在し、それらをまとめるような首長墓の古墳はみられない。調査された郡衙が所在する埴生郡や武射郡とは大きく異なる様相である。

相馬郡の成立については明らかではないが、文献上で確認されるのは、正倉院文書の養老五（721）年「下総国倉麻郡意布郷戸籍」断簡が最初である。出土文字資料としては、下総総社跡の8世紀中頃の墨書土器「相馬」と我孫子市緑（香取神社付近）の10世紀頃の墨書土器「相馬」があげられる。相馬郡は、律令制下の下総国北西部に位置し、東側は常陸国、南側は埴生郡・印旛郡、西側は葛飾郡・



第1図 日秀西遺跡と周辺の遺跡



1 弁天古墳 2 金塚古墳 3 日立精機1号墳 4 日立精機2号墳 5 我孫子第四小学校古墳 6 水神山古墳 7 高根古墳 8 羽黒前古墳 9 戸張一番割前方後方墳 10 浅間古墳 11 北ノ作1号墳 12 北ノ作2号墳 13 六本松古墳 14 鍵作古墳 15 中馬場遺跡 16 戸張城山遺跡 17 山田台遺跡 18 石場遺跡 19 片山宮前遺跡 20 日秀西遺跡 A 花野井古墳群 B 久寺家古墳群 C 根戸船戸古墳群 D 白山古墳群 E 子の神古墳群 F 高野山古墳群 G 香取神社古墳群 H 岡発戸古墳群 I 中峠上古墳群 J 中峠北古墳群 K 中峠南古墳群 L 中峠下古墳群 M 天神台古墳群 N 船戸古墳群 O 箕輪古墳群 P 天神塚古墳群 Q 北ノ内古墳群 R 片山古墳群 S 下柳戸古墳群 T 柏作古墳群

第2図 手賀沼周辺主要古墳分布図

猿島郡、北側は豊田郡に接する。高山寺本『倭名類從抄』には、相馬郡内の郷名として、大井・相馬・布佐・古溝・意部の5郷があげられている。他に、古活字本には餘戸郷がみられる。これらの郷名の内、現在も地名として残っているのは、沼南町西部の大井と我孫子市布佐であることから、それらの付近が各郷の所在地であろう。以外の郷の所在地を考えてみる。まず、相馬郷は郡名郷で郡衙所在郷とすることも可能であるが、「相馬」の墨書土器が出土した我孫子市緑は、手賀沼北西側にあり、日秀西遺跡からは4kmほど西側になる¹⁾。「相馬」の解釈が難しいが、総社から出土した「相馬」は郡名を表すことは確実であり、相馬郡内に郡名の墨書が出土していると考えよりは、郷名と考える方がより妥当と思われる。この解釈が正しければ、相馬郷内には郡衙が所在しないこととなる。古墳時代からの古墳の動向をみると、前述したように中期から後期にかけて中心的であった地域を「相馬郷」として当てられたのであろう。とすると、相馬郡衙はどの郷に属するのであろうか。「下総国倉麻郡意部郷戸籍」断簡はすべて藤原部姓であり、その中に「小毅大初位下 藤原部直白麻呂」という人物がみられる。「直」は郡司層を示す姓であり、「小毅」は軍団の長官、あるいは次官にあたる。郡司層の居宅や軍団は通常郡衙周辺に設けられることから、相馬郡衙は意部郷にあったものと推定される。この藤原部は、天平宝字元(757)年に「久須波良部」に改名している。我孫子市新木東台遺跡や西大作遺跡・羽黒前遺跡で「久須波良部」墨書土器が出土しており、新木地区が意部郷に含まれるものと思われる。意部郷は、新木地区から日秀西遺跡が所在する湖北地区周辺に想定されよう。他の古溝・餘部郷については不明である。

郡衙関連遺跡

1 概要

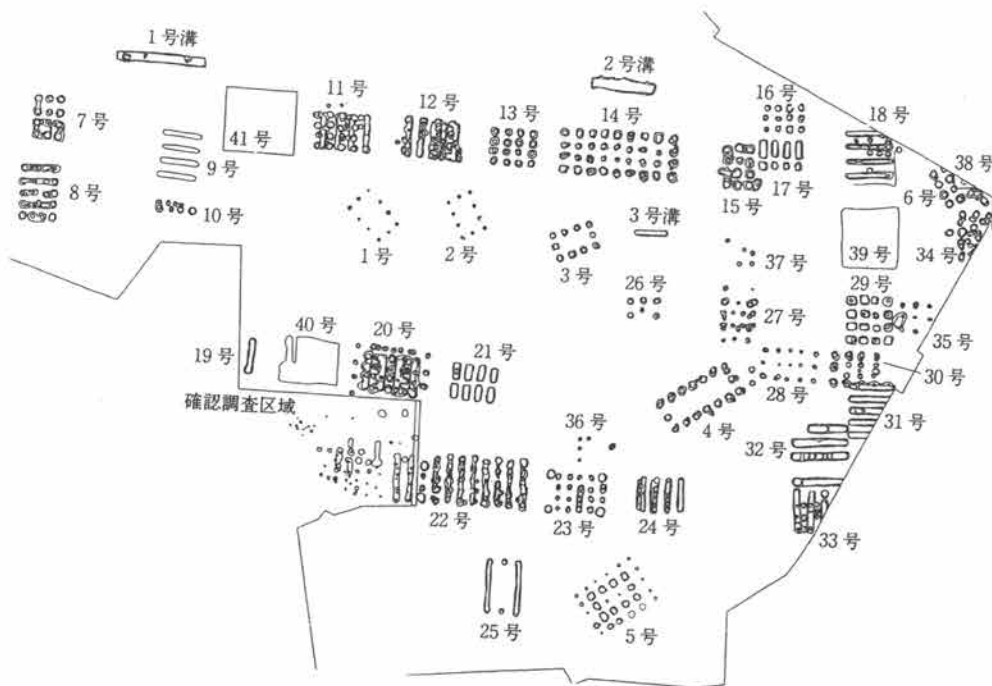
相馬郡衙に関連する遺跡としては、正倉とされる日秀西遺跡のほか、将門神社遺跡・野守遺跡・チアミ遺跡・西原遺跡・別当地遺跡などがある。これらの遺跡は、標高20m前後の台地上に近接して立地している。

日秀西遺跡

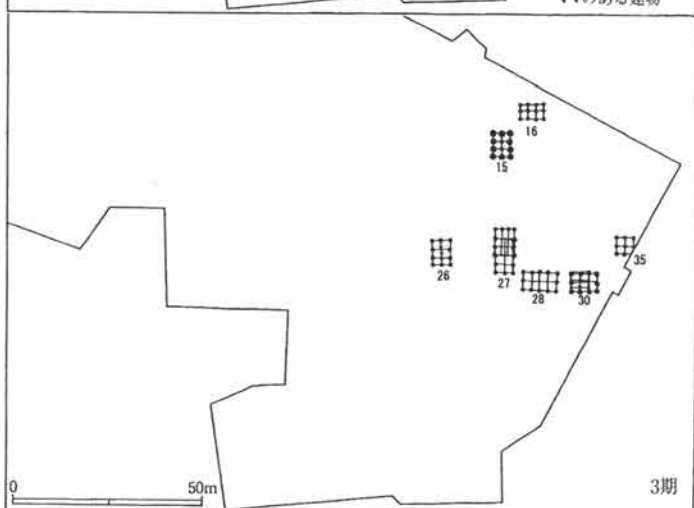
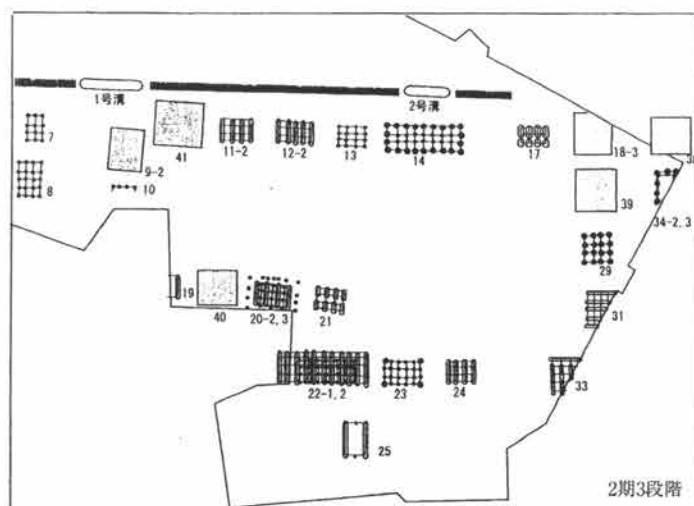
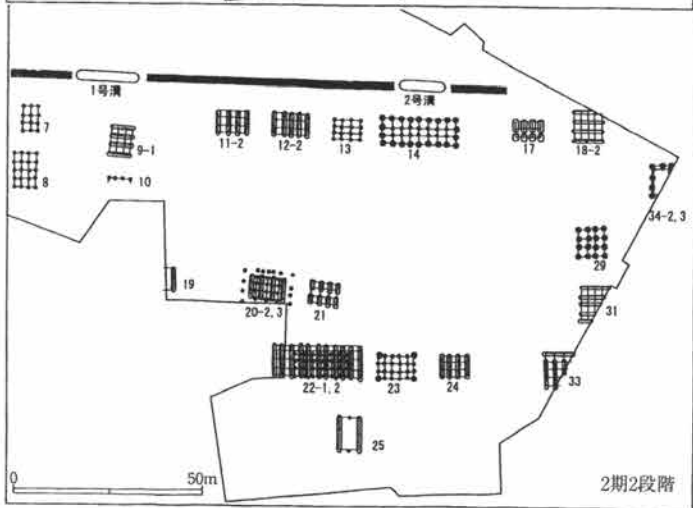
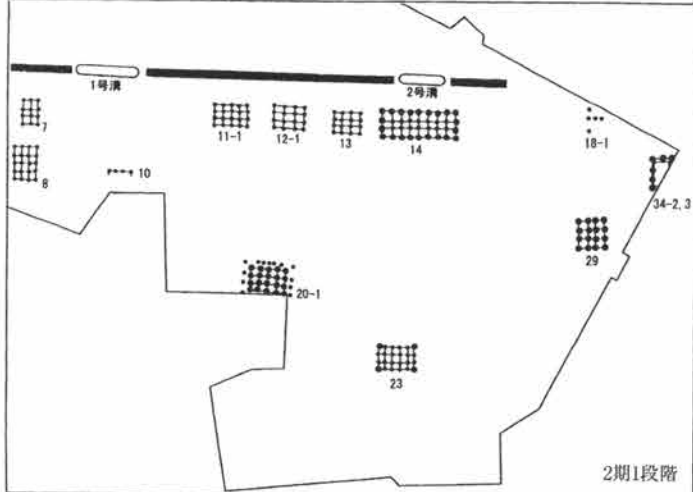
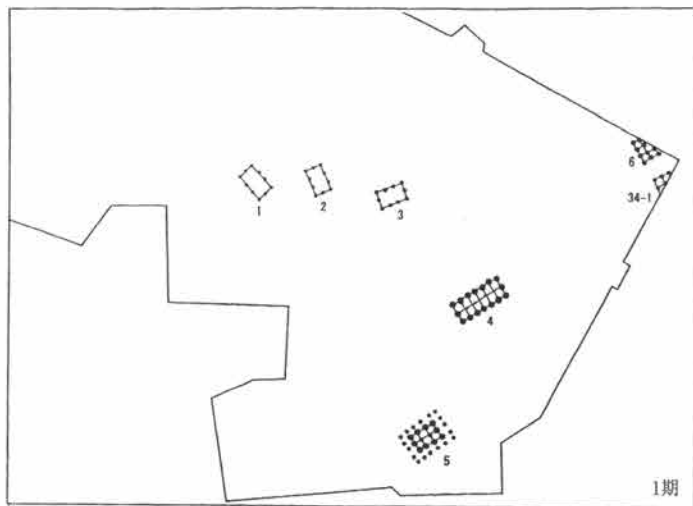
日秀西遺跡は、利根川と手賀沼に挟まれた東西に細長い台地上の手賀沼側に位置する。調査は1977年から1978年にかけて行われ、古墳時代後期の集落とともに南北約180m、東西約100mの範囲に整然と配置された倉庫群が検出された。

古墳時代後期の集落は、竪穴住居跡約180軒という大集落で、これを排除するかのように7世紀後半頃に建物群が営まれる。建物群の時期は、大きく北西方向に主軸を採る先行する側柱建物群と、ほぼ真北に主軸を採る後出の総柱建物群に分けられる。その時期別変遷については、大野氏により実年代観が提示され²⁾、それを受けて、その後調査された周囲の遺跡などを加味して辻氏により検討された³⁾。ここでは、辻氏の変遷をもとに説明していく。なお、辻氏は古墳時代後期の集落を第1期、建物群を2期以降にしているが、説明の都合上第1期を省略し、2期を1期と読み替えている。

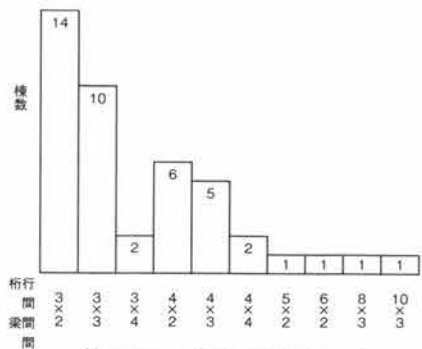
1期は、古墳時代後期からの竪穴住居の主軸方向と近い建物群で、主軸が西に32°～35°振れる。後続する時期の建物との重複関係から先行する時期であることは明らかである。全体的に小規模であるが、平面積68㎡を測る2×6間の長大な4号建物跡を含んでおり、官衙的な建物である。大野氏は「プレ郡家期の建物」とし、山中氏は「評衙」⁴⁾、辻氏は評家及び郡へ移行する郡家としている。時期は、7世紀後葉から8世紀前葉頃である。次の2期になると正倉群が形成され、主軸方向はほぼ真北を向くようになる。建物構造は、基本的に、坪掘り掘立柱建物から布掘り掘立柱建物、基壇を伴う礎石建物へと変化していく。



第3図 日秀西遺跡建物跡分布図



第4図 日秀西遺跡建物群変遷図



第5図 建物規模別棟数

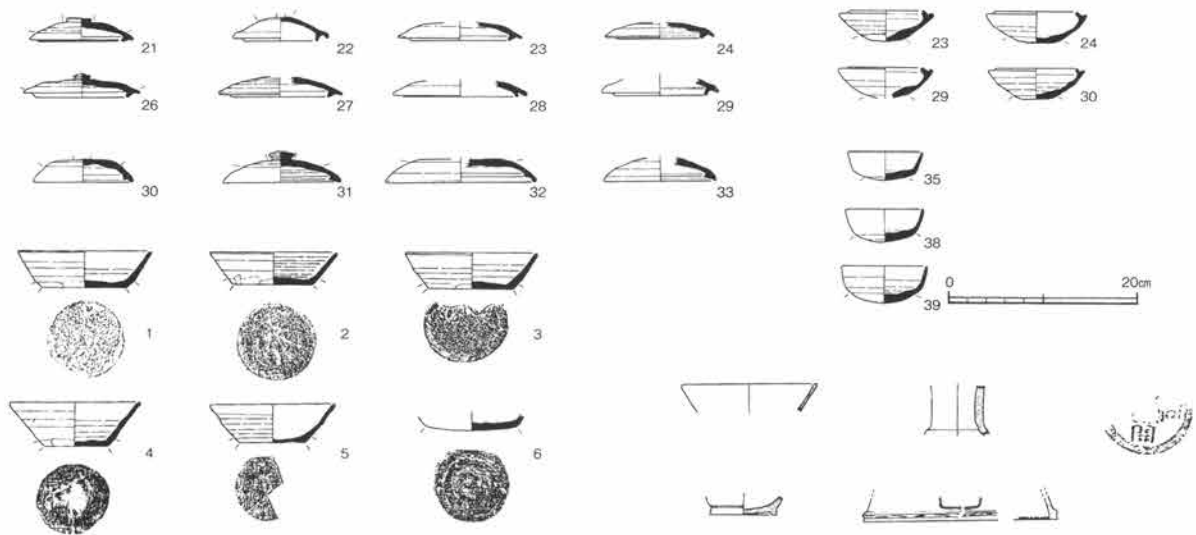
第3表 日秀西遺跡掘立柱建物跡・基壇建物跡一覧表

遺構		規模	棟方向	桁行		梁間		面積	時期	備考
		(間)	角度	総長m	柱間m(尺)	総長m	柱間m(尺)			
1号建物跡		3×2	N43° W	7.8	2.7(9)	4.8	2.4(8)	37.44	1期	
					2.4(8)					
2		3×2	N23° W	7.2	24.0(8)	4.2	21.0(7)	30.24	1期	
3		3×2	N19° E	7.2	24.0(8)	4.2	21.0(7)	30.24	1期	
4		6×2	N33° E	12.6	21.0(7)	5.4	27.0(9)	68.04	1期	
5		3×2	N35° E	7.2	24.0(8)	4.8	24.0(8)	34.56	1期	
6		3×2	N32° W	6.3	2.1(7)	4.8	24.0(8)	30.24	1期	
7		3×2	N3° W	6.3	2.1(7)	4.2	21.0(7)	26.46	2期-1	
8		4×3	N30° E	9.6	24.0(8)	5.4	1.8(6)	51.84	2期-1	
9	1	3×3	N7° 30' E	7.2	24.0(8)	5.4	1.8(6)	38.88	2期-2	
	2	◇(?)	◇(?)	◇(?)	◇(?)	◇(?)	◇(?)	◇(?)	2期-3	礎石建物
10		×3				6.3	21.0(7)	0	2期-1	
11	1	3×3	N1° W	6.3	2.1(7)	5.4	1.8(6)	34.02	2期-1	
	2	4×3	N1° W	8.4	2.1(7)	5.4	1.8(6)	45.36	2期-2	
	3	3×3	N20° W	7.5	27.0(9)	5.4	1.8(6)	40.5		炭化柱残存
				2.1(7)						
12	1	3×3	N2° 30' E	8.1	2.7(9)	5.4	1.8(6)	43.74	2期-1	
	2	4×4	N3° 30' E	8.4	2.1(7)	6.0	1.5(5)	50.4	2期-2	
13		3×3	N1° E	7.2	24.0(8)	5.4	1.8(6)	38.88	2期-1	2期の3まで
14		8×3	N2° E	19.2	24.0(8)	5.4	1.8(6)	103.68	2期-1	2期の3まで
15		3×2	N30° E	6.3	2.1(7)	4.2	2.1(7)	26.46	3期	
16		3×2	N30° E	6.3	2.1(7)	4.2	2.1(7)	26.46	3期	
17		3×2	N1° 30' E	6.3	24.0(8)	4.2	2.1(7)	26.46	2期-2	
18	1	3×2	N30° E	5.4	1.8(6)	3.6		19.44	2期-1	
	2	3×4	N3° 30' W	8.1	2.7(9)	7.2		58.32	2期-2	
	3	3×4	N3° 30' W	8.1	2.7(9)	7.2		58.32	2期-3	礎石建物
19		×3?	N5° E					0	2期-2	
20	1	4×2	N5° E	7.2	1.8(6)	6.0	3.0(10)	43.2	2期-1	
	2	3×3	N5° E	8.1	2.7(9)	5.4	1.8(6)	43.74	2期-2	
	3	4×3	N5° 30' E	8.4	2.1(7)	5.4	1.8(6)	45.36	2期-2	
21		3×2	N5° 30' E	7.2	2.4(8)	3.6	1.8(6)	25.92	2期-2	
22	1	10(?)×3	N1° W	24.0	2.4(8)	6.3	2.1(7)	151.2	2期-2	
	2	6以上×3	N1° 30' E		2.4(8)	6.3	2.1(7)	151.2	2期-2	
23		4×2	N1° E	8.4	2.1(7)	4.2	2.1(7)	35.28	2期-1	2期の3まで
24		4×2	0	6.3	2.1(7)	5.4	1.8(6)	34.02	2期-2	
25		5×2	N1° 30' E	9.0	1.8(6)	5.4	2.7(9)	48.6	2期-2	
26		3×2	N2° W	7.2	2.4(8)	4.8	2.4(8)	34.56	3期	
27	1	4×2	0	9.6	2.4(8)	4.8	2.4(8)	46.08	3期	
	2	3×3	0	8.4	2.4(8)	5.4	1.8(6)	45.36	3期	
28		4×2	N3° E	9.6	2.4(8)	4.8	2.4(8)	46.08	3期	
29		3×3	N2° 30' E	8.4	2.4(8)	6.3	2.1(7)	52.92	2期-1	2期の3まで
30	1	4×2	N1° W	9.6	2.4(8)	4.8	2.4(8)	46.08	3期	
	2	3×2	0	7.2	2.4(8)	4.2	2.1(7)	30.24	3期	
31		4×4	N1° W	8.4	2.1(7)	7.2	1.8(6)	60.48	2期-2	
32								0		
33		4×3	N2° W	8.4	2.1(7)	7.2	2.4(8)	60.48	2期-2	
34	1	×2	N32° 30' W		2.1(7)	4.2	2.1(7)	—	1期	
	2	3×2	N1° E	6.3	2.1(7)	4.2	2.1(7)	26.46	2期-1	2期の3まで
	3	4×2	0	8.4	2.1(7)	5.4	2.7(9)	45.36	2期-1	2期の3まで
35		×2			2.4(8)	4.8	2.4(8)	—	3期	
36		×2			2.4(8)	4.8	2.4(8)	—		
37		4×3		7.2	1.8(6)	5.4	1.8(6)	38.88		
38									2期-3	礎石建物
39									2期-3	礎石建物
40									2期-3	礎石建物
41									2期-3	礎石建物

つまり、1段階の建物が、2段階になると布掘りに改修され、新たな布掘り建物が加わる。3段階にはそれらに掘り込み地業を施した基壇建物が新たに配置されようになる。2期の年代は、8世紀第2四半期後半から9世紀初頭頃までとしている。3期は、2期の主軸方向を継承しているが、極端に小規模となり、調査区東側に集中している。その終末時期については明らかではないが、後述する野守遺跡の溝が機能しなくなる9世紀末から10世紀初頭の年代が想定されよう。

中心となる2期の正倉はほとんどが総柱建物で、全体で30棟以上みられる。東西南北の各方向に口の字型に配置され、南側は2列になる。建物群の中では、北側の14号建物跡と南側の22号建物跡が各列のほぼ中央に位置し、建物面積100㎡以上を誇る大型の建物で、法倉に匹敵する規模である。建物の年代については明確ではないが、西側の9号建物の版築内から和同開珎の銀銭が出土しており、掘立柱建物から礎石建物への改築時期が8世紀前半以降である可能性を示している。また、北列の14号建物から9m離れた位置に掘り込まれた1・2号溝は、正倉を区画する北側溝と思われる。

日秀西遺跡は、古墳時代から続く集落が7世紀後半に姿を消し、倉庫群に先行する建物が官衙的な様相を持って成立してくる。その時期は、7世紀後半頃から8世紀始め頃までの比較的短期間である。その後、正倉がほぼ真北に主軸を揃えて配置され、9世紀初頭頃まで展開している。そして、小規模な建物で構成される施設が継続し、9世紀末から10世紀初め頃に機能が消失するようになる。



第6図 日秀西遺跡出土遺物

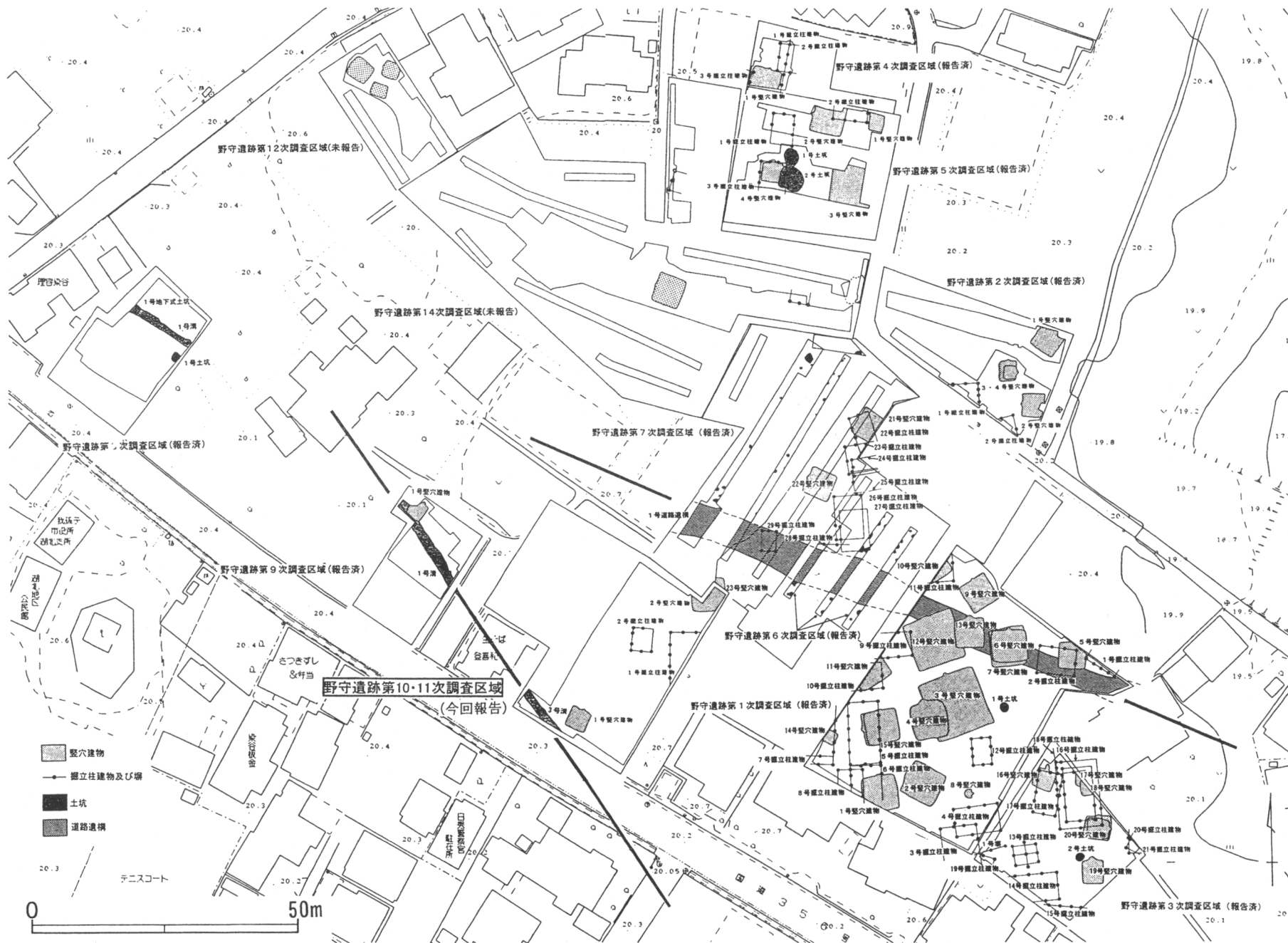
野守遺跡

日秀西遺跡の北東約500mに位置し、7世紀代から9世紀後半までの遺構が確認されている。8世紀第2四半期までは大型の竪穴住居を含む竪穴群で構成されるが、8世紀第3四半期から9世紀第2四半期にかけて竪穴住居とともに掘立柱建物群が営まれている。側柱建物のみで、2間×3間の建物を主体とし、2間×5間が1棟、四面庇付建物が1棟である。一方、8世紀後半の4号竪穴住居からは8点の青銅製帯金具が検出され、9世紀前半から中頃の19号竪穴住居から「介」・「丁」の墨書土器が出土している。これらの墨書土器が役職を示すものであるならば、郡衙に関連する施設として捉えることができよう。報告では館や厨などを想定している。



第7図 日秀西遺跡と溝

第8図 野守遺跡遺構全体図 (1/1,000)



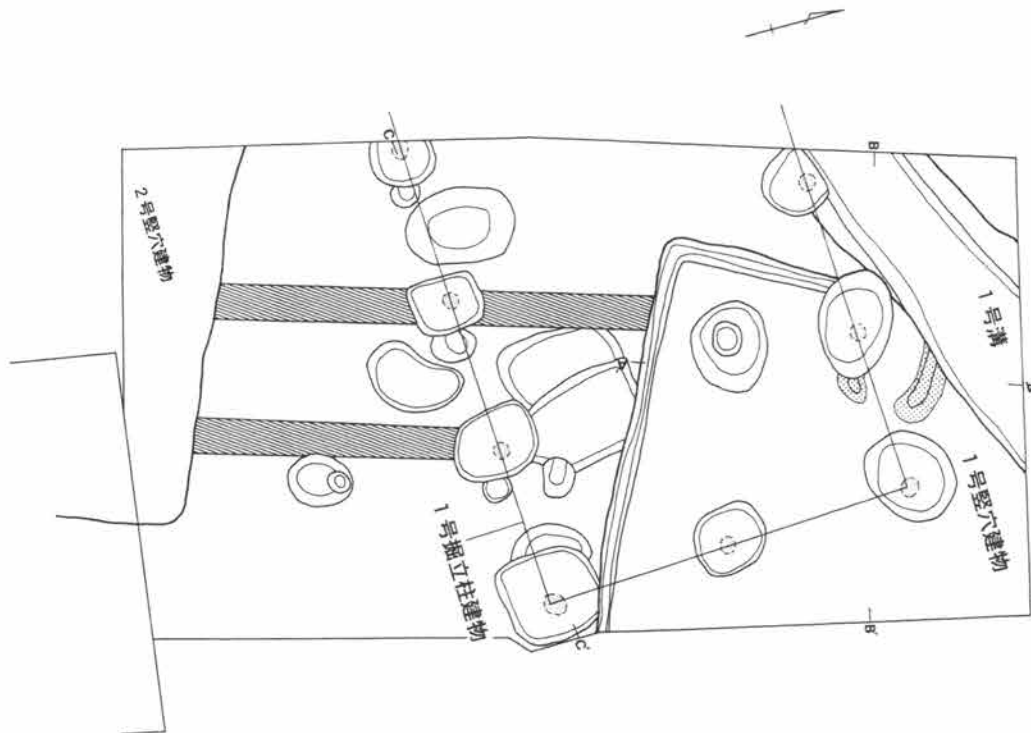
将門神社遺跡

日秀西遺跡の南東に隣接する。古墳時代の竪穴住居は日秀西遺跡とほぼ同様である。この遺跡で注目されるのは、幅2～3mの逆台形状を呈する大溝の存在である。竪穴住居を切っており、その重複関係から7世紀後半以降に掘削されている。また、出土土器から、10世紀初頭ごろには埋没しているようである。溝の方向をみると、日秀西遺跡の倉庫群とは異なり、第1期とした建物群の軸方向に近い。この大溝の性格については明らかではないが、その位置からみて、正倉域を区画するものではなく、評衙あるいは郡衙を区画する何らかの溝ではないかと思われる。一方で、この溝を西側に延ばしていくと、人工的に整形された可能性がある斜面につながっていく。後述する官道との関係から、道路遺構に伴う溝とも考えられる。

西原遺跡

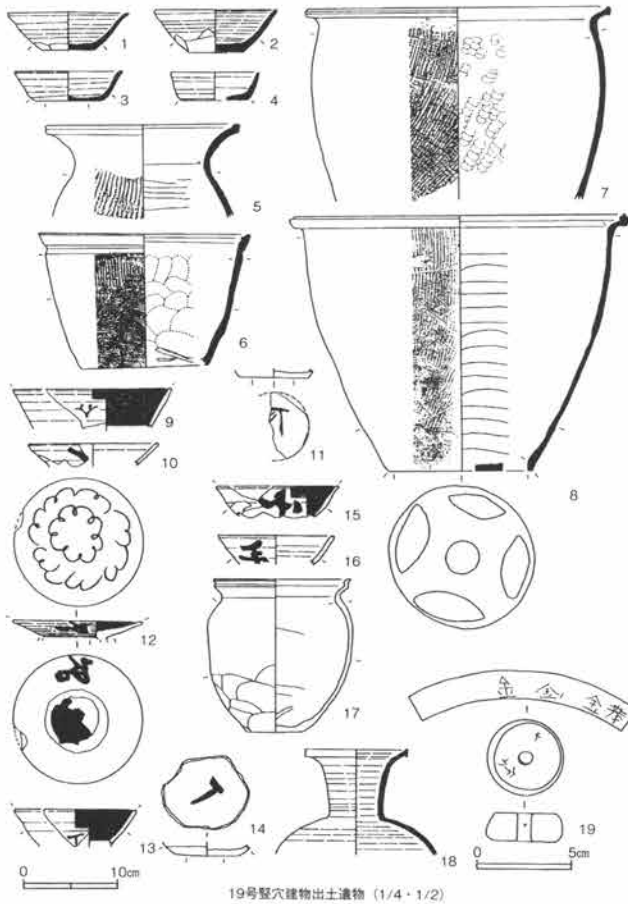
日秀西遺跡の北側に隣接する。検出された遺構群の中では、第2・3次調査で確認された1号溝と第2次調査で1号溝を切って設けられた2間×3間以上の側柱建物が注目される。1号溝は、幅2m前後で逆台形状の断面形を呈する。溝の存続時期は明確ではないが、報告では7世紀前半を上限とし、10世紀頃前半まで機能していた可能性が指摘され、溝を埋め戻した後に掘立柱建物を建てたことが想定されている。そして、将門神社遺跡で検出された溝と平行することから郡衙を区画する溝としている。

この掘立柱建物は、日秀西遺跡の正倉群と軸を同じくし、桁行2.1m等間、梁行2.4m等間と、官衙の建物として遜色ない規模であり、このような建物が郡衙が終息した10世紀初頭以降に営まれるであろうか。溝が埋め戻された時期の根拠として、覆土上層から出土した杯と椀の2点の小片があげられている。報告でも攪乱などにより入り込んできた可能性も指摘されており、掘立柱建物が日秀西遺跡の2期以降の建物と考えられること、溝の方向が日秀西遺跡1期建物群の軸と類似することなどから、この溝は1期段階の施設を区画する溝であり、2期以降には埋め戻された可能性が高いと思われる。



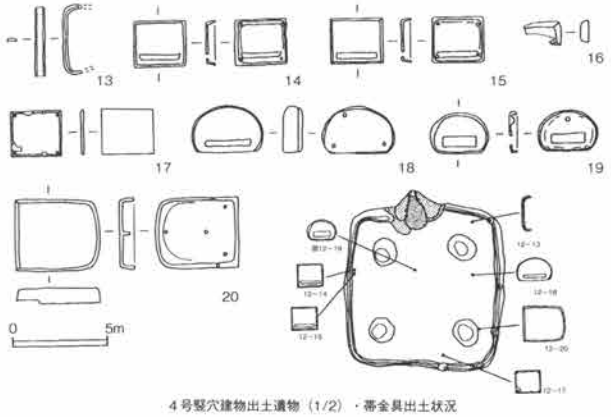
第9図 西原遺跡第2次調査

野守遺跡 (第3次)



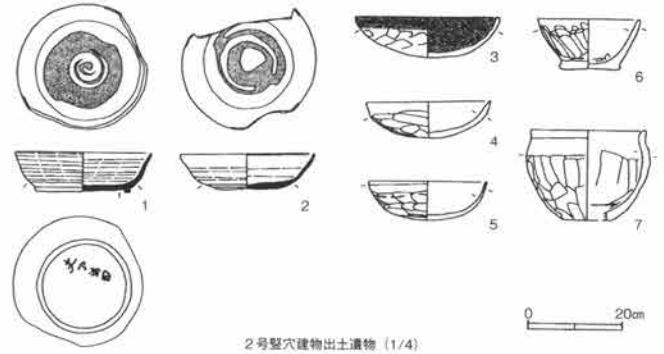
19号竪穴建物出土遺物 (1/4・1/2)

野守遺跡 (第1次)



4号竪穴建物出土遺物 (1/2)・帯金具出土状況

別当地遺跡 (第6次)



2号竪穴建物出土遺物 (1/4)

第10図 各遺跡出土遺物

別当地遺跡

西原遺跡の西側に隣接し、11次に及ぶ調査で6世紀から9世紀にかけての竪穴住居が39軒確認されている。古墳時代後期の住居数が多いものの、郡衙が機能している8世紀から9世紀の竪穴住居も存続している。野守遺跡や西原遺跡同様、郡衙周辺を取り巻く集落と考えられる。この遺跡でも幅2m前後の溝が確認されている。溝の覆土に貼り床をして構築された竪穴住居との関係から、9世紀前半頃に埋め戻された可能性が高いが、軸をほぼ東西方向に有していることから、郡衙の何らかの施設に伴う区画溝と捉えることができよう。

チアミ遺跡

西原遺跡の東側に隣接し、古墳時代後期から8世紀にかけての竪穴住居が確認され、郡衙を取り巻く集落として捉えることができる。本遺跡で検出された掘立柱建物は、柱掘りかたの規模も小さく、主軸方向も日秀西遺跡の建物群とは異なるため、性格が異なると思われる。また、幅2m前後の溝も確認されている。西原遺跡の溝とは繋がらないが、規模や掘りかたからみて、何らかの区画溝と考えられる。

日秀西遺跡を中心に関連する周辺遺跡を概観してみた。日秀西遺跡を含めて6世紀以降形成される大規模な集落が、日秀西遺跡では集落を排除するような形で7世紀末頃に初期の官衙的建物が成立する。8世紀前半頃に郡衙に伴う正倉が営まれ、8世紀中頃に礎石建物に改修され、盛期を迎えるようになる。一方、周辺の集落では、8世紀以降も竪穴住居が継続しているが、野守遺跡では、側柱の建物と竪穴住居が共存

し、「介」など日秀西遺跡ではみられない役職名の墨書土器が出土し、郡衙に伴う館あるいは厨の施設が想定されている。中心施設である政庁域は特定されていないが、西嶋氏や下津谷氏によって、「宮台」の地名などから、日秀西遺跡の西側に位置する舌状台地を推定している⁵⁾。一方、舌状台地基部を対象とした別当地遺跡第1次調査で、8世紀～9世紀代の竪穴住居跡が確認されたことから、辻氏は政庁隣接地に竪穴住居が共存する可能性は低いとし、将門神社が所在する将門神社遺跡付近に想定している⁶⁾。遺跡が位置する台地は、幅200mほどの広さを有し、方形状となっていることから、政庁を営むには格好の場所と思われる。今後の調査の進展により明らかにされるであろう。

註

- 1 我孫子市史に記述されているが、実測図は公表されていない。我孫子市教育委員会の辻 史郎氏に確認したところ、小片のため、土器の時期は明確ではないとのことである。
- 2 大野 康男 「下総国相馬郡正倉跡の再検討」『千葉県文化財センター研究紀要10』(財)千葉県文化財センター
- 3 辻 史郎 2005 「下総国相馬郡家正倉をめぐる一考察」『古代東国の考古学』(大金宣亮氏追悼記念論文集) 大金宣亮氏追悼記念論文刊行会
- 4 山中 敏史 1994 『古代地方官衙遺跡の研究』 塙書房
- 5 西嶋定生・下津谷達男 1990 「対談 古代下総国の相馬郡と葛飾郡」『我孫子市史研究』14 我孫子市教育委員会
- 6 註3と同じ

参考文献

- (財)千葉県文化財センター 1982 『千葉県我孫子市日秀西遺跡発掘調査報告書』
- 辻 史郎ほか 1999 『西原遺跡第2～6次発掘調査報告書』 我孫子市教育委員会
- 辻 史郎ほか 2000 『別当地遺跡第6次発掘調査報告書』 我孫子市教育委員会
- 辻 史郎ほか 2001 『平成12年度市内遺跡発掘調査報告書 五郎地遺跡第1次・野守遺跡第5次』 我孫子市教育委員会
- 辻 史郎ほか 2001 『野守遺跡 第2次・第4次発掘調査報告書』 我孫子市教育委員会
- 辻 史郎ほか 2003 『野守遺跡 第1・3・7次調査』 我孫子市教育委員会
- 辻 史郎ほか 2004 『チアミ遺跡 第7・8・10次発掘調査報告書』 我孫子市教育委員会
- 辻 史郎ほか 2004 『平成15年度市内遺跡発掘調査報告書 野守遺跡第8・9次 高根遺跡第2次 遠坪遺跡第4次』 我孫子市教育委員会
- 辻 史郎ほか 2005 『平成16年度市内遺跡発掘調査報告書 野守遺跡第12次 君作遺跡第12次 船戸西遺跡第7次』 我孫子市教育委員会
- 辻 史郎 2005 『将門神社遺跡・野守遺跡 将門神社遺跡第1次調査 野守遺跡第10・11次調査』 我孫子市教育委員会

2 埴生郡

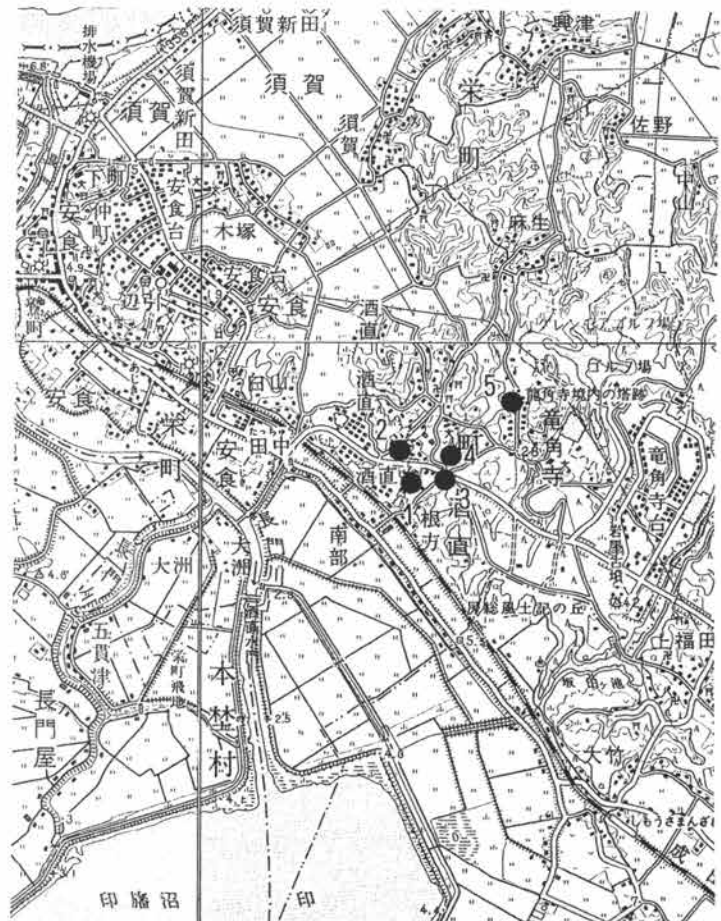
沿革

埴生郡は、西から南にかけて印旛郡と、東は香取郡と接している。埴生は、「和名抄」東急本などにより「波牟布」と訓を付し、「延喜式」民部省では「ハニフ」と訓読みしている。

埴生郡の成立については、前代の古墳時代からの動向が注目される。国造制下においては、印波国造の領域に含まれていたものと推定される後の埴生郡内には、終末期古墳や初期寺院などが確認されている。古墳時代後期から終末期にかけて築造された竜角寺古墳群のなかで、最後の前方後円墳として位置づけられるのが浅間山古墳である。調査の結果、全長78m、後円部径52m、前方部幅63mを測り、2段のテラスを有する3段築成の前方後円墳であることが明らかとなった。石室は、複室構造の横穴式石室で、石室内より金銅製杏葉や小札、銀製冠飾り、金銅製透かし彫り飾り金具などの副葬品が検出されている。これらの遺物や墳形、石室の形状などから、本古墳は6世紀末頃に築かれ、7世紀第2四半期に埋葬が行われた古墳と推定されている。大形の方墳である岩屋古墳は、一辺80m、高さ12.4mを測り、南側に開口する2基の横穴式石室が確認されている。副葬品などの遺物が明らかでないため、明確な築造時期は不明といわざるを得ないが、同様の類似する大形方墳の築造時期が7世紀前半に集中していること、本方墳の中心的な石室である東石室が最終段階の前方後円墳である我孫子市日立精機1号墳や2号墳に近いことなどから本方墳の築造年代は、7世紀前半でも古い段階、すなわち7世紀第1四半期頃と考えられる。

一方、初期寺院である龍角寺跡は、金堂跡や塔跡を中心に調査が行われ、出土した山田寺式の三重圈文縁単弁八葉蓮華文軒丸瓦から、同時の創建が7世紀第3四半期までさかのぼる可能性が考えられている。

郡内の規模の大きな古墳の状況からみて、6世紀後半以降印波国造の本拠地として機能していた地域と想定される。そして、7世紀第1四半期に岩屋古墳が築造され、7世紀第3四半期に龍角寺が創建される。このような動向の背景には、印波国造の存在を考えなければならない。印波国造については、従来から丈部直と考えられている。それは、山田寺式の瓦当文様の祖型が、百濟大寺に比定される奈良県吉備池廃寺から出土し、山田寺式の瓦当文様の東国への伝播には、百濟大寺の造営にも関係した阿部氏の影響が指摘され、阿部氏の支配する部民である丈部の関与が想定されている。このこ



1 酒直遺跡 2 向台遺跡 3 大畑 I 遺跡 4 大畑 I-2 遺跡 5 龍角寺

第11図 大畑 I 遺跡と周辺の遺跡

とから、龍角寺の造営主体者や龍角寺と密接な関係を有する岩屋古墳の被葬者には、丈部直を名乗る豪族が浮かび上がってくる。

ただ、丈部には限らないという見解もある。それは、平城京（二条大路）跡出土木簡に「左兵衛下総国埴生郡大生直野上養布十段」とあり、下総国埴生郡出身の大生部直野上に養布十段を送った内容である。「直」は東国の国造・郡司に多い姓であり、「兵衛」は、軍防令によると、郡司の子弟の内弓馬に巧みな者が郡別に一人選ばれていたり、兵衛が郡司に任じられる場合があることなどから、埴生郡の郡司は大生部直であることが考えられる。

印波国は、649(大化5)年に印波評が、653(白雉4)年に埴生評が分割して成立する。この7世紀中葉から後半の時期は、埴生評内に有力な方墳が築かれ、初期寺院も造営される。印波評内にはそれらが認められないことからすると、ある時期本貫地が印波評内から埴生評内に移っていったことが想定される。

埴生郡には、「和名抄」によると、玉作・山方・麻在・酢取の4郷がみられる。玉作郷は、平城京出土の木簡に「玉作郷戸主玉作・・・・」と記されている。当郷に比定される成田市松崎・福田周辺では、古墳時代中期の玉作遺跡が集中している。埴生Ⅰ-2遺跡からは、「玉作」とヘラ書きされた瓦が出土している。この遺跡は玉作郷には属さないと思われ、これが郷名とすれば、玉作郷から郡衙周辺に持ち込まれたものと思われる。山方郷は、中世に見える遠山方郷と関連し、成田市南部の東和田・畑ヶ田一帯に比定されている。麻佐郷は、762(天平宝字6)年に、埴生郡阿佐郷の戸主占部国万呂戸口の占部小足が石山院大般若経所に仕丁として出仕していたが、五月に逃亡しているという史料が正倉院文書に残っている。麻佐の表記から、栄町麻生・酒直・安食一帯が当郷に比定されている。酢取郷は、羽取の誤記とし、成田市羽鳥地区に比定する説がある。羽取は、服部部との関連が強く、龍角寺出土の「服止部」や五斗葺瓦窯跡出土の「服止」の文字瓦の出土から、この地域が瓦供給の一部であったことが明らかである。

郡衙関連遺跡

1 概要

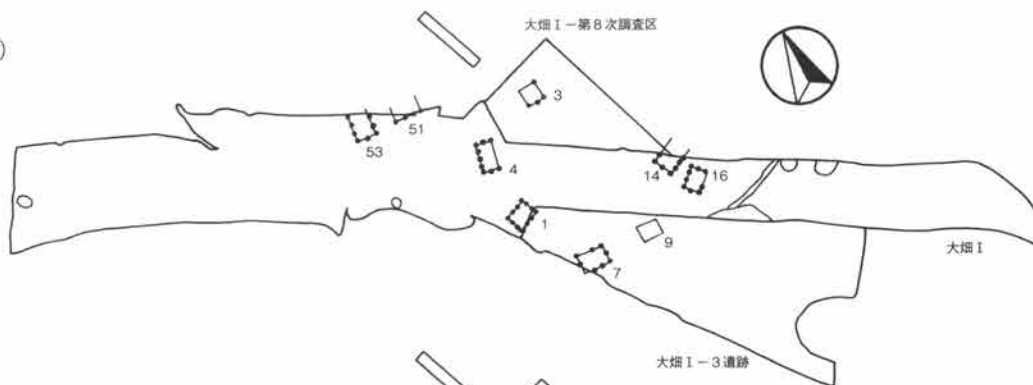
埴生郡衙関連遺跡には、大畑Ⅰ遺跡・大畑Ⅰ-2遺跡・大畑Ⅰ-3遺跡・酒直遺跡・向台遺跡・向台Ⅱ遺跡などが調査されている。これらの遺跡は、印旛沼北東岸の標高28~30mの台地上に所在する。

埴生郡の郡衙推定地の調査としては、昭和55年から千葉県文化財センターにより道路建設に先立って向台遺跡、大畑Ⅰ・Ⅰ-2遺跡の調査が行われ、埴生郡衙の可能性が指摘された。それを受けて、昭和60年からは、官衙の規模や構造を解明するための確認調査が行われた。

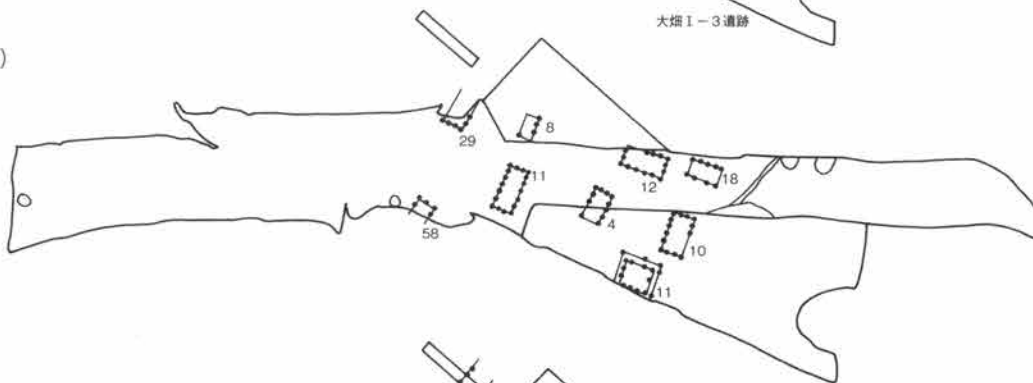
大畑Ⅰ遺跡では、古墳時代の竪穴住居跡53軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡7軒、古墳時代の掘立柱建物跡4棟、奈良・平安時代の掘立柱建物跡61棟などが検出されている。古墳時代からの集落は7世紀第4四半期に減少し、以降掘立柱建物群が中心となる。大畑Ⅰ遺跡に接する大畑Ⅰ-3遺跡では、古墳時代後期の古墳2基と奈良・平安時代の掘立柱建物跡11棟などが検出された。掘立柱建物跡のうち5棟は大畑Ⅰ遺跡につながるものである。

掘立柱建物群の変遷をみてみると、建物の方向や切り合い関係から大きく5期に分けられる¹⁾。第Ⅰ期(7世紀第4四半期)は、2間×3間の小規模な建物で構成される。その配置は散漫としており、規則的な傾向は伺われない。第Ⅱ期(8世紀第1四半期)になると、掘立柱建物の規模が大きくなるとともに、棟方向がほぼ同様に、規則的な配置がみられるようになる。SB11のように、3間×9間以上の長大な建

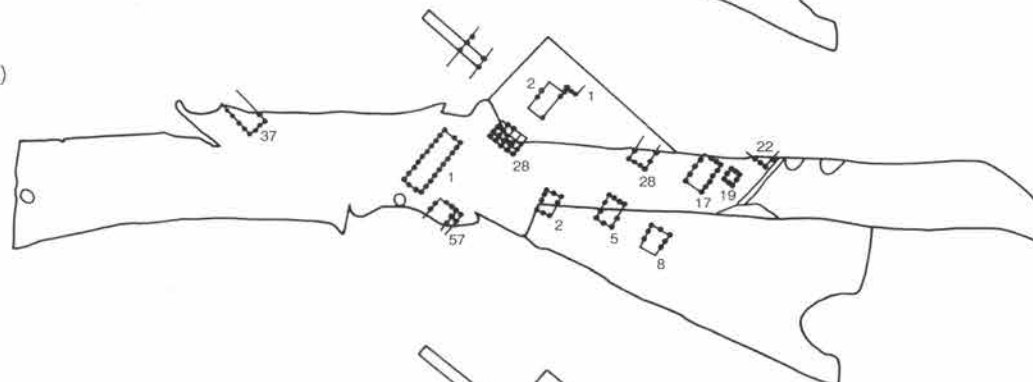
I 期
(7世紀第4四半期)



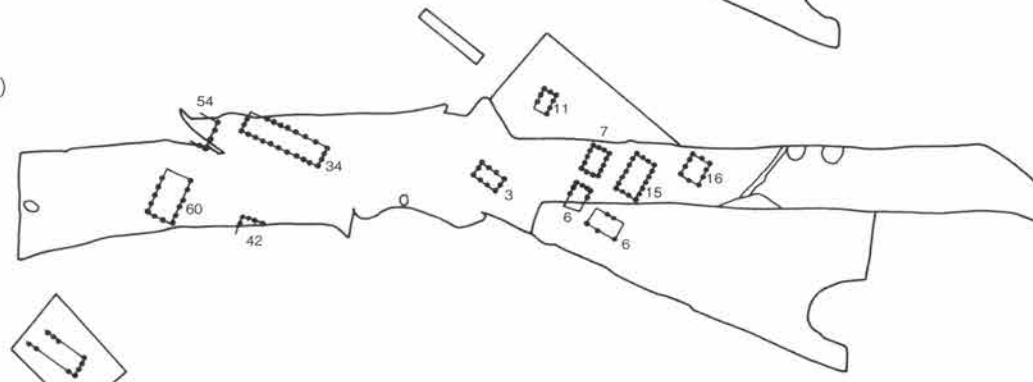
II 期
(7世紀第4四半期)



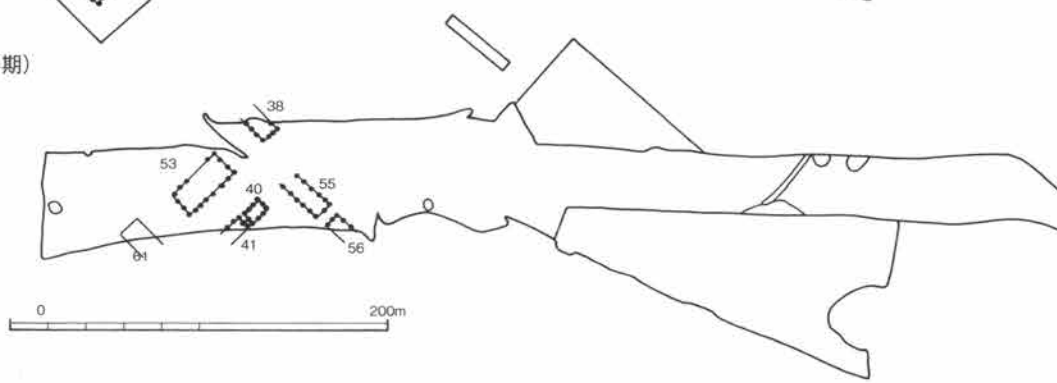
III 期
(7世紀第4四半期)



IV 期
(7世紀第4四半期)



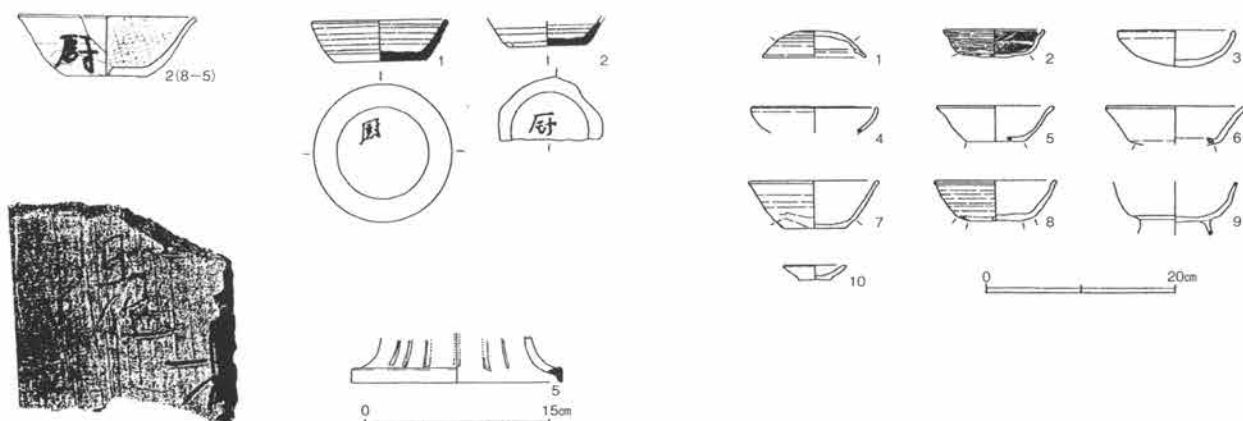
V 期
(7世紀第4四半期)



第12図 大畑 I 遺跡建物群変遷図

第4表 大畑I遺跡掘立柱建物跡一覽表

遺跡名	遺構	面積 (㎡)	規模	棟方向	桁行	梁間	時期
			(間)	角度	総長m	総長m	
大畑I遺跡	SB1	100.89	9×3	N60° E	17.7	5.7	Ⅲ
	SB2	21.66	3×2	N32° W	5.7	3.8	Ⅲ
	SB3	29.52	3×2	N33° W	7.2	4.1	I
	SB4	34.76	4×2	N1° E	7.9	4.4	I
	SB5	27.0	4×2	N49° E	6.0	4.5	—
	SB6	—	×3	N49° E	—	4.6	Ⅳ
	SB7	33.3	4×3	N48° E	7.4	4.5	Ⅳ
	SB8	—	×3	N23° W	—	4.2	Ⅱ
	SB9	—	×3	N33° W	—	4.6	—
	SB10	—	×2	N49° E	—	4.6	—
	SB11	—	×3	N45° E	—	5.3	Ⅳ
	SB12	67.26	5×3	N49° W	11.8	5.7	Ⅱ
	SB13	—	×3	N52° E	—	5.2	Ⅲ
	SB14	—	×3	N57° E	—	5.4	I
	SB15	65.88	6×3	N54° E	10.8	6.1	Ⅳ
	SB16	35.64	3×2	N54° E	6.6	5.4	I
	SB17	52.08	5×3	N57° E	9.3	5.6	Ⅲ
	SB18	39.15	4×2	N48° W	8.7	4.5	—
	SB19	10.44	2×2	N55° E	3.6	2.9	Ⅲ
	SB20	22.95	3×2	N42° E	5.1	4.5	Ⅳ
	SB21	—	×	—	—	—	—
	SB22	—	×	—	—	—	Ⅲ
	SB23	—	×3	N50° E	—	5.1	—
	SB24	—	×3	N52° E	—	5.1	—
	SB25	31.5	3×3	N60° E	6.3	5.0	—
	SB26	22.32	3×2	N69° E	6.2	3.6	—
	SB27	—	×2	N58° E	—	4.7	—
	SB28	—	4×	N58° E	8.3	—	Ⅲ
	SB29	—	×3	N52° E	—	5.8	Ⅱ
	SB30	51.52	4×3	N58° E	9.2	5.6	—
	SB31	18.81	3×2	N56° E	5.7	3.3	—
	SB32	22.44	3×1	N43° W	6.8	3.3	—
	SB33	40.15	3×3	N4° W	7.3	5.5	—
SB34	—	×3	N41° W	—	5.7	Ⅳ	
SB35	—	×	—	—	—	—	
SB36	—	3×	N49° E	7.3	—	—	
SB37	—	×3	N22° W	—	5.7	Ⅲ	
SB38	—	×3	N22° W	—	5.2	V	
SB39	25.83	3×2	N30° E	6.3	4.1	—	
SB40	20.67	×2	N70° E	5.3	3.9	V	
SB41	—	×2	N70° E	—	4.1	V	
SB42	—	×2	N51° E	—	3.6	Ⅳ	
SB43	—	×2	N2° E	—	4.6	—	
SB44	—	×2	N57° E	—	3.6	—	
SB45	—	×2	N58° E	—	4.7	—	
SB46	—	×3	N35° W	—	5.1	—	
SB47	—	×	—	—	—	—	
SB48	—	×	—	—	—	—	
SB49	25.62	3×2	N56° E	6.1	4.2	—	
SB50	9.72	2×1	N30° W	3.6	2.7	—	
SB51	—	3×	N3° W	7.6	—	I	
SB52	—	×2	N38° W	—	5.2	—	
SB53	119.32	6×3	N68° E	15.7	7.6	V	
SB54	—	×3	N40° W	—	8.1	Ⅳ	
SB55	73.95	6×2	N23° W	14.5	5.1	V	
SB56	—	×2	N22° W	—	4.3	V	
SB57	—	×3	N62° E	—	5.7	Ⅲ	
SB58	—	×2	N57° E	—	4.9	Ⅱ	
SB59	96.48	5×3	N68° E	13.4	7.2	Ⅳ	
SB60	102.18	5×3	N48° E	13.1	7.8	—	
SB61	—	×3	N22° W	—	6.3	V	
SB62	—	×2	N22° W	—	4.3	—	
SB63	12.42	2×2	N51° E	4.6	2.7	—	
SB64	—	×	—	—	—	—	
SB65	71.54	6×2	N38° W	14.6	4.9	—	
大畑I-3遺跡	3-SB1	31.5	3×3	N60° E	6.3	5.0	I
	3-SB2	15.3	4×2	N49° E	3.4	4.5	Ⅲ
	3-SB3	17.1	4×3	N49° E	3.8	4.5	Ⅳ
	3-SB4	46.8	4×3	N50° E	9.0	5.2	Ⅱ
	3-SB5	43.86	4×3	N52° E	8.6	5.1	Ⅲ
	3-SB6	44.37	5×3	N35° W	8.7	5.1	Ⅳ
	3-SB7	36.0	3×2	N88° E	7.5	4.8	I
	3-SB8	33.15	3×2	N55° E	6.5	5.1	Ⅲ
	3-SB9	26.55	3×2	N81° E	5.9	4.5	—
	3-SB10	62.54	5×3	N45° E	10.6	5.9	Ⅱ
	3-SB11	—	—	—	—	—	Ⅱ



第13図 大畑 I 遺跡出土遺物

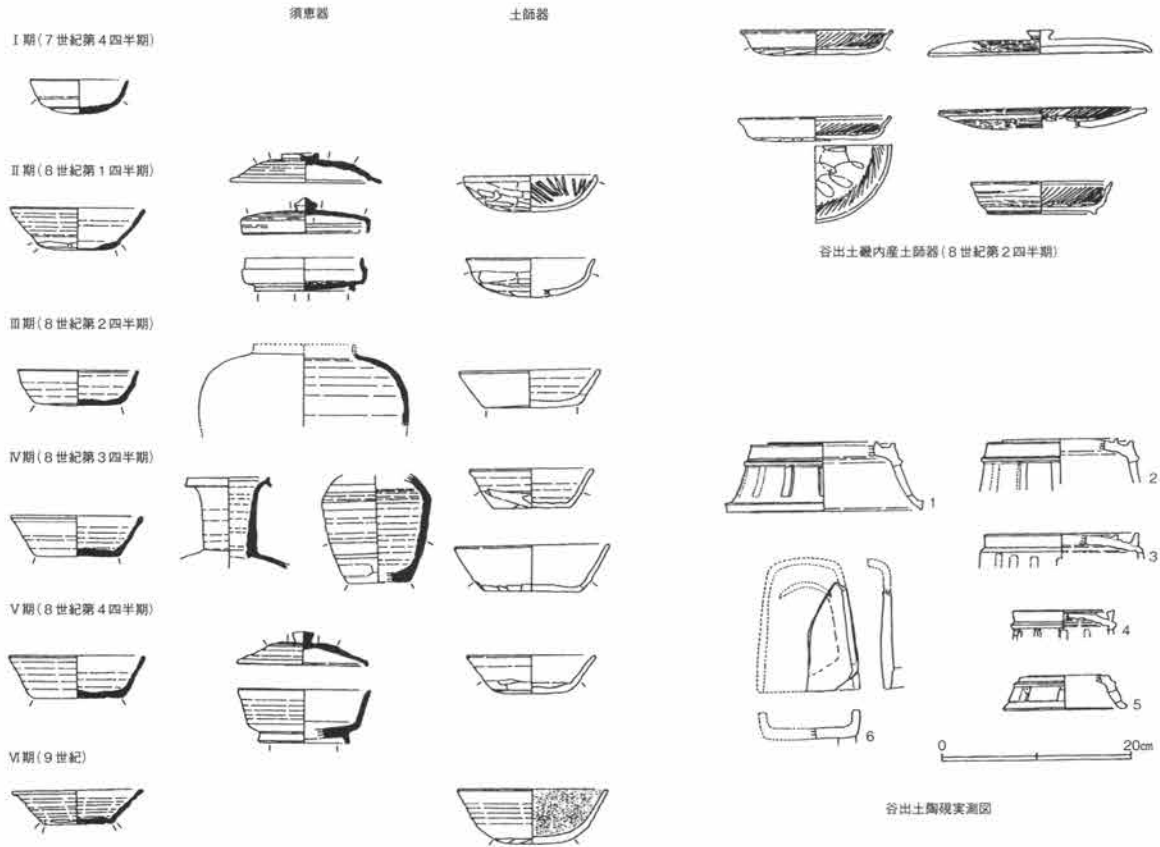
物や、11掘立柱建物のように、四面庇建物も造営される。第Ⅲ期（8世紀第2四半期）は、長大な建物や、庇付き建物、総柱建物など、建物の機能分化がみられるとともに、西側にも建物が建てられるようになる。第Ⅳ期（8世紀第3四半期）になると、これまで中心的な場所に建てられていた建物の規模が小さくなり、西側に長大な建物や3間×5間の建物がみられるようになり、中心が東側から西側に移っていく。第Ⅴ期（8世紀第4四半期）には、東側の建物は消滅し、西側のみに建物が規則的に配置される。3間×7間の大きな建物を中心にコの字状を呈する。この時期以降、掘立柱建物はみられなくなる。この建物群は、7世紀第4四半期から8世紀第4四半期までのほぼ百年程度の間機能していたようである。

この建物群や数次にわたる確認調査及び大畑 I - 2 遺跡を含めても、明確に郡衙に伴う政庁や正倉と思われる遺構は特定できない。しかし、調査された建物群の規模をみても平面積100㎡以上の建物が含まれるなど、嶋戸東遺跡の建物群と遜色ない規模である。また、Ⅱ期以降SB11・SB1・SB60・SB53と中心建物と思われる側柱建物がほぼ同じ向きで建てられ、Ⅱ期・Ⅲ期の中心建物、Ⅳ期・Ⅴ期の中心建物がそれぞれ同じ場所に営まれている。このように見ていくと、Ⅱ期以降ある程度整備された官衙の様相が認められるであろう。特にⅣ期ではSB60の脇殿とも思われるSB34が見られ、Ⅴ期にはSB53の前殿としてSB40・41が位置し、脇殿としてSB55・56がみられ、郡衙の政庁的配置となる。

一方、建物の軸方向をみると、西に50°前後振れている。通常、郡衙の時期になると真北に主軸方向を採るのが一般的であるが、この遺跡ではむしろ、Ⅰ期とした小規模な建物が北方向に近い。このような大きく斜め方向に振れた郡衙として、福岡県大ノ瀬官衙遺跡（豊前国上毛郡衙）があげられる²⁾。ただ、この郡衙は、古代官道である西海道に規制されたため、結果としてこのような方位になったことが指摘されている。大畑 I 遺跡ではどうであろうか。古東海道のルートは明らかでないが、山方駅から荒海駅に向かうルート上には位置しないと思われ、上毛郡衙のような規制はなかったものと推定される。ただ、明治17年の迅速図をみると、遺跡が所在する印旛沼北東岸の汀線が斜行し、沼側の台地端部と沼に挟まれた道路が40°～50°ほど西に振れている。古東海道から埴生郡衙までの支線があるとすれば、このような方向になることも考えられ、明確ではないが、支線としての官道に規制されたことも可能性として指摘できる。

建物が整備されてくるⅡ期以降、郡衙としての機能を有し、本格的に展開するⅣ期からⅤ期にコの字状

配置が確立され、調査西側のSB60やSB53を主殿とした政庁域として捉えることが可能ではないかと思われる。また、大畑I-2遺跡から出土した須恵器の杯に書かれた2点の墨書土器「厨」は、その特徴から8世紀第3四半期と考えられ、先述した掘立柱建物群の第IV期に相当する。この「厨」からは、郡衙を構成する厨家あるいは厨院としての機能が考えられる。また、北西側に位置する向台遺跡と大畑遺跡との間にある谷部からは大量の土器が出土し、唐三彩や畿内産土師器、円面硯などの官衙的遺物が多く含まれている。奈良時代を通じて郡衙で使用されたものが廃棄された場所として認識されよう。



第14図 向台遺跡出土遺物

註

- 1 大野 康男 1998 「埴生郡衙関連遺跡」『千葉県の歴史 資料編 考古3』
- 2 新吉富村教育委員会 1997 『大ノ瀬下大坪遺跡』

参考文献

- 石田 広美 1995 『主要地方道成田安食線道路改修工事(住宅地関連事業)地内埋蔵文化財調査報告書』(財)千葉県文化財センター
- 小林 清隆 1985 『栄町大畑I-2遺跡 県単道路成田安食線埋蔵文化財調査報告書』(財)千葉県文化財センター
- 大野 康男 1986 『栄町埴生郡衙跡確認調査報告書』千葉県教育委員会
- 大野 康男 1987 『栄町埴生郡衙跡確認調査報告書Ⅱ』千葉県教育委員会

3 武射郡

沿革

武射郡の範囲は東は下総国匝瑳郡に接し、栗山川及び高崎川の流域以西、北側は下総国埴生郡、西側は印旛郡、南側は上総国山邊郡に接し、作田川及びその支流の成東川の流域以東の地域と捉えられている。

武射郡は『倭名類聚抄』によれば、平安時代には巨備・加毛・理倉・狎猥・長倉・畔代・片野・大蔵・新居・新屋・谷部の11郷が中に含まれる。和銅六年（西暦713年）の木簡には「武昌郡高舎里」とあり、古くは郡名が武昌と書かれていたことがわかる。

武射郡の郷については、巨備郷は不明な点が多いが成東町小松・木戸周辺、加毛郷は芝山町大里・菱田周辺と考えられる。理倉郷は不明な点が多いが芝山町朝倉付近若しくは横芝町曾根合付近に比定され、狎猥郷も未詳ではあるが横芝町牛熊・芝山町高谷・大台・上吹入・下吹入付近の可能性はある。長倉郷は近世の村名から横芝町長倉周辺に比定される。畔代郷は未詳ではあるが横芝町栗山付近若しくは成東町成東～湯坂周辺の可能性が認められる。片野郷も未詳だが松尾町八田・猿尾付近の可能性はある。

大蔵郷は松尾町上大蔵・下大蔵付近に比定され、新居郷は未詳ながら芝山町新居田・牧野・高田・小池付近、新屋郷も未詳で成東町新泉付近が候補地として挙げられている。谷部郷も未詳ながら茂原市長谷・内長谷周辺の可能性はある¹⁾。

概要

武射郡衙跡に比定される遺跡としては嶋戸東遺跡が挙げられる。

嶋戸東遺跡は成東町大字島戸・野堀・真行寺から山武町大字麻生新田にわたる地域に所在する。遺跡は標高50mの台地上に立地し、西側は境川谷底平野に面する。南側台地の続きには約2km弱で九十九里平野に面する急崖となる。本遺跡は地形的には、九十九里平野中央部に開口する一谷底平野の出口近くに面する高台上にあると言える。谷底平野を流れる境川は、殿台付近で成東川に合流し、太平洋に注いでいる（現作田川、旧武射田川）。流路の開口部付近は縄文時代中期末～後期初め頃の締切砂丘（富口～武射田）によ



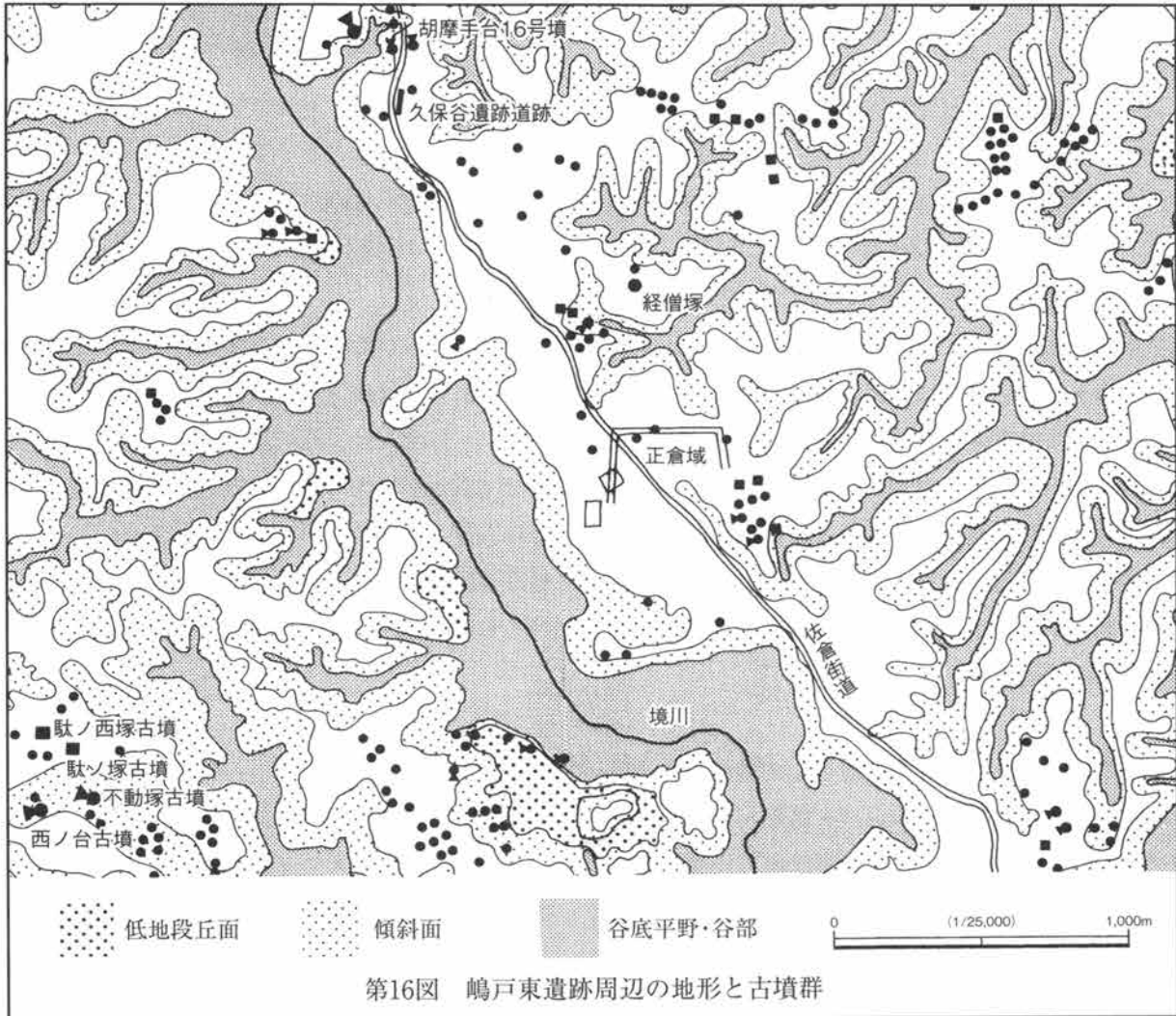
第15図 嶋戸東遺跡と周辺の遺跡

S = 1/50,000 (国土地理院発行)

て堰き止められた潟湖の跡²⁾が存在し、中世までは沼沢地の広がる未開発の地であった³⁾と考えられる。

嶋戸東遺跡は、平成3年1月に宅地造成に伴い、(財)山武郡市文化財センターによって600㎡の本調査⁴⁾が行われ、掘立柱建物跡2棟と溝跡3条が検出された。2棟の掘立柱建物跡は大型であり、B-1は調査区内から4間分の柱掘りかたが検出されており、柱間は桁行2.7m、梁行3.9mである。B-2は桁行6間、梁行2間以上の建物跡で、柱間は桁行2.7m、梁行2.1m前後である。両者は官衙の中でも中枢の建物である可能性が考えられた。

嶋戸東遺跡の南東350mには真行寺廃寺跡⁵⁾が存在し、同廃寺跡は「武射寺」の墨書土器が出土したことから郡寺と考えられる寺院である。郡名



寺院の近隣に郡衙が存在する確率が高く、本地域一帯は武射郡衙跡の存在する可能性が指摘されており、上記の大型建物跡の検出により鳴戸東遺跡は一躍注目を集めることとなった⁶⁾。

官衙関連遺跡確認調査の一環として、千葉県教育委員会が平成9年度～平成16年度（第1次調査～第8次調査）にかけて千葉県文化財センターに学術調査を委託し、鳴戸東遺跡がどのような構造の遺跡であるかを確認する調査を実施した⁷⁾。

鳴戸東遺跡はこれまでに前期郡庁と後期正倉域の範囲が明らかとなり、後期の館と考えられる箇所も検出されている。後期の正倉域は真行寺廃寺跡とほぼ軸を揃えてみられ、正倉も整然と並んでいる可能性が強く、相当計画的に郡衙が整備されていたことがわかった。

検出された遺構は掘立柱建物跡31棟、基壇跡9基（第5表参照）、基壇跡の可能性が認められる箇所が1か所、柵列跡9条、正倉を囲む大溝跡等がある（第17図）。

掘立柱建物跡は大型の建物跡が多く、平面積が145.8㎡、134.5㎡と100㎡を越えるものがみられ、柱間尺は5.5尺（1.65m）～13尺（3.9m）までのものがあり、多くの建物の間尺は7尺を越える。

建物群の軸は、軸が西に33.5度振れるもの（Ⅰ群）、西に16度～20度前後振れるもの（Ⅱ群）、真北及び西又は東に5度前後軸が振れるもの（Ⅲ群）の3群におおまかに分かれる。

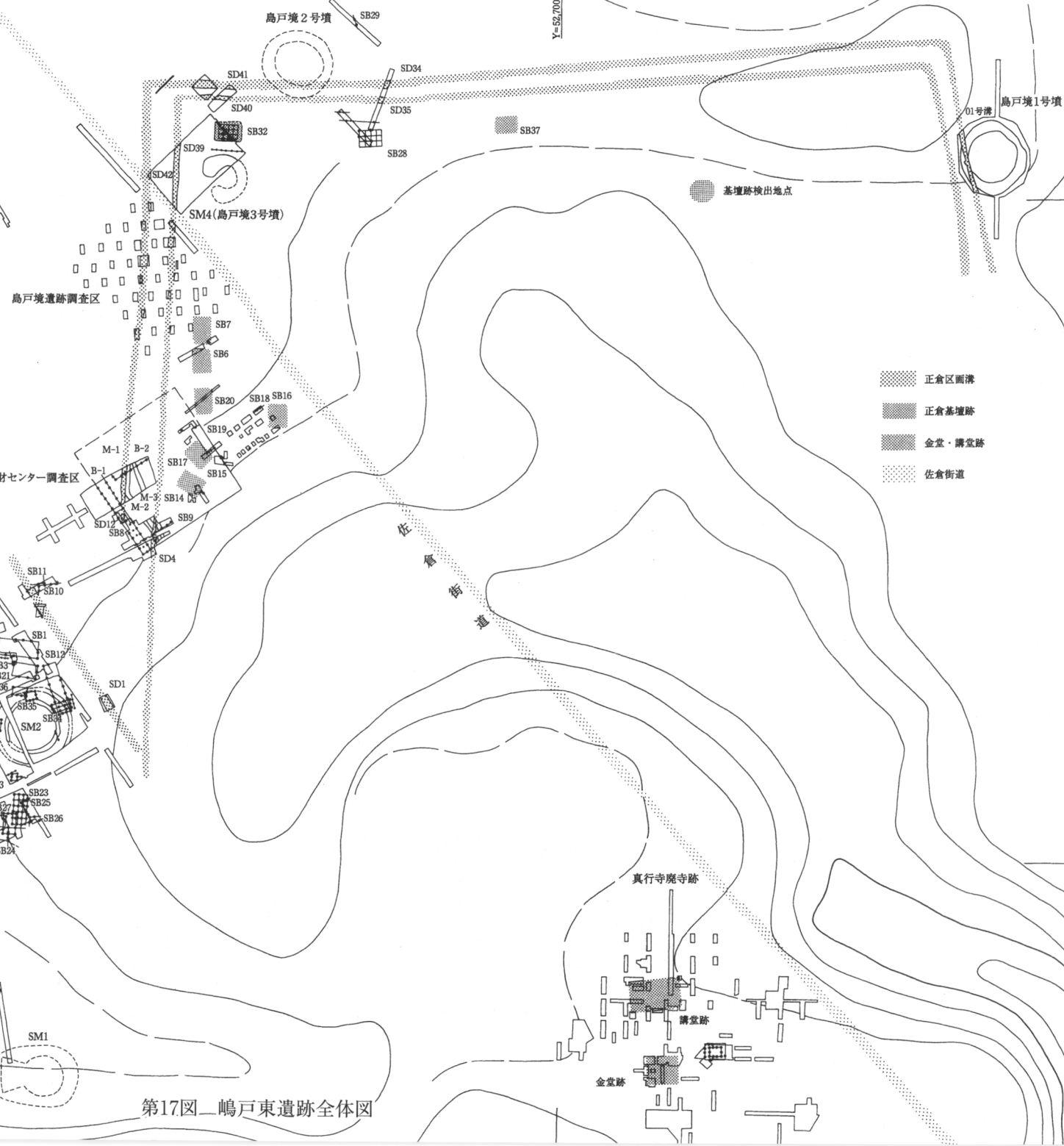
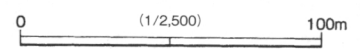
Ⅰ群は前期郡庁の建物群が該当し、SB8・SB9などがある（第18図）。ほかの時期の掘立柱建物跡とは重



X = -41,600

Y = 52,700

X = -41,900



第17図 嶋戸東遺跡全体図

第5表 嶋戸東遺跡掘立柱建物跡・基壇跡一覧表

建物跡	規模	種類	主軸	桁行長	梁行長	柱間寸法	柱穴	平面積	備考
SB1	5間×3間	側柱	N-5°-E	18.0m	8.1m後に7.2m	12尺/9尺	1.5m、後に0.9m	145.8㎡	3時期の変遷あり
SB2									SB12の一部と判明のため欠番
SB3		側柱	N-18°-W			8尺/	0.65m		
SB4	4間以上	側柱	N-8°-W	9.6m以上		9尺/8尺	1.1m~1.2m		
SB5		側柱	N-20°前後-W				0.9m~1.1m		
SB6	基壇建物								
SB7	基壇建物								
SB8	2間×6間	総柱	N-33.5°-W	17.0m	4.2m	9.5尺/7尺	0.9m~1.45m	71.4㎡	東柱がある
SB9	4間×(2間)	側柱	N-33.5°-W	10.8m	(5.1m)	9尺/8.5尺	0.95m~1.2m	(55.08㎡)	
SB10	3間以上	側柱	N-6°-W	8.5m		9.5尺/8.5尺	0.7m~0.9m		
SB11		側柱	N-18°-W			9尺/	0.5m~0.6m		
SB12	8間×3間	側柱	N-18°-W	22.8m	5.9m	9.5尺/6.5尺	0.78m~1.2m	134.52㎡	SB34を切る
SB13	6間×1間以上	総柱	N-21°-W	11.7m	2.45m以上	6.5尺~8.5尺	0.9m~1.1m		
SB14	基壇建物								
SB15	1間以上		N-34.5°-W	3.0m以上		10尺/	0.9m~1.3m		
SB16	基壇建物								
SB17	基壇建物								
SB18	1間以上	側柱	N-50°-E	2.0m以上		6.5尺/	0.5m		
SB19	5間×2間	側柱	N-34.5°-W	12.7m	4.2m	8.5尺/7尺	0.9m	53.34㎡	
SB20	基壇建物								
SB21	3間×2間	側柱	N-7.5°-E	10.8m	6.0m	12尺/10尺	1.0m~1.5m	64.8㎡	
SB22	基壇建物カ								詳細不明
SB23	5間×3間	総柱	N-2.5°-E	13.6m	6.0m	9尺/7尺	1.05m~1.2m	81.6㎡	
SB24	2間以上×1間以上	側柱	N-0°-E	2.1m以上	1.8m以上	7尺/6尺	1.1m~1.3m		SB27に切られる
SB25	6間×(3間)	側柱	N-18°-W	10.8m	(4.9m)	6尺/5.5尺	0.5m~0.8m	52.92㎡	
SB26	1間以上×1間以上	側柱	N-4°-W	2.7m以上	2.1m以上	9尺/7尺	0.65m~0.8m		
SB27	4間以上×3間	側柱	N-2°-E	9.0m以上	5.85m	7.5尺/6.5尺	1.0m~1.2m	52.65㎡	SB24を切る
SB28	2間以上×2間以上	総柱	N-5°-W	5.1m以上	4.8m以上	8.5尺/8尺	1.45m		2時期の可能性あり
SB29	1間以上	側柱	N-17°-W	2.7m以上		9尺/	0.9m		
SB30	3間×2間	側柱	N-5°-E	5.4m	4.2m	6尺/7尺	0.5m	22.68㎡	
SB31	1間以上	側柱	N-8°-E	2.1m以上		7尺/	0.75m		
SB32a	基壇建物		N-2°-E						SB32bと重複
SB32b	3間×3間以上	総柱	N-4.5°-E	6.3m以上	6.3m	7尺/7尺	1.1m~1.73m		SB32aと重複
SB33	1間×2間	側柱	N-3°-W	3.0m	2.7m	5尺/9尺	0.65m~0.74m	8.1㎡	
SB34	3間×2間	側柱	N-18°-W	8.1m	3.6m	9尺/6尺	0.7m~1.0m	29.16㎡	棟持柱がある。SB12に切られる
SB35	3間×2間	側柱	N-16°-W	4.5m	3.6m	5尺/6尺	0.55m~0.7m	16.2㎡	SB36に切られる
SB36	3間×2間	側柱	N-5°-E	6.3m	3.6m	7尺/6尺	0.9m~1.0m	22.68㎡	2時期あり。SB35を切る
SB37	基壇建物								
SB38	3間×2間	側柱	N-5°-E	7.65m	5.1m	8.5尺/8.5尺	0.75m~1.2m	39.015㎡	
B-1	5間以上×1間		N-33.5°-W	14.2m以上	4.2m	9.5尺/13尺	0.8m~1.5m	60㎡以上	
B-2	6間以上		N-33.5°-W	16.2m以上		9尺/7尺	0.95m~1.3m		

掘立柱建物跡の方位については、南北棟は桁の方位、東西棟は梁の方位を記した。()は推定値。

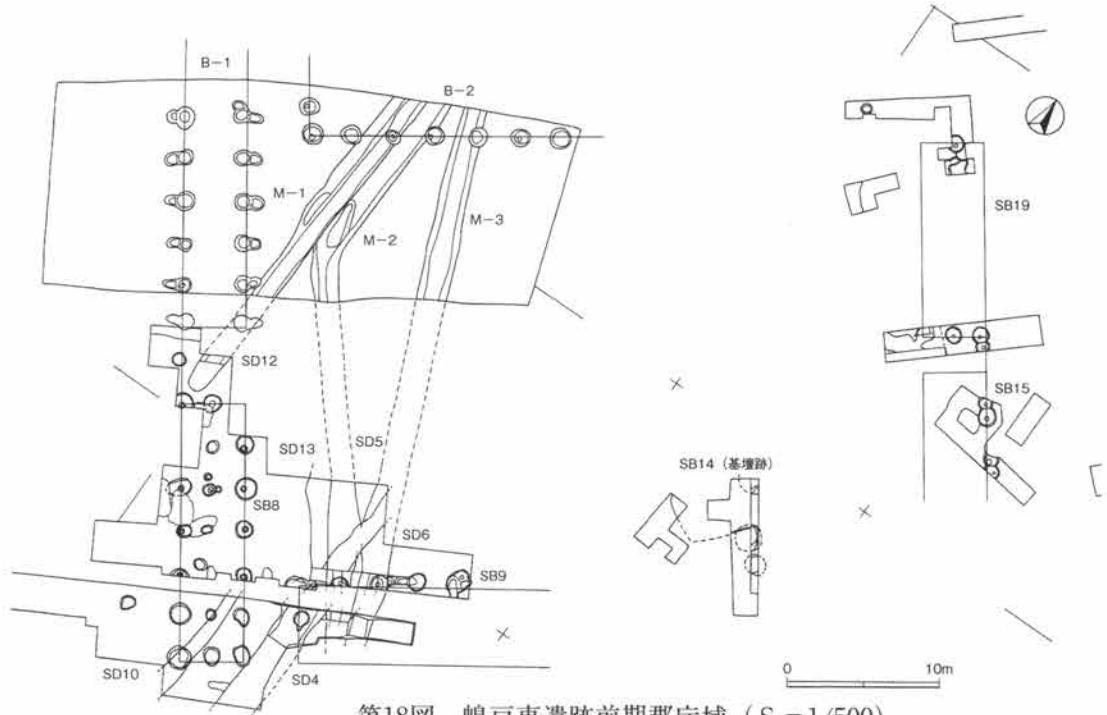
複関係にはないが、SB9を切る溝跡がⅢ群の正倉院の区画溝であることが確認され、Ⅰ群は正倉と考えられる建物群よりも古い時期であることが明確となった。Ⅱ群は3間×8間の長大な掘立柱建物跡SB12(第19図)やSB34・SB35などあり、掘立柱建物跡の柱掘りかたの切り合いからⅡ群はⅢ群よりも古いことが明らかとなっている。Ⅲ群は5間×3間で桁行が12尺等間、3.6mの柱間の大型の掘立柱建物跡SB1(第20図)やSB32の後期正倉建物群など多くの建物跡がこの軸方位をとる。

建物群の変遷はⅠ群が古く、Ⅲ群が新しく、Ⅱ群についてはⅢ群よりも古いことは確認されているが、Ⅰ群との新旧関係は未だ不明である。なお、それぞれの群はさらに群ごとの建物跡の重複により時間的には細分でき、Ⅰ群及びⅡ群は各2時期の変遷、Ⅲ群についてはSB1が3時期の変遷、SB27にはほぼ同軸(真北及び東に2度・2.5度振れる建物)のSB23・SB24・SB38が重複しており、4時期の変遷が認められる。軸の振れからみると合計で8時期以上の変遷が考えられ、さらに時期は不明であるが西に8度振れる建物群がこのほかに認められるので、9時期以上の変遷になる可能性が高い。

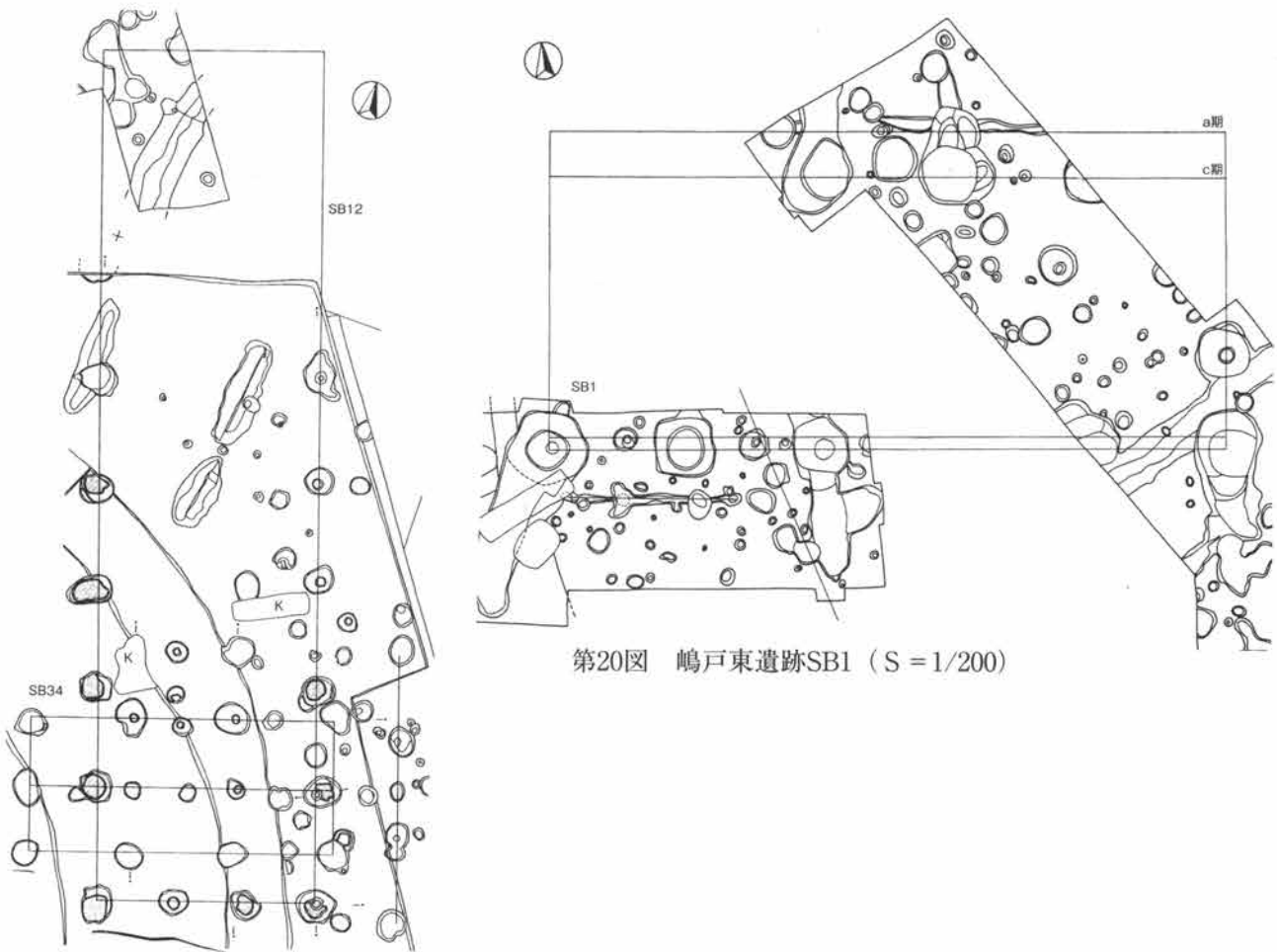
これらの時期は、柱掘りかた内からほとんど遺物が検出できないので、具体的には不明であるが、堅穴住居跡との関係で郡衙が営まれはじめた時期については7世紀後半と考えられる。

また、郡衙の終末の時期は溝跡等から10世紀代の遺物群が検出されるので、それ以前には収束に向かうものと考えられる。

各群の時期は以上のように不明確であるが、Ⅲ群の正倉が基壇建物となる時期は、各地の郡衙遺跡の正倉が掘立柱建物から基壇を有する礎石建物に変化する時期は8世紀後半が多いとされているので、8世紀



第18図 鳴戸東遺跡前期郡庁域 (S = 1/500)



第19図 鳴戸東遺跡SB12・SB34 (S = 1/200)

第20図 鳴戸東遺跡SB1 (S = 1/200)

後半に比定できるであろう。

遺跡の中央部に所在する前期郡庁の建物の軸は、左右対称を意識した整然とした方形を呈する可能性が濃厚である。西列の南北棟の軸はN-33.5°-Wで、東列の南北棟建物はN-34.5°-Wの軸と考えられ、1°の軸の差がみられるが、東西棟の建物の梁は同軸で、ほぼ方形の郡庁であると考えられる。

前期郡庁の東西の規模は54m弱で、南北は現在確認できた範囲では39m程度であり、横に長い形状を呈する(第21図A)。全国的にもこれほど横長の郡庁はめずらしく、南北の規模については北側部分に調査の手が及んでおらず、未だ判明していない点が多く、再考の余地が残されるであろう。

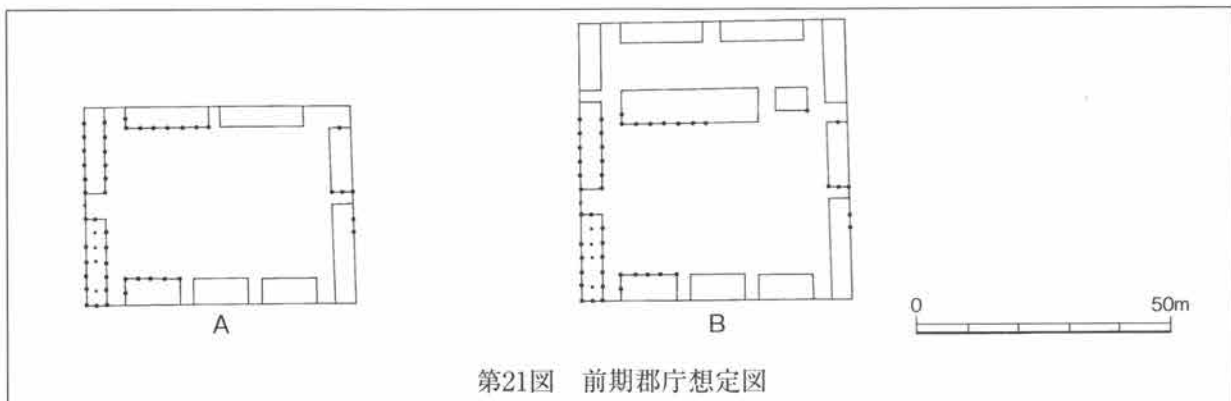
郡庁の北限についてはB-2(第18図)の掘立柱建物跡をどのように解釈するかによって異なる。B-2は東西が6間以上の規模を有し、桁行の柱間は9.5尺等間で、梁行は7尺の大型の建物である。これを「口」の字状に囲む北側の長舎としてみるか若しくは正殿又は前殿として捉えるかで様相が全く違うこととなる。

この建物を正殿として位置付けた場合、建物自体が西の長舎に寄りすぎており、全体的にみて片寄った配置となる。このような類例は管見ではみられず、理解に苦しむところであるが、この正殿を東西10間程度の長大な建物とし、さらにこの建物の東側に別な建物を配置した場合、並びとしては類似した例も存在するので、可能性がみられるようになる。この設定が可能であれば、さらに北側まで建物群又は柵列が伸びて正殿を囲み、南北の長さは55m前後(第21図B)になると予想される⁸⁾。

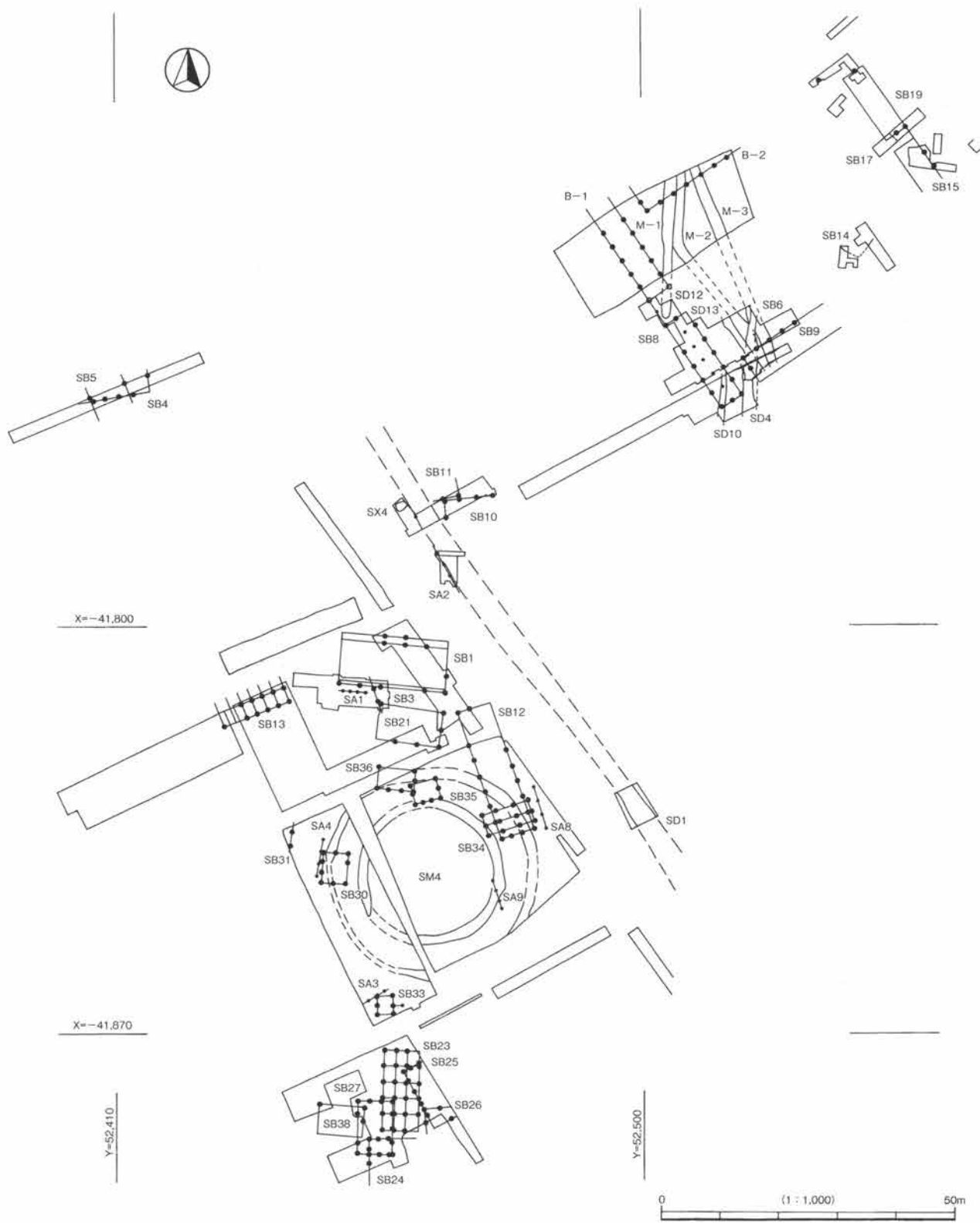
遺跡の南部に所在するSB1とその周辺の建物は館の可能性が濃厚となっている(第22図)。SB1は大型の掘立柱建物跡であり、5間×3間、桁行12尺等間で18.0m、梁行9尺等間で8.1m、柱の太さが40cm前後の中樞殿舎の格を有する建物であり、同一の場所に2度の建て替えがみられるなど、長期間に亘ってこの地区の中心建物であったと考えられる。その周囲からは多くの建物跡が検出され、とくにSB1と同様に真北に近い軸のⅢ群はSB23・SB24・SB26・SB27・SB30・SB33・SB36・SB38の8棟がみられる。この群は遺構の切り合い関係から少なくとも4時期の建物が同様な場所に存在していたことが認められ、本遺跡にとってこの区域は重要な場所であったことがわかる。

ただし、中心殿舎としての格を有するSB1と同軸の建物にはSB30やSB36・SB38があるが、SB30・SB36は3間×2間で柱間は桁行7尺等間、梁行6尺等間の小型の建物跡である。このような雑舎的な建物と大型建物が軸を揃えて配置されている点から考えると館の可能性が浮かび上がる。

後期正倉域は遺跡の北東部にみられ、これまでの調査で検出した溝跡及び平成2年度に(財)山武郡市文化財センターによって発掘調査がなされた島戸境遺跡⁹⁾の成果から、正倉を区画する西辺の南北方向の2条



第21図 前期郡庁想定図



第22図 鳴戸東遺跡主要域掘立柱建物跡・柵列跡配置図

の大溝については、発掘調査の成果から南北200m、東西100m以上の長さを有する2条の区画溝の存在が明らかとなった。

さらに、昭和42年の航空写真で東西方向と南北方向に2重線のソイルマークがみられることがわかり、溝跡の発掘図面と重ね合わせたところ、両者の位置がほぼ一致した。この航空写真によっておおよその正倉域の範囲を想定することが可能となった。航空写真による推定では、南北方向の西辺溝は、300m前後の長さを有するものと思われる。西辺溝の主軸方位は全体的にみると東に2度～3度傾いている。東辺溝については、山林近くの畑地に南北に走るソイルマークが極めて短い部分ではあるが看取できるので、この線を北に直線的に延長させると北辺溝の総延長は350m以上に達する。また、そのソイルマークの近くには島戸境1号墳が存在するが、同古墳の発掘調査で南北に走る溝跡が検出¹⁰⁾されており、これについても東辺溝の可能性が認められる。この溝跡の主軸はN-15°-Wにあるので、これを東辺の区画溝とすると東側の地域のみかなり歪な形状となる。

現段階では不明な点が多いものの、正倉域は東西350m以上、南北300m程度の規模を有すると考えられる(第17図)。これは単純計算で100,000㎡以上の規模を有することになる。郡衙遺跡で本遺跡と同様な集中型正倉がみられる例では10,000㎡～20,000㎡¹¹⁾程度が通常であり、嶋戸東遺跡の区画範囲は非常に広大な面積である。しかしながら、本遺跡の正倉域内の地形をみると中央部まで谷部が迫っており、地形に扼されているため実際に建物を建てられる部分は限られたものであったのであろう。おそらく斜面部のため面積の2/3程度は建物が建てられていなかったものと推察される。

正倉域内の建物は、現在までのところ基壇建物跡8棟、掘立柱建物跡1棟が検出されており、さらに分布調査により基壇と考えられる地点が1か所認められる。基壇跡のうち6か所で基壇下から重複して掘立柱建物跡の柱掘りかたを検出しており、基本的には正倉は掘立柱建物から基壇建物に変遷していると考えられるが、掘立柱建物のみのものも認められる。

基壇下の掘立柱建物跡の構造は、SB32が3間以上×3間の規模の総柱建物跡であり、ほかの基壇下にある掘立柱建物跡の構造は不明であるが、掘立柱建物跡のみ単独で検出したSB28についても総柱建物であることや、各基壇下に存在する掘立柱建物跡の柱掘りかたの規模等がSB28・SB32と同規模であることから、基壇跡下の掘立柱建物跡についても総柱建物であることはほぼ確実である。

倉庫群の配置は、部分的な調査なので不明な点が多いが、北辺部は東西棟の建物が北に方位を揃え直列を基本とした形で規則的に並んでいると考えられる。また西辺部にも北に方位を揃えて南北棟の建物が3棟みられるので、全体的には基本的に北に軸を揃えて配置している状況が窺える。

以上、この正倉域を含めると武射郡衙の範囲は東西5町、南北4町程度の極めて広大な範囲と想定される。しかしながら、遺物の出土は希薄であり、出土した転用硯9点に僅かに官衙の片鱗を垣間見ることができる程度である。

嶋戸東遺跡の北方1.5kmには久保谷遺跡¹²⁾が存在する(第16図)。同遺跡からは旧佐倉街道と平行するように古代の道路跡及び中・近世の道路跡が検出されている。旧佐倉街道は江戸時代の絵図面から嶋戸東遺跡の正倉域を斜めに抜けて伸びており(第17図)、このことは明治時代の地図からも窺い知ることができ、久保谷遺跡で検出された古代道は嶋戸東遺跡まで続き、前期郡庁域の東脇を抜け、九十九里の平野部まで達していたと考えられる。また、嶋戸東遺跡の南方の平野部は古代には大きな沼が広がっており、川と川を結ぶ水上交通が発達していた可能性も考えられる。このような観点から考えるならば、嶋戸東遺跡は郡

衙にとって格好の立地条件をそなえていたものと推察される。

なお、武射郡内で官衙関連の遺物が出土した遺跡としては、成東町比良台遺跡、芝山町谷窪・上楽遺跡、芝山町庄作遺跡がある。比良台遺跡¹³⁾は嶋戸東遺跡の南東1.2kmに所在し、石帯の巡方が出土している。谷窪・上楽遺跡¹⁴⁾からは銅製銚帯金具の巡方1点・鉞尾2点、石帯の丸柄1点等が出土し、墨書土器には「厨」の文字がみられる。庄作遺跡¹⁵⁾からは須恵器高盤2個体が出土している。

註

- 1 財団法人千葉県資料研究財団 2001 「付録 古代房総三国の郡・郷・里の変遷と比定地一覧」『千葉県の歴史 通史編 古代2』千葉県
- 2 陸化の年代観や形成過程については、蓮沼村史に詳述されている。
小高春雄 1992 「第1章 原始・古代の蓮沼地方」『蓮沼村史』蓮沼村史編纂委員会
- 3 この成東沼に面する村々はいずれも近世に大幅な村高の増加がみられることから、江戸時代の新田開発によって沼が耕地化したことが窺われる。
海保四郎 1986 「第三章近世」『成東町史 通史編』成東町
- 4 山口直人 1994 「嶋戸東遺跡」『山武郡市文化財センター年報No.9 付編調査報告』(助山武郡市文化財センター)
- 5 沼澤 豊 1982 「成東町真行寺廃寺跡確認調査報告書」千葉県教育委員会
沼澤 豊ほか 1983 「成東町真行寺廃寺跡研究調査概報」(助千葉県文化財センター)
天野 努・今泉 潔 1984 「成東町真行寺廃寺跡研究調査報告書」(助千葉県文化財センター)
谷川章雄ほか 1985 「成東町真行寺廃寺跡発掘調査報告書-鍛冶工房址の調査-」成東町教育委員会
- 6 栗田則久 1995 「千葉県の古代官衙とその周辺」『日本考古学協会 1995年度茨城大会シンポジウム3 地方官衙とその周辺』日本考古学協会茨城大会実行委員会
- 7 小林信一 1998 「成東町嶋戸東遺跡発掘調査報告書」千葉県教育委員会
小林信一 1999 「成東町嶋戸東遺跡第2次発掘調査報告書」千葉県教育委員会
香取正彦 2000 「成東町嶋戸東遺跡第3次発掘調査報告書」千葉県教育委員会
香取正彦 2001 「成東町・山武町嶋戸東遺跡第4次発掘調査報告書」千葉県教育委員会
香取正彦 2002 「成東町・山武町嶋戸東遺跡第5次発掘調査報告書」千葉県教育委員会
- 8 郡庁の規模の平均は東西が54m、南北55mという数値がある。
山中敏史 2004 「Ⅶ-3 郡庁」『古代の官衙遺跡 II 遺物・遺跡編』奈良文化財研究所
- 9 稲見英輔ほか 1991 「烏戸境遺跡」『平成2年度 山武町内遺跡群発掘調査報告書 烏戸境遺跡 道祖神前遺跡 旭山遺跡 岩ノ谷台遺跡 上戸田遺跡』山武町教育委員会
- 10 平山誠一・椎名信也 1994 「烏戸境1号墳」山武町教育委員会
- 11 山中敏史 1994 「第一章 郡衙の構造と機能 第四節 正倉構造と機能」『古代地方官衙遺跡の研究』塙書房
- 12 加藤正信ほか 2000 「千葉東金道路(二期)埋蔵文化財調査報告書4-山武町久保谷遺跡-」(助千葉県文化財センター)
- 13 山口直人 1992 「比良台遺跡群」(助山武郡市文化財センター)
- 14 松田政基 1990 「谷窪・上楽遺跡」『千葉県芝山町小原子遺跡群調査報告書』芝山町教育委員会
- 15 松田政基 1990 「庄作遺跡」『千葉県芝山町小原子遺跡群調査報告書』芝山町教育委員会

Ⅲ 下総地域の官衙関連遺物について

1 はじめに

遺跡を地方官衙であると認定することは限られた発掘成果からは非常に困難を伴うものである。今回の官衙の集成では山中敏史氏の『古代官衙遺跡の研究』¹⁾の中で地方官衙の判定方法を述べられている方法の中でも遺構についての認定基準を最重要視して分類した。すなわち、掘立柱建物跡の規模や建物の柱間の寸法、建物が柱筋や棟通りを揃えて直列や並列、左右対称に配置されているかどうかを定点として分析を行ったが、官衙遺跡として真正かどうかの判断が下せるほどの根拠を示せる面積や遺構群が確保された遺跡が少なく、現在、千葉県内で地方官衙と確実に認定できる遺跡は数遺跡にすぎないことになった。

このような現状に鑑み、官衙を別な視点で捉えなおす必要に迫られた。すなわち、地域ごとに官衙に関連する遺物の分布状況を官衙関連遺跡のみではなく一般の集落遺跡まで拡大して収集し、それらを面的及び量的に捉えて行くことにより、官衙遺跡の所在が地域ごとに明らかにならないかと考えた。官衙関連遺物の集中する地域を明らかにすることによって、近くにあると思われる官衙遺跡の存在を浮かび上がらせることができないかと考えたのである。さらには、地方官衙研究の中で今後問題になると考えられる郡衙の出先機関や郷衙等の末端施設の存在を探るための一助になればとの思いがあった。

官衙関連遺物としては、古代の役人の必需品である銚帯や円面硯がすぐに思いつくであろう。これらの品物は県内の研究では従来から個別に集成・研究されてきてはいるが、分布がいかなる意味を有するのかは大系立てて考えられているとは言い難い状況にある。

そこで、上記の遺物のほかにさらに数種類の遺物を組み合わせることによって、遺物の有する意義をさらに明確化させることにした。

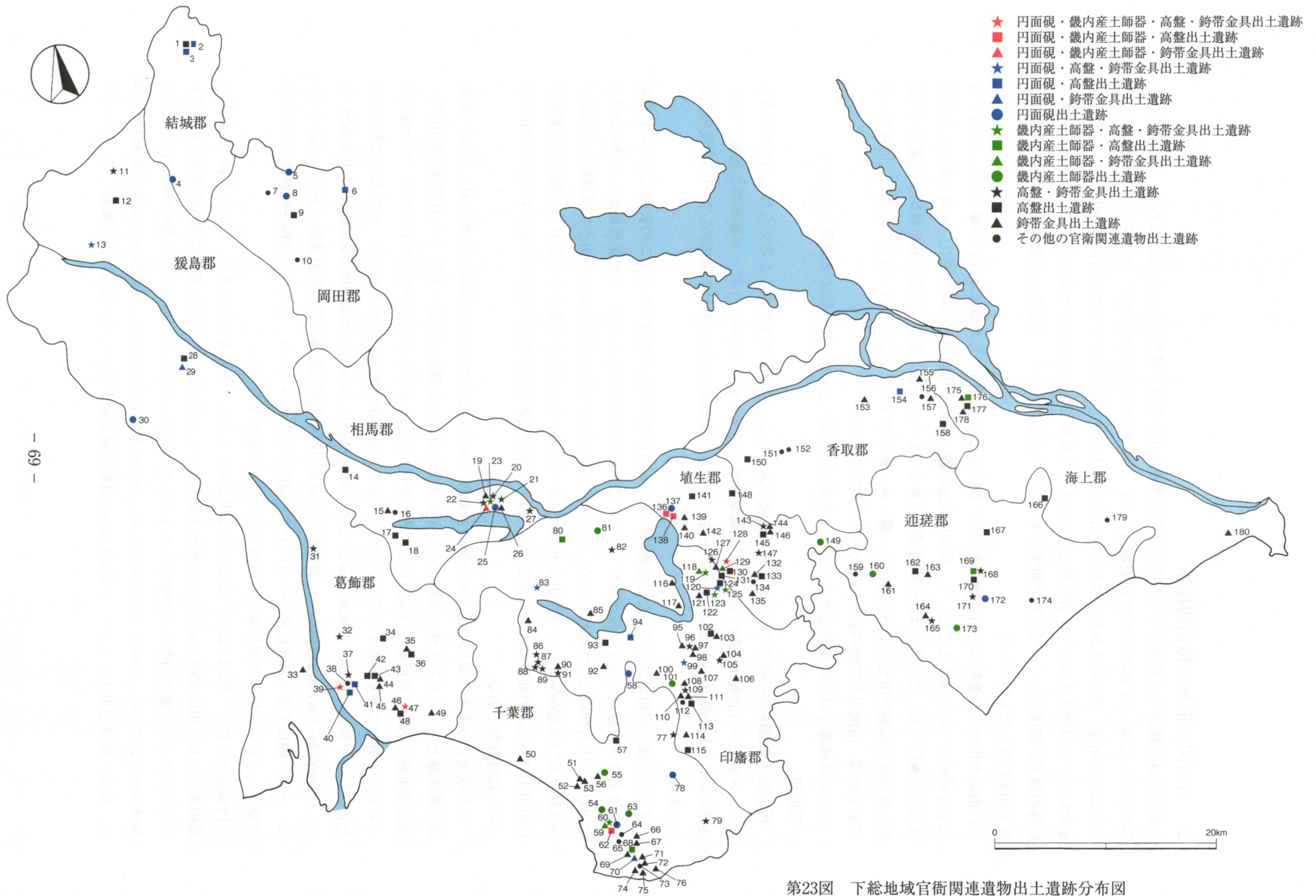
具体的には官衙関連遺物として、円面硯及び銚帯金具の分布、畿内産土師器や須恵器・土師器高盤などの土器の4種類を主体として分析することにした。また、須恵器双耳杯や耳皿の分布についても注目し、さらに、墨書土器・刻書土器の中でも「郡」・「厨」・「曹司」等の役所に関連する文字、「守」・「介」・「校尉」等の官職名の記載されている文字資料の分布を調査し、それらの分布を重ね合わせることにした。対象となる時期は7世紀第4四半期～10世紀までとした。

なお、畿内産土師器を主たる分析の柱としたのは、林部均氏が畿内産土師器は官衙と深く関わることを述べられており²⁾、この分布状況と出土量を再確認することは、官衙遺跡を考えることに不可欠であると認識されるからである。

また、土器の高盤を分析項目に組み込んだのは、富田和夫氏による埼玉県内の官衙的土器、須恵器盤類・円面硯等の研究成果³⁾に触発されたからであり、さらに盤類の中でも高盤を選定した理由は、平城京内（Ⅶ期）における官人の宴席には2～3人に1脚の高杯（高盤）が用いられたとされ⁴⁾、高盤は古代の役人との結びつきが特に高い器種と考えられたからである。

そしてこれらの器種のほかに特殊遺物欄に須恵器双耳杯や耳皿を分析項目に入れた。これらの遺物を含めたのは律令制にもとづいた儀式的な遺物の可能性が認められるからである。

また、律令官人の朝服・制服に付属する腰帯を飾る飾り具である銚のみではなく、今回の分析では鉄鉾も調査の対象とした。奈良・平安時代の鉾は軍防令の規定⁵⁾によって、私家で所有することが禁じられており、基本的に官の管理下にあったものと認識されるので、官衙関連遺物に含めた。



0 20km

第23図 下総地域官衙関連遺物出土遺跡分布図

2 官衙関連遺物の種類別様相

第23図は下総国内の郡域を示した中に官衙関連遺物出土遺跡を種類別に入れた図である。下総国の国・郡境については、『千葉県歴史通史編古代2』⁶⁾・『千葉県地名変遷総覧』⁷⁾等を参考として作成した。今回は、円面硯、畿内産土師器、高盤、銚帯金具の4点の遺物を機軸とした分布図を作成した。これらの遺物については後述するように官衙関連遺物の中でも重要な要素を占める遺物であること、さらにはある程度の数量が確保されていて分布の粗密が明らかにできることから、4種類の遺物の分布が明瞭に判断できる図を作成したものである。

円面硯の出土した遺跡は青色の●で表示し、畿内産土師器の出土した遺跡は緑色の●で表示し、両者が複合する遺跡については赤色で表示した。高盤は黒色の■、銚帯金具は黒色の▲で表示し、両者の複合した遺跡は黒色の★印で表示した。そのほかの関連遺物は●で示した。なお、高盤・銚帯金具を検出した遺跡で円面硯と畿内産土師器が出土している場合は、■・▲・★印のほかに上記の青色・緑色・赤色で、円面硯、畿内産土師器、円面硯及び畿内産土師器の複合遺跡を表した。

図中の遺跡番号は官衙関連遺物出土遺跡一覧表(第6表)と対応しているので参照されたい。

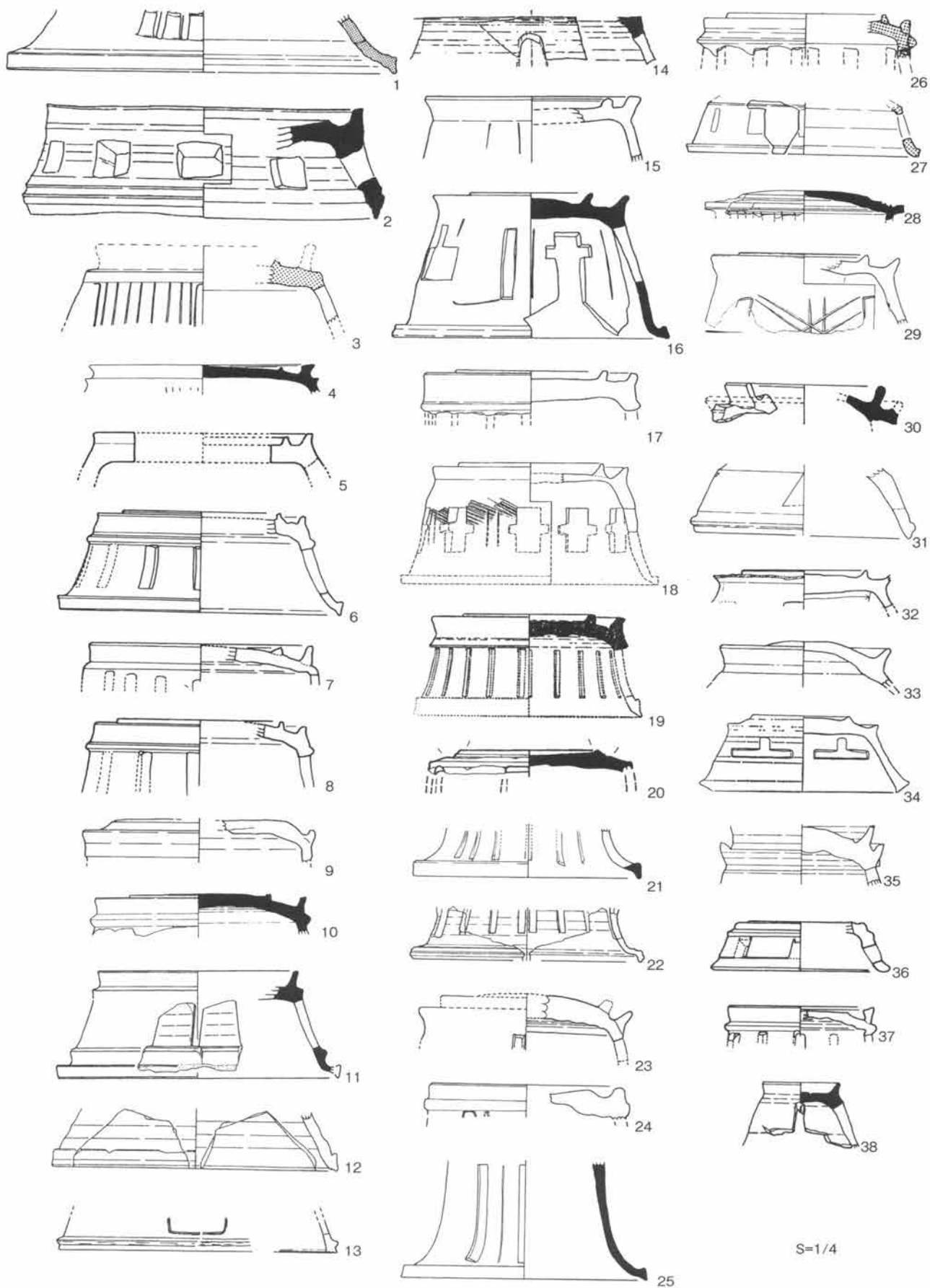
円面硯

円面硯は30遺跡から検出され、51個体の遺物がみられる。7世紀代まで遡ると考えられる円面硯はみられず、8世紀～9世紀の遺物である。下総地域は隣国である武蔵・常陸・上野・下野地域と比較すると、面積の割には円面硯の出土は少ないものとなっており、個体数ではそれぞれの地域の1/2～1/5程度の数量⁸⁾である。

また、上総・安房地域を含めた房総地域における円面硯の出土は低調である。この要因としては官衙跡からまとまった数量があまり検出されていないことが第1に挙げられるが、須恵器窯跡からの検出が極端に少ないことも要因として挙げられる。ちなみに下総地域での須恵器窯跡からの出土は茨城県三和町浜ノ台窯跡(第23図遺跡No.4)と千葉市宇津志野窯跡(No.78)の2遺跡2個体のみであり、大部分が消費地からの出土である。円面硯の分布は後述する銚帯の分布が遺跡数及び数量⁹⁾ともに全国でも有数の規模を誇るのとは好対照である。

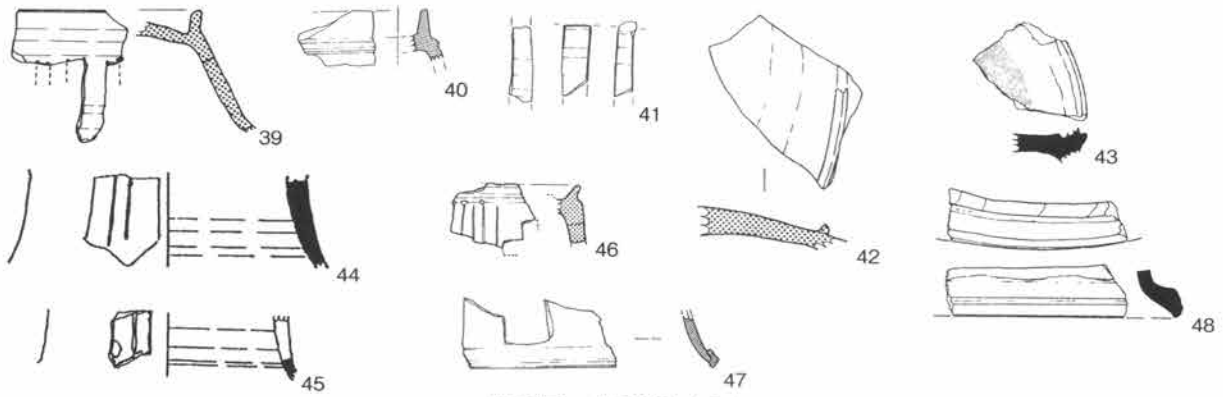
分布状況を見ると下総国府推定地の国府台遺跡(No.39)とその周辺の2遺跡(No.40・41)から7個体、埴生郡衙跡と考えられる大畑I遺跡(No.138)及びその周辺の2遺跡(No.136・137)から9個体が検出され、相馬郡衙跡である日秀西遺跡(No.24)及びその周辺(No.25)からも2個体が検出されており、官衙跡及びその周辺の遺跡に多く分布することがわかる。また、官衙推定地からの出土も多く、千葉郡では郡名寺院と目される千葉寺付近の大北遺跡(No.62)とその周辺(No.61)、結城郡では結城廃寺跡周辺の下り松遺跡(No.2)・峯崎遺跡(No.3)、岡田郡では岡田郡衙推定地の国生本屋敷遺跡周辺の皆葉遺跡(No.8)に認められる。一方、伽藍を有する寺院跡からの出土は下総国分僧寺のみであり、意外に大規模寺院跡からの出土が少ない。上記の官衙及び周辺域からの出土だけでも25個体を数える。

円面硯の大部分(第24・25図)は圈足円面硯と考えられる。円面硯の大きさは、国府台遺跡(No.39)と岡田郡の小貝川川底遺跡(No.6)出土遺物が群を抜いて大型である。国府台遺跡は国府推定地に比定されており、出土した硯は国衙官人が使用したのと考えて良いであろう。小貝川川底遺跡からは円面硯が3個体検出されている。川床からの遺物であり、その由来が注目されるが、同遺跡からは須恵器双耳杯4個体、高盤の脚部が出土しており、円面硯以外の官衙関連遺物が出土していることから類推して、何らかの

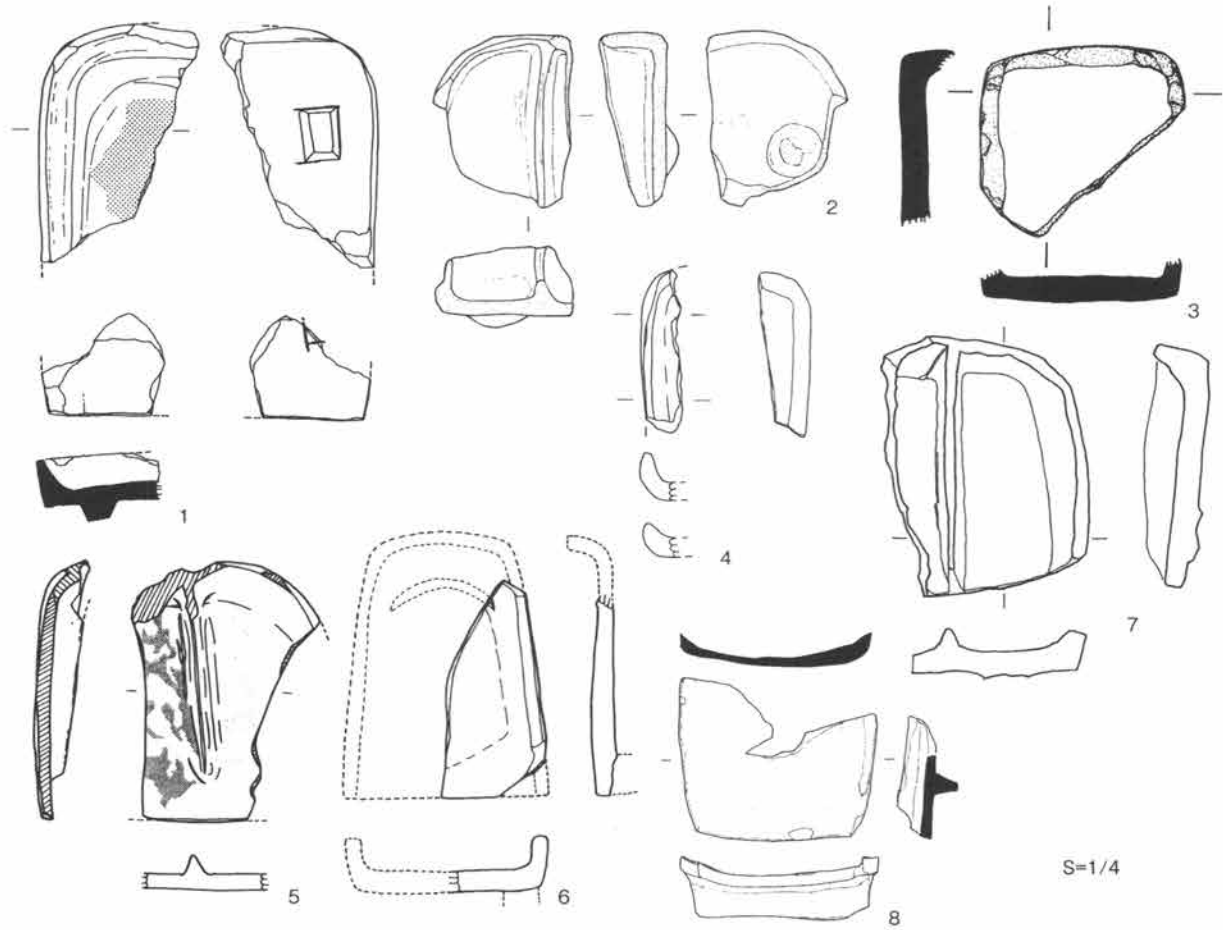


S=1/4

第24图 円面碗 (1)



第25図 円面硯 (2)



第26図 風字硯

円面硯

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	国府台遺跡	15	鳴神山遺跡	28	陣屋遺跡
2・12・14	小貝川川底遺跡	16	囲護台遺跡群	30・38	峯崎遺跡
3	大北遺跡	17	下り松遺跡	31	下粟野方台遺跡
4・47	下総国分僧寺	18	江原台遺跡	32	有吉遺跡
5	宮崎第1遺跡	20	チアミ遺跡	33	高岡大山遺跡
6~8・36・37	向台遺跡	22	羽黒遺跡	34	印内台遺跡
9・21	大畑I遺跡	23	浜ノ台窯跡	35	小湖山下北遺跡
10・19・29・43	須和田遺跡	24	龍角寺五斗蒔瓦窯跡	44・45	皆葉遺跡
11	平台遺跡	25	吉見台遺跡B地点	46	仁井宿東遺跡
13	日秀西遺跡	26・27・39~42	大袋小谷津遺跡	48	宇津志野窯跡

風字硯

番号	遺跡名
1	鷺谷津遺跡
2	有吉遺跡
3	鳴神山遺跡
4	高岡大山遺跡
5	青山富ノ木遺跡
6	向台遺跡
7	久野下谷津遺跡
8	白幡前遺跡

官衙関連の儀礼に伴う遺物と認識することも可能である。

風字硯については、8遺跡から9個体が検出されており、円面硯と比較しても僅かな数量となっている(第26図)。出土遺跡は千葉郡の鷲谷津遺跡(No.59)・有吉遺跡(No.70)、印旛郡の鳴神山遺跡(No.83)・白幡前遺跡(No.89)・高岡大山遺跡(No.99)、埴生郡の久能下谷津遺跡(No.134)・向台遺跡(No.136)、香取郡の青山富ノ木遺跡(No.151)であり、高岡大山遺跡では2個体の風字硯が検出されている。

風字硯出土遺跡のうち、明確に官衙と認識される遺跡は埴生郡衙関連遺跡である向台遺跡のみであり、積極的には官衙に伴う遺物ということとはできない。どちらかと言うとその地域の拠点的な集落跡からの出土が多いが、風字硯が検出された遺跡のうち円面硯と風字硯の両者が存在する遺跡は4遺跡(No.70・83・99・136)が認められること、後述する「厨」の墨書土器が3遺跡(No.89・99・136)で出土していることを考えるならば、律令官人と全く無関係とは言えないであろう。今後の出土の推移を見守って行きたい遺物である。

畿内産土師器

畿内産土師器は飛鳥Ⅳ～平城Ⅶまでのものを集成した。畿内産土師器は関東地域でも千葉県からの出土が多く、とくに下総地域の出土量は極めて多い。27遺跡から出土しており、千葉郡の大北遺跡のように多くの器種がもたらされている遺跡(第27図2～25)もみられる。畿内産土師器の出土は平城Ⅰが主体を占めている。

相馬郡からは相馬郡衙跡である日秀西遺跡(No.24)と同郡衙跡の関連遺跡である野守遺跡(No.23)からの出土である。野守遺跡からは杯と高台付杯(杯B)・高盤が検出され、日秀西遺跡からは高台付杯が出土している。

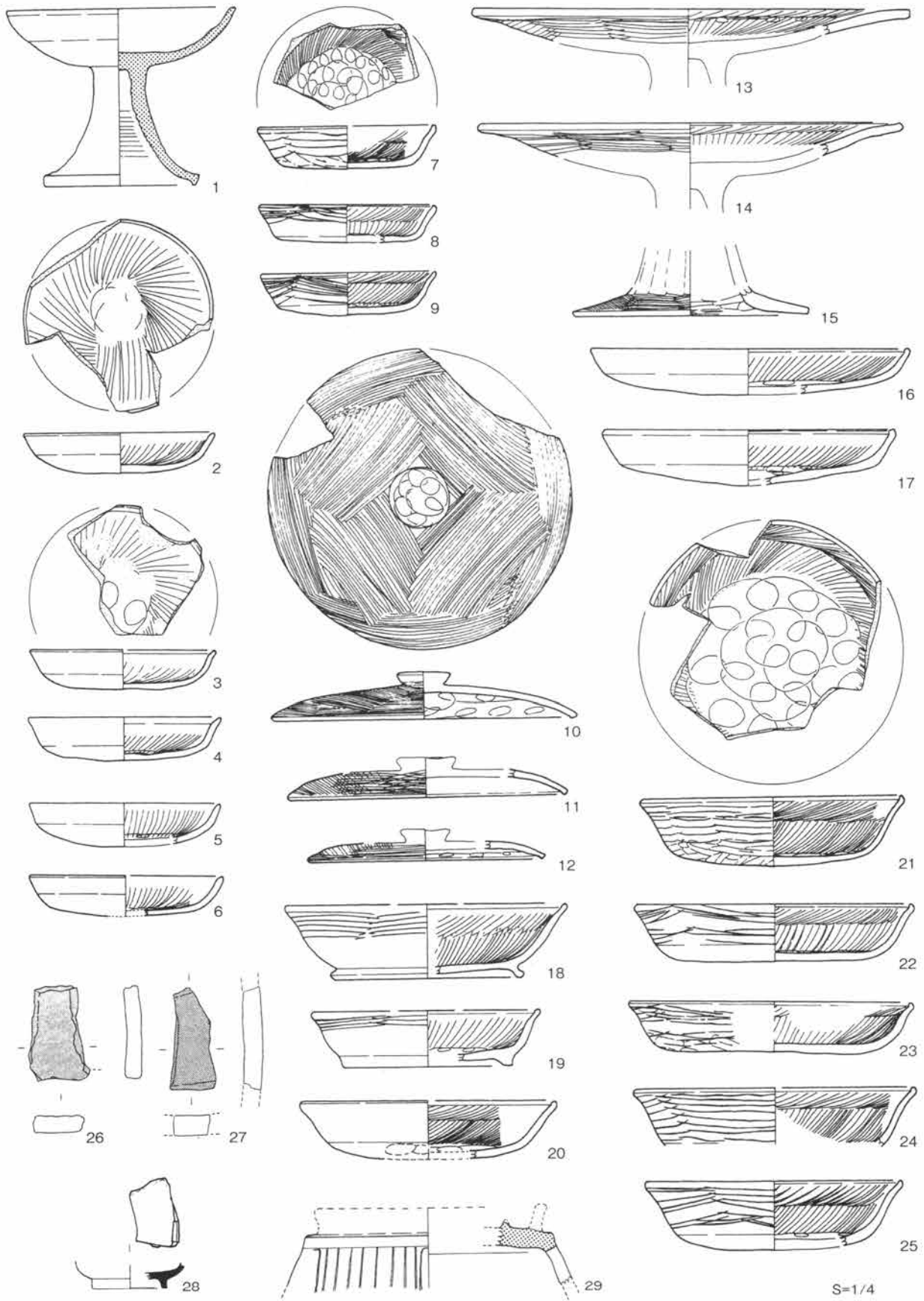
葛飾郡は国府台遺跡(No.39)から杯が検出され、印内台遺跡(No.47)で蓋が出土している。

千葉郡では7遺跡(No.54・55・59・60・62・63・68)から出土し、大北遺跡(No.62)からは杯71個体、高台付杯2個体、盤25個体、蓋13個体、高盤17個体が検出されている。

この大北遺跡の性格については官衙や駅家を補完する施設の可能性や豪族居宅の可能性も指摘されている。萩原恭一氏は豪族の居宅としての可能性も指摘しているが、7世紀末の律令体制整備段階において掘立柱建物跡が出現しはじめることから、単なる居宅ではなく、同時に、公的施設の補完的機能をも果たしていたと考えている¹⁰⁾。そして、畿内産土師器が大量に出土することについては、『時範記』の承徳三年二月十四日・十五日条の国司下向の際の国越えの例を参考として挙げ、下総国に下向する新任国司が国境の村田川を渡る際に、国越えの儀礼を行い、下総国に入ってから最初の饗饌を、河曲駅家で行ったのではなく、大北遺跡でとり行った可能性を示唆している。大北遺跡は、河曲駅家を補完する施設の可能性がある」と推論している。

また、山路直充氏は大北遺跡を郡衙の一部とし、上総から香取海に向かう当初の駅路はやや遠回りになる河曲駅を経由せずに、大北遺跡の付近で分岐していた可能性を提示している¹¹⁾。

なお、大北遺跡から南東2.7kmに所在する種ヶ谷津遺跡(No.68)からは奈良時代の土器集積遺構が検出されているが、この遺跡からは多量の土師器・須恵器とともに奈良三彩等の施釉陶器や特殊遺物が出土し、この地周辺で何らかの祭祀行為が行われたと考えられている。奈良三彩・二彩陶器は小壺7個、蓋3個を数え、鉄製儀鏡2面、銅製儀鏡1面、銅製垂飾1個体、銅製鈴1個体、畿内産と考えられる高盤及び盤各1個体等が検出され、千葉県内では最も多彩陶器が多く出土している遺跡である。これらの祭祀具は上記



第27図 大北遺跡出土官衙関連遺物

の国越えに伴うものの可能性も認められ、興味深い。いずれにしても大北遺跡は交通の要衝にある遺跡と考えられる。

印旛郡では7遺跡（No.80・81・101・118・119・123・125）から検出されている。分布は台方下平Ⅱ遺跡（No.119）を中心とした分布であり、同遺跡からは杯2個体、盤1個体、高盤1個体やハケ目が施された畿内系の甕が検出され、台方下平Ⅰ遺跡（No.118）からも同様な甕が出土している。木下別所廃寺跡（No.80）からは高盤と杯が各1個体検出されている。

埴生郡は5遺跡から（No.128・129・136・138・149）検出されており、分布は埴生郡衙跡と考えられる大畑Ⅰ遺跡（No.138）と囲護台遺跡群（No.128）の2か所に大きく分かれる。大畑Ⅰ遺跡に隣接して所在する向台遺跡（No.136）からは杯3個体・高台付杯1個体・蓋2個体・高盤1個体（第14図及び巻頭図版2）等が検出され、囲護台遺跡群からも杯5個体・皿3個体・鉢3個体が出土し、埴生郡からは比較的多くの畿内産土師器が出土している。

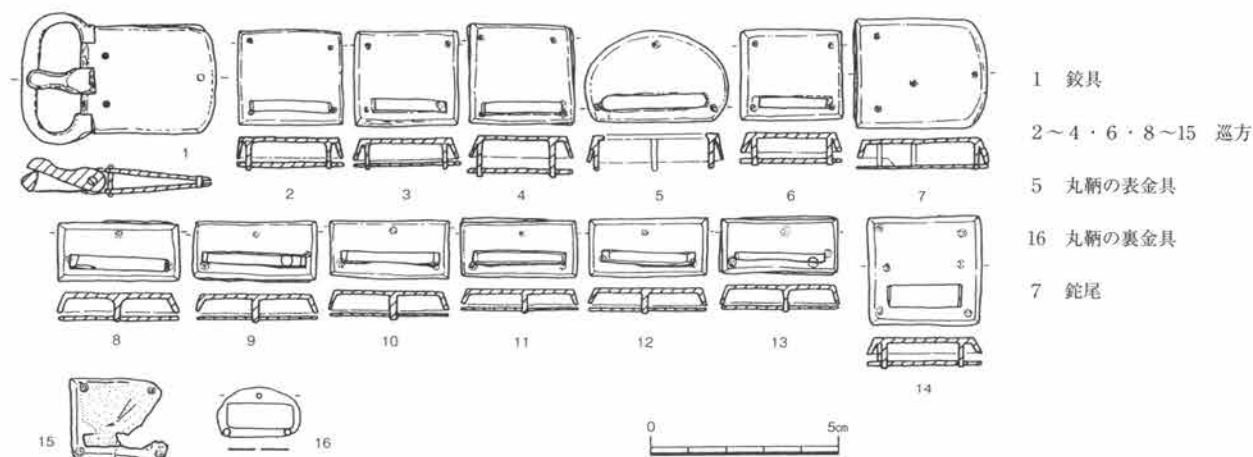
逆瑳郡は3遺跡（No.160・169・173）から検出されており、郡域の西半分に分布する。器種は杯を主体とする。海上郡は地々免遺跡（No.176）から盤1個体が検出されている。

銚帯金具

銚帯の飾り金具である巡方・丸柄及び締め金具部分の鉸具、帯先端に付く鉈尾は102遺跡から262点が検出されている。この数値は裏金部分のみの出土も含んだ数字であり、鉸具と鉈尾は馬具等にも使用されており、集成中にはいくらか馬具の類も含まれている可能性があるため、実際は多少割り引いて考える必要もある。なお、古墳時代と考えられる銚帯金具についてはできるだけ除き、奈良・平安時代のものを採るようにした。また、馬具等の金具と考えられる毛彫り文様があるものについても除外した。

銚帯金具の中で鉸具・鉈尾の両者若しくは片方のみの遺跡数は25遺跡であり、人が使用した銚帯と認識できる巡方・丸柄が出土した遺跡は77遺跡に達している。石製の巡方・丸柄が検出された遺跡は22遺跡である。

銚帯金具は鉸具・巡方・丸柄・鉈尾が揃って検出された例は少なく、同一遺構内からは大部分が単独若しくは2～3個程度の検出例である。葛飾郡の小野遺跡（No.32）の出土例（第28図）は例外的であり、1条分の腰帯具と丸柄、巡方各1点が竪穴住居跡内から一括して検出されている。この竪穴住居跡からは鉄



第28図 小野遺跡出土銚帯金具

製鎌や燧鉄・紡錘車、鉗^{かなはし}が出土しており、金属工房であった可能性が指摘されている。

銚帯金具の大半は竪穴住居跡から検出されているが、この検出状況は下総地域に限った状況ではなく、関東地域でも同様である。銚帯金具が竪穴住居跡から断片的に検出されることについての解釈は諸説がある。

分布は、葛飾郡は国府周辺域、相馬郡は相馬郡衙跡の日秀西遺跡（No24）周辺、千葉郡は南部で多くみられ、印旛郡と埴生郡はそれぞれの郡中心域に多く分布し、匝瑳郡は郡の西南部に多くみられる。猿島郡は郡の北西部に、香取郡は郡の東部に分布がみられ、海上郡は郡の北西部に分布がみられるものの、出土例が少なく、傾向は押さえられない。結城郡と岡部郡については現在までのところ、銚帯金具の分布はみられない。

高盤

下総地域で高盤若しくは高杯が出土した遺跡は83遺跡、204個体の遺物が検出されている。8世紀代の遺物が多数を占め、内田端山越窯跡（No115）出土の1個体以外は消費地からの出土である。

葛飾郡では13遺跡（遺跡No28・31・32・34・36・37・39～43・47・48）から合計で77個体の高盤が出土しており、下総地域内における出土個体数の38%弱が一郡で検出されていることになる。国府推定地である国府台遺跡（No39）に多くみられ、40個体を数え（第29図）、とくに下総総社跡地点では29個体の高盤・高杯が検出されており、注目される。高盤は極めて官衙的色彩の強い土器であることがわかる¹²⁾。

結城郡からは油内遺跡（No1）・下り松遺跡（No2）・峯崎遺跡（No3）から合計で7個体の須恵器高盤が出土し、郡の北部に分布する。岡田郡では小貝川川底遺跡（No6）・国生本屋敷遺跡（No9）、猿島郡では本田山A遺跡（No11）・北新田A遺跡（No12）・羽黒遺跡（No13）でみられ、郡の北西部にまとまる。

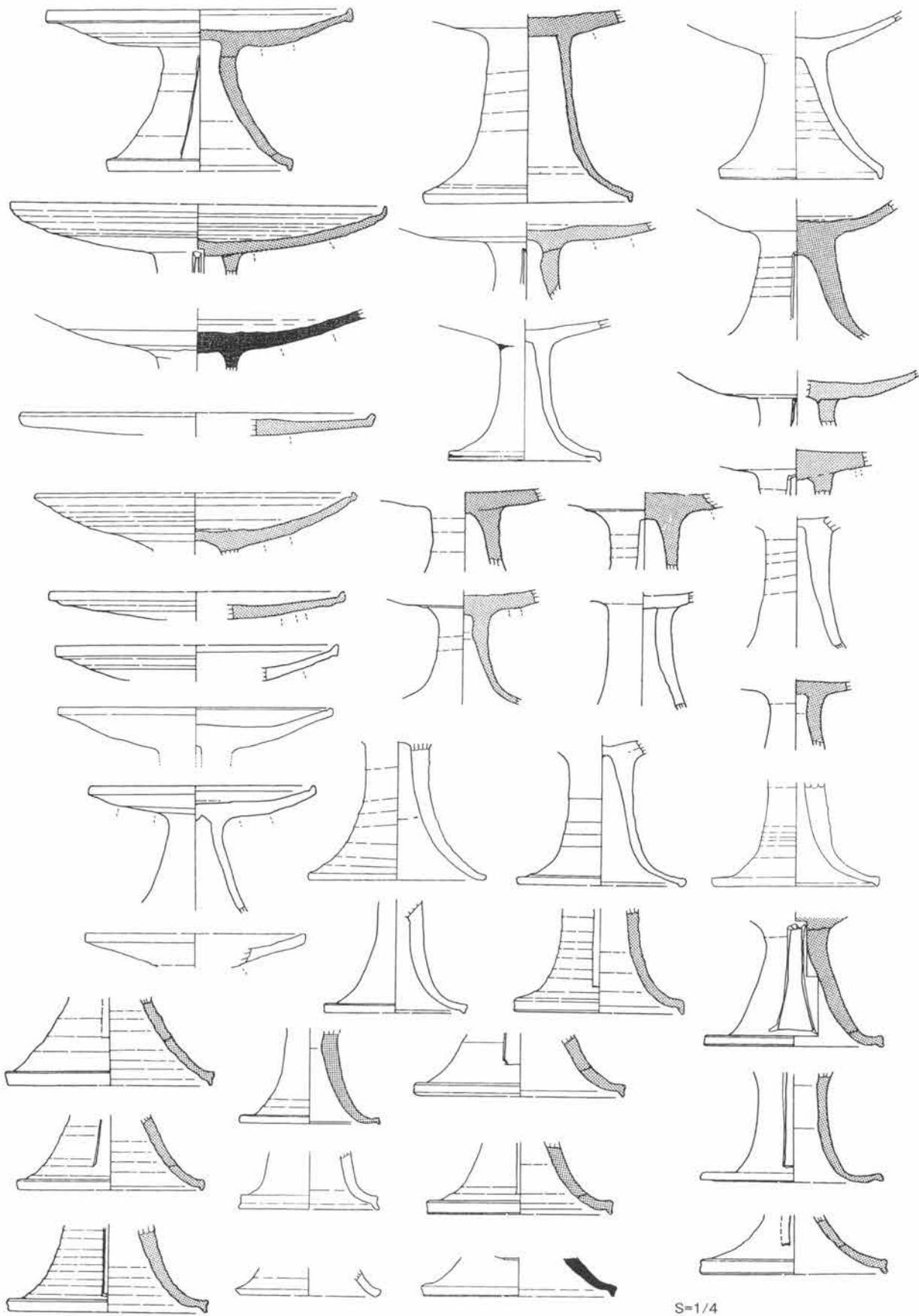
相馬郡では花前Ⅱ遺跡（No14）・南台遺跡（No17）・大井大畑遺跡（No18）・高根遺跡（No20）・新木東台遺跡（No21）・北久保作遺跡（No22）・野守遺跡（No23）・布佐・余間戸遺跡（No27）の8遺跡から9個体が検出されており、相馬郡衙跡である日秀西遺跡周辺と郡の西部に分布する。

千葉郡内は6遺跡（No57・60・62・68・77・79）から28個体が検出されているが、大北遺跡（No62）からは畿内産土師器の高盤が破片を含めると17個体が出土している。大北遺跡は前述のように駅家に関連する何らかの施設の可能性が指摘されている遺跡であり、遺跡内には多量の畿内産土師器がもたらされており、役人が饗宴を行った場であると考えられている。

印旛郡からは23遺跡（No80・82・83・86～89・91・93・94・96・99・102・105・109・113・115・119・120・122～125）から38個体の高盤が検出されており、郡ごとの遺跡数では最も多い。ただし、高盤の個体数は鳴神山遺跡（No83）の5個体が最も多く、大半の遺跡の出土数量は1個体である。高盤出土遺跡が集中する地点は、千葉郡の北西部に近接する井戸向遺跡（No88）周辺と埴生郡に近接する大袋小谷津遺跡（No120）、そして印旛沼の南方に所在する高岡大山遺跡（No99）周辺の3地点に分かれる。

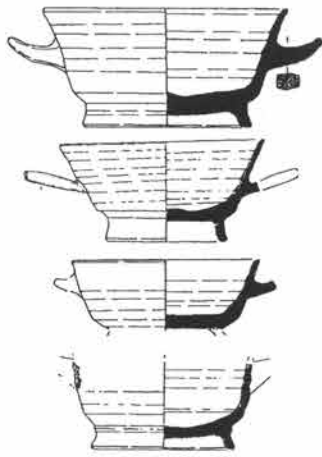
埴生郡は12遺跡（No126・128・130・131・133・136・138・141・143・145・147・148）から17個体が検出されている。分布は埴生郡衙跡の大畑Ⅰ遺跡（No138）周辺と囲護台遺跡群（No128）に分かれる。

香取郡では3遺跡（No150・154・158）の4個体のみである。なお、妙見堂遺跡（No158）の遺物は10世紀代の新しい遺物である。匝瑳郡は8遺跡（No162・165～171）から15個体が出土している。大半の遺跡では高盤の出土は1個体であるが、柳台遺跡（No168）からは6個体が検出されており、分布も同遺跡の周辺に多くみられる。



S=1/4

第29図 国府台遺跡出土高盤



S=1/4

第30図 小貝川川底遺跡出土双耳杯

海上郡からは2遺跡 (No.176・177) で2個体が出土し、郡の北西部にみられる。

双耳杯

双耳杯は杯の両側に把状の耳が付いた遺物であり (第30図)、東北地域においては、官衙遺跡や仏教関連遺跡からの出土が多いことが指摘されている¹³⁾。

分布は、結城・葛飾・岡田・海上・埴生郡でみられ、9遺跡から18個体が出土している。ほとんどの遺物は須恵器である。茨城県三和町浜ノ台窯 (No.4) では須恵器双耳杯が生産されており、分布も同遺跡の所在する結城郡や隣接する岡田郡に多い。結城郡では浜ノ台窯跡のほかに下り松遺跡 (No.2) と峯崎遺跡 (No.3) から出土している。

葛飾郡では国府台遺跡 (No.39) から出土し、岡田郡では小貝川川底遺跡 (No.6) から4個体、一本木遺跡 (No.7) と大生郷遺跡 (No.10) からそれぞれ1個体が出土しており、埴生郡からは新山I遺跡 (No.131)、海上郡では境原遺跡 (No.175) からそれぞれ1個体が検出されている。

耳皿

耳皿は相対する口縁部を内側若しくは上方へ折り曲げた形状の小皿である。現代でもこの形状の器は多くの神社で使用されており、名称は箸台と呼ばれていることが多く、神饌に用いられることが多い。

耳皿の全国的研究としては、伊藤正人氏が2000年にまとめられており¹⁴⁾、その中で平安時代においては律令国家支配体制下の官衙及び拠点集落からの出土が多いことを述べている。なお、千葉県内では2個体の土師器耳皿が集成され、分布状況は東北地域と類似していると考えられているが、今回の集成により、緑釉陶器や灰釉陶器の耳皿の存在が明らかとなったので、おおよそ関東の諸地域の分布状況と整合するように思われる。

耳皿は12遺跡から14個体が検出されており、材質には緑釉陶器・灰釉陶器・須恵器・土師器がみられ、9世紀前半～10世紀のものが認められる (第31図)。耳皿の分布は出土総数自体が少ないため、郡ごとの集中は捉えられない。

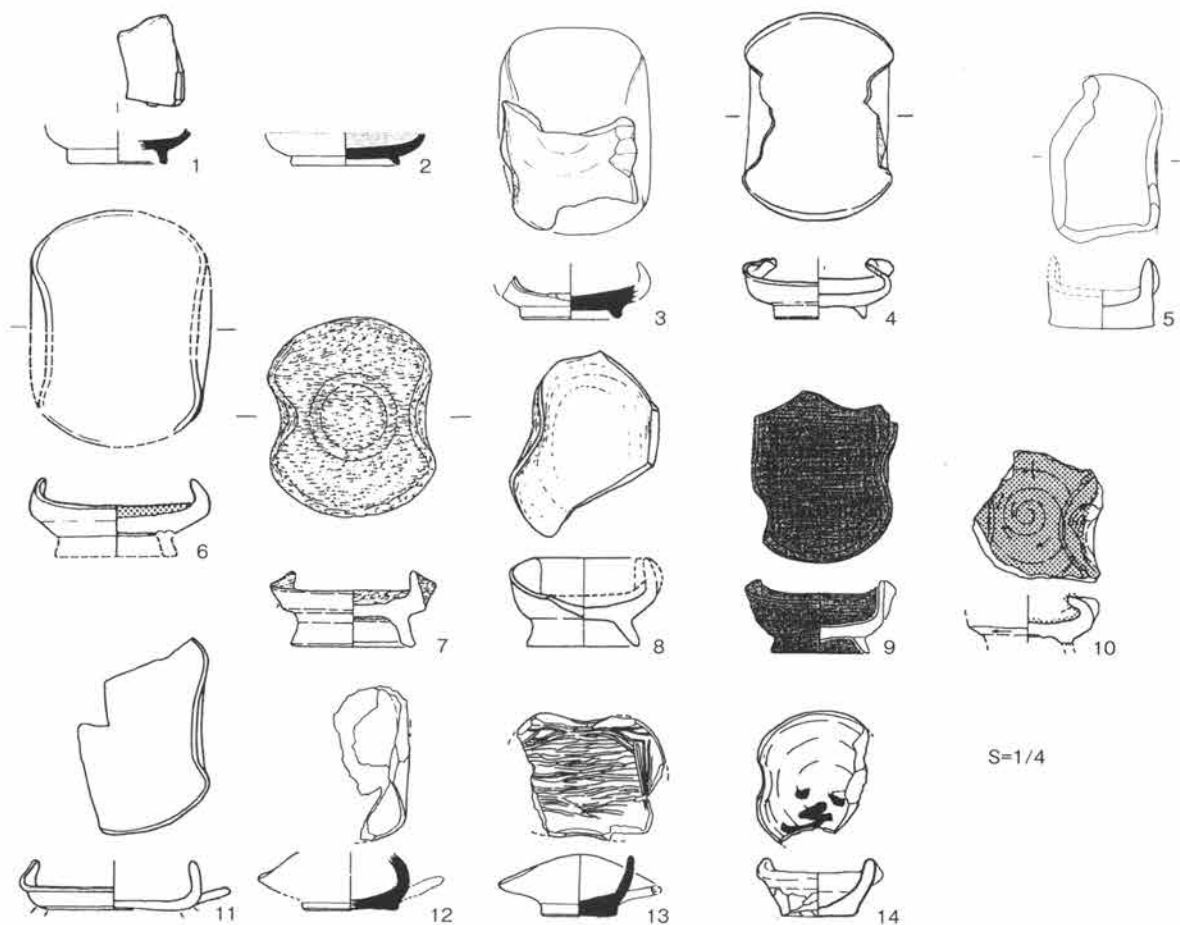
結城郡の峯崎遺跡 (No.3) からは土師器耳皿が1個体、猿島郡の北新田A遺跡 (No.12) では須恵器耳皿1個体、相馬郡の花前II遺跡 (No.14)・法華坊遺跡 (No.16) からは各1個体の土師器耳皿が検出されている。

葛飾郡では下総国分遺跡 (No.37) から灰釉陶器耳皿1個体、国府台遺跡 (No.39) で土師器耳皿が2個体検出されている。千葉郡では大北遺跡 (No.62) で緑釉陶器耳皿1個体、大森第1遺跡 (No.64) で土師器耳皿1個体が検出されている。

印旛郡では白幡前遺跡 (No.89) で灰釉陶器耳皿1個体、高岡大山遺跡 (No.99) で土師器耳皿1個体、岩富漆谷津遺跡 (No.114) から灰釉陶器耳皿1個体が検出され、香取郡では津宮遺跡群 (No.155) から土師器耳皿2個体が出土している。これらの耳皿は高台が付いたものが多い。

鉄鉾

鉄鉾は千葉郡の大森第2遺跡 (No.65) 出土の1例のみである。時期は8世紀後半と考えられる。竪穴住居跡から検出されている。



番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	大北遺跡	4	岩富漆谷津遺跡	7	法華坊遺跡	11	高岡大山遺跡
2	下総国分僧寺	5	北新田A遺跡	8	大森第1遺跡	12・13	津宮遺跡群
3	白幡前遺跡	6	花前II遺跡	9・10	国府台遺跡	14	峰崎遺跡

第31図 耳皿

3 墨書土器等の文字資料の様相

官衙を表す墨書土器

「驛」・「衙」・「廳」

駅家を表したと考えられる墨書土器が2遺跡から検出されている。千葉郡の観音塚遺跡(No60)では「子驛□」、大袋小谷津遺跡(No120)からは「驛」の可能性のある墨書土器と「門殿」という墨書土器が出土している。

「衙」と「廳」はいずれも役所・官庁を表すことばである。「衙」は葛飾郡の下総国分尼寺跡(No38)と東中山台遺跡群(No48)から出土し、東中山台遺跡群からは「□藏」の墨書土器と須恵器高盤が検出されている。「廳」の墨書土器は、葛飾郡の下総国分尼寺跡と迎瑛郡の平木遺跡(No174)から出土し、平木遺跡では「郡厨」・「玉長」・「□厨」の墨書土器が検出されている。なお、「玉長」は迎瑛郡の玉作郷の郷長を示すと考えられている。このほかにヘラ書きで「軍」の文字が葛飾郡の曾谷貝塚(No42)から検出されている。

また、須和田遺跡 (No.40) からは「右京」、下総国分僧寺 (No.41) からは「□京」の墨書土器が出土している。国府の範囲が京として認識され、「右京」・「左京」に別れていた可能性が読みとれる。注目される資料である。

官衙の諸施設を表す墨書土器

「厨」・「館」・「曹司」

郡衙等の官衙の中にみられる厨家は調理場としての実務を中心とする施設である。「厨」の墨書土器が出土した遺跡はどのような場であったのであろうか。

厨の墨書土器が出土した遺跡は20遺跡で個体数は23個体に達し、官衙の施設を表す文字としては最も出土遺跡数が多い。8世紀後半～9世紀中葉までの土器にみられ、器種には高盤・高台付皿・杯 (第32図) がある。杯が最も多く出土しており、杯の底部外面に墨書されているものが大半を占める。

猿島郡内は北新田A遺跡 (No.12) から出土し、同遺跡からは高盤2個体と耳皿1個体が検出されている。

葛飾郡内では坂花遺跡 (No.34) と下総国分僧寺 (No.41) から「国厨」の墨書土器が出土し、注目される。坂花遺跡の出土例は火葬墓の甕の蓋として使用されていたものであり、高盤の脚台部外面に逆位の状態で墨書がみられる。下総国分僧寺出土の「厨」墨書は高台付皿の内面に書かれており、両遺跡の墨書土器の墨書記載位置はほかの地域のものとは異なった様相にある。

千葉郡内からは高沢遺跡 (No.71)・椎名崎遺跡 (No.73)・芳賀輪遺跡 (No.79) から出土し、椎名崎遺跡からは「布厨」の墨書土器が検出されている。

印旛郡内からは5遺跡で出土し、白幡前遺跡 (No.89)・高岡大山遺跡 (No.99)・腰巻遺跡 (No.112)・油作第2遺跡 (No.117)・台方下平Ⅱ遺跡 (No.119) から出土し、高岡大山遺跡からは「曹」・「門守」、油作第2遺跡では「曹司」などの墨書土器が出土している。

匝瑳郡内では平木遺跡 (No.174)・俣田遺跡No.1・2遺跡 (No.159)・妙名遺跡 (No.167) から出土しており、平木遺跡からは「郡厨」・「廳」、俣田遺跡No.1・2遺跡からは匝瑳郡の厨を示すと考えられる「匠厨」の墨書土器が出土している。埴生郡では向台遺跡 (No.136)・大畑Ⅰ遺跡 (No.138)・囲護台遺跡群 (No.128)・山口遺跡 (No.126) から出土し、大畑Ⅰ遺跡は埴生郡衙推定地である。

海上・香取・猿島郡内からは各1遺跡から出土し、香取郡の長部山遺跡 (No.156) では「官」の墨書土器が出土している。

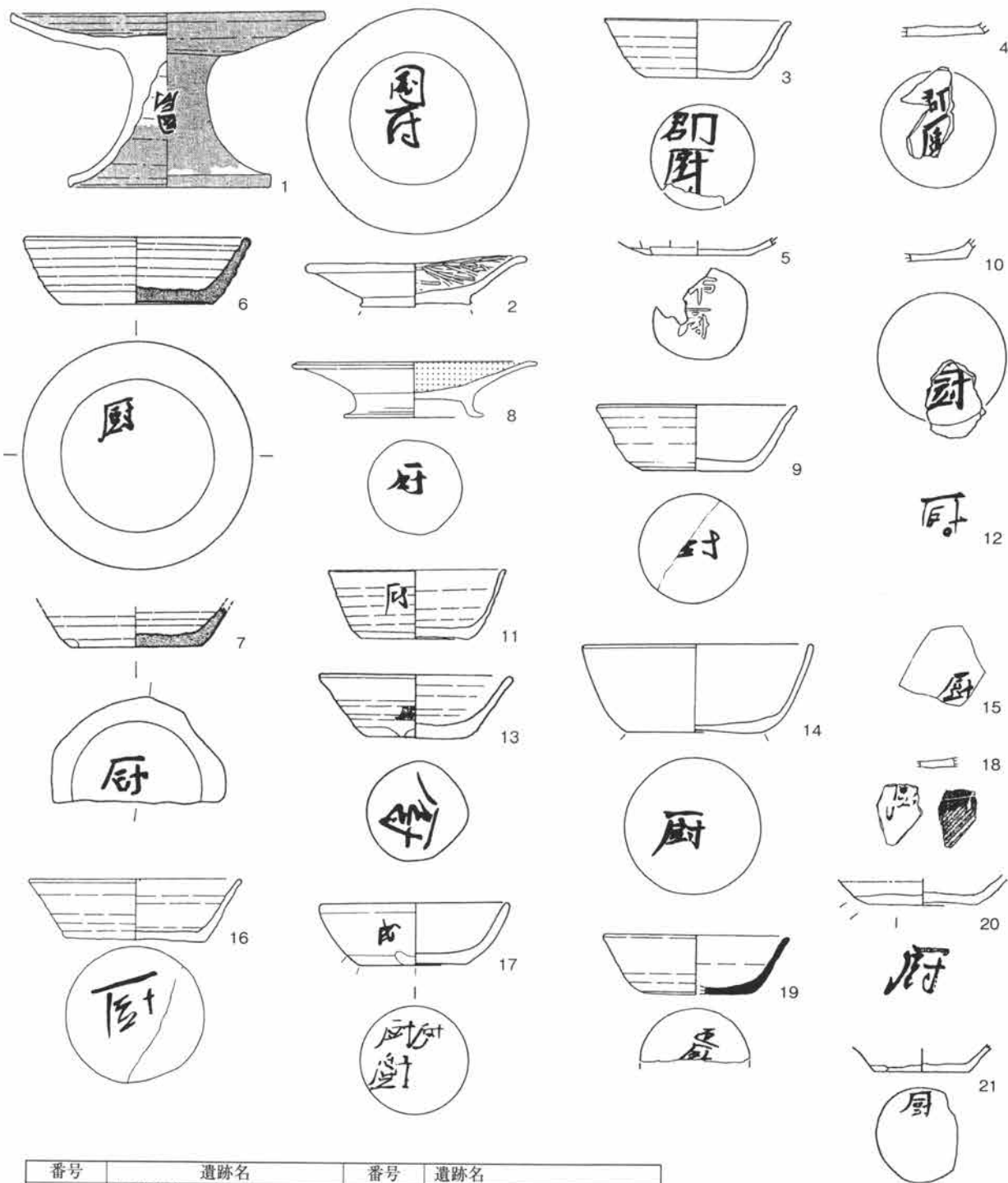
文献にみえる「館」は、国衙・郡衙等に付属する宿泊や食事を提供する施設である。下総地域からの出土は須和田遺跡 (No.40) の「博士館」のみである。須和田遺跡は国府台遺跡の東に所在し、国府に置かれた国学に勤務する国博士 (定員1名) の宿泊施設が付近に存在する可能性も考えられる遺跡である。

曹司とは行政実務や役所機能の維持・運営に関わる業務を分掌する機関及びそれに伴う施設群である。「曹司」若しくは「曹」の墨書土器が検出された遺跡は、印旛郡の高岡大山遺跡 (No.99)・油作第2遺跡 (No.117)、香取郡の名木廃寺跡 (No.152)、海上郡の古屋敷遺跡 (No.178) の4遺跡で認められる。

高岡大山遺跡からは円面硯・風字硯・高盤・鈎帯金具・耳皿が検出され、墨書土器は「曹」のほかに上記の文字が認められる。油作第2遺跡からは「厨」の墨書土器、古屋敷遺跡からは鈎帯金具と郷名と考えられる「山幡」・「千俣」の墨書土器が出土している。

律令官人を表す墨書土器

「守」・「介」・「校尉」



番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	坂花遺跡	13	腰巻遺跡
2	下総国分僧寺	14	高岡大山遺跡
3・4・10	平木遺跡	15	妙名遺跡
5	椎名崎遺跡	16	北新田A遺跡
6・7	大畑I遺跡	17	山口遺跡(公津原Loc.20)
8	長部山遺跡	18	岩井安町遺跡
9	白幡前遺跡	19	俣田遺跡No.1・2地点
11	台方下平II遺跡	20	油作第2遺跡
12	開護台遺跡群	21	高沢遺跡

S=1/4

第32図 「厨」の墨書土器

守・介は国の四等官の最上官と次官を表した文字と認識され、「校尉」は諸国に設けられた軍団の兵200人を統率する指揮官の名称である。「守」の墨書土器は迦瑳郡の柳台遺跡（No.168）から検出され、さらに「千校尉」の墨書土器が検出されており、6個体の高盤や鈎帯金具が出土している。「介」は相馬郡の野守遺跡（No.23）から検出されている。野守遺跡は相馬郡衙跡である日秀西遺跡（No.24）に隣接しており、一連の遺跡と考えられる。

このほかに埴生郡の南圀護台遺跡（第1地点）（No.130）から「使生」という墨書土器が検出されているが、これは国の四等官の下官である史生の可能性が指摘されている。

墨書土器はこれ以外にも「官」・「公人」等の官衙に結びつくものが存在する。なお、「丁」の文字が記載された墨書土器も数遺跡でみられたが、これのみ単独で出土した遺跡については今回の集成から除外した。

4 官衙関連遺物出土遺跡の複合分布状況の有する意義

1. 主要遺物の性格

以上、郡ごとにそれぞれの遺物の分布を概観したが、これらの遺物を総合してみると何がわかるであろうか。

まず、全体の分布であるが、第23図と第33図の千葉県史記載の駅路推定図¹¹⁾とを比較していただきたい（以下、駅路の推定地については註11の文献による）。官衙関連遺物出土の多くの遺跡が古代道路の推定路に沿って分布しているように見受けられる。とくに畿内産土師器は従来から古代の街道沿いに多く分布する¹⁵⁾とされているが、今回の分析もそれを裏付ける結果であり、千葉郡と印旛郡の畿内産土師器のあり方はほぼ駅推定路に沿ったものとなっている。

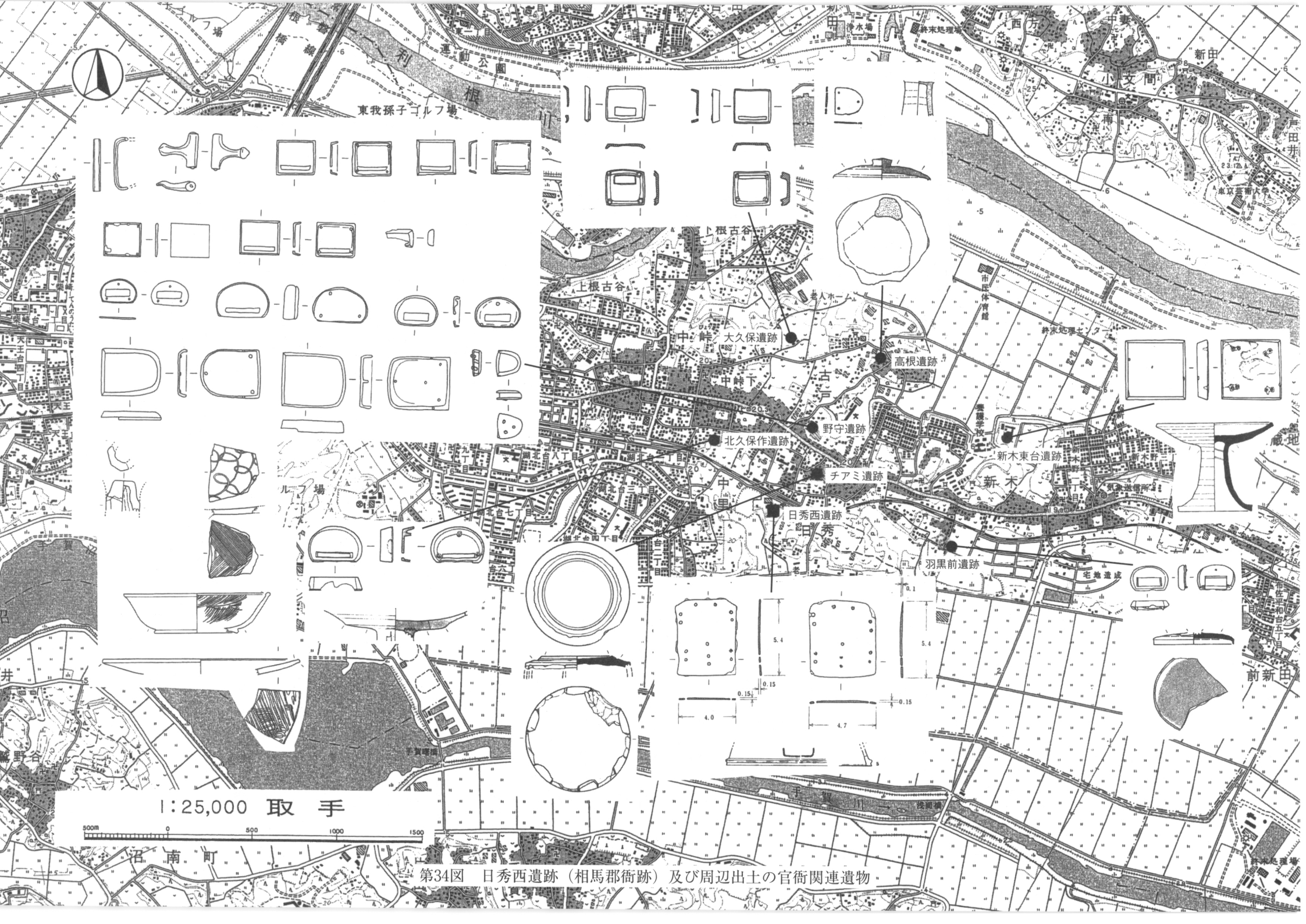
また、円面硯の分布についても同様に古代の道路に沿った形の地域が多い。円面硯の出土した遺跡は、上記の個別分布でも述べたように国府周辺域、郡衙遺跡に多く存在し、円面硯は優れて官衙に結びつく性格であることは明白であろう。円面硯が出土した30遺跡のうち、21遺跡で何らかの文中で扱った官衙関連遺物が相伴していることから、このことは補強されるであろう。

円面硯と畿内産土師器の両者が出土している遺跡は7遺跡であり、葛飾郡内の国府台遺跡及び印内台遺



跡、千葉郡内の大北遺跡（官衙関連遺跡）、相馬郡内の日秀西遺跡（相馬郡衙跡）、埴生郡内の向台遺跡及び大畑I遺跡（埴生郡衙跡）、圀護台遺跡群である。7遺跡中5遺跡は国府跡・郡衙跡、駅家関連遺跡の可能性が指摘されており、両者が同一遺跡内から検出された場合、付近に官衙遺跡の存在を想定する必要に迫られるであろう。

以上、円面硯と畿内産土師器は交通の要衝若しくは官衙からの検出例が非常に多く、官衙関連の遺物の中でも重



1:25,000 取手

500m 0 500 1000 1500

第34図 日秀西遺跡（相馬郡衙跡）及び周辺出土の官衙関連遺物

要な遺物として認識される。

高盤については、下総国府跡と目される国府台遺跡から多量の高盤が検出されていることや官衙関連の遺跡から多く出土していることから、積極的に官衙関連遺物として評価できる。高盤を出土した83遺跡のうち、ほかの文中に示した官衙関連遺物がみられない遺跡は24遺跡であり、官人等と密接に結びついている遺物と考えられる。

鈔帯金具は、集落内から多く出土している。これをどのように評価すべきなのか判断に迷うところである。鈔帯金具が検出された102遺跡のうち、53遺跡からはほかに官衙関連遺物が検出されていない状況にある。半数以上の遺跡から遺物がこれ以外に検出されていないことは、鈔帯金具の性格が必ずしも官衙に直結するものではないということを示している可能性もある。鈔帯金具は竪穴住居跡から多く出土することから、金具自体を竪穴住居の構築の際の地鎮・鎮壇等の祭祀に使用されたとの見解も存在し、鈔帯金具の出土地点を探っても官衙関連遺物とは離れた動きとなるという指摘もなされよう。

しかしながら、分布状況を巨視的に概観した場合、鈔帯金具も古代における主要交通路上に位置しているものが多く、官衙関連遺跡からの出土も認められ、分布も集中する地点が多い(第34図)。祭祀具的な用途が最終的な鈔帯金具の使用法であるとするならば、分布も下総地域に普遍的にみられるのではなかろうか。さらには、分布している金具のすべてを祭祀具若しくは何らかの記念の分配品とみなすことはできないだろう。ここでは、鈔帯金具を本来の使用目的に応じた用いられ方、すなわち正式な儀式等に身に付けるものであることに重点を置き、それらを身に付けたであろう人々がいた地域の表れとして分布を捉えることにしたい。

双耳杯については、官衙と考えられる遺跡からの出土が国府台遺跡のみであり、必ずしも官衙に伴うとは言えない。しかしながら、9遺跡のうち双耳杯と円面硯の両者が検出されている遺跡が5遺跡みられることや、大部分の遺跡が官衙関連遺物の出土が稠密な地域の中にあることを勘案するならば、官衙関連遺物に含めることが可能な遺物と判断される。

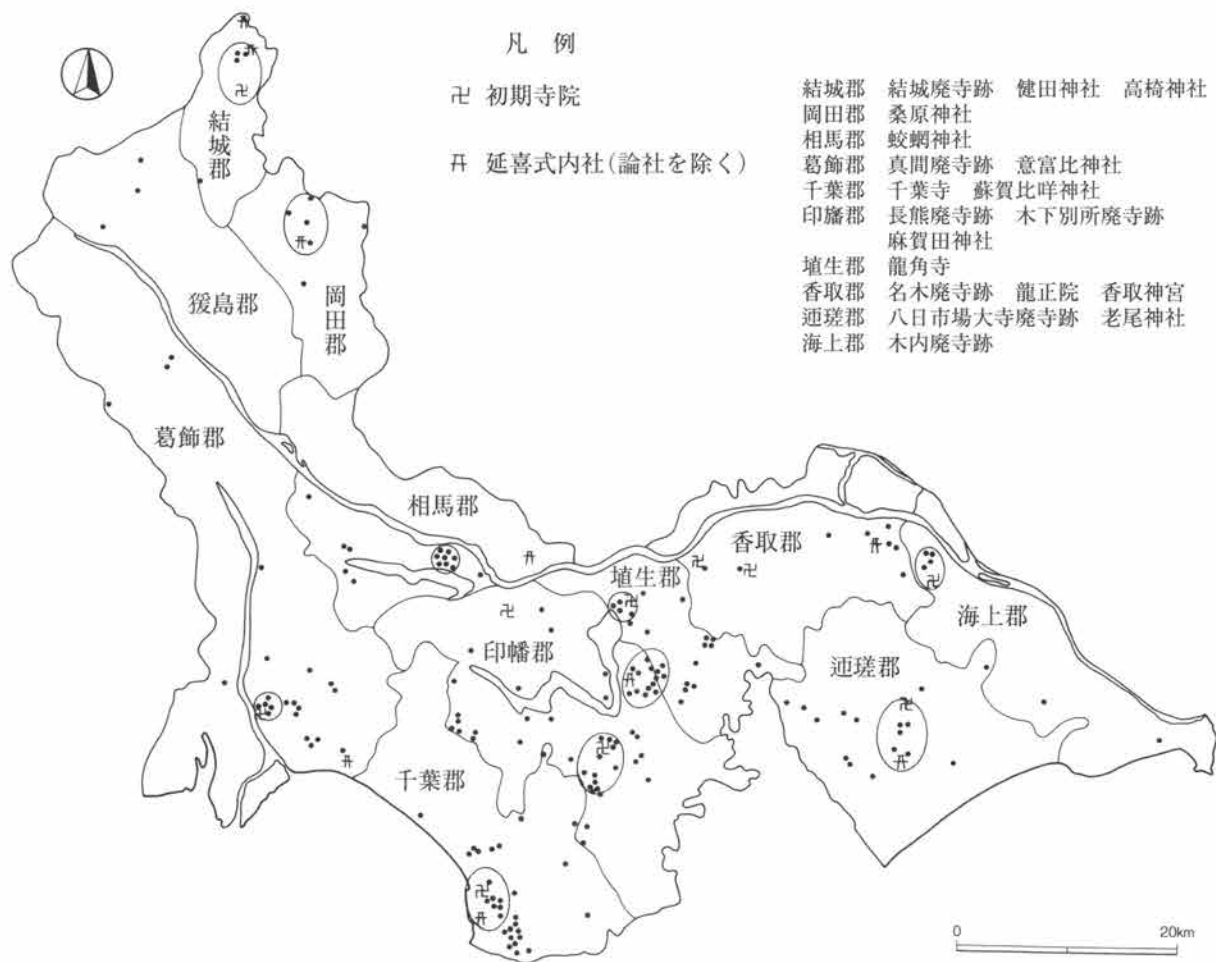
耳皿は12遺跡の出土遺跡のうち、官衙関連遺跡からの出土は国府台遺跡・大北遺跡の2か所である。9遺跡からほかの官衙関連遺物が検出されており、分布もそれぞれの地域の遺物集中地域からの出土が多い。官衙及び拠点的な集落から出土する状況にあることがわかる。時期的には双耳杯よりも基本的に新しい遺物であり、双耳杯に代わる何らかの儀式に利用されていた遺物として評価しておきたい。

下総地域の「厨」の墨書土器の出土遺跡は、全体的には官衙そのものの遺跡よりもその周囲の拠点的な集落遺跡からの出土が多いように見受けられる。このように集落跡からの出土が多い要因について山中敏史氏は、郡衙や郡衙の出先機関以外の場所で郡衙の厨が供給活動を行っていた際のものも含まれるとしている¹⁶⁾。

なお、印旛郡及び埴生郡からは合計で9遺跡から出土し、官衙関連遺物出土遺跡が集中する箇所も多く分布している。

「厨」の墨書土器は20遺跡で検出されているが、高盤の分布と重ね合わせた場合、20遺跡のうち11遺跡から高盤が出土している。半数以上の遺跡から饗宴・儀式に使用されたと考えられる高盤が出土する状況は、その遺跡自体が官衙ではないにしても近く官衙から物資の供給がなされた可能性を示唆している。

以上、円面硯・畿内産土師器・高盤、墨書土器の「厨」等は官衙関連遺物として積極的に評価できるものであり、双耳杯・耳皿・鈔帯金具の分布は従的な遺物として認められるであろう。



第35図 官衙関連遺物出土遺跡集中範囲

2. 核となる地域の抽出

さて、上記の概念（円面硯・畿内産土師器・高盤を重要視する。）に沿って遺物分布を郡ごとにみると、各地域で官衙関連遺物出土遺跡の分布にまとまりがあることがわかる。第35図はこのまとまりの範囲を括ったものであり、その中に初期寺院（8世紀前半までに創建された可能性の高い寺院）の分布と延喜式内社¹⁷⁾（論社を除く）の位置を入れたものである。

以下、郡ごとに核となる地域を挙げる。

結城郡 郡北部に円面硯を中心とした分布がみられる。結城廃寺跡よりも北部の地域にみられ、延喜式内社の高椅神社及健田神社よりも南部の地域にみられることになる。

岡田郡 郡北東部に円面硯を中心とした分布がみられる。円の下端にある国生本屋敷遺跡は岡田郡衙跡推定地となっている遺跡であるが、遺物分布状況からみて、郡の中心はこの遺跡とその周辺にあることを予見させる。国生本屋敷遺跡の付近には延喜式内社の桑原神社が所在する。

援島郡 郡北西部に出土遺跡がみられるが、遺跡数が僅かなため、不明な点が多い。

葛飾郡 郡南部の国府推定地である国府台遺跡を中心とする稠密な分布が認められる。国府台遺跡の南東に真間廃寺跡がみられ、国分僧寺、国分尼寺跡も分布範囲内に所在する。

相馬郡 郡南東部の相馬郡衙跡の日秀西遺跡（No.24）を中心とした分布が認められ、分布は稠密である。

郡域の南西部にも分布がややまとまる箇所があるが、これについては古代駅路の茜津駅推定地（柏市北柏・根戸・我孫子市船戸付近）と近接した分布となっている。

千葉郡 郡南部の大北遺跡を中心とした分布を示しており、畿内産土師器が出土する遺跡が多い。大北遺跡の北西には初期寺院である千葉寺が存在し、従前からこの周辺に郡衙の存在することが考えられている。また、延喜式内社の蘇我比咩神社が近くに存在する。千葉郡内には浮嶋駅・河曲駅が存在するが、浮嶋駅は習志野市津田沼・鷺沼付近と千葉市花見川区幕張町付近が推定地とされ、河曲駅は千葉市中央区の寒川付近が推定地と考えられている。

観音塚遺跡（No60）は大北遺跡の西北600mの位置にあり、大北遺跡との関連も考えられる遺跡であるが、観音塚遺跡からは「子驛□」という墨書土器が検出されており、注目される。おそらく河曲駅家は大北遺跡の周辺にあったものと考えられる。

印旛郡 遺物の集中する地域は2か所に存在し、郡中央で千葉郡寄りの高岡大山遺跡（No99）を中心とした分布と、郡中央北寄りで埴生郡と接する大袋小谷津遺跡（No120）を中心とした分布がみられ、郡中央北寄りの分布は隣接の埴生郡の圀護台遺跡群を中心とする一群と重複する。高岡大山遺跡の分布域には、長熊廃寺跡がみられ、大袋小谷津遺跡の分布域には延喜式内社の麻賀田神社がみられる。

印旛郡の官衙には郡衙とともに古代駅路の鳥取駅が存在する。鳥取駅は佐倉市神戸・木野子周辺が推定地とされており、鳥取駅の推定地は郡中央で千葉郡寄りに分布がみられる遺跡群の中に収まっている。同地域は郡衙・駅家の両者若しくはそのどちらかが存在する可能性が濃厚である。

大袋小谷津遺跡からは「驛」の可能性のある墨書土器と「門殿」という墨書土器が出土しており注目される。円面硯は下総地域最多の9個が出土しているので、官衙的な遺跡の可能性が高い。

埴生郡 印旛沼の北端部と郡域の南西部の2か所に分布が別れる。北端部は埴生郡衙跡に比定される大畑第I遺跡を中心として、畿内産土師器・須恵器円面硯が分布する遺跡がみられ、大畑第I遺跡の近くには初期寺院の龍角寺が存在する。

南西部は圀護台遺跡群（No128）を中心とした分布であり、印旛郡の大袋小谷津遺跡（No120）を中心とする遺跡群と複合した大きな分布を形成する。

埴生郡には駅路の山方駅が存在する。山方駅の推定地は成田市成田・加良部・中台・田町・東町・本町・仲町・上町・花崎町・新町・馬橋・圀護台・南平台・郷部付近のいずれかとされており、推定地は南西部の官衙関連遺物出土遺跡群と重なっている。南西部の分布は印旛郡の範囲まで伸びており、あるいは印旛郡の「驛カ」の墨書が出土した大袋小谷津遺跡の一群を取り込んだ形で、山方駅家に関わりがある集団が存在した可能性を考えることはできないであろうか。

香取郡 郡域の西部と東部の2か所に分布が別れるが、円面硯の分布が1遺跡のみで、畿内産土師器の出土も認められないことから積極的には区域を設定できない。西部は青山富ノ木遺跡（No151）を中心に3遺跡が認められ、付近には初期寺院の名木廃寺跡や龍正院が存在する。東部は円面硯や高盤が出土した仁井宿東遺跡（No154）のほか4遺跡がみられ、仁井宿東遺跡の南東には香取神宮が存在する。東西のどちらかの群に官衙が存在する可能性が認められる。

香取神宮の神官については、位階・季禄が与えられていた。『延喜式』¹⁸⁾によれば宮司は従八位の官人に準じて季禄を支給されると規定されており、神官は官位に相当した衣服が支給されていた。

このように準官人の集団が存在することから、官衙関連遺物出土遺跡が香取神宮付近に分布がまとまるのは当然のことと考えられる。

なお、香取郡内の官衙は郡衙のほかには真敷駅と荒海駅の2駅がある。

迺瑛郡 郡域の中央部に分布の中心が認められる。分布の中心にある柳台遺跡 (No.168) からは、「守」・「千校尉」の墨書土器、高盤6個体、銚帯金具が検出されており、同遺跡の北方には八日市場大寺廃寺跡が所在する。また、南方には延喜式内社の老尾神社が所在し、これらの付近に官衙が存在する可能性は高いと考えられる。

海上郡 郡北西部に集中してみられる。御座ノ内遺跡 (No.177) 付近に分布の中心があり、遺跡の南には初期寺院の木内廃寺跡がある。

以上、下総地域11郡の官衙関連遺物出土遺跡の集中分布範囲を概観したが、郡によって1か所若しくは2か所に分布が集中することがわかった。また、分布の集中する範囲内に初期寺院若しくは延喜式内社が多く含まれ、駅路及び駅の推定地とも重なる例が多いことがわかった。同時にこれらの集中範囲が7世紀代の大型古墳の分布と重なることが多い点も見逃せないことである。

官衙関連遺物の集中する分布範囲が、従来からの研究の各官衙推定地と重なる結果は、ある程度予測していたが、このようにかなりの確率で重複することが判明したことはこの方法が有益であるということになると思われる。

見方をかえれば、今回の結果は当たり前のことと評されるであろう。しかし、官衙の推定地が不明な地域もある。あくまでも官衙研究の補助的な役割ではあるが、地道な努力を重ねて行くことも大切と考える。房総三国における官衙関連遺物をさらに丹念に調査する必要がある。

5 おわりに

下総地域において180遺跡から官衙関連遺物の出土がみられた。1997年に房総3国の仏教関連遺物の集成を行ったが¹⁹⁾、その際の仏教関連遺跡数は房総3国で199か所であり、生産遺跡(寺院へ供給する瓦窯跡と仏器を生産していた須恵器窯跡)や小金銅仏出土地等を含めると229か所であった。官衙関連遺物の出土遺跡が下総地域のみでこれに匹敵する数量になったことは、予想外のことであった。

また、改めて気づいた点は仏教関連遺物と官衙関連遺物出土遺跡の多くは複合する遺跡であったことである。古代の交通路の要衝は今回の官衙遺跡の分布とも当然ながら重なるものであり、多くの初期寺院及び延喜式内社の分布と重なるものであった。今回の集成は、期せずして当時における都会と鄙の位置を部分的ながら示す結果となった。

註

- 1 山中敏史 1994 「第二節 官衙遺跡の判定方法 序章 古代地方官衙遺跡研究の意義と方法」『古代地方官衙遺跡の研究』塙書房
- 2 林部 均 1986 「東日本出土の飛鳥・奈良時代の畿内産土師器」『考古学雑誌』第72巻第1号 日本考古学協会
- 3 富田和夫 2002 「飛鳥・奈良時代の官衙と土器 -官衙的土器と搬入土器の様相-」『埼玉考古学会シンポジウム 坂東の古代官衙と人々の交流』埼玉考古学会
- 4 安田竜太郎 1981 「食膳形態土器の構成」『平城宮発掘調査報告Ⅺ 第1次大極殿地域の調査』奈良国立文化財研究所

- 5 國史大系編集會 1977 「軍防令」『令義解』 國史大系本 吉川弘文館
- 6 財団法人千葉県資料研究財団 2001 「千葉県の歴史 通史編 古代2」 千葉県
財団法人千葉県資料研究財団 1998 「千葉県の歴史 資料編 考古3 (奈良・平安時代)」 千葉県
- 7 千葉県立中央図書館 1972 「千葉県地名変遷総覧」 千葉県郷土資料刊行会
- 8 田中広明 2005 「東国の地方官衙・集落と陶硯」『茨城県考古学協会シンポジウム 古代地方官衙周辺における集落の様相－常陸国河内郡を中心として－』 茨城県考古学協会
- 9 田中広明 1991 「律令時代の身分表象(Ⅱ) -腰帯をめぐる人々の奈良・平安時代-」『土曜考古』第16号 土曜考古学研究会
- 10 萩原恭一 1986 「千葉市大北遺跡の検討」『千葉県文化財センター研究紀要10』(財)千葉県文化財センター
- 11 山路直充 2001 「第二章 古代の交通路」『千葉県の歴史 通史編 古代2』 千葉県
- 12 松本太郎・松田礼子氏は、下総総社跡が下総国府推定地内に位置し、高台付杯、蓋、盤類(高盤を含む)等の豊富な食膳具構成で多量に土器が出土したこと、大型で固定化したまま使用されたとされる甕が多数出土していることや廃棄された高台付杯・甕等の中に炭化飯が混入していたことから、下総総社跡付近に国厨が存在した可能性を指摘している。
松本太郎・松田礼子 1996 「第6章 考察」『平成7年度市川市埋蔵文化財調査・研究報告 市川市出土遺物の分析 -古代の鉄・土器について-』 市川市教育委員会
- 13 利部 修 1998 「東北以北の双耳杯と環状凸帯付長瓶壺」『研究紀要13』 秋田県埋蔵文化財センター
- 14 伊藤正人 2000 「耳皿ノート」『中近世土器の基礎研究XV』 日本中世土器研究会
- 15 石戸啓夫 1984 「大源太遺跡出土の畿内系土師器について」『藤沢市片瀬 大源太遺跡の発掘調査』 青山学院大学・大源太遺跡発掘調査団
- 16 山中敏史 1994 「第三節 館・厨家の構造と機能」『古代地方官衙遺跡の研究』 塙書房
- 17 下総地域の延喜式内社の位置については、下記による。
式内社研究会 1976 『式内社調査報告 第十一卷 東海道6』 皇學館大學出版部
- 18 國史大系編集會 1977 「延喜式 卷第三 神祇三」『新訂増補 國史大系 交替式・弘仁式・延喜式前編』 吉川弘文館
- 19 石田広美・小林信一・糸原 清 1997 「千葉県文化財センター研究紀要18 古代仏教遺跡の諸問題 -重要遺跡確認調査の成果と課題1-」(財)千葉県文化財センター

第6表 下総地域官衙関連遺物出土遺跡一覧表

凡 例

- 1 郡の所在については、『千葉県の歴史通史編 古代2』・『千葉県地名変遷総覧』等を参考とした。
なお、岡田郡については『延喜式』民部省頭注に、延喜四年（904）十二月十日、岡田郡を改めて豊田郡となすとあり、10世紀以降には、岡田郡は豊田郡に名称が変更されていることが知られる。今回取り扱っている遺物の大部分が8世紀～9世紀にかけてのものであるので、第6表では後の豊田郡の名称を採らずに岡田郡に統一して掲載した。
また、さらに後に豊田郡西部の一部を割いて別に岡田郡が建てられているが、第6表で使用している岡田郡は延喜4年までの岡田郡のことを指している。
- 2 官衙関連遺物が検出された遺跡については、参考として転用硯の出土点数を記載した。
- 3 硯・銚帯金具・特殊遺物欄の中にみられる算用数字はそれぞれの遺物の出土個体数を表している。官衙関連墨書等欄では同一文字等が複数検出されているものみに算用数字を附した。
- 4 銚帯金具は裏金具のみのものも個体数に含んだ数値である。

第6表 下総地域官衙関連遺物出土遺跡一覧表

No	郡名	遺跡名	硯・畿内産土師器・高盤	鈔帯金具	特殊遺物等	官衙関連墨書等
1	結城	油内遺跡	須恵器高盤1 転用硯(灰釉陶器高台付皿1、須恵器杯1)			
2	結城	下り松遺跡	須恵器円面硯1 須恵器高盤2 転用硯(灰釉陶器碗1、須恵器蓋1・甕1)		土師器羽釜1 須恵器双耳杯2	
3	結城	峯崎遺跡	須恵器円面硯1・小型円面硯1 須恵器高盤4 転用硯(灰釉陶器碗2、須恵器蓋3・杯1・盤1・皿2・甕4)		須恵器双耳杯4 土師器耳皿1 三彩陶器(小壺1・短頸壺1・瓶12) 白磁碗1	「公人」
4	結城	浜ノ台窯跡	須恵器円面硯1		須恵器双耳杯3	
5	岡田	下栗野方台遺跡	須恵器円面硯1 転用硯(須恵器高台付杯1)		土師器羽釜1 土師器置きカマド1	
6	岡田	小貝川川底遺跡	須恵器円面硯2 高盤2 転用硯(須恵器杯1・高台付杯2)		須恵器双耳杯4	
7	岡田	一本木遺跡			須恵器双耳杯1	
8	岡田	菅葉遺跡	須恵器円面硯2			
9	岡田	国生本屋敷遺跡	土師器高盤1			
10	岡田	大生郷遺跡			須恵器双耳杯1	
11	猿島	本田山A遺跡	須恵器高盤1	巡方(銅製)1		
12	猿島	北新田A遺跡	須恵器高盤1 土師器高盤1		須恵器耳皿1	「厨」
13	猿島	羽黒遺跡	須恵器円面硯1 須恵器高盤1	鉸具(銅製)1		
14	相馬	花前Ⅱ-1・Ⅱ-2遺跡	須恵器高盤2		土師器高台付耳皿1	
15	相馬	中馬場遺跡		巡方(青銅製)1	土師器羽釜1	
16	相馬	法華坊遺跡			ロクロ土師器高台付耳皿1	
17	相馬	南台遺跡	須恵器高盤1			
18	相馬	大井大畑遺跡	須恵器高盤1 転用硯(須恵器甕1)			
19	相馬	大久保遺跡		巡方(銅製)2		
20	相馬	高根遺跡	須恵器高盤1 転用硯(須恵器蓋1)	鈍尾(銅製)1		
21	相馬	新木東台遺跡	須恵器高盤1	巡方(石製)1		
22	相馬	北久保作遺跡	須恵器高盤1	丸軋(銅製)1		
23	相馬	野守遺跡	畿内産土師器(高盤1・杯A1・杯B1) 転用硯(須恵器高台付杯2)	巡方(青銅製)4 巡方裏金具(青銅製)1 丸軋(青銅製)2 鈍尾(青銅製)3 丸軋裏金具(青銅製)1 鉸具(青銅製)2	鉄製小札1	「介」
24	相馬	日秀西遺跡	円面硯1 畿内産土師器杯B1	裏金具(金属製)2		
25	相馬	チアミ遺跡	須恵器円面硯1			
26	相馬	羽黒前遺跡	転用硯(須恵器蓋1)	丸軋(銅製)1		
27	相馬	布佐・余間戸遺跡	須恵器高盤1 転用硯(ロクロ土師器高台付杯1)	鉸具(青銅製)1		
28	葛飾	町道遺跡	須恵器高盤1			
29	葛飾	陣屋遺跡	須恵器円面硯1	巡方(銅製)1		
30	葛飾	小湖山下北遺跡	須恵器円面硯1			

著者名	発行年	書籍名	発行機関
川津法伸 平石尚和	1999	「一般国道50号結城バイパス改築工事地内埋蔵文化財調査報告 下り松遺跡・油内遺跡」	勸茨城県教育財団
川津法伸 平石尚和	1999	「一般国道50号結城バイパス改築工事地内埋蔵文化財調査報告 下り松遺跡・油内遺跡」	勸茨城県教育財団
松田政基 齊藤伸明 広岡公夫 黒原秀夫	1996	「茨城県結城市峯崎遺跡」結城市文化財調査報告書第7集	結城市
三和町史編さん委員会	1992	「猿島郡三和町尾崎浜ノ台竈跡調査報告」[三和町史 資料編 原始・古代・中世]	三和町
玉井輝男 赤居博之 酒井弘志	1993	「下栗野方台遺跡－工場用地建設に伴う緊急発掘調査報告書－」	千代川村教育委員会
赤井博之	2003	「第六章 奈良・平安時代」[村史 千代川村 生活史第五巻 前近代通史]	千代川村編纂委員会
藤原 均	1997	「茨城県結城郡八千代町一本木遺跡発掘調査報告書」	八千代町教育委員会
赤井博之	2003	「第六章 奈良・平安時代」[村史 千代川村 生活史 第五巻 前近代通史]	千代川村編纂委員会
川井正一	1987	「国生本屋敷遺跡発掘調査報告書」	石下町史編纂室
桜井次郎	1981	「大生郷工業団地内埋蔵文化財調査報告書－大生郷遺跡－」	勸茨城県教育財団
堀苑孝志他	2001	「県営担い手育成畑地帯総合整備事業(上大野地区)埋蔵文化財発掘調査(幹線道路部分)報告書－地蔵遺跡・本田山A遺跡・B遺跡発掘調査報告書－」	総和町教育委員会
中沢時宗 桜井一美 和田雄次	1986	「一般国道4号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書1(総和地区)」	勸茨城県教育財団
駒澤悦郎	2003	「羽黒遺跡－一級河川女沼川河川改修工事事業地内埋蔵文化財調査報告書－」	勸茨城県教育財団
郷堀英司 田井知二他	1985	「花前Ⅱ－1・花前Ⅱ－2」[常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅲ－花前Ⅱ－1・花前Ⅱ－2・矢船－]	勸千葉県文化財センター
下津谷達男 古宮隆信他	1972	「中馬場遺跡」[中馬場遺跡・妻子原遺跡]	日本国有鉄道常磐線複々線工事関係遺跡調査団
古宮隆信他	1976	「中馬場遺跡第三次発掘調査報告書」	柏市教育委員会
古宮隆信他	1978	「法華坊」[根戸城]	我孫子市教育委員会
矢野慎一 古宮隆信	1978	「南台遺跡」[戸張遺跡群南台遺跡発掘調査第二次報告書(不動山遺跡)]	南台遺跡発掘調査団
小林清隆他	1987	「大井大畑遺跡」[大井東山遺跡・大井大畑遺跡]	勸千葉県文化財センター
石田守一	1985	「大久保遺跡」	我孫子市教育委員会
岡村眞文	1987	「高根遺跡」	我孫子市教育委員会
石田守一	1998	「第3章 下総 62 新木東台遺跡」[千葉県の歴史 資料編 考古3(奈良・平安時代)]県史シリーズ11	千葉県
石田守一	1987	「Ⅲ下総国 7 我孫子市新木東台遺跡(旧相馬郡)」[房総における歴史時代土器の研究]	房総歴史考古学研究会
岡村眞文	1985	「北久保作遺跡」[別当地・南久保作・北久保作遺跡]	我孫子市教育委員会
辻 史郎	2001	「野守遺跡第5次」[平成12年度市内遺跡発掘調査報告書 五郎地遺跡第1次・野守遺跡第5次]	我孫子市教育委員会
辻 史郎	2003	「野守遺跡第1次・3次・7次調査」	
辻 史郎	2001	「野守遺跡第2次・第4次発掘調査報告書」	
上野純司他	1980	「我孫子市日秀西遺跡発掘調査報告書」	勸千葉県文化財センター
林部 均	1992	「律令国家と畿内産土師器－飛鳥・奈良時代の東日本と西日本－」[考古学雑誌]第77巻第4号	日本考古学会
辻 史郎 西沢隆治	1998	「チアミ遺跡第1次・第3次・第6次発掘調査報告書」	我孫子市教育委員会
辻 史郎	1996	「羽黒前遺跡第3次発掘調査概報」	我孫子市教育委員会
高野博光他	1981	「布佐・余間戸遺跡」	我孫子市布佐・余間戸遺跡調査会
長谷川清一 荻原 淳	2004	「町道遺跡」[町道遺跡・町道中遺跡－町営住宅建設等に伴う埋蔵文化財発掘調査－]	庄和町教育委員会
長谷川清一 荻原 淳	2002	「陣屋遺跡－第1・3・4・5・6・7次調査の記録－」	庄和町教育委員会
中野達也	2001	「小淵山下北遺跡4・5次」[花積内谷耕地遺跡6次 花積台耕地遺跡5次 谷向遺跡 塚内16号墳 塚内17号墳 小淵山下北遺跡4・5次]	春日部市教育委員会

No	郡名	遺跡名	硯・畿内産土師器・高盤	鈔帯金具	特殊遺物等	官衙関連墨書等
31	葛飾	町畑遺跡	土師器高盤1	丸柄(石製)1	鉄製鎚1	
32	葛飾	小野遺跡	須恵器高盤4 土師器高盤3	鉸具(青銅製)1 巡方(青銅製)12 丸柄(青銅製)2 鉈尾(青銅製)1	須恵器小型平瓶1	
33	葛飾	古録天東遺跡		巡方(銅製)1		
34	葛飾	坂花遺跡	ロクロ土師器高盤1			「國厨」
35	葛飾	双賀辺田No.1遺跡	転用硯(灰釉陶器長頸壺1・須恵器蓋1・杯11・甕2)	巡方(青銅製)2		
36	葛飾	根郷貝塚	ロクロ土師器高盤1			
37	葛飾	下総国分遺跡	須恵器高盤1 土師器高盤3 転用硯(須恵器甕1・土師器高台付杯1・高台付盤1)	鉸具(鉄製)2	灰釉陶器高台付耳皿1 灰釉陶器手付瓶1 灰釉陶器平瓶1	「法印」「郷長」「官」「玉作」「造□」
38	葛飾	下総国分尼寺跡	転用硯(須恵器高台付杯1・甕1)		二彩陶器小壺1	「尼寺」3「尼」2「鎚・正麻呂」「廳」「新院」
39	葛飾	国府台遺跡	須恵器円面硯1 畿内産土師器杯1 須恵器高盤27 土師器高盤13 転用硯(須恵器蓋1・杯1・高台付杯1・甕2・長頸瓶1)	巡方(鉄製・鉄のみ銅製)1 巡方(金銅製)1 鉈尾(銅製)1 巡方(石製)1 鉈尾1	高台付皿二彩陶器1 灰釉陶器手付瓶1 土師器置きカマド3 土師器羽釜3 青銅製八稜鏡1 土師器高台付耳皿2 奈良三彩小壺2 金銅製鈴1 鉄製小札1 緑釉陶器段皿1 須恵器双耳杯1 小札(数百点)	「所政」「郡」「相馬」
40	葛飾	須和田遺跡	須恵器円面硯3 土師器円面硯1 須恵器高盤6 土師器高盤5 転用硯(須恵器蓋1・高台付杯カ1・蓋カ1・甕1・土師器蓋1・高台付杯1)			「石京」「博士館」

著者名	発行年	書籍名	発行機関
川根正教他	1994	「加地区遺跡群Ⅲ」流山市埋蔵文化財発掘調査報告Vol.19	流山市教育委員会
川根正教他	1991	「加地区遺跡群Ⅱ」流山市埋蔵文化財発掘調査報告Vol.14	
川根正教他	2000	「加地区遺跡群Ⅳ」流山市埋蔵文化財発掘調査報告Vol.29	
大森隆志他	1999	「小野-小野遺跡第1地点発掘調査報告書-」	松戸市遺跡調査会
峰村 篤他	2002	「小野遺跡-第11地点発掘調査報告書-」	
谷口 榮他	1991	「古録天東遺跡」「古録天東遺跡・古録天遺跡Ⅱ」	葛飾区遺跡調査会
松尾昌彦	1994	「「厨」銘墨書土器考-松戸市坂花遺跡出土例をめぐって-」『松戸市立博物館紀要』第1号	松戸市立博物館
道澤 明他	1988	「千葉県鎌ヶ谷市双賀辺田No.1遺跡発掘調査報告書」	鎌ヶ谷市教育委員会
犬塚俊雄他	1988	「千葉県鎌ヶ谷市根郷貝塚発掘調査報告書」	鎌ヶ谷市教育委員会
寺村光晴他	1974	「下総国分の遺跡」	和洋女子大学
寺村光晴他	2001	「下総国分の遺跡Ⅱ第2・3次発掘調査報告-下総国分尼寺寺域北東部の発掘調査-」	学校法人和洋学園
山路直充	1995	「下総国分寺-いま見つめなおす下総の天平文化-」市立市川考古博物館図録17	市立市川考古博物館
寺村光晴他	2002	「下総国分の遺跡Ⅲ第4・5・6次発掘調査報告-下総国分尼寺跡北東隣接地の発掘調査-」	学校法人和洋学園
斉藤忠昭 石田 勝	1989	「2. 下総国分遺跡」『昭和63年度市川市埋蔵文化財調査報告』	市川市教育委員会
宮内勝巳	1982	「5. 下総国分遺跡」『昭和56年度埋蔵文化財発掘調査報告』	
宮内勝巳 斉藤忠昭	1985	「2. 下総国分遺跡」『昭和59年度埋蔵文化財発掘調査報告』	
斉藤忠昭	1988	「2. 下総国分遺跡」『昭和62年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告』	
松本太郎他	1994	「2. 下総国分尼寺跡」『平成5年度市川市内遺跡発掘調査報告』	市川市教育委員会
松本太郎	1997	「Ⅲ事例報告 4下総国分寺の変遷」『古代末期の葛飾郡-葛飾区郷土と天文の博物館地域史フォーラム 地域の歴史を求めて-』	倫書房
堀越正行 山路直充他	1986	「下総国分尼寺跡Ⅳ昭和60年度調査報告」	市立市川考古博物館
山路直充他	1995	「下総国分寺-いま見つめなおす下総の天平文化-」市立市川考古博物館図録17	
山路直充	1998	「第3章 下総 71 下総国分尼寺跡」『千葉県の歴史 資料編 考古3(奈良・平安時代)』県史シリーズ11	千葉県
滝口 宏	1974	「第3章 国分寺遺立の発掘」『市川市史』第2巻古代・中世・近世	株式会社吉川弘文館
平野元三郎 滝口 宏	1933	「下総国分寺址考」『史蹟名勝天然記念物調査』第10輯	千葉県
堀越正行 大村 直 山路直充	1985	「下総国分尼寺跡Ⅲ昭和59年度調査報告」	市立市川考古博物館
斉藤忠昭	1991	「1. 国府台遺跡」『平成2年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告』	市川市教育委員会
菊地 真 松岡有希子 斉藤一真他	2002	「千葉県市川市下総国府跡-第29地点発掘調査報告書-」	国府台遺跡第29地点調査会
松本太郎 松田礼子他	2001	「千葉県市川市下総国府跡-国府台遺跡緊急確認調査報告書-」	市川市教育委員会
桑原 護 宮内勝巳	1981	「1. 市営総合運動場内遺跡」『昭和55年度埋蔵文化財発掘調査報告書』	
宮内勝巳	1983	「下総 東京湾における奈良・平安時代土器の様相」『房総における奈良・平安時代の土器』	史館同人
石田広美	1983	「下総 下総における八世紀の搬入土器」『房総における奈良・平安時代の土器』	
山路直充	1998	「第3章 下総 66 国府関連遺跡」『千葉県の歴史 資料編 考古3(奈良・平安時代)』県史シリーズ11	千葉県
松本太郎 松田礼子 時信武史他	2000	「平成11年度市川市内遺跡発掘調査報告-国府台遺跡第46・48-54・41-2地点、須和田遺跡第48・49・51・52地点、下総国分寺跡第47-50次、下総国分尼寺跡第41・43地点、国分遺跡第61-63地点、曾谷遺跡第37地点、木戸口遺跡第2地点、東新山遺跡F地点、大宮越遺跡第4・5地点-」	市川市教育委員会
寺村光晴他	2004	「下総国府台 和洋学園国府台キャンパス内遺跡第1-4次発掘調査報告-下総国府跡の発掘調査-」	学校法人和洋学園
松本太郎 松田礼子	1996	「第3章下総総社跡発掘調査報告書」『市川市出土遺物の分析-古代の鉄・土器について-』平成7年度市川市埋蔵文化財調査・研究報告	市川市教育委員会
松本太郎	1996	「7 市川市国府台遺跡第3地点」『平成7年度 千葉県遺跡調査研究発表会要旨』	千葉県文化財法人連絡協議会
斉藤忠昭 石田 勝他	1989	「1. 須和田遺跡」『昭和63年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告』	市川市教育委員会
松田礼子他	1992	「平成3年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告-須和田遺跡 第6地点-」	
斉藤忠昭	1993	「1. 須和田遺跡」『平成4年度市川市内遺跡発掘調査報告書』	
佐々木和博	1984	「博士館」『墨書土器私考』『史館』第17号	史館同人
杉原莊介他	1971	「六 古墳文化-土師時代-」『市川市史』第1巻 原始・古代	株式会社吉川弘文館

No	郡名	遺跡名	硯・畿内産土師器・高盤	鈿帯金具	特殊遺物等	官衙関連墨書等
41	葛飾	下総国分僧寺	須恵器門面硯2 須恵器高盤2 転用硯(須恵器杯1・高台付杯2・高台付皿1・甕3・瓶1、土師器杯4・高台付杯1・皿6・高台付皿1)		青銅製鈴1	「国厨」「院」「廣・院」「□(政カ)」「尼寺」2「造寺」 「□京」「国」「講院」「一院」 「□(勤)」「大□(司カ)」「門」「海上□」「東寺」「講院」「院黒成」「一院」「大寺」
42	葛飾	曾谷貝塚	土師器高盤4			ヘラ書き「軍」
43	葛飾	山王台遺跡第1・2地点	土師器高盤1			
44	葛飾	後畑遺跡第1地点		巡方(青銅製)2		
45	葛飾	小田山遺跡第2地点	転用硯(須恵器甕1)	丸柄(金銅製カ)1		
46	葛飾	本郷台遺跡		鉦尾(銅製)1	土師器置きカマド1	
47	葛飾	印内台遺跡	須恵器門面硯1 畿内産土師器杯蓋1 須恵器高盤3 転用硯(須恵器杯1・甕3・長頸瓶1・壺1、土師器杯5・甕1)	巡方(金銅製)2 丸柄(銅製)4 丸柄(青銅製)1 鉦尾(青銅製)1 巡方(石製)1 丸柄(石製)1	土師器羽釜3	「大門」「門」11「関」
48	葛飾	東中山台遺跡群(18)	須恵器高盤1 転用硯(須恵器杯1)			「□歳」「荷」
49	葛飾	夏見大塚遺跡	転用硯(須恵器杯1)	鉦尾(青銅製)1		
50	千葉	直道遺跡		丸柄(銅製)1 鉦具(銅製)1		
51	千葉	胸形遺跡		巡方(青銅製)1		
52	千葉	砂子遺跡C区		丸柄(金銅製)1		
53	千葉	戸張作遺跡		巡方(鉄製)1		
54	千葉	矢作貝塚	畿内産土師器杯A I 1			
55	千葉	根崎遺跡	畿内産土師器杯片1 転用硯(須恵器甕1)		土師器置きカマド1 灰釉陶器平瓶1	
56	千葉	山王遺跡		丸柄(銅製)1 鉦具(銅製)1		
57	千葉	和良比遺跡	須恵器高盤2			
58	千葉	吉見台遺跡B地点	須恵器門面硯1			
59	千葉	鷲谷津遺跡	須恵器風字硯1 畿内産土師器杯2 転用硯(須恵器蓋1・高台付杯1・甕5・高台付壺1)	巡方(銅製)2 鉦尾(銅製)1	灰釉陶器把手付小瓶1 須恵器小型平瓶1	
60	千葉	観音塚遺跡	畿内産土師器(杯A 1・杯B(高台付杯)1・杯C 1・盤1・皿2(破片)・甕1) 他破片多数 須恵器高盤1 転用硯(須恵器高台付杯1・杯1・甕2、土師器杯3)	巡方(銅製)1 鉦尾(銅製)2 鉦尾(金銅製)2	金銅製鈴1 土師器羽釜1 土師器置きカマド1 灰釉陶器段皿1	「子驛□」

著者名	発行年	書籍名	発行機関
山路直充 領塚正浩 辻 史郎他	1994	『下総国分寺跡-平成元～5年度発掘調査報告書-』	市川市教育委員会
宮内勝巳	1984	『1. 下総国分寺跡(イ)第13次』『昭和58年度埋蔵文化財発掘調査報告』	
山路直充他	1995	『下総国分寺-いま見つめなおす下総の天平文化-』市立市川考古博物館図録17	市立市川考古博物館
山路直充	1998	『第3章 下総 70 下総国分僧寺跡』『千葉県の歴史 資料編 考古3(奈良・平安時代)』 県史シリーズ11	千葉県
山路直充 領塚正浩 辻 史郎他	1994	『下総国分寺跡-平成元～5年度発掘調査報告書-』	市川市教育委員会
滝口 宏他	1975	『下総国分僧寺址寺城北限確認調査(速報)』『昭和49年度市立市川博物館年報』	市立市川博物館
宮内勝巳 花輪 宏	1985	『曾谷貝塚』『昭和59年度市川東部遺跡群発掘調査報告』	市川市教育委員会
石橋邦雄	1986	『1. 曾谷貝塚(2)第17地点(曾谷4丁目555番地所在遺跡)』『昭和60年度市川東部遺跡群 発掘調査報告』	
齊藤忠昭 石田 勝	1981	『3. 山王台遺跡』『昭和55年度埋蔵文化財発掘調査報告』	市川市教育委員会
松田礼子	1990	『平成元年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告-古作貝塚第1地点・国分平川遺跡第1地 点・下台北遺跡第2地点・後畑遺跡第1地点・下総国分遺跡第22地点・第23地点-』	市川市教育委員会
松本太郎	1996	『平成7年度市川市内遺跡発掘調査報告書-国府台遺跡第8地点・第9地点・下総国分寺 跡第39次・曾谷遺跡第33地点・第34地点・山ノ後遺跡第2地点・小田山遺跡第2地点・法 伝遺跡第8地点-』	市川市教育委員会
栗原薫子	1999	『本郷台遺跡-第4次発掘調査報告書-』	船橋市遺跡調査会
岡崎文喜	1983	『本郷台Ⅱ-奈良・平安時代を中心とした集落址の調査-』	船橋市遺跡調査会・本郷台遺跡第2次調査団
石井 徳他	1980	『印内台-古墳・奈良・平安時代の集落址、墓址の発掘調査概報-』	印内台遺跡調査団
石坂雅樹	1991	『千葉県船橋市印内台遺跡-第4次調査報告書-』	船橋市教育委員会
道上 文 栗原薫子他	1990	『千葉県船橋市印内台遺跡-第7次・8次調査報告書-』	船橋市遺跡調査会
間宮政光	1994	『千葉県船橋市印内台遺跡-第12次発掘調査報告書-』	
石坂雅樹	2001	『千葉県船橋市印内台遺跡群(20)』	
白井太郎	1998	『千葉県船橋市印内台遺跡群(21)』	船橋市文化・スポーツ公社 埋蔵文化財セ ンター
石坂雅樹 山岡磨由子	1999	『千葉県船橋市印内台遺跡群(24)』	
石坂雅樹	1999	『1 印内台遺跡群(25)』『船橋市内遺跡発掘調査報告書』	船橋市教育委員会
白井太郎	2002	『千葉県船橋市印内台遺跡群(27)』	船橋市文化・スポーツ公社 埋蔵文化財セ ンター
石坂雅樹	2003	『千葉県船橋市印内台遺跡群(32)』	船橋市教育委員会
湯原勝美 松田政基	1996	『千葉県船橋市印内台遺跡-第17次発掘調査報告書-』	船橋市遺跡調査会
栗原薫子	2002	『東中山台遺跡群(18)』	船橋市文化・スポーツ公社 埋蔵文化財セ ンター
長内美智枝他	1989	『夏見大塚遺跡(第4次)』	夏見大塚遺跡第4次発掘調査団
白石太郎	2001	『夏見大塚遺跡(15)』	船橋市文化・スポーツ公社 埋蔵文化財セ ンター
飛田正美 梁瀬裕一	1995	『千葉市直道遺跡』	船千葉市文化財調査協会
対馬郁夫他	1978	『駒形遺跡 第1次・第2次発掘調査報告書』	駒形遺跡発掘調査団
飛田正美	1990	『千葉市砂子遺跡C区』	船千葉市文化財調査協会
菊地健一他	1998	『千葉市戸張作遺跡1』	船千葉市文化財調査協会
清藤一順他	1981	『千葉市矢作貝塚』	船千葉県文化財センター
林部 均	1986	『東日本出土の飛鳥・奈良時代の畿内産土師器』『考古学雑誌』第72巻第1号	日本考古学会
山口典子	1986	『根崎遺跡』『千葉都市モノレール関係埋蔵文化財発掘調査報告書-五味ノ木遺跡・殿山堀 込遺跡・廿五里城跡・根崎遺跡・京頼台遺跡・柳沢遺跡-』	船千葉県文化財センター
湖口淳一	1997	『千葉市原町遺跡群発掘調査報告書Ⅲ-根崎遺跡-』	
佐藤順一	1999	『千葉市根崎遺跡-K地点-』	船千葉市文化財調査協会
白根義久	1995	『千葉市原町遺跡群発掘調査報告書Ⅰ 山王遺跡』	船千葉市文化財調査協会
阿部寿彦他	1991	『和良比遺跡発掘調査報告書Ⅲ』	船印旛郡市文化財センター
林田利之	1997	『吉見台遺跡B地点-市道Ⅰ-32号線(吉見工区)埋蔵文化財調査委託-』	船印旛郡市文化財センター
白井久美子他	2002	『千葉市鷺谷津遺跡-都市基盤整備公団千葉寺地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ-』	
相京邦彦	1984	『千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ-鷺谷津遺跡・観音塚遺跡・山ノ神遺跡・大 森第一遺跡・荒立遺跡-』	船千葉県文化財センター
白石久美子他	2004	『千葉市観音塚遺跡・地藏山遺跡(3)-都市基盤整備公団千葉寺地区埋蔵文化財発掘調査 報告書Ⅳ-』	
相京邦彦	1983	『観音塚遺跡』『千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』	船千葉県文化財センター

No	郡名	遺跡名	硯・畿内産土師器・高盤	鈿帯金具	特殊遺物等	官衙関連墨書等
61	千葉	宮崎第1遺跡	円面硯1			
62	千葉	大北遺跡	須恵器円面硯1 畿内産土師器(杯AⅠ34・杯AⅢ16・杯B2・杯C21・盤25・蓋13・高盤17) 転用硯(須恵器壺2)		緑釉高台付耳皿1	
63	千葉	西屋敷遺跡	畿内産土師器杯A 1			
64	千葉	大森第1遺跡			土師器高台付耳皿1	
65	千葉	大森第2遺跡			鉄針1	
66	千葉	仁戸名遺跡		丸柄(石製)2		
67	千葉	榎作遺跡	転用硯(須恵器杯1)	丸柄(青銅製)1		
68	千葉	種ヶ谷津遺跡	畿内産土師器(皿A 1・高盤1)		奈良三彩小壺7・蓋3 銅製垂飾品1・儀鏡1・鈴1 鉄製儀鏡2	「千葉□□」
69	千葉	大道遺跡		鉸具(金銅製)1	土師器置きカマド1 須恵器小型平板1	
70	千葉	有吉遺跡	円面硯1 須恵器風字硯1 転用硯(須恵器杯2・皿1・壺2・土師器杯2)	巡方(石製)1		「千衛」
71	千葉	高沢遺跡		巡方(青銅製)2 丸柄(青銅製)3		「厨」
72	千葉	有吉南遺跡		巡方(石製)1		
73	千葉	椎名崎遺跡	転用硯(須恵器高台付杯1)			「布厨」
74	千葉	伯父名台遺跡		丸柄(銅製)1		
75	千葉	椎名崎古墳群(C支群)		巡方(銅製)4 丸柄(銅製)2 鉈尾(鉄製)1		
76	千葉	ムコアラク遺跡		鉈尾(青銅製)1 丸柄(石製)1		
77	千葉	清水作遺跡	須恵器高盤2 土師器高盤1	巡方(銅製)1		
78	千葉	宇津志野遺跡	須恵器円面硯1		須恵器羽釜片4	
79	千葉	芳賀輪遺跡	須恵器高盤3 土師器高盤1 転用硯(須恵器杯1・土師器杯2)	巡方(青銅製)1	鉄製鏡1 土師器置きカマド 奈良三彩小壺	「厨」「殿原」
80	印旛	木下別所庵寺跡	畿内産土師器(高盤1・杯1) 転用硯(須恵器杯1)			
81	印旛	胸形北遺跡	畿内産土師器杯5片			
82	印旛	宮内遺跡	須恵器高盤1	巡方(銅製)1 丸柄(銅製)1 鉈尾(銅製)1 鉸具(銅製)1	銅製鏡1	
83	印旛	鳴神山遺跡	土師器円面硯1 須恵器風字硯1 須恵器高盤3 土師器高盤2 転用硯(須恵器杯2・高台付杯2・壺片3・土師器高台付杯1)	巡方(青銅製)2 丸柄(青銅製)1 鉈尾(青銅製)1	二彩小壺1 小型平板(灰釉陶器水滴)1	
84	印旛	島田込ノ内遺跡		巡方(青銅製)1		
85	印旛	岩戸広台遺跡A地区		丸柄(青銅製)1		
86	印旛	権現後遺跡	須恵器高盤1 転用硯(須恵器壺1)	巡方(青銅製)2 丸柄(青銅製)1 鉈尾(青銅製)3 丸柄(石製)1		
87	印旛	北海道遺跡	土師器高盤1	巡方(青銅製)1 丸柄(青銅製)1 鉈尾(青銅製)1		

著者名	発行年	書籍名	発行機関
古内 茂他	1973	「京葉－京葉道路第四期一般国道16号線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－」	助千葉県都市公社
池田大助他	1986	「大北遺跡・谷津遺跡・瓜作遺跡・池田古墳群－千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－」	助千葉県文化財センター
矢戸三男 谷 旬他	1979	「千葉市西屋敷遺跡」	助千葉県文化財センター
古内 茂他	1973	「京葉－京葉道路第四期一般国道16号線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－」	助千葉県都市公社
古内 茂他	1973	「京葉－京葉道路第四期一般国道16号線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－」	助千葉県都市公社
小澤清男	1995	「千葉市仁戸名遺跡－平成4・5年度調査報告書－」	助千葉市文化財調査協会
小林清隆	1992	「千葉市榎作遺跡－千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ－」	助千葉県文化財センター
立和名明美	1998	「種ヶ谷津遺跡」[主要地方道生実・本納線埋蔵文化財発掘調査報告書2－笹目沢遺跡・種ヶ谷津遺跡・大道遺跡－]	助千葉県文化財センター
白石久美子他	1985	「千葉市種ヶ谷津遺跡－県道生実本納線道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」	
白石 浩他	1983	「千葉市大道遺跡・生実城跡発掘調査報告書」	助千葉県文化財センター
栗本佳弘 種田斉吾 阪田正一他	1975	「千葉東南部ニュータウン3－有吉遺跡(第1次)－」	助千葉県都市公社
佐久間 豊 関口達彦 倉内節子他	1990	「千葉東南部ニュータウン17－高沢遺跡－」	助千葉県文化財センター
古内 茂 栗田則久 大野康男他	1983	「千葉東南部ニュータウン14－バクチ穴遺跡・有吉遺跡(3次)・有吉南遺跡－」	助千葉県文化財センター
栗本佳弘 上村淳一	1979	「千葉東南部ニュータウン6－椎名崎遺跡－」	助千葉県文化財センター
関口達彦 西野雅人	2004	「千葉東南部ニュータウン30－千葉市伯父名台遺跡－」	助千葉県文化財センター
関口達彦他	2005	「千葉東南部ニュータウン33－千葉市椎名崎古墳群C支群－」	助千葉県文化財センター
田坂 浩 白井久美子他	1979	「千葉東南部ニュータウン8－ムコアラク遺跡・小金沢古墳群－」	助千葉県文化財センター
秋元健一他	1986	「清水作遺跡」[坂戸遺跡]	佐倉市坂戸遺跡調査会
渡邊高弘	1992	「千葉市宇津志野窯跡確認調査報告書」	千葉県教育委員会
青沼道文	1976	「千葉市芳賀輪遺跡－第1次発掘調査概報－」[千葉市文化財報告第1集]	千葉市教育委員会
菊池健一	1992	「千葉市芳賀輪遺跡－平成2年度調査報告書－」	
小澤清男	1994	「千葉市芳賀輪遺跡－平成4年度調査報告書－」	
倉田義広	1998	「千葉市芳賀輪遺跡－平成8年度調査報告書－」	助千葉市文化財調査協会
佐藤順一	1987	「芳賀輪遺跡・太田アラク遺跡」	
青沼道文	1983	「千葉市内出土の奈良三彩小壺二例」[千葉史学]第2号	千葉歴史学会
青沼道文	1998	「第3章下総 109 芳賀輪遺跡」[千葉県の歴史 資料編 考古3(奈良・平安時代)]県史シリーズ11	千葉県
比田井克仁他	1979	「木下別所廃寺跡第二次発掘調査概報」	千葉県教育委員会
印旛郡市文化 財センター	1993	「千葉県印旛郡印西市駒形北遺跡発掘調査報告書－印西町立小林小学校運動場拡張に伴う埋蔵文化財調査－」	助印旛郡市文化財センター
内田理彦他	1995	「宮内遺跡発掘調査報告書－本埜村総合運動場建設に伴う埋蔵文化財調査－」	助印旛郡市文化財センター
鳴田浩司 田形孝一	1999	「鳴神山遺跡」[千葉北部地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ－印西市鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡－]	助千葉県文化財センター
藤 淳一	1998	「船橋印西線埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」	助千葉県文化財センター
斉藤 毅 宮内勝巳他	1988	「岩戸広台遺跡A地区」[印旛村岩戸広台遺跡A地区・B地区発掘調査報告書]	助印旛郡市文化財センター
阪田正一他	1984	「八千代市権現後遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－」	助千葉県文化財センター
大野康男	1994	「北海道遺跡第1地点」[八千代市権現遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅶ－]	助千葉県文化財センター
阪田正一他	1985	「八千代市北海道遺跡」	

No	郡名	遺跡名	硯・畿内産土師器・高盤	鈔帯金具	特殊遺物等	官衙関連墨書等
88	印旛	井戸向遺跡	土師器高盤1 転用硯(須恵器蓋2・杯3・高台付杯3・ 甕1・土師器杯1・高台付杯1)	丸柄(青銅製)1 鉈尾(銅製)1 鉈具(青銅製)1 巡方(石製)1	奈良三彩小壺2・托1	
89	印旛	白幡前遺跡	須恵器風字硯1 須恵器高盤3 転用硯(須恵器蓋5・高台付杯2・甕7、 ロクロ土師器高台付皿1・高台付杯1)	巡方(銅製)1 鉈具(青銅製)1 巡方(鉄製)2 鉈具(鉄製)2 丸柄1	土師器置きカマド2 土師器羽釜2 奈良三彩小壺1 灰軸陶器高台付耳皿1	「厨」
90	印旛	名主山遺跡		巡方(青銅製)1		
91	印旛	村上込の内遺跡	土師器高盤1	巡方(青銅製)3 鉈尾(青銅製)1 丸柄(石製)1		
92	印旛	飯合作遺跡		鉈具(青銅製)1		
93	印旛	白井台大名宿遺跡	須恵器高盤1			
94	印旛	江原台遺跡	須恵器円面硯1 須恵器高盤2		須恵器羽釜1 青銅製鈴1 金銅製鈴1	
95	印旛	北大堀遺跡	転用硯(須恵器蓋1)	巡方(銅製)1		「門」
96	印旛	長勝寺脇館跡	須恵器高盤2 転用硯(須恵器高台付杯1)	巡方(鉄製)1		
97	印旛	本佐倉外宿遺跡	転用硯(須恵器蓋1・土師器高台付碗1)	丸柄(銅製)1		
98	印旛	北押出し遺跡		丸柄(青銅製)1 巡方(鉄製)1		「大殿」
99	印旛	高岡大山遺跡	土師器円面硯1 土師質風字硯2 須恵器高盤3	巡方(青銅製)4 丸柄(青銅製)3 鉈具(鉄製)2 丸柄(石製)1 鉈尾(青銅製)1 巡方(鉄製)1 巡方(銅製)2 巡方(石製)2	土師器耳皿1 水滴1 土師器羽釜2 土師器置きカマド2	「厨」「曹」2「関」「関カ」 5「門守」
100	印旛	六崎大崎台遺跡		丸柄(青銅製)4 鉈尾(青銅製)1 巡方(銅製)1 丸柄(銅製)1 鉈具(鉄製)1		
101	印旛	木野子大山遺跡	畿内産土師器(杯1・杯破片6) 転用硯(須恵器蓋1)			
102	印旛	尾上藤木遺跡C地区	須恵器高盤1			
103	印旛	尾上出戸遺跡		鉈具(鉄製)2		
104	印旛	墨木戸遺跡		丸柄(銅製)1		
105	印旛	墨新山遺跡	須恵器高盤1 転用硯(須恵器甕1カ・土師器杯2カ)	鉈具(鉄製)1		
106	印旛	新地遺跡第1地点		巡方(銅製)1		
107	印旛	下勝田台畑遺跡		鉈具(青銅製)1		
108	印旛	宮本遺跡		鉈尾(青銅製)1 鉈具(鉄製)2		
109	印旛	宮本宮後遺跡B地区	須恵器高盤1	巡方(銅製)1	鉄製小札カ1	
110	印旛	六拾部遺跡		巡方(青銅製)2 鉈尾(青銅製)1		
111	印旛	南広遺跡	転用硯(須恵器甕片1)	丸柄(青銅製)1 鉈具(鉄製)1		
112	印旛	腰巻遺跡				「厨」「門」
113	印旛	立山遺跡	須恵器高盤1			
114	印旛	岩富漆谷津遺跡		丸柄(青銅製)1	灰軸陶器高台付耳皿1	
115	印旛	内田端山越窯跡	須恵器高盤1		須恵器香炉破片8	
116	印旛	平賀細町遺跡		鉈尾(青銅製)1		
117	印旛	油作第2遺跡		丸柄(石製)1		「曹司」「厨」2
118	印旛	台方下平1遺跡	畿内系ハケ目甕1・破片1	巡方(金銅製)1 鉈尾(銅製)1		

著者名	発行年	書籍名	発行機関
藤岡孝司他	1987	『八千代市井戸向遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅳ－』	(財)千葉県文化財センター
大野康男	1994	『井戸向遺跡』『八千代市権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅶ－』	
大野康男	1991	『八千代市白幡前遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅴ－』	(財)千葉県文化財センター
平野元三郎他	1971	『名主山遺跡－村上団地第1期工事区域内調査－』	八千代市教育委員会
天野 努他	1974	『八千代市村上遺跡群』	(財)千葉県都市公社
沼沢 豊他	1978	『佐倉市飯合作遺跡』	(財)千葉県文化財センター
喜多圭介	1995	『臼井台大名宿遺跡』	(財)印旛郡市文化財センター
高橋健一	1979	『江原台』	佐倉市教育委員会
高田 博	1977	『佐倉市江原台遺跡発掘調査報告書Ⅰ－第1次・第2次調査－』	(財)千葉県文化財センター
山田友治 高田 博他	1980	『佐倉市江原台遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	
西山太郎 斉藤 毅 篠原 正	1985	『北大堀・猿楽場遺跡発掘調査報告書－酒々井町町道北大堀・猿楽場線埋蔵文化財調査－』	(財)印旛郡市文化財センター
木内達彦	1990	『千葉県印旛郡酒々井町長勝寺脇跡』	(財)印旛郡市文化財センター
阿部寿彦	1996	『千葉県印旛郡酒々井町本佐倉外宿遺跡－おかじま電器酒々井店舗建設予定地内埋蔵文化財調査－』	(財)印旛郡市文化財センター
村田一男他	1984	『千葉県酒々井町北押し遺跡調査報告書』	酒々井町教育委員会
印旛郡市文化財センター	1993	『高岡大山遺跡(1)』『千葉県佐倉市高岡遺跡群Ⅱ』 『高岡大山遺跡(2)』『千葉県佐倉市高岡遺跡群Ⅲ』 『高岡大山遺跡(3)』『千葉県佐倉市高岡遺跡群Ⅳ』	(財)印旛郡市文化財センター
柿沼修平	1986	『大崎台遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	佐倉市大崎台B地区遺跡調査会
宮 文子	1992	『千葉県佐倉市木野子大山遺跡発掘調査報告書』	(財)印旛郡市文化財センター
木内達彦 長内美知枝	1990	『千葉県印旛郡酒々井町尾上藤木遺跡C地区発掘調査報告書』	(財)印旛郡市文化財センター
菊地敏記	1991	『千葉県印旛郡酒々井町尾上出戸遺跡』	(財)印旛郡市文化財センター
中山俊之	1995	『千葉県印旛郡酒々井町墨木戸－(仮)すかいらく－酒々井工場建設予定地内埋蔵文化財調査－』	(財)印旛郡市文化財センター
小倉和重 小谷龍司 進藤泰浩	1997	『千葉県印旛郡酒々井町墨新山遺跡－ホソヤミート調理食品工場造成地内埋蔵文化財調査報告書－』	(財)印旛郡市文化財センター
日暮冬樹	1995	『千葉県八街市新地遺跡第1地点－八街市覆戸地区市道拡幅予定地内埋蔵文化財調査報告書－』	(財)印旛郡市文化財センター
榎原弘二	1997	『佐倉市下勝田台畑遺跡－印旛沼流域下水道埋蔵文化財調査報告書－』	(財)千葉県文化財センター
栗本佳弘他	1970	『東関東自動車道(千葉－成田線)関係埋蔵文化財発掘調査報告書』	千葉県文化財保護協会
飯島伸一	2001	『宮本宮後遺跡B地区(第2次)－汚泥再生処理センター建設事業に伴う埋蔵文化財調査－』	(財)印旛郡市文化財センター
金丸 誠 四柳 隆	1994	『佐倉市六拾部遺跡－佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ－』	(財)千葉県文化財センター
金丸 誠	1993	『佐倉市南広遺跡－佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅹ－』	(財)千葉県文化財センター
石倉亮治	1987	『佐倉市腰巻遺跡－佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ－』	(財)千葉県文化財センター
金丸 誠	1983	『佐倉市立山遺跡』	(財)千葉県文化財センター
岩富漆谷津遺跡発掘調査団・太田宿遺跡発掘調査団	1983	『岩富漆谷津・太田宿』	佐倉市教育委員会
渋谷健司	2002	『内田端山越窯跡』	(財)印旛郡市文化財センター
郷堀英司	1996	『印旛村平賀細町遺跡』	(財)印旛郡市文化財センター
村山好文他	1985	『油作第2遺跡』『平賀』	平賀遺跡発掘調査会
松田富美子	2005	『千葉県成田市台方下平Ⅰ遺跡・台方下平Ⅱ遺跡発掘調査概報－成田市公津西土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査－』	(財)印旛郡市文化財センター

No	郡名	遺跡名	硯・畿内産土師器・高盤	鈎帯金具	特殊遺物等	官衙関連墨書等
119	印旛	台方下平Ⅱ遺跡	畿内産土師器(杯2・盤1・高盤1・破片17・畿内系ハケ目甕2・破片1) 転用硯(土師器高台付杯1)	巡方(銅製)1 鉸具(銅製)2	土師器置きカマド1 鉄製小札1	「厨」
120	印旛	大袋小谷津遺跡	須恵器円面硯9 須恵器高盤3	鈍尾(青銅製)1		「門殿」「驛カ」
121	印旛	宗吾西鷲山遺跡		鈍尾(青銅製)1		
122	印旛	飯仲金堀遺跡	須恵器高盤1		奈良三彩托1	
123	印旛	大袋山王第2遺跡B地区	畿内産土師器(蓋1・杯2(14点破片を含む)) 須恵器高盤1	鈍尾(青銅製)2		
124	印旛	飯田町南向野遺跡	須恵器高盤1			
125	印旛	大袋腰巻遺跡	畿内産土師器(蓋1・盤1) 須恵器高盤4 転用硯(須恵器高台付杯2・甕16・壺3)	巡方(青銅製)1 丸柄(青銅製)3 鈍尾(青銅製)1 巡方(鉄製)1		「印波郡」 「ツ牟郷」(刻書) 「印波」
126	埴生	山口遺跡 (公津原Loc.20)	須恵器高盤1	丸柄(青銅製)1 鈍尾(青銅製)1		「成厨厨厨」
127	埴生	加良部遺跡 (公津原Loc.15)		鈍尾(青銅製)1		
128	埴生	開護台遺跡群	須恵器円面硯1 畿内産土師器(杯5・皿3・鉢3) 土師器高盤1	巡方(銅製)3 丸柄(銅製)4 鈍尾(銅製)2 鉸具(銅製)3 鉸具(鉄製)3	鉄製小札5 須恵器平瓶1	「厨」
129	埴生	中台遺跡 (公津原Loc.14)	畿内産土師器杯1	鈍尾(青銅製)4		
130	埴生	南開護台遺跡(第1地点)	土師器高盤1			「使生」
131	埴生	新山Ⅰ(Loc.1)遺跡	須恵器高盤1		双耳杯1	
132	埴生	川栗館跡	転用硯(須恵器杯1)	丸柄(青銅製)2		
133	埴生	川栗波佐間遺跡	須恵器高盤1			
134	埴生	久能下谷津遺跡	土師質二面平頭風字硯1			
135	埴生	久能小仲台遺跡		巡方(石製)2 丸柄(石製)3		
136	埴生	向台遺跡	須恵器円面硯5 風字硯1 畿内産土師器(杯A3・杯B1・蓋2・高盤1・杯(破片)1) 須恵器高盤1		唐三彩陶枕1	「厨カ」
137	埴生	龍角寺五斗葺瓦窯跡	須恵器円面硯1			
138	埴生	大畑Ⅰ遺跡	須恵器円面硯3 畿内産土師器(杯A2・杯破片2) 須恵器高盤1 土師器高杯1		青銅製鈴3	「厨」2
139	埴生	竜角寺ニュータウンNo4 地点		鉸具(青銅製)1		
140	埴生	大竹林畑遺跡		丸柄(銅製)1 鉸具(鉄製)1		
141	埴生	南羽鳥正福寺遺跡第2地点	須恵器高盤1			
142	埴生	烏内遺跡		丸柄(石製)1		
143	埴生	野毛平木戸下遺跡	土師器高盤2	巡方(石製)1 鉸具(鉄製)3	青銅製海獣葡萄鏡1 土師器置きカマド1	
144	埴生	野毛平植出遺跡		巡方(石製)1		
145	埴生	野毛平向山遺跡	須恵器高盤1			
146	埴生	円妙寺遺跡		鉸具(青銅製)1		
147	埴生	馬場扇作遺跡	須恵器高盤1	鉸具(鉄製)1		
148	埴生	江地山遺跡	須恵器高盤3			

著者名	発行年	書籍名	発行機関
松田富美子	2005	「千葉県成田市台方下平Ⅰ遺跡・台方下平Ⅱ遺跡発掘調査概報－成田市公津西土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査－」	財印旛郡市文化財センター
部 淳一 酒井弘志他	1994	「大袋小谷津遺跡」[「公津東遺跡群Ⅰ－成田市公津東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書－」]	財印旛郡市文化財センター
折原洋一他	1986	「千葉県成田市宗吾西鷲山遺跡発掘調査報告書」	成田市教育委員会 宗吾西鷲山遺跡調査会
部 淳一 酒井弘志他	1994	「飯仲金堀遺跡」[「公津東遺跡群Ⅰ－成田市公津東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書－」]	財印旛郡市文化財センター
川津和久 酒井弘志 宮 文子	1995	「大袋山王第2遺跡B地区」[「公津東遺跡群Ⅱ－成田市公津東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書－」]	財印旛郡市文化財センター
部 淳一 酒井弘志他	1994	「飯田町南向野遺跡」[「公津東遺跡群Ⅰ－成田市公津東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書－」]	財印旛郡市文化財センター
菊地敏記 小牧美知枝	1988	「大袋腰巻遺跡(第11次)－成田市飯田町宅地造成事業に伴う埋蔵文化財調査－」	財印旛郡市文化財センター
宮 文子他	1998	「公津東遺跡群Ⅲ－大袋腰巻遺跡－」	財印旛郡市文化財センター
天野 努	1981	「Loc.20」[「公津原Ⅱ」]	財千葉県文化財センター
天野 努	1981	「Loc.15」[「公津原Ⅱ」]	財千葉県文化財センター
大木英行 寺内博之 木川邦夫	1990	「成田市計画事業成田駅西口土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書」	成田市教育委員会
天野 努	1981	「Loc.14」[「公津原Ⅱ」]	財千葉県文化財センター
阿部寿彦	1996	「千葉県成田市南園護台遺跡(第1地点)－(仮)スターツ株式会社宅地造成地内埋蔵文化財発掘調査報告書－」	財印旛郡市文化財センター
玉口時雄	1975	「Loc. 1」[「公津原」]	財千葉県地域振興公社
高橋 誠 栗原教司 渋谷健司	2001	「川栗館跡」[「川栗遺跡群Ⅱ－ドゥ・スポーツカントリー成田ゴルフ場造成予定地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅱ)－川栗館跡－」]	財印旛郡市文化財センター
喜多裕明	2001	「川栗波佐間遺跡」[「川栗遺跡群Ⅲ－ドゥ・スポーツカントリー成田ゴルフ場造成予定地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)」]	財印旛郡市文化財センター
菊地敏記他	1988	「久能下谷津遺跡」[「久能遺跡群発掘調査報告書」]	財印旛郡市文化財センター
菊地敏記他	1988	「久能小仲台遺跡」[「久能遺跡群発掘調査報告書」]	財印旛郡市文化財センター
石田広美他	1985	「主要地方道成田安食線道路改良工事(住宅地関連事業)地内埋蔵文化財発掘調査報告書」	財千葉県文化財センター
石戸啓夫 小牧美知江	1997	「千葉県印旛郡栄町龍角寺五斗時瓦窯跡－栄町病院建設に伴う埋蔵文化財調査報告書－」	財印旛郡市文化財センター
大野康男	1986	「栄町殖生郡衙跡確認調査報告書」	千葉県教育委員会
大野康男	1987	「栄町殖生郡衙跡確認調査報告書Ⅱ」	千葉県文化財保護協会
石井広美他	1985	「主要地方道成田安食線道路改良工事(住宅地関連事業)地内埋蔵文化財発掘調査報告書」	財千葉県文化財センター
小林清隆他	1985	「栄町大畑Ⅰ－2遺跡－県単道路成田安食線埋蔵文化財調査報告書－」	財千葉県文化財センター
米田幸雄 小牧美知枝	1994	「千葉県印旛郡栄町大畑Ⅰ－3遺跡－栄町ガソリンスタンド建設予定地内埋蔵文化財調査報告書－」	財印旛郡市文化財センター
越川敏夫他	1982	「竜角寺ニュータウン遺跡群」	竜角寺ニュータウン遺跡調査会
中山俊之 石戸啓夫	1997	「大竹林畑遺跡」	財印旛郡市文化財センター
宇田敦司	1996	「千葉県成田市南羽鳥遺跡群Ⅰ－成田カントリークラブゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅰ)－」	財印旛郡市文化財センター
小林清隆他	1985	「主要地方道成田安食線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－成田市烏内遺跡－」	財千葉県文化財センター
喜田圭介	1990	「ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)千葉県成田市野毛平木戸下遺跡・野毛平向山遺跡・野毛平樋出遺跡・野毛平千田ヶ入遺跡・長田舟久保遺跡・長田土上台遺跡」	財印旛郡市文化財センター
喜田圭介	1990	「ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)千葉県成田市野毛平木戸下遺跡・野毛平向山遺跡・野毛平樋出遺跡・野毛平千田ヶ入遺跡・長田舟久保遺跡・長田土上台遺跡」	財印旛郡市文化財センター
喜田圭介	1990	「ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)千葉県成田市野毛平木戸下遺跡・野毛平向山遺跡・野毛平樋出遺跡・野毛平千田ヶ入遺跡・長田舟久保遺跡・長田土上台遺跡」	財印旛郡市文化財センター
矢野紀子他	1985	「東関東自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－成田地区－」	財千葉県文化財センター
阿部寿彦	1998	「千葉県成田市馬場扇作遺跡－東京電力安食線増強(Ⅱ期)工事に伴う埋蔵文化財調査－」	財印旛郡市文化財センター
寺内博之他	1994	「江地山遺跡」[「荒磯 千葉県成田市荒磯地域の調査」]	成田市荒磯地域学術調査会

No	郡名	遺跡名	硯・畿内産土師器・高盤	鈔帯金具	特殊遺物等	官衙関連墨書等
149	埴生	一鉄田甚兵衛山北遺跡	畿内産土師器杯 1			
150	香取	大首向台遺跡	須恵器高盤 1			
151	香取	青山富ノ木遺跡	土師質二面風字硯 1 転用硯(須恵器甕 1)			
152	香取	名木庵寺跡	転用硯(須恵器椀 2)			「曹」
153	香取	玉造上の台遺跡		巡方(石製) 1		
154	香取	仁井宿東遺跡	須恵器円面硯 1 須恵器高盤 1 転用硯(須恵器杯 4)			
155	香取	津宮遺跡群		巡方(石製) 1	ロクロ土師器耳皿 1・高台付耳皿 1 土師器置きカマド 2	
156	香取	長部山遺跡				「厨」「官」2
157	香取	吉原遺跡	転用硯(灰釉陶器椀 2)	巡方(銅製) 1		
158	香取	妙見堂遺跡	土師器高盤 2		奈良三彩小壺 1 人形鉄製品 1 置きカマド 5 羽釜 2	
159	匝瑳	俣田遺跡No 1・2 地点	転用硯(須恵器甕 1)			「匝厨」
160	匝瑳	北の内遺跡	畿内産土師器杯A 1			
161	匝瑳	多古台遺跡群	転用硯(須恵器高台付杯 1)	巡方(銅製) 3 丸柄(銅製) 1 鉈尾(銅製) 1 鉈具(銅製) 1		
162	匝瑳	中内原遺跡	須恵器高盤 1 土師器高盤 1			
163	匝瑳	南借当遺跡		鉈尾(金属製) 1		
164	匝瑳	城山遺跡	転用硯(須恵器盤 1・甕13)	鉈尾(銅製) 1		
165	匝瑳	神山谷遺跡	須恵器高盤 1 土師器高盤 1 転用硯(須恵器甕29)	鉈尾(青銅製) 1 丸柄(石製) 1		
166	匝瑳	池尻遺跡	須恵器高盤 1 転用硯(土師器高台付杯 1)			
167	匝瑳	妙名遺跡	土師器高盤 1			「厨」
168	匝瑳	柳台遺跡	須恵器高盤 2 土師器高盤 4 転用硯(須恵器壺 1)	巡方(金銅製) 1 鉈具(青銅製) 1 鉈具(鉄製) 1 丸柄(石製) 1		「守」「序」「千俣口」「千校厨」
169	匝瑳	雉子ノ台遺跡	畿内産土師器(盤 1・蓋 1) 須恵器高盤 1			
170	匝瑳	真々塚遺跡	土師器高盤 1			
171	匝瑳	生尾遺跡	須恵器高盤 1 転用硯(須恵器蓋 1・皿カ 1・甕カ 1)	巡方(銅製) 1 鉈尾(銅製) 1		
172	匝瑳	平台遺跡	須恵器円面硯 1			
173	匝瑳	飯倉鈴歌遺跡	畿内産土師器(杯 3・破片14)		奈良三彩小壺 1	
174	匝瑳	平木遺跡				「郡厨」2「口厨」「磨」「玉長」
175	海上	境原遺跡	転用硯(須恵器高台付盤(朱墨) 1)	丸柄(銅製) 2 鉈尾(銅製) 1	須恵器双耳杯 1	
176	海上	地々免遺跡	畿内産土師器盤 1 須恵器高盤 1			
177	海上	御座ノ内遺跡	須恵器高盤 1			
178	海上	古屋敷遺跡	転用硯(須恵器蓋 1・甕 1)	巡方(金銅製) 1		「山幡」「曹司」「千俣」
179	海上	岩井安町遺跡	転用硯(灰釉高台付杯 1・須恵器甕 2・土師器杯 1)			「厨」
180	海上	大宮戸大新田遺跡第 1 地点	転用硯(土師器高台付杯 1)	鉈尾(石製) 1		

著者名	発行年	書籍名	発行機関
小久貫隆史他	1995	「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ－一鉄田甚兵衛山北遺跡(空港No11遺跡)－」	助千葉県文化財センター
伊庭彰一 平岡和夫	1989	「千葉県下総町大菅向台遺跡－発掘調査報告書－」	下総町遺跡調査会
雨宮隆太郎 宮 重行	1999	「下総町青山富ノ木遺跡・鎌部長峯遺跡－主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅵ－」	助千葉県文化財センター
沼沢 豊	1983	「下総町名木庵寺跡確認調査報告」	千葉県教育委員会
原田亨二	1983	「〔速報〕千葉県佐原市玉造上の台遺跡の調査」『月刊 考古学ジャーナル』No.222	ニューサイエンス社
宮 重行他	1990	「佐原市仁井宿東遺跡・牧野谷中田遺跡－中小河川改良事業小野川放水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」	助千葉県文化財センター
黒沢哲郎他	2004	「津宮遺跡群」	助香取郡市文化財センター
江尻和正	1991	「千葉県佐原市長部山遺跡」	助香取郡市文化財センター
鬼沢昭夫 越川敏夫他	2002	「千葉県佐原市吉原遺跡」	助香取郡市文化財センター
中野修秀 處 毅	1989	「千葉県香取郡小見川町織幡地区遺跡群発掘調査報告書」	小見川町埋蔵文化財調査会
平野 功 平井真紀子	1994	「織幡妙見堂遺跡Ⅱ」	助香取郡市文化財センター
越川敏夫	1993	「大塚遺跡群俣田遺跡－俣田遺跡No.1・No.2・No.3地点糸山遺跡－」	助香取郡市文化財センター
村山好文	2000	「中内原遺跡・北の内遺跡」	助香取郡市文化財センター
黒沢哲郎	1999	「多古台遺跡群Ⅰ－No.1, 2, 4～7地点の調査」	助香取郡市文化財センター
黒沢哲郎他	2002	「多古台遺跡群Ⅱ－No.3地点の調査－」	助香取郡市文化財センター
村山好文	2000	「中内原遺跡・北の内遺跡」	助香取郡市文化財センター
麻生正信他	1991	「多古町南借当遺跡－県単橋架換(借当橋)事業に伴う埋蔵文化財調査報告書－」	助千葉県文化財センター
道澤 明	2000	「千葉県匝瑳郡光町篠木城跡・城山遺跡－ひかり工業団地内埋蔵文化財調査報告Ⅱ－」	助東総文化財センター
岸本雅人 宮内勝巳 本多昭宏	2002	「千葉県匝瑳郡光町神山谷遺跡(1)－ひかり工業団地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－」	助東総文化財センター
本多昭宏	2002	「千葉県匝瑳郡光町神山谷遺跡(2)－ひかり工業団地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－」	助東総文化財センター
安井健一 嶋田浩司	1996	「主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書2 干潟町池尻遺跡・茄子台遺跡」	助千葉県文化財センター
渋谷興平	1976	「妙名遺跡」	北総東部用水事業埋蔵文化財発掘調査団
菊地敏記 福岡 元 山口直人	1986	「第1章 柳台遺跡」『千葉県八日市場市飯塚遺跡群発掘調査報告書』第Ⅲ分冊	八日市場市教育委員会
三枝利明 永嶋正春 福岡 元	1986	「第2章 柳台遺跡」『千葉県八日市場市飯塚遺跡群発掘調査報告書』第Ⅳ分冊	八日市場市教育委員会
桜井茂隆 高木博彦	1980	「八日市場市出土の「千校尉」と記された墨書土器について」『史館』第12号	史館同人
浅野雅則 福岡 元	1986	「第2章 雉子ノ古墳群」『千葉県八日市場市飯塚遺跡群発掘調査報告書』第Ⅱ分冊	八日市場市教育委員会
菊地敏記 福岡 元 山口直人	1986	「第2章 真々塚遺跡」『千葉県八日市場市飯塚遺跡群発掘調査報告書』	八日市場市教育委員会
實川 理他	1995	「千葉県八日市場市生尾遺跡－配水池築造工事に伴う埋蔵文化財調査－」	助東総文化財センター
宮内勝巳	2001	「千葉県八日市場市平台遺跡－ツーカーセラー東京八日市場市中央局建設に伴う埋蔵文化財調査－」	助東総文化財センター
並木忠良 林 勝則 藤崎宏道	1992	「千葉県八日市場市飯倉鈴歌遺跡発掘調査報告書」	飯倉遺跡調査会
小久貫隆史	1988	「八日市場市平木遺跡－県立海臣地区(仮称)養護学校建設に伴う埋蔵文化財調査－」	助千葉県文化財センター
村山好文 鬼澤昭夫	1999	「境原遺跡」	助香取郡市文化財センター
村山好文 鬼澤昭夫	1999	「地々免遺跡(遺物編)」	助香取郡市文化財センター
奥田正彦	1992	「御座ノ内遺跡」	助香取郡市文化財センター
村山好文 鬼澤昭夫	1999	「古屋敷遺跡」	助香取郡市文化財センター
宮城孝之他	1994	「海上町岩井安町遺跡－海上キャンプ場改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」	助千葉県文化財センター
赤塚弘美他	1995	「千葉県海上郡海上町岩井安町遺跡－滝のさと自然公園造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」	助東総文化財センター
藤原 均	1988	「千葉県銚子市大宮戸大新田第1地点調査報告書」	銚子市教育委員会

IV 郡衙成立の歴史的背景と意義 - 調査された郡衙を中心に -

各郡の概要で示したように、郡衙が出現してくる背景には、古墳時代後期からの古墳や集落の動向が大きな鍵を握っている。ここでは、調査された郡衙が所在する郡を中心に、成立の背景を探ってみる。

山中氏は、評衙や郡衙がどのような歴史的・地理的環境の中で成立したかを検討し、郡域における5～7世紀頃の古墳や集落跡、7・8世紀創建の寺院跡の分布との位置関係から、在地有力氏族の本拠地に営まれた「本拠地型郡衙」遺跡と、その本拠地から離れたところに位置する「非本拠地型郡衙」遺跡とに大別した¹⁾。本拠地型はさらに、郡域の代表者としての位置を占め、域内の他地区より相対的に大型の古墳が集中する地区に立地するA類と、郡域内の代表的氏族としての地位を必ずしも伝統的に保持していたのではなく、他地区の有力氏族との競合関係にあったと考えられるB類に分けている。現在までに、千葉県内で郡衙と特定できる遺跡は、相馬郡衙である日秀西遺跡、埴生衙である大畑遺跡と武射郡衙である嶋戸東遺跡の3遺跡である。そこで、各遺跡周辺の古墳の動向をまとめてみよう。

日秀西遺跡は、国造制下の印波国に属し、手賀沼北岸に位置する。古墳時代前期の古墳としては、柏市戸張一番割遺跡の前方後方墳及び沼南町北ノ作1・2号墳（前方後方墳）があげられる。中期になると、東葛飾郡最大の前方後円墳である天神山古墳が地域の盟主的な存在として築造され、石枕や短甲を有する円墳である金塚古墳や柏市天神台古墳群へと引き継がれていく。この時期までは柏市戸張地区から我孫子市我孫子地区の手賀沼西岸に中心が認められる。この様相は、後期になると大きく変わり、手賀沼周辺に小規模な古墳群が点在し、地域全体を掌握するような勢力はみられなくなる。日秀西遺跡は、古墳時代前期からの中心的な地域である手賀沼西岸地域ではなく、小規模古墳が存在する北東岸の湖北地区に立地している。

一方、大畑遺跡も印波国に属するが、日秀西遺跡周辺とは大きく異なる。印波国の中でも大規模古墳群が、印旛沼東岸の公津原古墳群と北側の竜角寺古墳群にみられる。この範囲は、律令制下の埴生郡のほぼ全域と印旛郡の一部にまたがる。この両古墳群の中で勢力の変遷が伺われる。まず、前期から中期にかけては、竜角寺古墳群ではほとんどみられず、公津原古墳群に中心がある。公津原古墳群は、4世紀前半から築造が開始され、6世紀代に大型の古墳が集中する。6世紀初頭には、墳丘長86mの前方後円墳である天王・船塚古墳群1号墳が築造され、次に墳丘長63mの天王・船塚古墳群31号墳などの大型前方後円墳がみられる。6世紀後半から7世紀にかけても古墳の築造がみられるが、それまでの大型古墳ではなく中小規模の円墳や方墳が主体となる。その一方で、前・中期の古墳がない竜角寺古墳群では、6世紀後半以降印旛沼を望む台地縁辺に中小規模の前方後円墳を含む古墳群が形成されるようになる。そして、埴輪が伴わなくなる7世紀以降は台地の奥部に進出し、全長78mの前方後円墳である浅間山古墳や1辺79mの大型方墳である岩屋古墳などが築造され、公津原古墳群を圧倒的に凌駕するようになる。このようにみえてみると、印波国の中心が6世紀末から7世紀にかけて公津地域から竜角寺地域に移っていったことが想定される。その勢力地域に初期寺院の龍角寺や埴生郡衙が成立する。

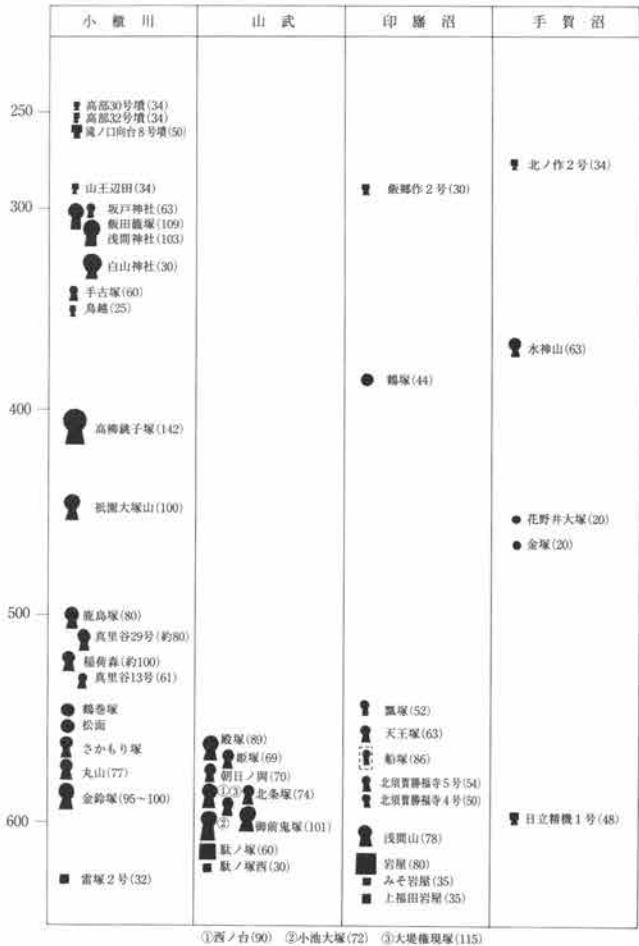
また、嶋戸東遺跡周辺も大畑遺跡周辺と類似した様相が伺われる。古墳時代前期に遡る大型古墳はなく、小規模な円墳である嶋戸境1号墳が見られる程度である。以降も有力な古墳は認められないが、この様相が一変するのが6世紀後半である。国造制下の武社国に属し、北から木戸川・境川・作田川の3河川流域に大型古墳が築造されるようになる。木戸川流域では、中流域に全長89mの殿塚古墳が最初に築かれ、

その後全長59mの姫塚古墳、全長72mの小池大塚古墳が順次短期間に営まれる。下流域では全長76mの朝日ノ岡古墳からやや時期を空けて7世紀初め頃に武社国中最大の前方後円墳である大堤権現塚古墳が築造される。その南側の境川流域では、中流域に6世紀後半から径45m前後の円墳である経僧塚古墳、カブト塚古墳が存在し、上流域に6世紀末から7世紀初頭の築造とされる全長86mの胡摩手台16号墳がみられる。嶋戸東遺跡はこの流域に当たるが、その位置は大型古墳が認められる中・上流域ではなく、下流域に営まれる。さらに南側の作田川流域では、下流域の板附古墳群中に集中し、全長90mの西ノ台古墳、全長63mの不動塚古墳が6世紀後半から末にかけて築かれ、7世紀初頭頃に1辺60mを測る駄ノ塚古墳が出現する。

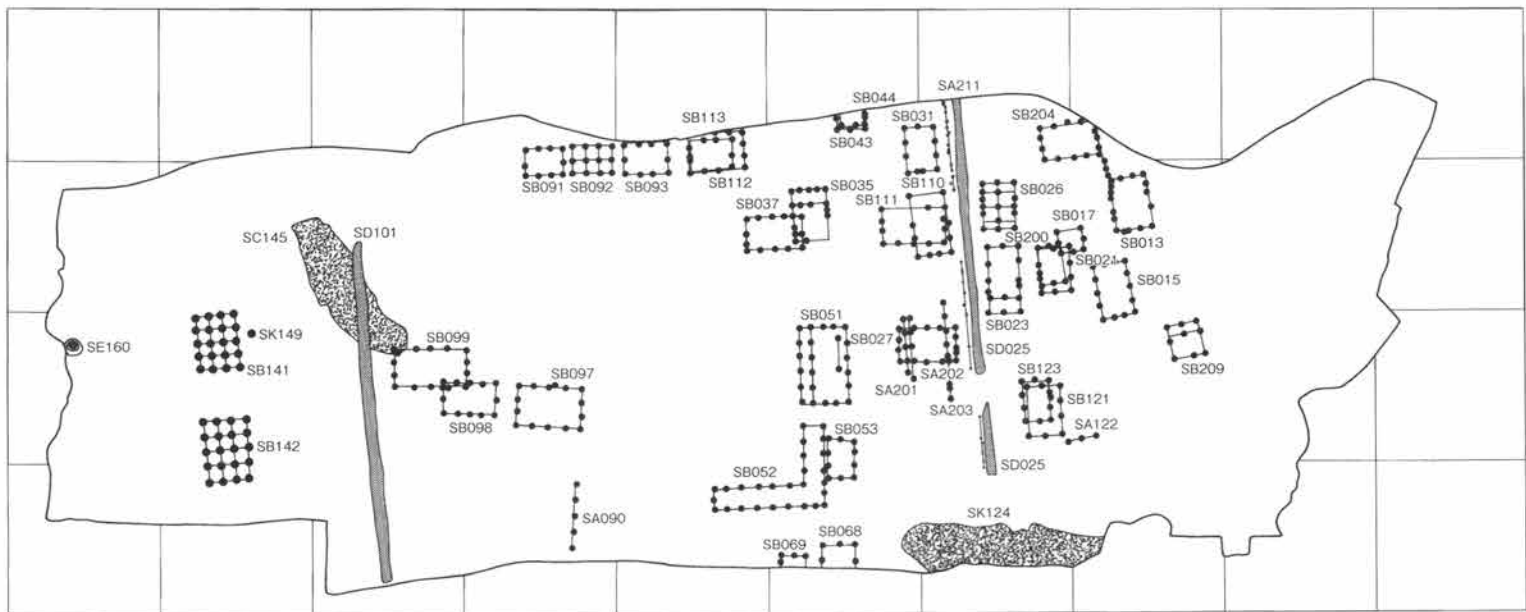
各郡の概要では触れていないが、評価あるいは郡衙に関連する何らかの施設と思われる木更津市丹過遺跡は、国造制下の馬来田国に属する。この国は、東京湾に注ぎ込む小櫃

川流域一帯を領域としており、この流域にも古墳が濃密に分布する。中流域には、小櫃古墳群中に、4世紀代とされる飯籠塚古墳、浅間神社古墳、白山神社古墳の全長100m級の前方後円墳が順次築造されるが、中期以降の大型古墳は見られず、中小規模の古墳を含む古墳群が展開している。一方、下流域の河口部では、大型前方後円墳を含む祇園・長須賀古墳群が広がっている。5世紀代には、石製模造品を副葬した高柳鉄子塚(142m)、金銅製眉庇付冑や画文帯鏡などを出土した祇園大塚山古墳(100m)、6世紀代には稲荷森古墳(約100m)、銅鈴や銅鏡、金銅製や銀製の刀装具などを出土した丸山古墳(77m)、金鈴や金銅製飾履・承盤付銅鏡などの豪華な多量の副葬品が確認された金鈴塚古墳(95~100m)などが連綿と築かれ、7世紀代には大型古墳がみられなくなる。この状況からは、前期までは中流域に拠点があり、中期以降は河口部に中心が移っていく様子が伺われる。丹過遺跡は前期古墳が立地する小櫃古墳群より5kmほど下流に位置し、河口の祇園・長須賀古墳群より10kmほど上流に当たる。この周辺には有力な古墳は認められず、古墳時代後期からの有力な古墳が所在する地域とは異なる場所に営まれている。

このように、郡衙として想定される遺跡周辺の古墳のあり方をまとめてみると、確実に本拠地型A類と捉えられるのが埴生郡衙である。7世紀後半から末頃になって公津原地域から竜角寺地域に中心が移り、さらに、竜角寺古墳群の立地が、印旛沼岸から内部に入った場所に移動し、そこで終末期の大型前方後円墳である浅間山古墳や大型方墳である岩屋古墳などが連綿と築かれている場所に竜角寺と埴生郡衙が営まれる。一方、非本拠地型として想定できそうな遺跡が日秀西遺跡である。水神山古墳に代表される手賀沼



第36図 流域別主要古墳変遷図

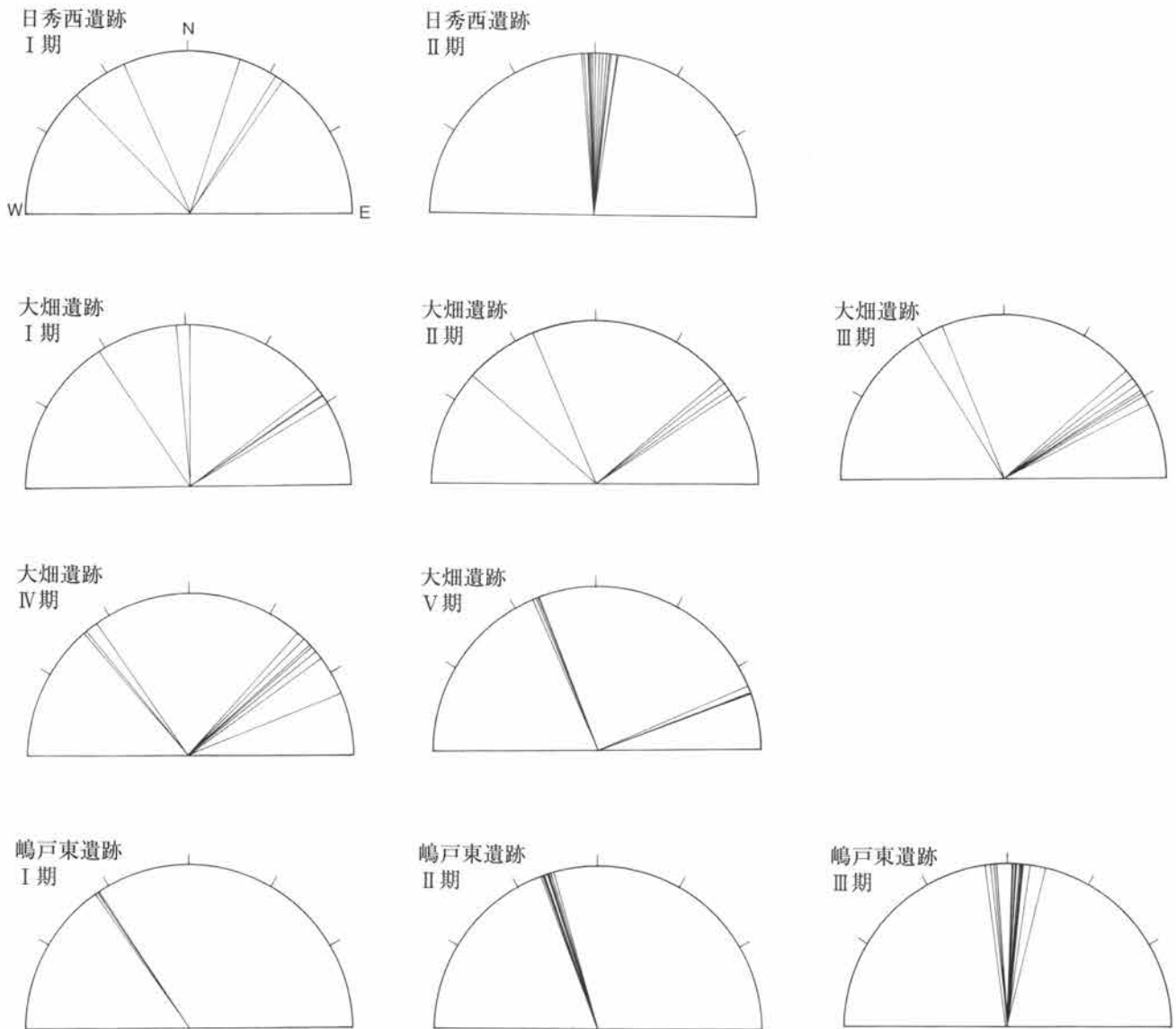


第37図 丹過遺跡建物全体図

を掌握するような中期までの拠点となる古墳群とは離れた場所に相馬郡衙が設けられる。ただ、湖北地区から新木地区にかけては手賀沼の開発によって削平された台地縁辺部にある程度の規模の古墳があった可能性もあり、断定できない²⁾。終末期の竜角寺古墳群とは比較にならないほどの小規模な古墳であり、本拠地としてではなく、中小規模の在地勢力をまとめ上げるような場所に郡衙を設定したのであろう。概念としては、非本拠地型に属すると思われる。丹過遺跡周辺に畔蒜郡衙が所在するのであれば、この地域も非本拠地型となろう。

問題は、武射郡衙が所在する武社国地域の古墳のあり方である。これについては、先学により様々な解釈がなされている。ここで詳細に検討はしないが、極めて短期間に3河川の流域に盟主的な規模の古墳が築造されている。最終的に築造されるのが、木戸川下流域の全長115mを測る大型前方後円墳である大堤権現塚古墳と作田川下流域の1辺60mを測る大型方墳である駄ノ塚古墳である。境川流域を含めた3河川を掌握した勢力は、時期ごとに河川を移動する首長権の交代制ではなく、相互の競合的關係で国を維持していたものと思われる。そして、埴生郡の岩屋古墳と龍角寺の關係からすれば、駄ノ塚古墳と真行寺廢寺(武射寺)の關係も想定される。駄ノ塚古墳とは、境川を挟んだ対岸の台地上に真行寺廢寺が建立され、武射郡衙も営まれる。そこには、駄ノ塚古墳を意識しつつも各流域全体のバランスをとるうえで絶好の場所であった境川下流域を選定したのであろう。交通の要所としても重要である。嶋戸東遺跡のなかで触れたように、太平洋岸から砂提帯を挟んで武射郡衙を通り、内陸に向かうと想定される官道の一部が調査されており、この道路が古墳時代まで遡るかどうかは不明であるが、水上交通と陸路を結ぶ重要な位置にあったことは間違いない。山中氏による本拠地型B類の範疇に入るものであろう。

山中氏は、郡衙成立過程における3つの画期として、①7世紀中葉、②7世紀末ないし8世紀初め頃、③8世紀前葉をあげ、①は評衙の前身である初期評衙と考えられる官衙施設が出現する時期、②は多くの郡衙遺跡において官衙施設が創設される時期、③は大宝令の施行によって名実ともに郡衙が体制的に整



第38図 各遺跡建物主軸方位分布図

備、確立された8世紀前葉を指標としている。この点から県内の郡衙と考えられる3遺跡について考えてみよう。まず、①とした7世紀中葉の初期評衙とされる施設は確認されていない。②に関しては、日秀西遺跡の初期建物群や嶋戸東遺跡の前期政庁とされる建物群は7世紀末頃に建てられたとされる。大畑遺跡では、2間×3間の小規模な建物で構成される第1期がこの段階に当たっている。この遺跡では、第2期（8世紀第1四半期）とした建物群が軸をそろえ、大型の建物が含まれるなど、この段階になって官衙的な様相を有するようになり、日秀西遺跡や嶋戸東遺跡よりはやや遅れて整備されたものと考えられる。県内で調査された郡衙遺跡の開始時期は②の段階になってからである。

一方、③の画期も重要である。3遺跡の時期別主軸方向をみると明らかなように、8世紀前葉という時期は、日秀西遺跡においては、軸を東西南北に揃えた掘立柱建物の倉庫群が成立し、嶋戸東遺跡では、後期郡衙が前期とは軸を変えて営まれるようになった時期である。まさに本格的に整備された郡衙施設が確立してくる。ちなみに、8世紀中葉から後半にかけて両遺跡とも倉庫群は掘立柱建物から礎石建物に改築される。

このように、飛鳥浄御原令の施行段階を中心とした②の時期に上記の各郡衙が成立し、③の時期に本格的に整備されたことが伺える。また、山中氏は、交通の要衝に位置していることを特徴としてあげている。この点についてみてみよう。まず、相馬郡衙については、先述したように意部郷に設置されていたとすると、下津谷氏が考察している点が注目される³⁾。同氏は、遺跡の分布から於賦駅を日秀西遺跡周辺に想定している。意布郷戸籍には、軍団の役職名を示す人物の記載があり、藤原部を改姓した「久須波良部」の墨書土器が新木地区に集中して出土していることを考え合わせると、相馬軍も湖北地区から新木地区にかけた地域に設置されていたものと思われる。於賦駅も日秀西遺跡周辺に想定することが妥当と思われる。於賦駅は、下総国から常陸国に渡る交通の要衝に位置していることは間違いのないであろう。また、埴生郡衙である大畑遺跡も古東海道の山方駅から荒海駅にいたる官道沿いに設置されている。荒海駅も、於賦駅同様常陸国にいたる最後の駅となる。この両遺跡は、常陸国南部から下総国北部にかけて広がっていた内水面である「香取の海」の沿岸に位置しており、古墳のあり方からしても古代より水上交通の要衝であったと考えられ、その場所に駅及び郡衙が設置されたのであろう。

一方、武射郡衙は古代官道が確認されていない太平洋岸に位置している。これについては、6世紀後半から大型の前方後円墳が集中して築造されている状況から、海上交通及び河川を使った水上交通によって新たに開発・入植した地域として検討した⁴⁾。おそらく、この時代から中央にとって東国経営の重要な拠点として九十九里沿岸を選地し、大規模な開発を進めていったのであろう。旧佐倉街道は、江戸時代の絵図面から嶋戸東遺跡の正倉域を斜めに抜けて伸びており、九十九里の平野部まで達していたと推定されている。この道路は久保谷遺跡で検出された道路跡と平行し、嶋戸東遺跡の前期政庁と考えられる軸方向とも共通していることから、少なくとも7世紀後半まで遡ることは確実である。

このようにみても、房総における郡衙は水上交通及び海上交通の要衝にあった場所に設置されたことが伺える。調査された郡衙遺跡の古墳時代からの様相を加えてみると、上総地域も含めて古墳時代からの中央政権との深いつながりが伺われる。特に、武射郡衙周辺の古墳の特徴からは、東国経営及び東北経営の拠点として位置づけ、その性格がそのまま武射郡衙成立の大きな要因となったことが想定される。ただ、調査された郡衙もまだ解明されていない部分もあり、他の郡衙の調査の進展などにより、房総の郡衙あるいは官衙のさらなる研究がなされることを期待する。

註

- 1 山中敏史 1994 「古代地方官衙遺跡の研究」 塙書房
- 2 辻 史郎 2005 「下総国相馬郡正倉をめぐる一考察」『古代東国の考古学』（大金宣亮氏追悼記念論文集）
- 3 下津谷達男・古宮隆信 1988 「下総の古東海道」『東葛上代文化の研究』
- 4 栗田則久・木島桂子 2005 「古代の上総北東部－古墳時代後期からの集落と古墳の動向－」『研究紀要24－30周年記念論集－』

財団法人千葉県文化財センター

第7表 遺跡一覧表

凡 例

- 1 本表で取り扱った遺跡は、郡衙のみではなく、官衙的な遺構や遺物を検出した遺跡であり、具体的な性格については触れていない。下総の主要な遺跡については、Ⅲの「下総地域の官衙関連遺物について」で一覧表として扱っているため、本表では空白としている。
- 2 表の各項目については、以下のとおりである。
 - (1) Noについては、県の分布地図の番号を附した。
 - (2) 地図については、(1)同様分布地図を踏襲し、国土地理院発行の25,000分の1の地図名及び番号を記した。
 - (3) 国郡の所在については、千葉県立中央図書館が1970年に発行した『千葉県地名変遷総覧』に主に準拠している。
 - (4) 所在地については、市町村合併前の旧住所を使用している。
 - (5) 時期については、遺跡内の古墳時代から平安時代までの遺構・遺物の時期を示している。
 - (6) 当該時期については、官衙関連遺物・遺構等の存続時期を示している。
 - (7) 性格については、ある程度推定可能な遺跡について触れた。

第7表 遺跡一覽表

No.	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
19	No73保田 No78那古	安房	平群	大峰畑遺跡	安房郡 富山町	高崎字奥田495他	段丘上	40m	岩井川		8c末～9c	集落跡	2
70	No82千倉	安房	安房	安房国分寺跡	館山市	国分959-2他	砂丘台地	19m	平久里川		8c末～9c	寺院跡	
102	No81館山	安房	安房	加賀名遺跡	館山市	波佐間字加賀名下	海岸段丘	11～2m	波佐間		8c後半～10c初	関連遺物出土	4
82	No79安房 古川	安房	安房	宝珠院	安房郡 三芳村	府中字宝珠院	平久里川左 岸河岸段丘 上	13～16m	平久里川			集落跡・ 安房国府 推定地	
2	No73保田	安房		恩田原遺跡	安房郡 富山町	久枝57-4	段丘	10m	岩井川			関連遺物 出土	
5	No82千倉	安房	朝夷	健田遺跡群	千倉町	瀬戸字堀ノ内278 ～279他	海成段丘上	23～30m	瀬戸川		奈良・平安		1次5軒、 2次5軒
468	No51姉崎	上総	海上	西野遺跡群 西野下田遺跡 (海上郡衙推 定地)	市原市	西野下田299-1	自然堤防微 高地		養老川		奈良・平安	海上郡衙 推定地	1 (7c代)
463	No51姉崎	上総	海上	西野遺跡群 西野遺跡第2次 (海上郡衙推 定地)	市原市	小折字小折3-3	自然堤防微 高地	7.5～8.5m	養老川		奈良・平安	海上郡衙 推定地	
463	No51姉崎	上総	海上	西野遺跡群 西野遺跡第1次 (海上郡衙推 定地)	市原市	西野字東口	沖積低地	8.0～10.0m	養老川		奈良・平安	海上郡衙 推定地	
463	No51姉崎	上総	海上	西野遺跡群 西野遺跡(海上 郡衙推定地)	市原市	西野字南口192-1 他	右岸段丘上	8.34～ 10.59m	養老川	古墳～奈 良・平安	奈良・平安	海上郡衙 推定地	4 (古墳時 代)
793	No46五井 No47蘇我	上総	海上	郡本遺跡群 (上総国府推 定地1)郡本 遺跡(第5次)	市原市	郡本1丁目153他	台地(市原 台地)	20m	養老川 (新田川)			市原郡衙 推定地	
793	No46五井 No47蘇我	上総	海上	郡本遺跡群 (上総国府推 定地1)郡本 遺跡(第4次)	市原市	郡本3丁目201-1	舌状台地	21～22m	養老川			上総国府 推定地・ 市原郡衙 推定地	2
793	No46五井 No47蘇我		海上	郡本遺跡群 (上総国府推 定地1)郡本 遺跡(第2次)	市原市	郡本3丁目202-1	台地	22m	養老川			上総国府 推定地・ 市原郡衙 推定地	
793	No46五井 No47蘇我	上総	海上	郡本遺跡群 (上総国府推 定地1)郡本 遺跡	市原市	郡本4丁目103番地 他	台地上	21m	養老川			市原郡衙 推定地	
793	No46五井 No47蘇我	上総	海上	古甲遺跡(郡 本遺跡群)	市原市	郡本2丁目350-2 他(平3)346(平4)						上総国府 推定地	
465	No51姉崎	上総	海上	村上遺跡群 (村上遺跡) 上総国府推 定地	市原市	村上字蔵の下1584 他	右岸河岸段 丘上		養老川		奈良・平安	上総国府 推定地	
465	No51姉崎	上総	海上	村上遺跡群 (村上川堀遺 跡)上総国府 推定地	市原市	村上字川堀1628- 1	自然堤防上	8.0～9.0m	養老川		8c後半～9c 前半		
465	No51姉崎	上総	海上	村上遺跡群上 総国府推定地	市原市	村上1126-1(年 元)1159-1(年2)			養老川			上総国府 推定地	

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
	水汲み場・欄状遺構	銅製丸軋(水汲み場)			安房国府推定地である三芳村府中は当遺跡の南東約8kmにあり富山町米沢字大折は平群郡衙推定地となる。	1998富津館山道路埋蔵文化財調査報告書
	基壇建物跡	石帯(1)溝三彩 獸脚基壇建物				1980安房国分寺
				帯金具(蛇紋岩)	奈良・平安時代の集落。竪穴住居から帯金具を出土した。	1999加賀名遺跡
					1987年古代寺院跡の確認調査により弥生時代の集落・包含層・墳丘を欠失した古墳2基(1基は5c)を確認。10c代の遺物は少量出土したが当該期である8・9c代の遺物は皆無に等しい。	1988古代寺院(宝珠院)確認調査報告書
				銅印「王泉私印」	調査区内の遺物包含層から出土、該期の遺構・遺物は検出していない。	1998恩田原遺跡
					平城宮跡出土木簡に養老6年(722)、養老13年(729)と記載された時期と前後する竪穴住居が検出された。	1975健田遺跡発掘調査報告書1977健田遺跡1980健田遺跡発掘調査概報第4次調査
	大溝ピット群(掘立柱の可能性が高いが不明)(確認)				出土遺物は、遺構に確実に伴うものが少なく年代をおさえることが困難であるが、7c前半に集中するよう検出した遺構の時期もこの時期であろう(確認)西野遺跡の一部であるとは考えられるが海上郡家の一部であることは今後の検討を要する(本調査)	1996平成7年度市原市内遺跡発掘調査報告書2000市原市文化財センター年報(平成9年度)西野下田遺跡
5棟	柱穴97基(掘立柱建物5棟含む)井戸1基8c前半～9c後半(8c代が主体)溝状遺構1条		軒丸瓦単升 二十四葉蓮華文平瓦格子・繩叩き		本遺跡が郡衙に比定される端緒となった大字小折字小折の地のはじめての調査。縁辺部ということもあり郡衙に関する遺構は検出されなかった。検出した井戸はその構造から館あるいは館に付属する厨に伴う井戸と考えられる。	1996平成8年度市原市西野遺跡第二次発掘調査報告書
1・掘立柱1					奈良・平安時代の遺構は掘立柱建物1と掘立柱1である掘立柱建物跡(SB-5001)は3間×2間の総柱高床構造と考えられる。海上郡衙推定地大字小折に隣接する。	1995市原市西野遺跡第一次発掘調査報告書
8棟	井戸6基(うち1基は横板材がのこり8c後半～9cに廃絶)溝30条(東西溝SD1002が郡衙に関連した区画溝)土壌8基				検出した東西溝SD1002が郡衙に関連した区画溝であると考えられる。	1989市原市西野遺跡・白山遺跡・村上遺跡発掘報告書
	溝状遺構(東西)				郡本遺跡(1次)に隣接した地点、東西にはしる溝状遺構を検出する。	1999郡本遺跡(第5次)市原市内遺跡発掘調査報告
3(2間×3間)うち2棟は規模・軸線が類似	竪穴状遺構2		布目瓦	灰軸陶器長頸壺2	市原郡衙推定地、第9号竪穴住居から灰軸陶器長頸壺2点のほか墨書土器5点布目瓦が出土したほか掘立柱3棟を検出した。墨書土器のうち則天文字「天」は特殊な文字で県内では官衙関連施設などから出土している(江原台第1・真行寺庵寺・和洋学園国府台キャンパス内遺跡2次など)	1999市原市郡本遺跡(第4次)
2棟					市原郡衙推定地と確定できる資料は得られていないが2棟の掘立柱建物跡や奈良・平安時代の竪穴住居跡、墓塚などを検出し、当遺跡の特殊性・重要性は強まった。	1995市原市郡本遺跡(第2次)
				金、銅製帯金具	直接官衙に関連する遺構は検出されなかったが墨書・線刻土器や金・銅製帯金具の出土は注目される。	1987市原市郡本遺跡
	平4年度溝(幅8m、深さ2m)		有	緑釉・灰釉・磚・獸脚	平成3年の調査では竪穴住居や掘立柱建物の柱穴であろうピットが多く検出されたが調査区が狭く今後の面的調査が期待される。遺物は表面採集資料も含め平安時代の所産と思われるものが多い。平成4年の調査では東西地割りの方向に沿う形で溝が検出された全体的な形状を把握する。	1984市原市上総国府推定地確認調査報告書(1)
8c第424棟 9c初11棟9c前半12棟	溝SD20(9c代)SD102(9c後半)土坑方形周溝状遺構		平瓦・丸瓦	青銅製帯金具(鈍尾)	多数の掘立柱建物跡検出し交通の要衝である養老川に深くかかわって成立した遺跡と考えられる国府とかかわる「津」のような性格ではなかったかと想定できるが遺構の性格を決定できるような遺物は出土しなかった。	1997村上遺跡群埋蔵文化財調査報告書
奈良・平安4(うち1棟は8c中葉)	土坑(8c末～9c初)土器棄て場1他3井戸状遺構2溝2	石帯(滑石製、丸軋)	布目(一部へら削り、ヘラナデによるスリ消し)、繩叩き平瓦		8c～9c前半の掘立柱4棟が検出されうち1棟は8c中葉に属する。また8c末～9c初めの土器を大量に廃棄したとみられる土坑から石製丸軋が出土した。	2000市原市村上川堀遺跡
					国府に直接結びつくとも積極的に主張しうる成果はなかった。	1984市原市上総国府推定地確認調査報告書(1)

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
465	No51姉崎	上総	海上	村上遺跡群(村上城跡)上総国府推定地Ⅱ	市原市	村上字白山他	自然堤防上、微高地		養老川	中世		上総国府推定地	
465	No51姉崎	上総	海上	村上遺跡群上総国府推定地	市原市	村上1402-15	自然堤防上		養老川			上総国府推定地	
651-1	No52海士有木	上総	海上	文作遺跡	市原市	葉木字文作325他	台地上	62~67m	村田川(神崎川)	古墳後期~平安	7c後半~8c	掘立、関連遺物、集落跡	147
729	No46五井No51姉崎	上総	海上	坊作遺跡	市原市	国分寺台中央4丁目6他	台地		白旗川			集落跡、生産跡	
734	No47蘇我	上総	海上	稲荷台遺跡	市原市	山田橋3丁目1	台地上		白旗川			官衙・道路跡	B14 C4 D1 いずれも国分跡
769	No52海士有木	上総	海上	山田橋遺跡群山田橋表通遺跡	市原市	山田橋字笹森堀、太田	台地上	32~34m	白旗川			道路跡	
771	No47蘇我No52海士有木	上総	海上	古代道路遺跡	市原市	山田橋シウノ谷~藤井3丁目	台地上		新田川			道路跡	
774・775	No47蘇我No52海士有木	上総	海上	千草山廃寺(774)千草山遺跡(775)	市原市	能満字西千草山1450-2	台地(市原台)	15~65m	新田川		8c後半	上総国府関係遺跡・寺院跡、集落跡、生産跡	72+52
471	No51姉崎No52海士有木	上総	海上	二日市場廃寺跡	市原市	二日市場字熊野越551他	微高地	15m	養老川		7c後半~8c後半	寺院・居宅または寺院付属施設	
626	No52海士有木		海上	南青野遺跡	市原市	山倉1487(山倉字青野、北貝塚)	台地上	42~46m	養老川、白旗川		奈良	官衙関連?集落跡	10
542	No52海士有木	上総	海上	門脇遺跡	市原市	磯ヶ谷字門脇8他(字入道久保)	台地上(養老川中へ下流の右岸)	70~72m	養老川・新堀川		8c第1四半期		9(7c後半以降)
778・779	No52海士有木	上総	海上	上細工多遺跡(官衙推定地)	市原市	能満字上新開	台地	20m	新田川		平安前・中	官衙推定地	1(奈良)
137	No57上総横田	上総	海上	永吉台遺跡群	君津郡袖ヶ浦町	字永吉西寺原ノ式169	支流松川の左岸台地	63m~75m	小櫃川・松川	8c~10c	9c	関連遺物出土・集落跡・生産跡	121・12・51
64	No56木更津	上総	畔森	大畑台遺跡(大畑台遺跡群)	木更津市		台地上	60m	矢那川	古墳~平安	奈良・平安		6棟(I) 3棟(II)
70	No56木更津	上総	畔森	小谷遺跡(大畑台遺跡群)	木更津市		台地	50m	鳥田川	古墳中期~平安	8c末~9c初	集落跡・寺院跡	3

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
					上総国府推定地に比定される地域の調査であったがそれに関する資料は検出されていない。	1986村上城跡
					「村上説」を裏付ける資料はなかった。	1985上総国府推定地「市原市文化財センター年報(昭和57・58年度)」
35				帯金具(カコ)9c前半羽口9c後半灰釉手付瓶(9c後半)手鎌鉄滓、銅滓(9後半~10c)	古墳時代終末期~平安時代中頃9c末(一部10c代)まで継続する集落跡である。35棟の掘立柱建物跡はⅡb・Ⅲ期(7cⅣ期~8cⅢ期)を中心とし地点的な集中と規則的な配置が認められる。	1989市原市文作遺跡
		灰釉陶器、奈良三彩小壺	軒平瓦、平瓦、丸瓦			1995上総の造寺司「市原市文化財センター研究紀要Ⅲ」1977上総国分寺台発掘調査概要Ⅳ
E地点20棟以上?B・A地点にも	G地点道路跡(297号と平行する市道山田橋~五井線の道路下に検出した溝と平行、幅6m側溝が両側にある。	帯金具、円面硯	布目	緑釉・灰釉		1980上総国分寺台発掘調査概報1983.3
2棟	溝状遺構18条(道路跡含む)					1999山田橋表通遺跡
	側溝付き道路				稲荷台遺跡G地点、山田橋表通遺跡、能満千草山遺跡(東千草山)、山田橋支ノ海道遺跡、山田橋大山台遺跡 推津坂ノ上(県史)	1992発掘された市原付近の古代道「古代交通研究」1994古代上総国の嶋穴駅と官道「市原市文化財研究会紀要第1輯」
	うち1軒小鍛冶遺構		布目瓦(24菱単弁蓮華文鏡瓦・均整唐草文字瓦)	神功開宝・灰釉陶器		1995謎の千草山廃寺跡(予察)1979千草山遺跡発掘調査報告書1989千草山遺跡・東千草山遺跡
3棟	溝(4条)整地土層		軒丸瓦(雷文緑複弁八葉蓮花文、単弁八葉蓮花文)軒平瓦(重弧文、唐草文)	鉄滓	調査以前に花(雷)文緑八葉複弁蓮華文軒丸瓦(紀寺式)、三重圓文緑十二葉単弁蓮華文軒丸瓦、三重弧文軒平瓦を出土、特に紀寺式の軒丸瓦は県内において初見となった資料で白鳳期の寺院として位置づけられるにいった。	1984市原市二日市場廃寺跡確認調査報告
1	土坑26基・ピット群6・井戸状遺構1・溝8条			銅製帯金具(丸柄)	検出した竪穴住居跡・掘立柱建物跡は奈良時代のもともみられ溝内から帯金具(丸柄)が出土した。	1994市原市南青野遺跡
1(時期・規模不明)					縄文時代~奈良・平安時代の遺構・遺物を検出した。この中で奈良時代のSI005号跡から出土した須恵器高台付杯の底部、外面に「海黒長」の三文字の墨書がある。可能性の高い行政区画としては上総国市原郡海部郷が考えられる。	1985市原市門脇遺跡
2棟、1棟(溝跡とかかわる)開口部に伴う	溝4条(区画溝)				南辺区画溝の内側から掘立柱建物2棟が検出され、宿直屋的な開口部に付属する施設と推定される。国衙付属の細工所ないしは細工人の給免田の遺跡地名ともみられ、検討材料の一つとなろう。大規模な溝、出入口に関連する施設、日常遺物の少なさから一般の集落ではないと思われる。	能満上細工多遺跡・能満上新関遺跡・能満番面台遺跡・能満旧三山塚
8・17	竪穴状遺構2・2溝状遺構30・5・1土器焼成遺構43基・17・10道路遺構1・1土坑44基・7土器一括遺構1基火葬墓1	石製丸柄6・青銅巡方(9c後)61・石製巡方87・陶印106		灰釉・緑釉	西寺原地区は9c~10cの集落で土器生産を行っていた「西寺」・「佛」という墨書のはか丸柄・巡方・陶印なども出土している。(寺原地区は8c後半カラ10cの寺院・集落跡であった。)	1985永吉台遺跡群
10棟(2×2・1棟3×4・1棟2×3・3棟3×3以上・2棟2×2以上・1棟他・1棟)					8c前半の竪穴住居跡3棟が検出されており、掘立柱建物跡は8c後半~9c前半と考えられているが、遺物が少なく不明瞭である。なお、掘立柱建物が他にも存在する可能性が指摘されている。また、掘立柱建物群の北東(H6調査区、Iで報告)では該期の竪穴住居跡6棟が検出	1996大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅰ 1997大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅱ
8棟(1×1・1棟2×4ベタ・1棟2×2・1棟2×3・3棟3×4・2棟)	基壇(小谷遺跡)1		軒瓦(丸・平)小型(小谷遺跡)	瓦塔(小谷)、灯明杯	小谷遺跡からは瓦塔をはじめ仏教関連遺物が出土したSB-4の北東側谷頭から瓦塔出土	1994大畑台遺跡群遺跡発掘事前総合調査報告書1996大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅰ 1997大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 1998大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅲ 2000大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅳ

No.	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・堅穴住居跡
459	No50奈良輪	上総	望陀	雷塚遺跡	袖ヶ浦市	神納字雷塚4136-2 (藏波字雷塚)	台地	22~37m	小櫃川・藏波川	8c~9c		集落・関連遺物出土	
435	No57上総横田	上総	望陀	念仏塚遺跡	袖ヶ浦町	岩井字念仏塚他	支流松川の北岸台地	31m	小櫃川		9c後~10c前半平安	関連遺物出土・集落跡	4
101	No50奈良輪No51姉崎No56木更津No57上総横田	上総	望陀	境遺跡 (根形台遺跡群) (下新田遺跡群)	君津郡袖ヶ浦町	下新田1270	台地	30m	小櫃川	古墳(後)~平安	9c中	関連遺物出土・集落跡	12
302	No57上総横田	上総	望陀	桶爪遺跡	君津郡袖ヶ浦町	川原井字桶爪	台地	70m	小櫃川 (松川)	平安	平安	関連遺物出土	
101	No50奈良輪No51姉崎No56木更津No57上総横田	上総	望陀	西ノ窪遺跡・根形台遺跡群 (下新田遺跡群)	君津郡袖ヶ浦町	下新田1133	台地	27~30m	小櫃川		8c~9c	関連遺物出土・集落跡	14
475	No62鹿野山	上総	周准	南子安金井崎遺跡	君津市	南子安金井崎	丘陵上(分)		小糸川			九十九坊廃寺関連	
47	No62鹿野山	上総	周准	九十九坊廃寺	君津市	糞輪191	台地		小糸川		奈良	郡衙関連・寺院跡	
421	No62鹿野山	上総	周准	外箕輪遺跡Ⅲ	君津市	外箕輪字中入153-1他	河岸段丘第3面	16m	小糸川	奈良・平安		条里	
421	No62鹿野山	上総	周准	外箕輪遺跡Ⅱ	君津市	外箕輪字四反目	段丘上	16m	小糸川	奈良・平安		条里	
421	No62鹿野山	上総	周准	外箕輪遺跡Ⅰ	君津市	外箕輪字御灵前91-1	低位段丘上	16m	小糸川			条里	
421	No62鹿野山	上総	周准	外箕輪遺跡	君津市	外箕輪字新屋敷	低位河岸段丘上	16m	小糸川	8c後半		官衙または関連施設	SK 1~5
40	No62鹿野山	上総	周准	郡条里遺跡	君津市	八幡字郡・常代	低位段丘上	15m	小糸川			周准郡衙推定地	
90・91	No62鹿野山	上総	周准	郡西遺跡・郡遺跡	君津市	郡字赤磯、小山野字福造	河岸段丘上		江川 (小糸川支流)			周准郡衙推定地・集落跡	
		上総	周准	郡遺跡			河岸段丘上	13~23m	江川 (小糸川支流)			周准郡衙推定地	
		上総	周准	郡遺跡	君津市	郡381-1	沖積低地	13m	江川 (小糸川支流)			周准郡衙推定地	
89	No62鹿野山	上総	周准	常代遺跡	君津市	常代字五反歩	低地段丘	15~17m	小糸川			集落跡	
79	No48東金	上総	山辺	滝木浦遺跡	東金市	滝木浦、坊谷、油井字庄子台	台地	62~66m	北幸谷川	古墳後期~奈良・平安	8世紀~10世紀	郡衙関連	182軒(105)
119	No48東金	上総	山辺	山田水呑遺跡	東金市	大字山田水呑台、新田	台地	65~70m	北幸谷川	8世紀前半~9世紀後半	8世紀前半~9世紀後半	山辺郡山口郷推定地	143軒
148	No48東金	上総	山辺	鉢ヶ谷遺跡	東金市	小野字鉢ヶ谷、岡谷、湖山、十石	台地	約77m	北幸谷川	古墳後半~奈良・平安		郡衙関連	354軒
83	No48東金	上総	山辺	滝東台遺跡	東金市	滝字木浦他	台地	約58m	北幸谷川	古墳後半~奈良・平安	8世紀前半~9世紀後半	郡衙関連	(218軒)

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
		製鉄関連 (小鍛冶か)		「神功開寶」、灰釉陶器墓誌または貝地券と思われる板状鉄製品(火葬墓)		1998雷塚遺跡
		丸軋(石製)トレンチ出土				1987念仏塚遺跡
	溝(奈良時代)	銅製蛇尾(44号, 9c中)			奈良時代の集落は隣接する西ノ窪遺跡を中心に展開し本遺跡は平安時代になって再び集落が出現する。そのうちの1軒から銅製蛇尾が出土した。南側台地「望陀郡衙推定地」が有り地方官人層の存在が考えられる。また同住居跡からは多数の墨書土器が出土している。	1985境遺跡
		石製巡方2(住居跡No.2)			住居跡No.2から2点の巡方が出土した。その所持者は郷に關係する下層の官人ではないかと考えられる。	1979樋爪
		石製蛇尾2045号跡n-18G(グリット) 竪穴住居9c中鉄製カコ1072号跡竪穴住居跡9c中				1985西ノ窪遺跡
		鉄鍛練鍛造の工房址			8c後半に建物群が出現し10c前半には収束していく。製鉄関連遺構は九十九坊関連と考えられる。	1996君津市南子安金井崎
			軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、男瓦	硯	掘立、塔跡、講堂、瓦敷基壇	1985君津市九十九坊廃寺址 確認調査報告書
					条里地割りと同方向の水田	1997外箕輪遺跡Ⅲ
	溝条里地割りの方向を意識したと思われる					1997外箕輪遺跡Ⅱ
					中世の領主層の居館に付属する施設か居館に隣接する上層名主の屋敷地としての性格	1994外箕輪遺跡発掘調査報告書
SB1~4SB1 2以上×2SB2 2以上×2SB3 3×2 SB4?×2	溝状遺構(SD1~5、11、12、15、16)				大型掘立柱建物は計画的に配置されていると考えられ、これら掘立柱建物群にとり囲まれた地点に土坑群が集中的に検出される。フイゴ、羽口、スラグが多数出土していることから近接地点に鍛冶工房の存在が想定できる。溝状遺構も掘立柱建物群と同一の方向性をもっており互いに関連	1989君津市外箕輪遺構・八幡神社古墳
					郡衙推定地とされたが郡衙施設の発見はなかった。しかし須恵国造の居館であったと考えられ郡衙設置の墓地とはあったと言える。建物の変遷状況からは該期の遺構は調査区域外へ移っていると考えられる。	1996郡遺跡群発掘調査報告書Ⅱ
					検出した掘立柱建物跡群は古墳時代中期~後期と考えられるそれに伴う水に関わる祭祀・儀式も行われていたらしい。	1994郡遺跡群発掘調査報告書Ⅰ
	溝3条 水田6枚 畦畔6本				周准郡衙に関連する遺構・遺物は検出しなかった。	1991君津市郡遺跡発掘調査報告書
47棟	土坑100基 欄列4条 溝15条 道路跡1条	帯金具(カコ・鉈尾)			掘立柱建物跡は10世紀と考えられている。同時期の竪穴住居は、遺構内では5群に分かれ、それぞれの群に掘立柱建物跡が数棟ずつ配置されている。	「千葉県東金市作畑遺跡発掘調査報告書」1986
52棟	土坑23基	青銅製帯金具(鉈尾)			掘立柱建物跡は、4群4時期に分けられる。掘立柱建物と住居とを比べ、在地豪族(郷(里)長)の住居とそれに伴う家屋と推定している。また「山口館」「山辺大」等の墨書により、山辺郷に属すると考えられる。	「山田水呑遺跡」1977
234棟	土坑多数	帯金具(巡方裏金具、鉈尾、丸軋裏金具) 帯飾(丸軋)			掘立柱建物は住居と分布がほぼ一致し、時期は9世紀代と考えられる。また、住居のカマド方位と掘立柱建物の桁行、梁行方位がほぼ一致しているため、掘立柱建物を主体とした集落の時期があると考えられる。規模は、2間×2間、2間×3間、3間×3間、3間×4間が多いと思われるが、四面廻付建物もあり、寺院の可能性もある。	「小野山田遺跡群Ⅰ-鉢ヶ谷遺跡-」2000
159棟		帯金具(巡方、カコ)	平瓦(凸面正格子叩き目)、平瓦「凸面斜格子叩き目」		台地南側斜面際に掘立柱建物が集中していると考えられる。住居の分布より密集しているが、分布は重なっている。また、住居のカマド方位と掘立柱建物の桁行、梁行方位がほぼ同じであるため、住居から掘立柱建物跡を主体とした集落になったと思われる。	「油井古塚原遺跡群」1995

No.	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
130	No53茂原	上総	山辺	砂田中台遺跡	白里町	砂田520他	台地	約95m	村田川	奈良・平安	8世紀中頃～10世紀前半	郡衙関連集落	135軒
3	No48東金	上総	山辺	金谷野A遺跡	白里町	金谷郷字金谷野3612-60他	台地上	75～83m	北幸谷川	古墳時代後期～奈良・平安	VI～VII期（7世紀後葉～9世紀後半）	郷家関連	29軒
234	No48東金	上総	山辺	道門坊遺跡	東金市	山田字道門坊684番地他	台地上	約79m	北幸谷川	古墳後期～奈良・平安	VI～VII期（7世紀後葉～9世紀後半以降）	郷家関連	20軒
7	No48東金	上総	山辺	一本松遺跡	大網白里町	小西字一本松800、餅ノ木字八幡台546-1他	台地上	約80m	北幸谷川、小野川	古墳後期～奈良・平安時代	VI～VII期（7世紀後葉～10世紀前半）	郷家関連	198軒
8	No48東金	上総	山辺	升形遺跡	大網白里町	小西字升形766他	台地上	79～81m	北幸谷川	古墳後期～奈良・平安時代	VI～VII期（7世紀後葉から）	郷家関連	69軒
東金136 大網白里5	No48東金	上総	山辺	新林（I II III IV）遺跡 北前野遺跡	東金市白里町	山田字新林中台金谷郷北前野3627他	台地	75～79m	北幸谷川、小野川	古墳、奈良・平安	VI～VII期（7世紀後葉～10世紀）	郷家関連寺院?	112軒
11	No48東金	上総	山辺	猪ヶ崎遺跡	大網白里町	小西字猪ヶ崎985番地他	台地	78m	北幸谷川	古墳後期～奈良・平安時代	VI～VII期（7世紀後葉～9世紀後半以降）	郷家関連	147軒
6		上総	山辺	道門坊西遺跡 南前野遺跡	東金市大網白里町	道門坊金谷郷南前野3688-2他	台地	77～81m	北幸谷川、小野川	古墳後期～奈良・平安時代	VI～VII期（7世紀後葉～9世紀後半以降）		139軒
6	No48東金	上総	山辺	南前野遺跡	大網白里町	金谷郷字南前野前3688番地他	台地	77～81m	北幸谷川	古墳後期～奈良・平安時代	VI～VII期（7世紀後葉～9世紀後半以降）	郷家関連	25軒
10	No48東金	上総	山辺	小西平台遺跡	大網白里町	小西字平台904他	台地	78～80m	北幸谷川	古墳後期～奈良・平安時代	VI～VII期（7世紀後葉～9世紀後半以降）	郷家関連	43軒
9	No48東金	上総	山辺	富山遺跡	大網白里町	小西字762番地他	台地	80～82m	北幸谷川	古墳後期～奈良・平安	VI～VII期（7世紀後葉～9世紀後半以降）	郷家関連	37軒
127	No48東金	上総	山辺	南麦台遺跡	大網白里町	萱野字南麦台778他	台地	90～96m	村田川	古墳時代後半～奈良・平安時代	7世紀前葉～10世紀前葉	郡衙関連	146軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名, 発行年)
104棟	土坑74基 溝7条 円形周溝状遺構1 基 鍛冶跡2基	帯金具、萬年通寶、 長年大寶		鍛造剥片、粒状滓、 灰釉浄瓶、灰釉碗、 灰釉皿	調査区南部の小支谷を望む地区に集中している。内訳は1間×1間が3棟、2間×1間が7棟、2間×2間が53棟(総柱3棟)、3間×2間が31棟、3間×3間が4棟(総柱2棟)、四面廂付(5間×4間)1棟、不明5棟である。四面廂付きは掘立柱建物跡の集中地区からやや西に離れている。墨書から山邊郡草野郷と推定され、郷家(衙)の可能性はある。	砂田中台遺跡(奈良平安時代篇)1994
60棟					堅穴住居と掘立柱建物は重なる時期に構築されていたと考えられる。掘立柱建物跡は1間×1間が6棟、2間×1間が9棟、2間×2間が2棟、2間×3間が14棟、3間×3間が9棟、4×2間が1棟である。大規模な建物はない。2間×2間、2間×3間が主体であるが、堅穴住居に比べて掘立柱建物跡が多い。	大網山田台遺跡群Ⅱ1995
5棟		帯金具(丸軋、巡方、鉈尾)		鈴、鍵穴金具板状品	掘立柱建物は2間×2間が2棟、2間×3間が3棟である。調査区中央やや北東寄りに集中している。H007住居跡から金属製品が集中して出土している。帯金具、鈴、鉄器が出土している。	大網山田台遺跡群Ⅱ1995
88棟	土坑、粘土探掘坑	帯金具(巡方、鉈尾)		分銅、銅碗、銅托	堅穴住居は調査区中央及び南部に集中している。掘立柱建物も同様である。掘立柱建物は1間×1間が2棟、2間×1間が3棟、2間×2間が26棟、3間×2間が48棟、3間×3間が3棟、4間×3間が1棟、不明が5棟である。また、3間×2間に四面廂のものが2棟あり、規模的には5間×4間の大きさになる。四面廂掘立柱建物は2棟とも南端部に位置し、寺院関連施設の可能性もある。	大網山田台遺跡群Ⅱ1995
25棟		帯金具(丸軋)	丸瓦、平瓦 (斜格子叩き目)		南北に長い調査区で、堅穴住居はほぼ全体に分布するが、特に北端部と中央部に集中している。掘立柱建物は、2間×2間が7棟、3間×3間が3棟、1間×1間が1棟、不明が1棟である。調査区の中央部及び南部に集中している。	大網山田台遺跡群Ⅱ1995
63棟	ロクロピット (H152内)		平瓦(斜格子叩き目)		奈良、平安の住居は調査区の中央部東側と南部に集中している。掘立柱建物跡も同様である。規模は1間×1間が2棟、2間×1間が7棟、2間×2間が23棟、3間×2間が22棟、3間×3間が1棟、4間×2間が1棟、4間×3間が2棟、7間×2間が1棟である。特に中央部東側には、四面廂の4間×3間を中心に、その前面に4間×2間、7間×2間などが配置され、村落内寺院を形成している。また、四面廂の4間×3間建物は2次期に分かれ、1期は掘立柱式、Ⅱ期は工事業である。	大網山田台遺跡群Ⅲ1996
238棟	道状遺構1箇所 (特殊遺構)土坑 溝状遺構柱穴1 状	帯金具(丸軋、巡方)	平瓦(鉄格子叩き目)		堅穴住居は調査区のはほぼ全域に分布しているが、南側斜面に近い地域に集中する傾向がある。掘立柱建物跡も同様の分布を示す。規模は2間×1間が15棟、2間×2間が68棟、3間×1間が1棟、3間×2間が101棟、3間×3間が32棟、4間×2間が3棟、4間×3間が3棟、4間×4間が1棟である。当該時期の堅穴住居よりも掘立柱建物の数が多いのが特徴である。総柱建物16棟有り、「郷倉」を構成すると考えられる。	大網山田台遺跡群Ⅲ1996
40棟	土坑 溝状遺構	帯金具(巡方)			堅穴住居は調査区の中央から南西部にかけて集中している。掘立柱建物もほぼ同様に分布している。規模は2間×2間が9棟、3間×2間が25棟、3間×3間が1棟、4間×3間が4棟である。	大網山田台遺跡群Ⅳ1997
17棟		帯金具(鉈尾)			堅穴住居跡はⅥ期(7世紀後半から8世紀前半)が大半をしめる。掘立柱建物は調査区中央から南部にかけて分布している。規模は2間×2間が4棟、1間×1間が4棟、3間×2間が9棟である。	大網山田台遺跡群Ⅳ1997
86棟	土坑、溝状遺構	帯金具(裏板、カコ)			堅穴住居は調査区東部に分布し、掘立柱建物跡もほぼ同様に分布する。掘立柱建物の規模は1間×1間が2棟、2間×1間が13棟、2間×2間が25棟、3間×2間が39棟、3間×3間が7棟である。主軸方位が東西及び南北のものが多く、倉庫群を構成する可能性がある。	大網山田台遺跡群Ⅳ1997
4棟	土坑、溝状遺構				堅穴住居は調査区の東部に集中し、掘立柱建物も同様である。掘立柱建物の規模は、2間×1間が1棟、2間×2間が1棟、3間×2間が2棟である。	大網山田台遺跡群Ⅳ1997
149棟					B・D・F区で整然と並んだ掘立柱建物群が検出されている。全体で149棟有り、内訳は1間×1間が4棟、2間×1間が4棟、2間×2間が49棟(総柱4棟)、4間×3間が6棟、5間×3間が1棟、規模不明が1棟ある。	南麦台1994

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
152	No34多古	上総	武射	庄作遺跡	芝山町	小原子字庄作	台地	約42m	高谷川	古墳時代後期～奈良・平安	7世紀後半～10世紀代	郡衙関連	75軒
61	No34多古	上総	武射	谷窪・上乗遺跡	芝山町	小原子字谷窪332	台地	約42m	高谷川	古墳後期～奈良・平安	7世紀前半～10世紀代	郡衙関連	115軒
91	No43成東	上総	武射	栗焼棒遺跡	山武町	矢部字栗焼棒586他	台地	約50m	作田川	古墳後期～奈良・平安	奈良・平安	郡衙関連	13軒
74	No43成東	上総	武射	比良台遺跡	山武町	成東町寺崎字比良台3他	台地	約46m	境川	古墳後期～奈良・平安	9世紀代	郡衙関連遺跡	1軒
成東5 山武 231 松尾 97	No43成東	上総	武射	嶋戸東遺跡	成東町	嶋戸	台地	約49m	境川	古墳後期～奈良・平安	8世紀後半～9世紀後半	郡衙推定地	
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内町163-11ほか	台地	20m	長津川	奈良・平安	奈良・平安	郷内集落	6軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内町2183ほか	台地	20m	長津川	奈良・平安～中世	奈良・平安	郷内集落	4軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	西船3-425-2	台地	20m	長津川	古墳後期～奈良・平安	奈良・平安	郷内集落	108軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内1丁目368番地	台地	16m	長津川	古墳後期～奈良・平安	奈良・平安	郷内集落	8軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	西船3丁目449-3	台地	18m	長津川	古墳後期～奈良・平安	奈良・平安	郷内集落	18軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内2丁目332ほか	台地	19m	長津川	古墳～平安	奈良・平安	郷内集落	4軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内2丁目260	台地	17m	長津川	古墳後期～平安	奈良・平安	郷内集落	2軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内2丁目347-1ほか	台地	19m	長津川	古墳末～平安	奈良・平安	郷内集落	3軒 (9世紀)
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内3丁目108-1ほか	台地	16～18m	長津川	奈良・平安	奈良・平安	郷内集落	59軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内1丁目349-1ほか	台地	18～19m	長津川	古墳後期～平安	奈良・平安	郷内集落	6軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	西船3丁目452-5ほか	台地	18m	長津川	奈良・平安	奈良・平安	郷内集落	17軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内3丁目82-1	台地	17m	長津川	奈良・平安	奈良・平安	郷内集落	17軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	西船4丁目6-10	台地	17～18m	長津川	9世紀	9世紀	郷内集落	2軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内3丁目208-1	台地	18～19m	長津川	平安	平安	郷内集落	2軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
11棟	欄列1条、溝状遺構5条			瓦塔片、人面墨書土器	墨書土器から郡衙関連遺跡と考えられる。掘立柱建物跡は、3間×3間が1棟、3間×2間が2棟、2間×2間が6棟、2間×1間が2棟である。	小原子遺跡群1990
7棟		帯金具(巡方)			墨書から郡衙関連遺跡と考えられる。掘立柱建物跡は3間×2間が3棟、3間×3間(片側2間)1棟、2間×2間の総柱1棟、3間×1間が1棟、2間×1間が1棟である。	小原子遺跡群1990
3棟	土坑3基 溝5条				1間×6間及び10間以上×3間(一部調査区外)の2棟大型掘立柱建物跡が検出され、直線的な2条の溝(2溝・5溝)とともに郡衙関連遺跡と推定されている。他に3間×2間が1棟ある。	千葉東金道路(二期)埋蔵文化財調査報告書1-山武町栗焼棒遺跡1998
18棟		滑石製巡方	平瓦(凸面正格子叩き目)		掘立柱建物跡は2間×2間が3棟(内総柱2棟)、3間×2間が1棟、3間×3間が2棟、4間×3間が2棟で集中して検出されている。	『千葉県成東町比良台遺跡群比良台・八坂台・真赤土遺跡』1992
		第6表参照		第6表参照	第一地点の調査千葉県埋蔵文化財分布地図及び文献は印内遺跡と表記	小金線小金線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1973
			第二地点の調査千葉県埋蔵文化財分布地図及び文献では印内遺跡と表記		小金線小金線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1973	
10棟	溝(東西方向に走り、貝層及び馬骨が出土)、土坑墓				第1調査掘立柱は2×3が5、2×2が1、不明が1である。	印内台古墳、奈良・平安時代の集落址、墓址の発掘調査概要1980
	土坑3基				第4次調査	印内台遺跡-第4次調査報告書1991
	土坑墓、火葬墓(中世を含む)、溝(東西方向に走る)、土坑(馬骨有)製鉄関連住居跡				第7調査	印内台遺跡-第7次・8次調査報告書1990
2棟	製鉄関連住居跡				第8次調査	印内台遺跡-第7次・8次調査報告書1990 印内台第8次船橋市内遺跡群発掘調査報告書1998
	土坑1基、ピット10基、溝2条				第15次調査(確認・本調査)2条の溝はほぼ東西方向に平行して延びており、両側溝をもつ道路の可能性が考えられる。	印内台遺跡第15次(確認・本調査)平成4年度船橋市遺跡発掘調査報告書1993
10棟(7世紀末~8世紀初頭)	土坑2基、溝1条				第19次調査掘立柱建物は総柱建物4で、3×2が1、3×4が1、2×2が2、2×1が2で、その他は不明である。7世紀末の竪穴住居は鍛冶関連の工房跡と考えられ、5~6回の拡張が行われている。また、金鍍金の耳環が1点出土している。	印内台遺跡群(19)平成8年度船橋市内遺跡報告書1997印内台遺跡(19)1997
2棟	土坑12基、溝1条、ピット16基				第20次調査(確認調査)古墳時代後期の竪穴住居は発見されていない。	印内台遺跡群(20)平成8年度船橋市遺跡発掘調査報告書1997
	土坑29基、ピット5基				第21次調査(確認調査)	印内台遺跡群(20)平成8年度船橋市遺跡発掘調査報告書1997
	土坑29基、ピット5基				第22-2次調査隣接する第22次調査区では確認調査の結果、当該時期の遺構・遺物は検出されていない。	印内台遺跡群(22)埋蔵文化財センター調査報告書第11集1998印内台遺跡群(22-2)平成9年度船橋市遺跡発掘調査報告書1998
2棟					第24次調査掘立柱建物はすべて欄柱建物で、規模は不明である。竪穴住居跡は8世紀が9軒、9世紀以降が8軒である。古代から中世の溝はほぼ東西に延びて降り、硬化面があることから道として機能していたと考えられる。	印内台遺跡群(24)平成9年度市内遺跡発掘調査報告書1998印内台遺跡群(24)埋蔵文化財センター調査報告書第8集1999
					第23次調査確認調査で終了し、遺構の密度は非常に希薄である。	印内台遺跡群(23)平成9年度船橋市遺跡発掘調査報告書1998
	土坑1基ピット6基				第25次調査確認調査で終了	印内台遺跡群(25)平成10年度船橋市内遺跡発掘調査報告書1999

No	地区	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	西船6丁目50-1ほか	台地	19m	大柏川	古墳末～奈良平安	8c後～9c末	官衛関連	13軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	西船6-130-1ほか	台地	18m	大柏川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	15軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目37-1ほか	台地	19m	大柏川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	4軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目24-1ほか	台地	19m	大柏川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目227-1ほか	台地	19m	大柏川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	13軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目33ほか	台地	19m	大柏川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	9軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	西船6丁目27	台地	20m	大柏川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	3軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	西船6丁目16ほか	台地	20m	大柏川	古墳後期～奈良平安	8c前～9c前	官衛関連	20軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	西船7丁目104-1ほか	台地	20m	大柏川	奈良・平安	8c～9c	官衛関連	4軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目158番地1ほか	台地	17～18m	大柏川	奈良	奈良	官衛関連	1軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目160-1ほか	台地	17～18m	大柏川	中世			
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目166-1ほか	台地	15～17m	大柏川	古墳後期～奈良	奈良	官衛関連	3軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	西船7丁目100-1ほか	台地	20m	大柏川	奈良・平安～中世	奈良・平安	官衛関連	14軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目35ほか	台地	19～20m	大柏川	奈良・平安～中世	奈良・平安	官衛関連	8軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	西船5丁目85ほか	台地	18m	大柏川	古墳後期～平安	奈良・平安	官衛関連	17軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	西船6丁目73番地の1ほか	台地	18m	大柏川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	10軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目55ほか	台地	17m	大柏川	中世		官衛関連	

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
15棟	溝2条、両側溝をもつ道路跡1条、奈良時代の木棺墓1基、土坑墓4基、火葬墓3基、馬埋葬土坑1基	第6表参照		第6表参照	本郷台遺跡第1次調査千葉県埋蔵文化財分布地図及び文献では本郷台遺跡と表記奈良時代の掘立柱建物の集中及び両側溝を持つ道路跡、火葬墓等が存在することなどから、一般集落とは異なり、官衙に関連する集落と考えられる。掘立柱建物は2×3が6、2×2が2、2×4が1、3×3が1、総柱建物の2×3が1で、その他は不明である。	本郷台奈良・平安時代を中心とした集落址の調査1979千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報1979
2棟	小堅穴4基、溝3条				本郷台遺跡第2次調査掘立柱建物は2×2が2溝の内2条は平行して延びていること、第1次調査で検出した両側溝をもつ道路状遺構と方向が近いことから、同じ遺構となるものと考えられる。	本郷台Ⅱ奈良・平安時代を中心とした集落址の調査1983
	火葬墓、溝				東中山台遺跡第1次調査(確認調査)本調査は本郷台第4次として実施。	東中山台遺跡(第1・2・3次調査)平成3年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1992
	貝塚(但し、攪乱のため破砕貝のみ検出)				東中山台遺跡第2次調査(確認調査)全域にわたって攪乱を受けていたことから当該時期の明確な器高は検出されなかった。	東中山台遺跡(第1・2・3次調査)平成3年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1992
	溝1条、土坑6基				東中山第3次調査(確認調査)本調査は本郷台第5次として実施。	東中山台遺跡(第1・2・3次調査)平成3年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1992
	土坑9基				東中山台遺跡第4次調査(確認調査)	東中山台遺跡群第4次平成4年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1993
	道路跡1条				東中山台遺跡第5次調査(確認調査)本調査は本郷台遺跡第6次として実施。道路跡は、8世紀中葉以降中世まで機能していたと考えられる。	東中山台遺跡群第5次平成6年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1995本郷台遺跡第6次発掘調査報告書1996
4棟	ビット205基、溝3条、土坑34基、側溝をもつ道路跡1条、鍛冶工房1基、井戸1基、欄列3条、小堅穴12基、土坑墓2基				東中山台遺跡第6次調査(確認調査)本調査は、本郷台遺跡第7次として実施。2×3の四面庇の掘立柱建物は9世紀代で、村落内寺院の可能性が考えられる。SB04とSB03は拝殿と本殿になる可能性が考えられる。その他の掘立柱建物は9世紀代で3×2である。堅穴住居跡は7世紀後半から8世紀中葉が主体で、9世紀代は1軒である。欄列は1×6以上の物が1条ある。鍛冶工房は9世紀代で、四角庇の掘立柱建物に鉄製品を供給していたものと考えられる。	東中山台遺跡群第6次平成6年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1995本郷台遺跡第7次発掘調査報告書2000
	溝2条、道路跡				東中山台遺跡第7次調査(確認調査)道路跡はほぼ南北に延びている。	東中山台遺跡群第7次平成6年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1995
					東中山台遺跡群第8次調査(確認調査)本調査は平成7年度実施分を東中山台遺跡群第8次として、平成8年度実施分を東中山台遺跡群第9次として実施。遺跡の西側端部に位置し、中世の台地整形区画を主体とする地域となっている。	東中山台遺跡群(8)平成7年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1996東中山台遺跡群(8・9)埋蔵文化財センター調査報告書第3集
					東中山台遺跡群第10-2次調査第8・9次調査区に隣接し、中世の台地整形区画を中心とした地域と考えられる。	東中山台遺跡群(10-2)平成9年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1998
4棟					東中山台遺跡群第10次調査(確認・本調査)	東中山台遺跡群(10)千葉県文化財発掘調査抄報平成9年度1999
	道路跡7条、土坑3基				東中山台遺跡群第11次調査(確認・本調査)寺院跡と考えられる四角庇の掘立柱建物が検出された。本郷台遺跡第7次調査他(本調査)の北側に位置する。	東中山台遺跡群(11)平成9年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1998東中山台遺跡群(11)埋蔵文化財センター調査報告書第13集2000
22棟	土坑19基、堅穴条遺構1基				東中山台遺跡第12次調査(確認・本調査)掘立柱建物は2×2が6、3×2が7、3×3が1で、不明は8である。掘立柱建物及び堅穴住居跡は8世紀後半が中心となり、軸方向が同一である。	東中山台遺跡群(12)平成9年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1998東中山台遺跡群(12)平成10年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1999東中山台遺跡群(12)埋蔵文化財センター調査報告書第14集2000
					東中山台遺跡群第13次調査(確認・本調査)	東中山台遺跡群(13)千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報平成9年度1999
	土坑4基		東中山台遺跡群第14次調査(確認・本調査)堅穴住居跡は奈良時代4軒、平安時代6軒である。	船橋市中山台遺跡群第14次調査地点県耐震橋梁緊急架換事業埋蔵文化財調査報告書財団法人千葉県文化財センター調査報告書第377集2000		
			東中山台遺跡群第15次調査(確認調査)東中山台遺跡群第8～10次調査の隣接他中世の溝のみ検出。	東中山台遺跡群(15)平成12年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書2000		

No.	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・居住居跡
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台2丁目1番1の一部	台地	21m	江戸川	古墳後期～平安	8c初～9c初	国府関連	5軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	真間5-95-21ほか	台地	20m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	国府関連	2軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	真間5-91-1.5.8	台地	20m	江戸川			国府関連	
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台5丁目371番14	台地	24m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	国府関連	1軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台1丁目277番17	台地	24m	江戸川			国府関連	
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台5丁目374番2	台地	24m	江戸川	奈良・平安	8c後半～9c初頭	国府関連	1軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	市川市国府台5丁目376番11	台地	24m	江戸川	平安	9c以降	国府関連	2軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	真間4丁目360番1の一部	台地	21m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	国府関連	2軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台1丁目2番2の一部	台地	23m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	国府関連	14軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台5丁目447番27	台地	22m	江戸川			国府関連	
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台5丁目371番14	台地	23m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	国府関連	4軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台2-3-1	台地	21m	江戸川	奈良・平安～中世	奈良・平安	国府関連	14軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台2-3-1	台地	21m	江戸川	奈良・平安～中世	奈良・平安	国府関連	40軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台2-3-1	台地	21m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	国府関連	7軒
44	No.30船橋	下総	葛飾郡	下総総社跡遺跡	市川市	国府台1-2-26	台地	22m	国分川	奈良・平安	奈良・平安	国府関連	12軒
54	No.30船橋	下総	葛飾郡	須和田遺跡	市川市	真間5丁目47-20	台地	12m	国分川	古墳後期～平安	8c末～9c初	国府関連	
54	No.30船橋	下総	葛飾郡	須和田遺跡	市川市	須和田2丁目399番6	台地	12m	国分川	古墳後期		国府関連	
54	No.30船橋	下総	葛飾郡	須和田遺跡	市川市	須和田2丁目401-4	台地	10m	国分川	古墳後期～平安	8c後半	国府関連	
54	No.30船橋	下総	葛飾郡	須和田遺跡	市川市	須和田2丁目401-6	台地	11m	国分川	古墳後期～奈良	8c後半	国府関連	1軒
54	No.30船橋	下総	葛飾郡	須和田遺跡	市川市	須和田2丁目399-7	台地	12m	国分川	古墳後期～平安	9c末～10c前半	国府関連	1軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衛関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)	
	道路状遺構 1 条	第 6 表参照		第 6 表参照	国府台遺跡台 1 地点の調査道路遺構はほぼ東西に延び、上端幅3.4～3.6mで、底面に長楕円形の掘り込みがある。7世紀末から8世紀初頭に比定される湖西産の須恵器杯類及び帯金具が出土していることから、下総国府との関連が考えられる。	国府台遺跡平成2年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告1991	
1 棟					国府台遺跡第 8 地点の調査掘立柱建物は桁行11m、梁行7.5～8m程の布掘りである。倉庫の可能性が指摘され、第 3 地点で確認されている 2 棟の掘立柱建物と軸線の傾きが類似することから、国府における 1 つの官衛ブロックを形成している可能性がある。	国府台遺跡第 8 地点平成7年度市川市埋蔵文化財発掘報告1996	
					国府台遺跡第 9 地点の確認調査すでに削平されているため、当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	国府台遺跡第 9 地点平成7年度市川市埋蔵文化財調査報告1996	
1 棟			女瓦		国府台遺跡第38地点の確認調査	国府台遺跡平成10年度市川市内遺跡発掘調査報告1999	
					国府台遺跡第39地点の確認調査盛土により平坦地となっており、当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	国府台遺跡平成10年度市川市内遺跡発掘調査報告1999	
					国府台遺跡第44地点の確認調査	国府台遺跡平成10年度市川市内遺跡発掘調査報告1999	
					国府台遺跡第45地点の確認調査	国府台遺跡平成10年度市川市内遺跡発掘調査報告1999	
					国府台遺跡第 3 地点 - 4 の確認調査	国府台遺跡平成10年度市川市内遺跡発掘調査報告1999	
1 棟					国府台遺跡第13地点 - 3 の確認調査	国府台遺跡平成10年度市川市内遺跡発掘調査報告1999	
					国府台遺跡第48地点の確認調査当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	国府台遺跡平成11年度市川市内遺跡発掘調査報告2000	
					国府台遺跡第46地点の確認調査	国府台遺跡平成11年度市川市内遺跡発掘調査報告2000	
2 棟	両側溝を持つ道路跡 1 条、溝 5 条、土坑 6 基、鍛冶工房 1 軒				宝相華文の軒平瓦	和洋学園国府台キャンパス第1次調査土坑(SK7)は2.23×1.8×0.5mの大きさで、多量の坏類及びニホンジカの骨などが出土しており、律令祭祀に関連するものと考えられる。両側溝をもつ道路跡はほぼ南北に延びている。	下総国府Ⅰ和洋学園国府台キャンパス内遺跡第 1 次調査概報1997
9 棟	溝11条、土坑48基、鍛冶工房 4 軒、柱列 1 条、井戸跡 1 基					和洋学園国府台キャンパス第2次調査SD1・7の溝と両側溝をもつ溝(SD3)は第1次調査で検出したものの延長と考えられる。土坑(SK103)は直径2.1m、深さ1.5mで、100点以上の獣骨(ウマ、イヌ、ニホンジカ)と土師器・須恵器坏類が出土しており、律令祭祀に関連するものと考えられる。	下総国府Ⅱ和洋学園国府台キャンパス内遺跡第 2 次調査概報1998
	溝 6 条、土坑14基、鍛冶工房 1 軒、両側溝をもつ道路跡 1 条			和洋学園国府台キャンパス第 3 次調査堅穴住居跡及び土坑は10世紀から11世紀前半である。両側溝をもつ道路跡(SF2)や溝(SD26・27)は第 1・2 次調査で検出したものと北西側で交わるものと考えられる。	下総国府Ⅲ和洋学園国府台キャンパス内遺跡第 3 次調査概要1999		
	溝 5 条			須和田遺跡下総総社跡地点の調査(市営総合運動場遺跡の西隣)須恵器高台付坏・蓋・高台盤の出土量は群を抜き、国府の器種構成を端的に表している。大小さまざまな甕が多量にみられ、上記の食器を含めて、付近に国府施設あるいは醸造に関わる施設があったと想定し得る器種構成といえる。	下総総社跡発掘調査報告市川市出土遺物の分析 - 古代の鉄・土器について - 平成7年度市川市埋蔵文化財調査・研究報告1993		
	井戸状遺構 1 基			須和田遺跡第 4 地点の調査大形の土坑の中から須恵器及び土師器が意図的に破砕された状態で出土し、また、馬の骨も出土している。この土坑は、第 6 地点の土坑や市営総合運動場内遺跡第4次26号遺構と同じ性格を持つもので、下総国府に関連した律令祭祀的な意義を持つものと考えられる。	須和田遺跡昭和63年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告1989		
				須和田遺跡第 5 地点の調査当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	須和田遺跡昭和63年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告1989		
	土坑 1 基 (井戸状遺構)		宇瓦 1 (内区均製唐草文、外区線画文)	須和田遺跡第 6 地点の調査下総国府推定地の東約500mの地点で、大形の土坑の中から犬、馬、牛の骨、貝殻と伴に多量の須恵器及び土師器の坏、蓋、高台等が出土している。この土坑は律令祭祀に関連するものと考えられる。土坑内からは「石京」と墨書された須恵器蓋等が出土していることから、下総国府の関連する地区に含まれると考えられる。	須和田遺跡平成3年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告1992		
				須和田遺跡第 7 地点の調査	須和田遺跡昭和63年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告1989		
				須和田遺跡第 9 地点の調査円面硯が出土していることから、下総国府に関連する地区に含まれると考えられる。	須和田遺跡昭和63年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告1989		

No.	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・竪穴住居跡
54	Na30船橋	下総	葛飾郡	須和田遺跡	市川市	須和田2丁目400番22	台地	10m	国分川	古墳後期		国府関連	
54	Na30船橋	下総	葛飾郡	須和田遺跡	市川市	須和田2丁目401-1	台地	10m	国分川	古墳後期～平安	8c前半～9c前半	国府関連	3軒
44	Na30船橋	下総	葛飾郡	下総総社跡遺跡	市川市	国府台1-2-26	台地	22m	国分川	奈良・平安	奈良・平安	国府関連	12軒
5	Na22松戸	下総	葛飾郡	新山遺跡	市川	国府台6丁目2423-7	台地	24m	国分川	8世紀中葉以降	奈良	官遺跡	
188	Na22松戸	下総	葛飾郡	下矢切東台遺跡	松戸市	三矢小台1-6-5ほか	台地	25m	江戸川	奈良～中近世	奈良	官道跡	
121	Na22松戸	下総	葛飾郡	坂花遺跡	松戸市	紙敷坂坂花、関台	台地	20m	国分川	8世紀後半	8世紀後半	官衛関連	
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野188番地	台地	27m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	8軒
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野140-36ほか	台地	27m	江戸川	奈良・平安	8c末～9c前	官衛関連	1軒
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野173	台地	27m	江戸川	平安	平安	官衛関連	3軒
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台	台地	27m	江戸川			官衛関連	
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台	台地	27m	江戸川			官衛関連	
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台	台地	27m	江戸川			官衛関連	
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野	台地	27m	江戸川	平安	平安	官衛関連	1軒
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野140-10	台地	27m	江戸川			官衛関連	
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野199-1	台地	27m	江戸川			官衛関連	
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野181-7	台地	27m	江戸川			官衛関連	
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野146-2	台地	27m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	3軒
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野136-4ほか	台地	27m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	3軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名, 発行年)
		第6表参照	布目瓦3	第6表参照	須和田遺跡第10地点の調査当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	須和田遺跡昭和63年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告1989
					須和田遺跡第21地点の調査堅穴住居跡の時期は、8世紀前から9世紀前半で、8世紀前半の堅穴住居跡から面内硯が出土している。下総国府に関連する地区に含まれると考えられる。	須和田遺跡平成4年度市川市内遺跡発掘調査報告1993
	溝5条				須和田遺跡下総総社跡地点の調査(市営総合運動場遺跡の西隣)須恵器高台付坏・蓋・高台盤の出土量は群を抜き、国府の器種構成を端的に表している。大小さまざまな甕が多量にみられ、上記の食膳具を含めて、付近に国府施設あるいは醸造に関わる施設があったと想定し得る器種構成といえる。	下総総社跡発掘調査報告市川市出土遺物の分析-古代の鉄・土器について-平成7年度市川市埋蔵文化財調査・研究報告1993
	道路跡1条				南北に直線的に作られた、幅4.6-6.6m、深さ1mの道路跡であり、南1.5kmの地点に下総国府推定地が存在する。	市川市新山遺跡北総開発鉄道埋蔵文化財調査報告書Ⅱ千葉県文化財センター調査報告第173集1990
	道路跡2条				南北に直線的に作られた両側溝を持つ道路跡であり、新山遺跡の道路跡の延長線上に位置する。	千葉県文化財センター年報24平成10年度1999
					「國厨」の墨書のある高坏を蓋とし、武蔵型の甕を身とした蔵骨器が出土しているが、遺構は不明である。「國厨」の墨書から、下総国府に関連するものと考えられる。昭和61年度の確認調査では当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	松戸市関台地区遺跡群確認調査報告書-関台遺跡-坂花遺跡-松戸市文化財調査抄報18 1987「厨」銘墨書土器考-松戸市坂花遺跡出土例をめぐって1994
3棟					小野遺跡第1地点の調査掘立柱建物の規模は、2×2が1棟(総柱建物)、3×3が2棟。堅穴住居内からカタイ等が出土しており、下総国府に関連することから、周辺に「村落内寺院」の存在が想定される。「石世」は「いわせ」と読むことが可能であり、遺跡が旧「岩瀬村」にあることから、地名を表すものと考えられる。	松戸市博物館紀要第1号小野遺跡第1地点出土遺跡について1993小野遺跡平成4年度松戸市内遺跡発掘調査概報1993小野-小野遺跡第1地点発掘調査報告1999
					小野遺跡第2地点の調査(確認・本調査)	小野遺跡第2地点の調査平成5年度市内遺跡発掘調査概報松戸市文化財調査報告第20集1994
	土坑3基、溝1条				小野遺跡第3地点の調査(確認調査)	小野遺跡第3地点の調査平成5年度市内遺跡発掘調査概報松戸市文化財調査報告第20集1994
					小野遺跡第5地点の調査(確認調査)攪乱のため当該時期の遺構・遺跡は検出できなかった。	小野遺跡第5地点の調査平成6年度市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第21集1995
		小野遺跡第6地点の調査(確認調査)攪乱のため当該時期の遺構・遺跡は検出できなかった。	小野遺跡第6地点の調査平成6年度市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第21集1995			
		小野遺跡第7地点の調査(確認調査)当該時期の遺構・遺跡は検出できなかった。	小野遺跡第7地点の調査平成6年度市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第21集1995			
		小野遺跡第4地点の調査	小野遺跡第4・8地点の調査報告松戸市文化財調査報告第24集1996			
		小野遺跡第8地点の調査(確認調査)当該時期の遺構・遺跡は検出できなかった。	小野遺跡第4・8地点の調査報告松戸市文化財調査報告第24集1996			
		小野遺跡第9地点の調査(確認調査)当該時期の遺構・遺跡は検出できなかった。	小野遺跡の調査(第9地点)平成7年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第25集1997			
		小野遺跡第10地点の調査(確認調査)当該時期の遺構・遺跡は検出できなかった。	小野遺跡の調査(第10地点)平成7年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第25集1997			
		小野遺跡第11地点の調査(確認調査)	小野遺跡の調査(第11-13地点)平成8年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第28集1998			
		小野遺跡第12地点の調査	小野遺跡の調査(第11-13地点)平成8年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第28集1998 小野遺跡第12地点発掘報告書松戸市文化財調査報告書29集1998			

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・竪穴住居跡
170	No22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野140	台地	27m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	
170	No22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野174-1ほか	台地	27m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	1軒
170	No22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野198-1	台地	27m	江戸川	平安	平安	官衛関連	
170	No22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野149-2ほか	台地	28m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	軒数不明
170	No22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野198-4	台地	28m	江戸川			官衛関連	
186	No14流山	下総	葛飾郡	町畑遺跡	流山市	加字町畑945ほか	台地	22m	江戸川	古墳後期～平安	奈良・平安	駅家関連	81軒
186	No14流山	下総	葛飾郡	町畑遺跡	流山市	加字町畑923-4ほか	台地	14～16m	江戸川			駅家関連	
186	No14流山	下総	葛飾郡	町畑遺跡	流山市	加字町畑905ほか	台地	20～22m	江戸川	古墳後期～平安	奈良・平安	駅家関連	3軒
186	No14流山	下総	葛飾郡	町畑遺跡	流山市	加字町畑607-1ほか	台地	21～23m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	駅家関連	1軒
186	No14流山	下総	葛飾郡	町畑遺跡	流山市	加字町畑683-2ほか	台地	22m	江戸川			駅家関連	
186	No14流山	下総	葛飾郡	町畑遺跡	流山市	加字町畑756ほか	台地	17～19m	江戸川	古墳後期～平安	奈良・平安	駅家関連	17軒
186	No14流山	下総	葛飾郡	町畑遺跡	流山市	加字町畑715ほか	台地	17～21m	江戸川	古墳後期～中世	奈良・平安	駅家関連	19軒
186	No14流山	下総	葛飾郡	町畑遺跡	流山市	加字町畑934ほか	台地	18～19m	江戸川	古墳後期～平安	奈良・平安	駅家関連	5軒
80	No22松戸	下総	葛飾郡	双賀辺田No.1遺跡	鎌ヶ谷市	中沢1027番地	台地	26m	台地川	奈良・平安	8c末～9c中葉	官衛関連	17軒
379	No32佐倉	下総	印旛郡	向原向原A・B・C地区遺跡	佐倉市	寺崎向原2498ほか	台地	30m	鹿島川	奈良・平安	奈良・平安	郡衛関連(郷家)	88軒
350	No33酒々井	下総	印旛郡	高岡大山遺跡	佐倉市	上代字大山110ほか	台地	30～34m	高崎川	古墳後期～奈良・平安	奈良・平安	郡家	416軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
1棟		第6表参照		第6表参照	小野遺跡第13地点の調査掘立柱建物は2以上×2以上の総柱建物になるものと考えられる。	小野遺跡の調査(第11～13地点)平成8年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第28集1998
					小野遺跡第14地点の調査(確認調査)	小野遺跡の調査(第14・15地点の調査)平成10年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第31集2000
	土坑2基				小野遺跡第15地点の調査	小野遺跡(第14・15地点の調査)平成10年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第31集2000
	土坑				小野遺跡第16地点の調査(確認調査)	小野遺跡平成11年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第32集2001
					小野遺跡第16地点の調査(確認調査)	小野遺跡平成11年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第32集2001
16棟			布目瓦		町畑遺跡A地点の調査加遺跡群から堅穴住居跡は、138軒検出され、8世紀第1が2軒、同第3が15軒、同第4～9世紀第1が22軒、同第2が14軒、同第3が15軒、同第4が12軒等となっており、8世紀後半から9世紀前半に本遺跡の台地全体にみられるようになる。掘立柱建物は17棟あるが、A地点に集中し、1棟のみF地点にある。掘立柱建物は、建て替えがあるが、すべて主軸をほぼ一にしている。3×5の総柱建物は、重複関係にある2×3の掘り方の大きい柱穴と組合わさって側柱をもつ総柱建物になる可能性がある。流山市域では、加遺跡群の他に北側に隣接する三輪野山遺跡群に奈良・平安時代の集落が見られ、当該時期における中心的な地域と考えられることから、本遺跡の掘立柱建物群は、「西津駅家」に関連する遺構の可能性が考えられる。	町畑遺跡A地点 加地区遺跡群Ⅱ 流山市埋蔵文化財報告Vol.14 1991 加地区遺跡群Ⅲ 流山市埋蔵文化財調査報告Vol.19 1994 加地区遺跡群Ⅳ 流山市埋蔵文化財調査報告Vol.29 2000
					町畑遺跡B地点の調査すでにローム層まで削平されており、当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	町畑遺跡B地点 加地区遺跡群Ⅱ 流山市埋蔵文化財報告Vol.14 1991
					町畑遺跡C地点の調査	町畑遺跡C地点 加地区遺跡群Ⅱ 流山市埋蔵文化財報告Vol.14 1991
					町畑遺跡D地点の調査	町畑遺跡D地点 加地区遺跡群Ⅱ 流山市埋蔵文化財報告Vol.14 1991
					町畑遺跡E地点の調査当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	町畑遺跡E地点 加地区遺跡群Ⅱ 流山市埋蔵文化財報告Vol.14 1991
1棟			布目平瓦		町畑遺跡F地点の調査堅穴住居跡のうち小鍛冶関連遺構を伴うものが1軒ある。掘立柱建物跡は2×4で、梁行方向がほぼ南北にあってはいる。	町畑遺跡F地点 加地区遺跡群Ⅳ 流山市埋蔵文化財報告Vol.29 2000
			布目平瓦		町畑遺跡G地点の調査	町畑遺跡G地点 加地区遺跡群Ⅳ 流山市埋蔵文化財報告Vol.29 2000
					町畑遺跡H地点の調査	町畑遺跡H地点 加地区遺跡群Ⅳ 流山市埋蔵文化財報告Vol.29 2000
14棟			布目瓦		掘立柱建物は2×2が8、3×3が4、3×2が1、不明1で、すべて軸が方位に合っている。掘り方は方形のものが多い。	千葉県鎌ヶ谷市双賀辺田No.1遺跡発掘調査報告書 鎌ヶ谷市埋蔵文化財調査報告第3集1998
121棟	土坑76基、欄列1条				堅穴住居跡の数量より掘立柱建物が多く、2地区に分けられる掘立柱建物群の主軸方向は、それぞれ一定の規則性が認められる。掘立柱建物は、3×2、2×2が82%で、総柱3棟、庇付きが13棟である。建物等において、特に官衛的な様相がみられないことから、郡衛の補完的な集落と考えられる。1×1が1、2×1が5、2×2が39、3×2が61、4×2が6、5×2が1、3×3が4、4×3が3、不明1である。	寺崎遺跡群調査報告書向原、土城掘、一本松遺跡1987
223棟	土坑200基以上断面が掘り鉢状の大形の土坑1基				3×2の側柱、2×2の総柱、1×1～5×5の紙面庇付き建物及び倉庫部と考えられる2×2の総柱の掘立柱建物が2棟認められる。堅穴住居跡と掘立柱建物は、それぞれ集中する地区が分かれており、掘立柱建物の配列状況及び出土遺物等や官衛に伴う祭祀に関連すると考えられる大形の土坑が存在することなどから郷家に関連する施設と考えられる。	高岡遺跡群1993

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構暨穴住居跡
272	No25成田	下総	印旛	大袋腰巻遺跡	成田市	大袋腰巻44他	台地上	35~40m	江川	8世紀前葉~9世紀中葉	8世紀前葉~9世紀中葉	郡衙関連集落	238軒
154	No25成田	下総	印旛	飯仲金堀遺跡	成田市	飯仲金堀449-1他	台地上	27~35m	江川	8世紀後半	8世紀後半	郡衙関連集落	12軒
362	No25成田	下総	印旛	宗吾西鷲山遺跡	成田市	宗吾3丁目	台地上	35m	江川	8世紀第1四半世紀~10世紀前半	8世紀第1四半世紀~10世紀前半	郡衙関連集落	95軒
71	No33酒々井	下総	印旛	本佐倉北押し出遺跡	酒々井町	本佐倉字鬼押出	台地上	34m	高崎川	奈良・平安時代~中世	8世紀前半~10世紀後半	郡衙関連集落	24軒
70	No33酒々井	下総	印旛	本佐倉外宿遺跡	酒々井町	上本佐倉字外宿	台地上	35m	高崎川	8世紀第Ⅲ四半世紀~9世紀第Ⅱ四半期	8世紀第Ⅲ四半世紀~9世紀第Ⅱ四半期	郡衙関連集落	20軒
22	No33酒々井	下総	印旛	伊藤白幡遺跡	酒々井町	伊藤字白幡	台地上	32m	印旛沼	古墳時代後期~奈良・平安時代	8世紀初~10世紀前半	郡衙関連集落	52軒
37	No34多古	下総	匝瑳	林遺跡	多古町	大字林榎台1106他	台地上	40m	栗山川	奈良・平安時代	8世紀中葉~10世紀	郡衙関連集落	89軒
259	No34多古	下総	匝瑳	吹入台遺跡	多古町	水戸字吹入台1445他	台地	約40m	多古橋川	奈良・平安時代	8世紀第1四半期~10世紀第四半期	郡衙関連集落	19軒
120	No34多古	下総	匝瑳	中内原遺跡	多古町	南中字中内2950他	台地上	35m	栗山川	古墳・歴史	8世紀後半~9世紀後半	郡衙関連集落	36軒
80	No35八日市場	下総	匝瑳	柳台遺跡	八日市場市	飯塚字柳台1724他	台地上	40m	借当川	8世紀前葉~10世紀代	8世紀前葉~10世紀代	郡衙関連集落	213軒(Ⅱは204)
232	No35八日市場	下総	匝瑳	鈴歌遺跡	八日市場市	飯倉字鈴歌	台地上	約39m	(栗山川)	7世紀後葉~9世紀前葉	8世紀~9世紀前葉	官衙関連	31軒
225	No35八日市場	下総	匝瑳	生尾遺跡	八日市場市	生尾字妙見前406	台地上	約40m	借当川	7世紀中葉~11世紀後半	8世紀初~9世紀第3四半期	官衙関連	25軒
247	No35八日市場	下総	匝瑳	平木遺跡	八日市場市	市場市平木字大六天他	低地(砂州上)	約6m		古墳時代後期~奈良・平安	8世紀第2四半期~9世紀後半	郡衙関連遺跡	6軒
47	No34多古 No43成東	下総	匝瑳	芝崎遺跡	光町	芝崎字海老崎	低地		栗山川	古墳時代後期~奈良・平安時代	奈良・平安時代	郡衙関連	

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)	
134棟	井戸跡3基、溝1 条、ピット群43基	第 6 表 参 照		第 6 表 参 照	掘立柱建物跡は4か所のまとまりが見られる。堅穴住居の分布と較べてよりまとまりがあり、全体で、郡衙関連集落（郷家？）を構成すると考えられる。掘立柱建物跡の内訳は、4間×4間が2棟、3間×5間が6棟、3間×4間が7棟、3間×3間が8棟、2間×4間が2棟、2間×3間が35棟、2間×2間が41棟、1間×3間が1棟、1間×2間が17棟、1間×1間が14棟、不明が1棟である。	「千葉県成田市公津東遺跡群Ⅲ－大袋腰巻遺跡－」1998	
16棟	土坑12基				舌状台地上に3間×5間を最大とする掘立柱建物跡が南北に並んで検出された。出土建物から寺院関連跡の可能性が大きい。郡衙関連集落の可能性もある。	「飯仲金堀遺跡」〔千葉県成田市公津東遺跡群Ⅰ－成田市公津東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書－〕1994	
18棟					掘立柱建物跡は遺跡の南部に集中する。重複関係から8世紀第2四半世紀から形成され、堅穴住居跡とともに集落を構成したと考えられる。周辺の集落遺跡（公津東遺跡群）とともに郡衙関連集落と考えられる。	「千葉県成田市宗吾西鷲山遺跡発掘調査報告書」	
17棟					約40m×80mの範囲内で掘立柱建物跡が「コ」字状に配置される。内訳は、5間×3間が2棟、3間×3間が3棟、4間×2間が3棟、3間×2間が5棟、4間×1間が1棟、2間×2間が2棟、3間×1間が1棟である。	「酒々井町北押出し遺跡調査報告書」1984	
2棟	土坑3基				北押出し遺跡の東に隣接する遺跡である。堅穴住居跡の時期がほぼ同じなので、同一集落跡と考えられる。	「千葉県酒々井町本佐倉外宿遺跡」1996	
30棟					堅穴住居跡に伴い、掘立柱建物跡が数多く検出されている。とくに、A地点では、建物跡は小規模であるが、全体として、コ字状に配置されると考えられる。A地点では23棟、B地点では6棟、C地点では1棟である。A地点は、4間×3間が3棟、4間×2間が1棟、3間×3間が1棟、3間×2間が5棟、2間×2間が6棟、1間×1間が1棟、不明が2棟である。B地点は、3間×2間が2棟、2間×2間が2棟、不明が2棟である。C地点は、1間×1間が1棟である。	「酒々井町伊籬白幡遺跡」1986	
23棟					掘立柱建物跡は踏台地区と長井戸地区に集中している。特に長井戸地区では東西方向に並んで検出されている。内訳は1間×1間が5棟、1間×2間が5棟、2間×2間が2棟、2間×3間が7棟、3間×3間が1棟、3間×4間が2棟、2間×4間が1棟である。	「林遺跡」1985	
23棟					掘立柱建物跡が集中して検出され、大きく2類に分かれている。A類は6棟で、4間×2間が2棟、3間×2間が4棟、2間×2間が1棟である。B類は4間×3間が1棟、3間×2間が4棟、2間×2間が1棟、2間×1間が2棟ある。他は3間×2間が6棟、2間×1間が3棟、1間×1間が1棟である。	「多古工業団地内遺跡発掘調査報告書－林小原子台・栗根・土持台・林中1台・吹入台－」1986	
18棟					掘立柱建物跡が南北に二列に並んで検出されている。内訳は1間×1間が3棟、2間×1間が2棟、2間×2間が4棟、3間×2間が4棟、3間×3間が1棟、3間×2間が4棟、4間×2間が1棟、5間×4間が1棟、6間×2間が1棟、不明が1棟である。	「中内原遺跡－千葉県香取郡多古町中内原遺跡発掘調査報告書－」1987	
8棟					掘立柱建物跡は検出されていないが、青銅製印等の出土遺物、墨書、「千校厨」などから軍団に関連した遺跡と考えられる。	千葉県八日市場市飯塚遺跡群発掘調査報告書1986	
8棟					住居跡と掘立柱建物跡との重複が少なく、ほぼ同時期に存在したと考えられる。出土遺物から官衙関連遺跡と考えられる。内訳は5間×4間が1棟、6間×3（4？）間が1棟、4間×3間が3棟、4間×2間が1棟、3間×1（2？）間が1棟、2間×1間が1棟である。	「千葉県八日市場市飯倉鈴歌遺跡発掘調査報告書」1992	
29棟					掘立柱建物跡は、8世紀中葉～9世紀四半期が中心で、2回以上の建て替えがある。出土遺物等から官衙関連遺跡と考えられる。内訳は6間×1間が1棟、3間×3間が8棟、3間×2間が2棟、3間×1間が2棟、2間×1間が15棟である。	「八日市場市生尾遺跡配水池築造工事に伴う埋蔵文化財調査助成文化財センター発掘調査報告書第7集」1995	
7棟	井戸跡4基、溝17 条、水留遺構2基、 貝殻堆積土坑1基					掘立柱建物跡は2間×2間が3棟、2間×3間が2棟、3間×4間が1棟で、東西方向に「コ」字状に配置されている可能性がある。また、墨書「郡衙」「廳」などから郡衙関連遺跡と考えられる。	八日市場市平木遺跡1988
							発掘調査中

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・居住跡
37	No.34多古	下総	匝瑳	林遺跡	多古町	大字林榎台1106他	台地上	40m	栗山川	奈良・平安時代	8世紀中葉～10世紀	郡衙関連集落	89軒
259	No.34多古	下総	匝瑳	吹入台遺跡	多古町	水戸字吹入台1445他	台地	約40m	多古橋川	奈良・平安時代	8世紀第1四半期～10世紀第四半期	郡衙関連集落	19軒
120	No.34多古	下総	匝瑳	中内原遺跡	多古町	南中字中内2950他	台地上	35m	栗山川	古墳・歴史	8世紀後半～9世紀後半	郡衙関連集落	36軒
80	No.35八日市場	下総	匝瑳	柳台遺跡	八日市場市	飯塚字柳台1724他	台地上	40m	借当川	8世紀前葉～10世紀代	8世紀前葉～10世紀代	郡衙関連集落	213軒 (Ⅱは204)
232	No.35八日市場	下総	匝瑳	鈴歌遺跡	八日市場市	飯倉字鈴歌	台地上	約39m	(栗山川)	7世紀後葉～9世紀前葉	8世紀～9世紀前葉	官衙関連	31軒
225	No.35八日市場	下総	匝瑳	生尾遺跡	八日市場市	生尾字妙見前406	台地上	約40m	借当川	7世紀中葉～11世紀後半	8世紀初～9世紀第3四半期	官衙関連	25軒
47	No.34多古 No.43成東	下総	匝瑳	芝崎遺跡	光町	芝崎字海老崎	低地		栗山川	古墳時代後期～奈良・平安時代	奈良・平安時代	郡衙関連	
146	No.15取手	下総	相馬郡	四間戸遺跡	我孫子市	日秀四間戸ほか	台地	20m	利根川	古墳後期～平安	奈良・平安	郡衙関連	50軒以上
146	No.15取手	下総	相馬郡	四間戸遺跡	我孫子市	日秀字掘込	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衙関連	
68	No.14流山	下総	相馬郡	高野台遺跡	柏市	根戸字高野台433番地	台地	17～18m	大堀川	古墳後期～平安	平安	駅家周辺集落	3軒
68	No.14流山	下総	相馬郡	高野台遺跡	柏市	根戸字高野台430番地	台地	18m	大堀川	奈良・平安	奈良・平安	駅家周辺集落	10軒
139	No.15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	日秀字西原26-1ほか	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衙関連	1軒
139	No.15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	日秀字西原	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衙関連	
139	No.15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	中里字前原95番	台地	20m	利根川	古墳後期～中世	奈良・平安	郡衙関連	
139	No.15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	中里字前原81番3、日秀字西原16	台地	20m	利根川			郡衙関連	
139	No.15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	中里字前原18番	台地	20m	利根川	8世紀前葉	8世紀前葉	郡衙関連	1軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衛関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
23棟		第6表参照		第6表参照	掘立柱建物跡は踏台地区と長井戸地区に集中している。特に長井戸地区では東西方向に並んで検出されている。内訳は1間×1間が5棟、1間×2間が5棟、2間×2間が2棟、2間×3間が7棟、3間×3間が1棟など。	【林遺跡】1985
23棟			掘立柱建物跡が集中して検出され、大きく2類に分かれている。A類は6棟で、4間×2間が2棟、3間×2間が4棟、2間×2間が1棟である。B類は4間×3間が1棟、3間×2間が4棟、2間×2間が1棟、2間×1間が2棟ある。他は3間×2間が6棟など。		【多古工業団地内遺跡発掘調査報告書-林小原子台・栗根・土持台・林中「ノ」吹叶台・吹入台-】1986	
18棟			掘立柱建物跡が南北に二列に並んで検出されている。内訳は1間×1間が3棟、2間×1間が2棟、2間×2間が4棟、3間×2間が4棟、3間×3間が1棟、3間×2間が4棟、4間×2間が1棟、5間×4間が1棟、6間×2間が1棟、不明が1棟である。		【中内原遺跡-千葉県香取郡多古町中内原遺跡発掘調査報告書-】1987	
			掘立柱建物跡は検出されていないが、青銅製印等の出土遺物、墨書、「千校厨」などから軍団に関連した遺跡と考えられる。		千葉県八日市場市飯塚遺跡群発掘調査報告書1986	
8棟			住居跡と掘立柱建物跡との重複が少なく、ほぼ同時期に存在したと考えられる。出土遺物から官衛関連遺跡と考えられる。内訳は5間×4間が1棟、6間×3(4?)間が1棟、4間×3間が3棟、4間×2間が1棟、3間×1(2?)間が1棟、2間×1間が1棟である。		【千葉県八日市場市飯倉鈴歌遺跡発掘調査報告書】1992	
29棟			掘立柱建物跡は、8世紀中葉～9世紀前半期が中心で、2回以上の建て替えがある。出土遺物等から官衛関連遺跡と考えられる。内訳は6間×1間が1棟、3間×3間が8棟、3間×2間が2棟、3間×1間が2棟、2間×1間が15棟である。		【八日市場市生尾遺跡配水池築造工事に伴う埋蔵文化財調査(助東総文化財センター発掘調査報告書第7集)1995	
					発掘調査中	
3棟以上	溝1条				昭和55年度(第二次)の確認調査西側のトレンチ(M)から古墳時代後期の堅穴住居跡を検出し、日秀西遺跡の古墳時代後期の集落の東端と考えられる。また、同じ西端のAトレンチから、ほぼ南北に走る溝を検出し、官衛城の東端を区画する溝と考えられる。	千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報1981
1棟	溝1条				昭和56年度(第三次)の確認調査Iトレンチで昭和55年(第二次)確認調査のAトレンチで検出した大溝と掘立柱建物1棟を検出した。大溝は東向きを替えていることが明らかになった。掘立柱建物は1×1で、2本の鋼柱をもつ。	No.14流山
					高野台遺跡の第一次調査「於賦駅家」周辺の集落と考えられる。	高野台遺跡(第一次調査)柏市埋蔵文化財調査報告書1883
1棟		唐草文字瓦(平安時代前期堅穴住居跡住居跡)	高野台遺跡の第二次調査「於賦駅家」周辺の集落と考えられる。掘立柱建物は2×3あるいは3×3の規模。唐草文字瓦は下総国分寺系のもと考えられ、他に印西市大塚前遺跡、流山市流山庵寺及び我孫子市船戸遺跡から出土している。	千葉県柏市根戸高野台遺跡発掘調査報告書1979		
			西原遺跡第1次調査日秀西遺跡の北北東約250m古墳時代後期(7世紀末)の住居跡2軒と奈良時代(8世紀前半)の住居跡1軒が検出されており別当地遺跡第1次と同様に、本地点は郡衛城から外れるものと考えられる。	西原遺跡根戸遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第8集1986		
			昭和56年度(第三次)の確認調査Cトレンチでは古墳時代後期から奈良時代の住居跡及びピットを検出した。Dトレンチでは遺構・遺物はまったく検出されなかった。このことから、これらの地点は郡衛城からは外れるものと考えられる。	千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報1982		
	溝1条		西原遺跡第2・3・5次調査古墳時代後期の堅穴住居跡住居跡を主体とする。1号溝は幅約2m、深さ0.8mの逆台形で、ほぼ東西に走る。遺構の重複関係から7世紀以降と考えられ、正倉の北側区画溝と考えることもできる。	西原遺跡第2～6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第21集1999		
			西原遺跡第4次調査当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	西原遺跡第2～6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第21集1999		
			西原遺跡第6次調査郡衛城の北に位置するものと考えられる。	西原遺跡第2～6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第21集1999		

No.	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀79番地4	台地	20m	利根川	古墳～奈良・平安	奈良・平安	郡衛関連	
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀101番地20号	台地	20m	利根川	不明	不明	郡衛関連	
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀74番9号	台地	20m	利根川	江戸以降	不明	郡衛関連	
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀西84番1.2号	台地	20m	利根川	不明	不明	郡衛関連	溝1条
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀74-12	台地	20m	利根川	古墳後期～中世	不明	郡衛関連	
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀字チアミ75番地ほか	台地	20m	利根川	古墳後期	不明	郡衛関連	
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀字チアミ75番地ほか	台地	20m	利根川	近世	不明	郡衛関連	
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀77番2号ほか	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	2軒
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀字西77番10	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	1軒
148	No15取手	下総	相馬郡	君作遺跡	我孫子市	古戸字日秀前198番3	台地	20m	利根川	奈良・平安	奈良・平安	郡衛関連	1軒
68	No14流山	下総	相馬郡	高野台遺跡	柏市	根戸字高野台433番地	台地	17～18m	大堀川	古墳後期～平安	平安	駅家周辺集落	3軒
146	No15取手	下総	相馬郡	四間戸遺跡	我孫子市	日秀字四間戸ほか	台地	20m	利根川	古墳後期～平安	奈良・平安	郡衛関連	50軒以上

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
	溝1条 (Bトレン チ)	第 6 表 参 照		第 6 表 参 照	昭和56年度の確認調査報告までは西・西原・別当地区とされているが、後にそのうちのA・B・Jトレンチはチアミ遺跡とされた。Aトレンチからは堅穴住居、円形周溝状遺構、ピットを検出したが、郡衙に関連する遺構・遺物はない。Bトレンチからはほぼ東西に走る溝(幅2mで逆台形の掘り込みをもつ)を検出し、昭和55年の四間戸遺跡Aトレンチの大溝に類似することから、官衙城の北側を区画する溝と考えられる。また、この溝の南北両側からは遺構は検出されていない。Jトレンチからは堅穴住居が検出されたが、時期は不詳であり、官衙に関連する遺構・遺物はない。	千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報1982
					チアミ遺跡第1次調査日秀西遺跡の北東約200m郡衙等に関連する遺構、遺物は検出されていない。	チアミ遺跡第1次・第3次・第6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第19集1998
					チアミ遺跡第3次調査日秀西遺跡の北東約200m郡衙等に関連する遺構、遺物は検出されていない。	チアミ遺跡第1次・第3次・第6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第19集1998
					チアミ遺跡A地点の調査報告書では日秀遺跡とされているが、後にチアミ遺跡A地点に変更された。日秀西遺跡の北東約350m。溝の形状、規模が県文化財センターによる第2、3次日秀遺跡遺構確認調査で検出された溝に酷似している。第3次調査で検出した北側の東西方向に走る溝から370mほど北側にあり、やや東に偏る南北方向に走る溝である。	日秀遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第3集1983
					チアミ遺跡第2次調査日秀西遺跡の北東約100m。住居は7世紀代、溝は中近世であり、官衙に関連する遺構、遺物はない。	チアミ遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第4集1984
					チアミ遺跡第4次調査報告書ではチアミ遺跡とされているが、後にチアミ遺跡第4次と変更された。日秀西遺跡の北東約200m。住居跡は7世紀前半と7世紀末の2軒、時期不明の溝3条で、官衙に関連する遺構、遺物はない。但し、202203の溝は、3m前後の間隔で平行して北東から東西に延びており、幅はいずれも0.6~0.9m、深さは約0.5mで、断面形は箱薬研である。	チアミ遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第12集1989
					チアミ遺跡第5次調査報告書ではチアミII遺跡となっているが、後にチアミ遺跡第5次と変更された。日秀西遺跡の北東約200m。近世の土坑、溝、井戸のみで官衙に関連する遺構、遺物はない。溝は北西から南東に延び、幅1.0~1.6m、深さ0.4~0.65mで、断面形は逆台形である。掘立柱建物は2×3以上で、桁方向がほぼ北を向いたものが1棟検出されているが、時期、性格は不明とされている。	チアミ遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第12集1989
2棟					チアミ遺跡第6次調査日秀西遺跡の北東約200m。6、8号住居跡は、相馬郡家正倉と同時期である。2棟の掘立柱建物は2×3、3×3であるが、主軸方向は正倉の掘立柱建物跡建物に比べやや東に偏っていることから、正倉とは異なった基準のもとに建てられたと考えられる。内面視は、墨と朱墨の二面視で住居跡から出土。	チアミ遺跡第1次、第2次、第6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第19集1998
1棟					チアミ遺跡第9次調査堅穴住居跡は時期が特定されていないが、隣接する第6次調査7世紀中葉~8世紀前半の堅穴住居が検出されていることから、同時期と推定されている。掘立柱建物は、柱穴1つのみの検出であるが、西側に展開する掘立柱建物の東側柱と考えられる。	平成11年度市内遺跡発掘調査報告書チアミ遺跡・古屋遺跡・君作遺跡・古戸貝塚我孫子市埋蔵文化財報告第22集2000
1棟					君作遺跡第6次調査掘立柱建物は、規模・時期不明であるが、西隣の第5次調査で検出した掘立柱建物と同一と考えられる。堅穴住居跡は、8世紀中葉と考えられる。	平成11年度市内遺跡発掘調査報告書チアミ遺跡・古屋遺跡・君作遺跡・古戸貝塚我孫子市埋蔵文化財報告第22集2000
			高野台遺跡の第一次調査「於賦駅家」周辺の集落と考えられる。	高野台遺跡(第一次調査)柏市埋蔵文化財調査報告書1983		
3棟以上	溝1条			昭和55年度(第二次)の確認調査西側のトレンチ(M)から古墳時代後期の堅穴住居跡を検出し、日秀西遺跡の古墳時代後期の集落の東端と考えられる。また、同じ西端のAトレンチから、ほぼ南北に走る溝を検出し、官衙城の東端を区画する溝と考えられる。	千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報1981	

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
146	No15取手	下総	相馬郡	四間戸遺跡	我孫子市	日秀字掘込	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	
142	No15取手	下総	相馬郡	符門神社遺跡	我孫子市	日秀字チアミ	台地	20m	利根川	古墳後期～平安	奈良・平安	郡衛関連	
142	No15取手	下総	相馬郡	符門神社遺跡	我孫子市	日秀字チアミ109-2ほか	台地	19m	利根川	縄文～古墳後期	不明	郡衛関連	
139	No15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	日秀字西原26-1ほか	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	1軒
139	No15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	日秀字西原	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	
139	No15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	中里字前原95番	台地	20m	利根川	古墳後期～中世	奈良・平安	郡衛関連	
139	No15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	中里字前原81番3.日秀字西原16	台地	20m	利根川			郡衛関連	
139	No15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	中里字前原18番	台地	20m	利根川	8世紀前葉	8世紀前葉	郡衛関連	1軒
136	No15取手	下総	相馬郡	南久保作遺跡	我孫子市	中里字南久保作484ほか	台地	19m	利根川	平安～中世	平安	郡衛関連	1軒
136	No15取手	下総	相馬郡	南久保作遺跡	我孫子市	中里字南久保作493-3.5	台地	18m	利根川	不明	不明	郡衛関連	
140	No15取手	下総	相馬郡	日秀西遺跡	我孫子市	日秀	台地	20m	利根川	古墳後期～平安	奈良・平安	正倉	
140	No15取手	下総	相馬郡	日秀西遺跡	我孫子市	日秀	台地	19m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	
137	No15取手	下総	相馬郡	別当地遺跡	我孫子市	中里字別当地106-2ほか	台地	19m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	6軒
137	No15取手	下総	相馬郡	別当地遺跡	我孫子市	中里字別当地109	台地	19m	利根川	不明	不明	郡衛関連	

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
1棟	溝1条	第6表参照	平瓦20点	第6表参照	昭和56年度(第三次)の確認調査Iトレンチで昭和55年(第二次)確認調査のAトレンチで検出した大溝と掘立柱建物1棟を検出した。大溝は東向きを替えていることが明らかになった。掘立柱建物は1×1で、2本の欄柱をもつ。Hトレンチでは古墳時代後期と思われる堅穴住居を検出した。	千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報1981
					将門神社遺跡昭和54年度の確認調査。報告書ではチアミ地区とされているが、後に将門遺跡神社遺跡A地点と変更された。古墳時代後期から奈良・平安の堅穴住居が30軒前後検出され、掘立柱建物と考えられるピットも検出している。堅穴住居が群集する状況であり、正倉域からは外れているが、郡衙に関連した地域と考えられる。	千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報1980
					将門神社遺跡B・C地点の調査。報告書では日秀遺跡跡東区とされているが、後に将門神社遺跡B・C地点に変更された。日秀西遺跡の東側に隣接する。古墳時代後期の住居跡9軒が検出されているが、これ以降の時代の住居跡は検出されておらず、別当地遺跡とは状況が異なっていることから、本地点は郡衙域の範囲に含まれるものと考えられる。	我孫子市埋蔵文化財報告第2集日秀遺跡遺構確認調査別当地遺跡発掘調査1982
					西原遺跡第1次調査日秀西遺跡の北北東約250m古墳時代後期(7世紀末)の住居跡2軒と奈良時代(8世紀前半)の住居跡1軒が検出されており、別当地遺跡第1次と同様に、本地点は郡衙域から外れるものと考えられる。	西原遺跡根戸遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第8集1986
					昭和56年度(第三次)の確認調査Cトレンチでは古墳時代後期から奈良時代の住居跡及びピットを検出した。Dトレンチでは遺構、遺物はまったく検出されなかった。このことから、これらの地点は郡衙域からは外れるものと考えられる。	千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報1982
					西原遺跡第2, 3, 5次調査古墳時代後期の堅穴住居跡を主体とする。1号溝は幅約2m、深さ0.8mの逆台形で、ほぼ東西に走る。遺構の重複関係から7世紀以降と考えられ、正倉の北側区画溝と考えることもできる。	西原遺跡第2～6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第21集1999
					西原遺跡第4次調査当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	西原遺跡第2～6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第21集1999
					西原遺跡第6次調査郡衙域の北に位置するものと考えられる。	西原遺跡第2～6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第21集1999
					南久保作遺跡第1次調査日秀西遺跡の西約300m。建物跡は、掘立柱跡1基のみ(一辺70m位の方形)が検出されたが、柱痕の状態で、日秀西遺跡で検出されたものに酷似する。	我孫子市埋蔵文化財報告第3集1983
					南久保作遺跡第3次調査日秀西遺跡の北西約250m。時期不明の土坑、ピットのみで、郡衙関連の遺構、遺物はない。	別当地・南久保作・北久保作遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第6集1985
48棟	礎石建物6棟(版築)	第6表参照	玉縁付丸瓦及び平瓦	第6表参照	掘立柱建物のうち44棟は総柱、3×2が14棟、3×3が10棟、3×4が2棟、4×2が6棟、4×3が5棟、5×2、6×2、8×3、10×3が各1棟。礎石建物は、2棟が布貼りで、他は方形の掘込み地業を行う。礎石建物9号の版築中から鎮壇具と考えられる半蔵された和同開珎が出土している。倉庫群は、8世紀前半から9世紀後半までの3期にわたって機能していたものと考えられる。古墳時代後期の堅穴住居は、186軒検出されているが、7世紀末にこれらを排除するようにして掘立柱建物郡が作られている。	千葉県我孫子市日秀西遺跡発掘調査報告書1980
					日秀西遺跡B・C地点の調査。報告書では日秀遺跡西区とされているが、後に日秀西遺跡B・C地点に変更された。日秀西遺跡の北側に隣接する。掘立柱建物は3×4の南北主軸で、4度東に偏る。基壇建物は、ロームを主体とする版築で、日秀西遺跡の38号建物跡と同一のものと考えられる。日秀西遺跡と同様に、古墳時代後期(7世紀中葉)の集落で一旦途切れ、建物群に移行することから、正倉域の範囲に含まれるものと考えられる。	我孫子市埋蔵文化財報告第2集日秀遺跡遺構確認調査別当地遺跡発掘調査1982
1棟	基壇建物1棟	第6表参照		第6表参照	別当地遺跡第1次調査日秀西遺跡の北100m奈良時代の住居跡が6軒検出されている。古墳時代後期(7世紀)から継続して奈良時代の集落が営まれているものと思われる。北久保作遺跡第2次と同様に、正倉域からは外れているものと思われる。	我孫子市埋蔵文化財報告第2集日秀遺跡遺構確認調査別当地遺跡発掘調査1982
					別当地遺跡第2次調査日秀西遺跡の北80m時期不明の溝と土坑のみで、郡衙関連の遺構、遺物はない。	我孫子市埋蔵文化財報告第3集別当地遺跡1983

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
137	No15取手	下総	相馬郡	別当地遺跡	我孫子市	中峠字別当地115-2	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	2軒
137	No15取手	下総	相馬郡	別当地遺跡	我孫子市	中峠字別当地115-2ほか	台地	20m	利根川	不明	不明	郡衛関連	
137	No15取手	下総	相馬郡	別当地遺跡	我孫子市	中里字別当地106-8	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良平安	奈良・平安	郡衛関連	4軒
137	No15取手	下総	相馬郡	別当地遺跡	我孫子市	中里字別当地103番地	台地	20m	利根川	古墳後期～中世	7C後半～8C前半	郡衛関連	2軒
185	No15取手	下総	相馬郡	北久保作遺跡	我孫子市	中里北中道224-12	台地	20m	利根川	奈良	奈良	郡衛関連	1軒
185	No15取手	下総	相馬郡	北久保作遺跡	我孫子市	中里字北久保作185	台地	18m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	5軒
133	No15取手	下総	相馬郡	野守遺跡	我孫子市	古戸字野守522番1	台地	20m	利根川	奈良・平安	9世紀	郡衛関連	3軒
133	No15取手	下総	相馬郡	野守遺跡	我孫子市	古戸字野守183番3	台地	20m	利根川	奈良・平安	奈良・平安	郡衛関連	1軒
133	No15取手	下総	相馬郡	野守遺跡	我孫子市	古戸字野守183番6	台地	20m	利根川	奈良・平安	奈良・平安	郡衛関連	3軒
64	No14流山	下総	相馬郡	中馬場遺跡	柏市	根戸字中馬場1852番地ほか	台地	17～19m	大堀川	古墳後期～平安	奈良・平安	駅家関連	75軒
64	No14流山	下総	相馬郡	中馬場遺跡	柏市	根戸字中馬場1852番地ほか	台地	18～20m	大堀川	古墳後期～中世	奈良・平安	駅家関連	48軒
64	No14流山	下総	相馬郡	中馬場遺跡	柏市	根戸字中馬場1852番地ほか	台地	18～19m	大堀川	古墳後期～中世	奈良・平安	駅家関連	69軒
175	No27岩部	下総	海上	妙名遺跡	山田町	小川字妙名	台地上	41m	栗山川	8世紀後半～9世紀前半	8世紀後半～9世紀前半	郡衛関連集落	6軒
129	No28小南	下総	海上	池尻遺跡	干潟町	清和甲字池尻982他	台地	約50m	黒部川	古墳時代後期～奈良・平安時代	9世紀中葉～10世紀前半	郡衛関連集落	36軒
133	No28小南	下総	海上	諏訪山遺跡	干潟町	溝原字諏訪山778他	台地	約50m	黒部川	奈良・平安時代	8世紀後半～10世紀前半	郡衛関連集落	11軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
		第6表参照		第6表参照	別当地遺跡第4次調査日秀遺跡の北西約200m古墳時代後期(7世紀後半)の住居跡1軒と奈良時代(8世紀後半)の住居跡2軒が検出され、継続して集落が営まれていることから、別当地遺跡第1次と同様に、本地点は郡衛城から外れているものと考えられる。	別当地・南久保作・北久保作遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第6集1985
			昭和56年度(第三次)の確認調査E・Gトレンチからは堅穴住居跡と小ピットを検出したが、時期は不詳である。Fトレンチからは遺構、遺物はまったく検出されなかった。郡衛に関連する遺構、遺物はない。		千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報1982	
			別当地遺跡第10次調査奈良・平安時代の堅穴住居跡は主軸方向がすべてほぼ北を向いている。5号堅穴住居跡(9世紀第3四半期)からは鎌、刀子、鋤先、紡軸などの鉄製品と風子硯のように加工した転用硯が注目される。		別当地遺跡粟牧西遺跡我孫子市埋蔵文化財第20集1999	
			別当地遺跡第6次調査日秀西遺跡における古墳時代後期堅穴住居跡の広がりと考えられる。「支那諸国」(7世紀後半～8世紀前半)の人名墨書の須恵器は、郡家もしくはそれに先行する官衛に深く関わる人々の存在を示す資料として注目される。		別当地遺跡第6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第23集2000	
			北久保作遺跡第1次調査日秀西遺跡の北西約400m。堅穴住居跡は、相馬郡家正倉と同時期である。溝1条は、時期性格不明であるが、住居跡の主軸方向と同じ、東に15度偏る南北方向に走る。		我孫子市埋蔵文化財報告第3集北久保作遺跡1983	
1棟			北久保作遺跡第2次調査日秀西遺跡の北西約250m。古墳時代(7世紀末)住居1軒あり、継続して奈良時代の住居跡が営まれていることから、正倉群の状況とやや異なることから、郡衛城から外れると考えられる。ただし、銅製の鈎帯丸納(表面に黒漆?)が出土していることから、正倉に関係する集落が営まれていた可能性がある。掘立柱建物は2×3の側柱である。		別当地・南久保作・北久保作遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第6集北久保作遺跡1985	
2棟			野守遺跡第2次調査堅穴住居跡は、9世紀前半～9世紀後半のものである。掘立柱建物は、いずれも規模・時期不明であるが、掘立柱建物の形状や柱間が著しく不均等である。		野守遺跡第2次・第4次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第25集2001	
3棟			野守遺跡第4次調査堅穴住居跡は、8世紀第2四半世紀のものである。掘立柱建物は、2×2以上が1棟、片側6以上が1棟、不明が2棟である。時期は、8世紀第2四半世紀以降と9世紀第3～第4四半世紀及びそれ以降である。		野守遺跡第2次・第4次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第25集2001	
3棟	土坑1基		野守遺跡第5次調査掘立柱建物はいずれも側柱で、2×3が1棟、3×2以上が2棟である。主軸方向はいずれも北からわずかに東に偏っているが、同一方向を向いている。時期は9世紀第3～第4四半世紀である。鈎の出土は、我孫子市では初めての事例であり、正倉や付近の掘立柱建物での使用が想定される。		平成12年度市内遺跡発掘調査報告書五郎地遺跡第1次・野守遺跡第5次我孫子市埋蔵文化財報告第24集2001	
3棟			中馬場遺跡第2次調査当該地域における大規模な集落であり、古代の東海道(官道)に設置された「於賦駅家」に比定する考えがある。堅穴住居跡は奈良時代が12軒、平安時代が63軒である。掘立柱建物は2×2の総柱が1棟、2×3の側柱が2棟である。		中馬場遺跡妻子原遺跡日本国有鉄道常磐線複々線工事関係遺跡調査団1972	
		中馬場遺跡第3次調査堅穴住居は奈良時代が8軒、平安時代が40軒である。	中馬場遺跡第3次発掘調査報告書1976			
	鍛冶遺構を伴う住居跡2軒	中馬場遺跡第4次調査堅穴住居は奈良時代が8軒、平安時代が61軒である。	中馬場遺跡(第4次)柏市埋蔵文化財報告書381999			
		堅穴住居跡のみの検出であるが、墨書に「厨」が出土している。	「妙名遺跡-北総東部用水事業に伴う埋蔵文化財調査-」1971			
12棟(以上)		掘立柱建物跡がほぼ同一方向に並んで検出された(北東から東西方向)。内容は2間×3間が5棟、3間×3間の東南の二面廂が1棟、3間×3間の南西廂が1棟、3間×3間が3棟、3間×4間が1棟、2間×2間が1棟である。掘立柱建物跡、墨書から郷家的な様相を示すと考えられる。	「主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書2-干潟町池尻遺跡・茄子台遺跡-千葉県文化財センター調査報告第280集」1996			
2棟	土坑9基	掘立柱建物跡は2間×3間が1棟、2間×3間が1棟である。池尻遺跡につらなる台地上で、郷家的遺跡の可能性はある。	「干潟工業団地埋蔵文化財調査報告書-干潟町諏訪山遺跡・十二殿遺跡・茄子台遺跡・桜井遺跡-、千葉県文化財センター調査報告書第321集」1998			

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
148	No28小南	下総	海上	桜井平遺跡	干潟町	桜井字郷主家塚243他	台地	約52m	黒部川	奈良・平安時代	8世紀後葉～10世紀前半	郡衙関連集落	4軒
25	No18佐原西部	下総	香取	名木天神台遺跡	下総町	名木字天神台748他	台地上	39m	常向川	7世紀末～9世紀前葉	7世紀末～9世紀前葉	郡衙関連集落	37軒
43-1	No18佐原西部	下総	香取	青山富木遺跡	下総町	青山字富ノ木36他	台地	38m	常向川	奈良・平安	8世紀前半～10世紀前半	郡衙関連集落	35軒
208-2	No18佐原西部	下総	香取	中山遺跡	佐原市	福田字中山	台地上	40m	栗山川	平安時代	9世紀第2四半期～9世紀第4四半期	郡衙関連集落	12軒
209	No18佐原西部	下総	香取	馬場遺跡	佐原市	福田字馬場	台地上	39m	栗山川	8世紀第3四半期～9世紀第2四半期	8世紀第3四半期～9世紀第2四半期	郡衙関連集落	4軒
212	No18佐原西部	下総	香取	東野遺跡	佐原市	本矢字東野	台地上	40m	香西川	8世紀第3四半期～9世紀第2四半期	8世紀第3四半期～9世紀第2四半期	郡衙関連集落	10軒
91-2	No19佐原東部	下総	香取	吉原山王遺跡	佐原市	丁字天ノ宮他	台地上	40m	根本川	8世紀後半～9世紀末	8世紀後半～9世紀末	郡衙関連集落	92軒
82	No19佐原東部	下総	香取	長部山遺跡	佐原市	香取字宮下長部山他	台地上	40m	根本川	8世紀後半～10世紀前半	8世紀後半～10世紀前半	郡衙関連集落	93軒
184	No19佐原東部	下総	香取	古屋敷遺跡	小見川町	上小堀字古屋敷	台地上	40m	利根川	8世紀前半～10世紀初頭	8世紀前半～10世紀初頭	郡衙関連集落	43軒
19	No17下総滑川	下総	香取	荒海江地山	成田市	荒海字江地山254ほか	台地上	30m	長沼	8世紀前半～9世紀前半	8世紀前半～9世紀前半	荒海駅関連集落	148軒
276	No25成田	下総	埴生	上福田和田谷津遺跡	成田	上福田字和田谷津98-1他	台地上	30m	十日川	古墳後期～奈良・平安	7世紀後半～8世紀	郡衙関連集落	2軒
171	No25成田	下総	埴生	中台遺跡	成田	加良部3丁目	台地上	35m	小橋川	8世紀～9世紀後半	8世紀後半～9世紀後半	郡衙関連集落	143軒
170	No25成田	下総	埴生	加良部遺跡	成田市	加良部4丁目	台地上	35m	小橋川	8世紀第2四半期～9世紀第3四半期	8世紀後半～9世紀	郡衙関連集落	66軒
169	No25成田	下総	埴生	郷部松ノ下遺跡	成田市	加良部1丁目	台地上	34.5m	小橋川	8世紀中葉～9世紀前半	8世紀中葉～9世紀前半	郡衙関連集落	52軒
169	No25成田	下総	埴生	郷部松ノ下遺跡 郷部八ツ又遺跡	成田市	加良部1丁目	台地上	35m	小橋川	8世紀後半～9世紀前半	8世紀後半～9世紀前半	郡衙関連集落	14軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)	
	土坑2基 鍛冶炉2	第6表参照		第6表参照	墨書が下総国海上郡軽部郷と関連した遺跡と考えられる。	〔干潟工業団地埋蔵文化財調査報告書-干潟町諏訪山遺跡・十二殿遺跡・茄子台遺跡・桜井平遺跡-、千葉県文化財センター調査報告書第321集〕1998	
12棟					3間×2間を主体とした掘立柱建物跡が、帯状の狭い調査範囲の中で、11棟集中して検出され、郷倉的な様相を示す。内訳は3間×2間が5棟、3間×2間が4棟、2間×2間が1棟、2間×1間が1棟、?×1間が1棟である。	〔千葉県文化財センター調査報告書371集-下総町名木天神台遺跡-主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書四〕1999	
3棟					墨と朱墨を使用した二面風子硯が、奈良時代後半と思われる堅穴住居跡から出土している。掘立柱建物跡の内訳は、2間×2間の総柱が2棟、3間×2間が1棟である。	〔下総町青山富ノ木遺跡・鎌部長峯遺跡-主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅶ-千葉県文化財センター調査報告書370集〕1999	
1棟	土坑11基					墨書土器から郡衙関連遺跡と考えられる。掘立柱建物跡は3間×2間である。	〔東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅳ-佐原地区(1)-〕1988
	土坑4基					「香取郷」「譚草里」に相当する墨書が出土	〔東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅳ-佐原地区(1)-〕1988
						二彩火舎、墨書から官衙関連遺跡と考えられる。	〔東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅳ-佐原地区(1)-〕1988
	溝4(道路跡か)条					掘立柱建物跡はないが、人名、郷名などの墨書が多く出土している。墨書の内容から香取神官の神戸「下総国香取郡神戸大槻郷」に関連した集落である。	〔佐原市吉原三王遺跡-東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅴ(佐原地区2)-千葉県文化財センター調査報告書第178集〕1990
17棟						堅穴住居跡と掘立柱建物跡が重複して検出されている。掘立柱建物跡は、平安時代が主体である。規格は2間×2間が3棟、3間×2間が14棟である。調査区の西端部に検出されている。	〔佐原市長部山遺跡跡香取市文化財センター調査報告書第5集〕
1棟	土坑24基					掘立柱建物跡は1棟のみの検出であるが、帯金具、墨書「山崎」「曹司」などから「山崎」郷の中心的な集落跡と考えられる。2×3-1棟	〔古屋敷遺跡-跡香取郡文化財センター調査報告書第63集〕1999
1棟						荒海・磯部地域の最も大きな集落で、近接の第5号塚の塚下から奈良三彩小壺が出土している。掘立柱建物跡は3間×3間で、北側1面廂である。	〔荒磯千葉県成田市荒磯地域の調査考古篇〕1994
2棟					丸瓦	同一方向の掘立柱建物跡が2棟検出されている。2間×3間で、1棟は側柱2本が組になった布廂である。	〔成田市上福田和田谷津遺跡〕「主要地方道成田安食線地方道路改良に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」1993
6棟					平瓦(縄叩き)	6棟の掘立柱建物跡は隣接又は重複して検出された。6棟のうち5棟は建物方向がほぼ同じであるので、全体として小倉庫群を形成すると考えられる。また隣接した堅穴住居跡から帯金具が出土している。当遺跡は埴生郡衙と推定される大畑遺跡群の南南東約5kmに位置している。以上から当遺跡は郡衙関連集落の可能性が高い。掘立柱建物の規模は3間×3間が1棟、3間×2間が4棟、2間×2間が1棟である。時期は住居跡との重複関係から8世紀後半である。	〔公津原Ⅱ〕1981
16棟						三間四面廂等の掘立柱建物跡を中心とした寺院跡であるが、帯金具が出土しているため、郡衙関連の集落跡の可能性もある。当遺跡は埴生郡衙と推定される大畑遺跡群の南南東約5kmに位置する。掘立柱建物は三間四面廂(5間×5間)1棟、1間×1間が1棟、2間×2間が3棟、3間×2間が6棟、3間×3間が3棟、4間×2間が4棟である。三間四面廂の掘立柱建物の時期は掘立柱建物群と住居跡との重複から8世紀後半と考えられる。	〔公津原Ⅱ〕1981
	土坑1基					郷部・加良部遺跡の北西に隣接した遺跡で、同一台地上である。また郷部・加良部遺跡と同様の墨書土器が出土しているため、同一集落になる可能性がある。	〔公津原Ⅱ〕1981
	堅穴状遺構1基					郷部・加良部遺跡の北西に隣接し、同一台地上である。また郷部・加良部遺跡、郷部・堀尾遺跡と同様の墨書土器が出土しているため、同一集落の可能性が高い。	〔公津原Ⅱ〕1981

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
90	No25成田	下総	埴生	石塚遺跡 山口遺跡	成田市	中台1丁目	台地上	33m	小橋川	8世紀後半～9世紀	8世紀後半～9世紀	郡衙関連集落	54軒
86	No25成田	下総	埴生	引地遺跡	成田市	吾妻3丁目	台地	33～35m	印旛沼	8世紀後半～9世紀前半	8世紀後半～9世紀前半	郡衙関連集落	13軒
85	No25成田	下総	埴生	戸崎I～III遺跡	成田市	吾妻3丁目	台地上	33～35m	印旛沼	8世紀後半～9世紀前半	8世紀後半～9世紀前半	郡衙関連集落	5軒
84	No25成田	下総	埴生	戸崎IV遺跡	成田市	玉造7丁目	台地上	35m	小橋川	8世紀後半～9世紀前半	8世紀後半～9世紀前半	郡衙関連集落	2軒
81	No25成田	下総	埴生	外子代遺跡	成田市	玉造1丁目	台地上	33m	印旛沼	8世紀前半～10世紀前半	8世紀前半～10世紀前半	郡衙関連集落	37軒
311	No25成田	下総	埴生	野毛平木戸下向山遺跡	成田市	野毛平字木戸下1009他	台地上	39m	取香川	8世紀後半～10世紀代	8世紀後半～10世紀代	郡衙関連集落	17軒
311	No25成田	下総	埴生	野毛平木戸下向山遺跡	成田市	野毛平字木戸下1009他	台地上	39m	取香川	8世紀後半～10世紀代	8世紀後半～10世紀代	郡衙関連集落	18軒
335	No25成田	下総	埴生	野毛平植出遺跡	成田市	野毛平字植出1088他	台地上	38m	取香川	8世紀代後半～9世紀代後半	8世紀代後半～9世紀代後半	郡衙関連集落	16軒
434	No25成田	下総	埴生	野毛平千田ヶ入遺跡	成田市	野毛平字千田ヶ入1172～3他	台地上	40m	取香川	8世紀後半～9世紀後半	8世紀後半～9世紀後半	郡衙関連集落	23軒
436	No25成田	下総	埴生(香取?)	長田船久保遺跡	成田市	長田船久保904他	台地上	40m	取香川	9世紀代	9世紀代	郡衙関連集落	2軒
437	No25成田	下総	埴生(香取?)	長田土上台遺跡	成田市	長田土上台755他	台地上	41m	取香川	9世紀代	9世紀代	郡衙関連集落	4軒
110	No25成田	下総	埴生	馬場扇ノ作遺跡	成田市	馬場扇作73～1他	台地上	39m	取香川	8世紀中葉～9世紀中葉	8世紀中葉～9世紀中葉	官衙関連集落	19軒
133	No25成田 No26新国際空港	下総	埴生(香取?)	堀ノ内遺跡群遺跡	成田市	堀ノ内字西の台141～1他	台地上	41m	取香川	8世紀末～9世紀前半	8世紀末～9世紀前半	郡衙関連集落	24軒
50	No25成田	下総	埴生	大畑I遺跡	栄町	龍角寺字大畑870他	台地上	28～30m	印旛沼	古墳時代後期～奈良時代	7世紀第4四半紀～8世紀第4四半紀	埴生郡衙推定地	13軒
54	No25成田	下総	埴生	大畑II遺跡	栄町	龍角寺字大畑849他	台地上	29m	印旛沼	7世紀第4四半紀～9世紀初	7世紀第4四半紀～9世紀初	埴生郡衙推定地	5軒
49	No25成田	下総	埴生	向台遺跡	栄町	大字酒直字向台地先	台地上	30m	印旛沼	7世紀末～9世紀初	7世紀末～9世紀初	埴生郡衙推定地	13軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)	
9棟	鍛冶遺跡10基	第6表参照		第6表参照	三間四面廂等の掘立柱建物跡を中心とした寺院跡と考えられるが、帯金具、墨書土器から郡衙関連の集落の可能性もある。掘立柱建物跡は5間×2間の四面廂が1棟、3間×2間の四面廂が2棟、7間×2間が1棟、3間×2間が3棟、2間×2間が2棟である。時期は8世紀中頃から後半にかけてと思われる。	〔公津原Ⅱ〕1981	
1棟					掘立柱建物跡は2間×2間の総柱で集落の規模は小さいが、郡衙関連集落の可能性はある。	〔公津原Ⅱ〕1981	
					Loc29に続く台地上に位置するLoc29と同様に郡衙関連集落の可能性はある。	〔公津原Ⅱ〕1981	
					戸崎Ⅳ (Loc33A・B) 遺跡 (古墳後期集落跡) と同一台地上に位置する。また、Loc29・30に隣接し郡衙関連の可能性はある。	〔公津原Ⅱ〕1981	
6棟					掘立柱建物跡6棟の内5棟は方向がほぼ同じで、小倉庫群を形成している。郡衙関連遺跡の可能性もある。また周辺の奈良・平安時代の集落跡よりも継続期間が長い。掘立柱建物跡は3間×2間が3棟、2間×2間が1棟、2間×1間が1棟である。時期は8世紀後半と思われる。	〔公津原Ⅱ〕1981	
9棟	土坑7基					出土遺物から郡衙関連遺跡の可能性はある。野毛平向山と同一台地上にある。掘立柱建物跡は2間×3間が2棟、2間×2間が7棟である。	〔ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書〕1990
7棟	土坑3基					野毛平木戸下と同一台地上にある。大形柱穴の掘立柱建物跡、四面廂の掘立柱建物跡が検出されている。身舎1間×1間の四面廂が2棟 (建替え)、2間×3間が2棟、2間×2間が1棟、不明が2棟である。	〔ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)〕1990
18棟						2間×3間を主体とする掘立柱建物跡が台地先端部に集中して検出され、また巡方などの遺物から郡衙関連集落と考えられる。掘立柱建物跡は、2間×4間が2棟、2間×3間が9棟、2間×2間の総柱が1棟、2間×2間が2棟、不明が4棟である。	〔ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)〕1990
3棟	土壌墓2基					近隣の遺跡と同時期であり、堅穴住居跡と掘立柱建物跡との構成から、郡衙関連集落と考えられる。掘立柱建物跡は、2間×3間が1棟、2間×2間が1棟、不明が1棟である。	〔ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)〕1990
1棟	古鍛冶跡					長田北台と同一台地上にある。小規模な集落であるが、遺物から郡衙関連と考えられる。掘立柱建物跡は2間×3間が1棟である。	〔ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)〕1990
4棟	土坑5基					長田舟久保と同一台地上にある。同時期なので同一の集落と考えられる。	〔ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)〕1990
				堅穴住居跡からカコ、温石が出土している。官衙もしくは仏教関連の集落として考えられる。	〔千葉県成田市馬場副作遺跡-東京電力株式会社社会食糧増強(Ⅱ期)工事に伴う埋蔵文化財調査〕1998		
				〔隆平永寶〕の出土から郡衙関連集落と考えられる。	〔成田新線建設事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ(城の内遺跡)〕1983		
111棟	井戸跡4基溝1条(郡衙城を区画する溝)		丸瓦5点、平瓦1点	最大3間×9間の掘立柱建物跡が「L」字形に配置されることが確認された。掘立柱建物跡は5時期に区分され、Ⅱ期からⅤ期にかけて、L字形配置が継続している。これら、及び隣接の向台遺跡から、埴生郡衙跡と推定される。掘立柱建物跡は総数111棟検出された。その内、規模が明確なものは、42棟である。内訳は9間×3間が2棟、6間×3間が2棟、6間×2間が2棟、5間×3間が6棟、5間×2間が1棟、4間×3間が3棟(内1棟が総柱)、4間×2間が4棟、3間×3間が2棟、3間×2間が14棟、3間×1間が1棟、2間×2間が4棟	〔主要地方道成田安食線道路改良工事(住宅関連事業)地内埋蔵文化財発掘調査報告書〕1985〔栄町大畑Ⅰ-2遺跡〕1985〔千葉県印旛郡栄町大畑Ⅰ-3遺跡〕1994〔栄町埴生郡衙跡確認調査報告書〕1986〔栄町埴生郡衙跡確認調査報告書Ⅱ〕1987		
6棟	溝状遺構5条		丸瓦片、平瓦片	龍角寺古墳群内に掘立柱建物跡が検出され、一般的な集落跡とは考えにくい。大畑Ⅰ遺跡から続く埴生郡衙の遺構と考えられる。掘立柱建物跡の内訳は、2間×5間が2棟、2間×3間が2棟、2間×2間が1棟、2間×2間の総柱が1棟である。	〔財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第14集-栄町龍角寺ドライブイン建設予定地内埋蔵文化財報告書-大畑遺跡Ⅱ遺跡〕		
8棟	遺物集中地点1		平瓦、丸瓦	大畑Ⅰ遺跡に東接する遺跡で、大畑Ⅰ遺跡からの穏やかな斜面部に大量の土器が出土した(遺跡集中地点)官衙的性格が強い遺跡で、大畑Ⅰ遺跡の範囲と考えられる。掘立柱建物跡の内訳は、2間×2間の総柱が3棟、3間×2間の総柱が1棟、2間×2間が1棟、4間×3間が1棟、2間以上×2間が1棟である。	〔主要地方道成田安食線道路改良工事(住宅地関連事業)地内埋蔵文化財発掘調査報告書〕1985		

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
50	No25成田	下総	埴生	大畑Ⅰ遺跡 (向台Ⅱ)	栄町	酒直字向台464-2他	台地上	24~29m	印旛沼	奈良・平安	奈良・平安	埴生郡衙 推定地	4軒
50	No25成田	下総	埴生	大畑Ⅰ遺跡 敷内遺跡	栄町	龍角寺字敷内828他	台地上	30m	印旛沼	7世紀後半~10世紀初頭	7世紀後半~8世紀中葉	埴生郡衙 関連集落	7軒
77	No25成田	下総	埴生	郷部加定地遺跡他	成田市	郷部字加定地1232他	台地上		小橋川	8世紀~11世紀	8世紀~11世紀	郡衙関連 集落	
62	No33酒々井	下総	埴生	塚越遺跡	富里町	新中沢	台地上	28m	高崎川	8世紀後半~9世紀前半	8世紀後半~9世紀前半	郡衙関連 集落	11軒
175		下総	埴生	開護台遺跡群									
		下総	埴生	大竹林畑遺跡	成田市	大竹	台地上		坂田ヶ池				46軒
408	No25成田 No17下総 滑川	下総	埴生	南羽鳥正福寺 遺跡第2地点	成田市	南羽鳥字正福寺 986番地他字高野 1175-1番地他	台地上	25~35m	根木名川	古墳時代	6世紀~7世紀代		1軒
53	No41千葉 東部	下総	千葉郡	鷺谷津遺跡	千葉市	中央区千葉寺町 771他	台地上	23m	都川	旧石器~ 中近世	古墳時代末~ 平安時代	駅家関連	144軒
55	No41千葉 東部	下総	千葉郡	観音塚遺跡	千葉市	中央区千葉寺町 722-20番地他中 央区千葉寺町720 -8番地他	台地上	22m	都川	旧石器時 代~平安 時代	古墳時代末~ 平安時代	駅家関連	213軒
54	No41千葉 東部	下総	千葉郡	大北遺跡	千葉市	中央区宮崎町711	台地上	25m	都川・村 田川	古墳時代 後期~平 安時代初 頭	7世紀末~8 世紀初頭	駅家関連	37軒
58	No41・47 千葉東部 蘇我	下総	千葉郡	芳賀輪遺跡	千葉市	若葉区古泉町・野 呂町	台地上	47m	鹿島川	旧石器時 代~平安 前半期	7世紀後半~ 9世紀末	居館	124軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)	
4棟	製鉄遺構1基	第6表参照		第6表参照	大畑遺跡群から連続すると考えられる掘立柱建物跡が検出された。	『財団法人印旛郡市文化財センター』年報9「平成4年度」1993『財団法人印旛郡市文化財センター』年報10「平成5年度」1994	
2棟	棚列2条 溝3条				大畑遺跡群に隣接する遺跡で埴生郡衙に関連した集落と考えられる。掘立柱建物跡の内訳は、4間×2間1棟、?×2間以上である。	『財団法人印旛郡市文化財センター』発掘調査報告書第60集千葉県印旛郡栄町敷内遺跡調査報告書』1991	
					成田市開護台遺跡群及び公津原遺跡群に隣接し埴生郡衙の関連集落と考えられる。遺跡は、加定地遺跡、南台Ⅰ遺跡、南台Ⅱ遺跡、殿台遺跡、立野遺跡	『123郷部北遺跡群』『千葉県歴史資料編考古3(奈良・平安時代)』1998	
2棟	土坑2基				主屋2間×3間の四面廂の掘立柱建物跡が検出され、墨書、和同開珎から寺院遺構の可能性もある。	『財団法人印旛郡市文化財センター』発掘調査報告書第138集千葉県印旛郡富里町富里第二工業団地土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査』1998	
4棟							『大竹林畑遺跡-成田市都市計画公園5・5・4坂田ヶ池総合公園事業地内埋蔵文化財調査一』1997
	円墳4基、溝状遺構7条、方墳1基、土坑23基						
34棟						大北遺跡に関連して、駅家の運営の中心的な役割を担った可能性あり。	千葉県鷲谷津遺跡-都市基盤整備公団千葉寺地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書
22棟	土坑、井戸					鷲谷津遺跡と同様の性格が考えられる。	千葉県観音塚遺跡・地蔵山遺跡(3)-都市基盤整備公団千葉寺地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ-観音塚遺跡千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ
27棟	方形周溝1基、土坑11基、溝1条					多量の畿内産土師器出土。郡衙・駅家等の官衙的性格。	大北遺跡・谷津遺跡・瓜作遺跡・池田古墳群-千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ-
152棟	土坑21基 小鍛冶跡2基 豪族の居館跡1カ所					8世紀末から9世紀前半の豪族の居館跡と想定される。	千葉県芳賀輪遺跡-第一次発掘調査概報-千葉県芳賀輪遺跡-平成2年度調査報告書-千葉県芳賀輪遺跡-平成4年度調査報告書-千葉県芳賀輪遺跡-平成8年度調査報告書-芳賀輪遺跡太田アラク遺跡「千葉市内出土の奈良三彩小壺二例」『千葉史学』第2号「第3章下総109芳賀輪遺跡」『千葉県の歴史資料編考古3(奈良・平安時代)』県史シリーズ11

研究紀要25

平成18年3月30日 発 行

発 行 者 財団法人 千葉県教育振興財団
千葉県四街道市鹿渡809-2
電話 043 (422) 8811

印 刷 所 株式会社 エリート情報社 印刷出版局
千葉県成田市東和田415-10
